

東宮遺跡  
(6)

## 東宮遺跡(6)

八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第76集



八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第76集

二〇二一

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 東宮遺跡(6)

八ツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第76集

2021

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





東宮遺跡遠景(南西(上流側)から)  
奥に見えるのはハッ場大橋、さらにその奥にハッ場ダム堤体が見える



東宮遺跡令和元年度調査区全景（上空から、上が北西）

図版 2



東宮遺跡VII区全景（上空から、上が北西）  
左側の石列が1号列石、右側の蛇行する石列が3号列石（いずれも縄文時代後期）



東宮遺跡V区全景（上空から、上が北西）  
縄文時代中期後葉の竪穴建物が著しく重複する



縄文時代中期末葉の敷石住居（V区 106号竪穴建物、北東から）  
石圓炉・出入口石圓施設を付設、床面縁辺に敷石を施し、壁際に立石を廻らす



縄文時代後期の配石遺構（VII区 8号配石、北東から）  
四角く囲った石組の中に、大小2個の立石を配す



# 序

八ッ場ダムは、首都圏の利水及び治水を目的として計画され、令和2年3月に完成、同年4月から運用が開始されています。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、令和元年度をもってすべての調査を終了いたしました。東宮遺跡は、平成7・9年、同18～21年、同26～30年、令和元年度にわたって発掘調査が実施され、天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流堆積物(天明泥流)に埋没した川原畠村の集落の一部が確認されました。遺存状態の極めて良好な建物や、通常の発掘調査では遺存し得ない遺物の出土が数多く見られ、近世村落史を考える上で貴重な資料を提供して注目を集めました。

江戸時代の調査面の下層からは、縄文時代中期～後期の集落が確認されました。中期には弧状をなす大規模集落が形成され、後期には大型の列石を伴う集落の姿が明らかになりました。また、本遺跡の地理的要因から、関東地方だけでなく中部地方の土器が数多く出土し、両文化圏の交流関係を探る上で貴重な資料を提供することになりました。縄文時代の調査成果は、『東宮遺跡(5)』と本書の2分冊で報告し、本書では令和元年度調査分を扱っています。『東宮遺跡(5)』と合わせて、本書を活用していただければ幸いです。

最後に、発掘調査の実施および本書の作成にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました、国土交通省八ッ場ダム工事事務所をはじめ群馬県、長野原町教育委員会、地元住民の皆様、関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序文といたします。

令和3年3月

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 向田忠正



# 例　　言

1. 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、令和元年度に実施された東宮遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 東宮遺跡は、平成7・9・19~21・26~30、令和元年度に発掘調査が実施され、発掘調査報告書『八ッ場ダム発掘調査集成(1)』、『東宮遺跡(1)』～『東宮遺跡(5)』が既に刊行されている。本報告書では、令和元年度に調査された範囲のうち、主に縄文時代の遺構と遺物について報告する。
3. 東宮遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠字東宮地内に所在する。  
地番は、甲368、乙368、369、370、371、374、乙375、375-1、375-4、376、377-1、377-2、377-3、377-4、377-5、382-4、382-6、383-2、383-3、383-4、383-5、384-1、384-2、384-3、384-5、384-6、385-1、乙385、丙385、甲386、乙386、丙386、乙394、394-3、394-4、397-1、甲397-2、甲397-2乙、甲397-2丙、397-6、乙397、甲398、乙398、丙398、399-1、399-2、400-1、400-2、400-3、400-4、400-5、400-6、401-1、401-2、401-3、402、甲403、乙403、427、428
4. 事業主体　国土交通省関東地方整備局
5. 調査主体　公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 発掘調査の期間・担当者等は次のとおりである。  
履行期間　平成31年4月1日～令和2年3月31日　　調査期間　令和元年6月1日～令和元年9月30日  
調査担当　閔　俊明(上席調査研究員・調査統括)、石田　真(主任調査研究員・調査統括)、小原俊行(専門員(主任))、閔　明愛・梅村唯斗・山本直哉(調査研究員)、麻生敏隆・間庭　稔(専門調査役)  
調査面積　4,080m<sup>2</sup>  
遺跡掘削工事請負　歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体  
委託　遺構測量　株式会社　測研
7. 資料整理の期間・担当者等は次のとおりである。  
履行期間　令和2年4月1日～令和3年3月31日　　整理期間　令和2年4月1日～令和2年7月31日  
整理担当　橋本　淳(主任調査研究員・資料統括)  
委託　遺物接合・復元(一部)　株式会社　歴史の杜
8. 本書の編集・執筆担当者等は次のとおりである。  
編集　橋本　淳  
執筆　第1章第1節　『東宮遺跡(4)』の第1章第1節を転載・一部加筆修正  
　　遺物観察表　石器・石製品：松村和男(上席調査研究員)　陶磁器：矢口裕之(資料1課長)　金属器・木製品：  
　　板垣泰之(専門員)  
　　上記以外　橋本　淳  
デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)  
保存処理　板垣泰之・閔　邦一(専門調査役)  
遺構写真撮影　各調査担当者　　遺物写真撮影　各遺物観察表執筆者
9. 石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
10. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
11. 発掘調査及び本書の作成にあたり、次の関係機関に御指導と御支援を賜った。記して感謝の意を表す次第である。  
群馬県地域創生部文化財保護課　長野原町教育委員会

## 凡　例

1. 本報告書の挿図中で使用した座標値は、発掘調査時の測量成果との整合性を保つため、旧日本測地系(平面直角座標系第IV系)を用い、方位は座標北を示す。また、等高線や遺構断面図に記した標高値は海拔標高を示す。
2. 調査範囲には4m×4mのグリッド網を設定し、各グリッドの呼称は南東隅の交点を当てている。
3. 遺構番号は調査時の番号を用いているが、整理段階で各遺構の再検討を行い、他の遺構に組み入れたものや遺構認定から外したものがあるため、遺構番号は連続しない。
4. 竪穴建物の方位については、原則として炉の長軸方向で示したが、柄鏡形竪穴建物は炉と張出部中心のライン、埋甕を有するものは炉と埋甕のラインで示した。4方位のうち最も近い方位を先に示し、触れている方位を度数で表記している。例えば、W19° Sは、西に対して19°南に触れていることを示す。
5. 遺構図における遺物番号は、遺物実測図と一致する。また、●は土器、▲は石器を表す。図示した遺物で、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
6. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として次のとおりである。縮尺の異なるものは、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。また、遺物写真は遺物図と同縮尺とした。  
遺構図 竪穴建物・竪穴状遺構・ピット：1/60 炉・石圓施設・埋甕・埋設土器：1/30 土坑・配石遺構：1/40  
列石遺構：1/100  
遺物図 繩文土器：1/3・1/4 石器：1/1・1/3・1/4 陶磁器：1/3 金属製品：1/2・1/3 木製品：1/5・1/6
7. 図中で使用したスクリーントーンは、次のとおりである。  
遺構図 焼土 ■■■■■ 炭 ▲▲▲▲  
遺物図(縄文土器) 赤色塗彩 ■■■■■ 遺物図(石器) 磨り面 □□□□ 吸炭 ■■■■■
8. 遺構の計測値は、全容が計測できないものの残存値を( )付きで表記した。遺物観察表中の( )付きの数値は、縄文土器・陶磁器は推定値、石器・鉄製品・木製品は残存値を示している。
9. 本書で使用した地形図・地勢図は、次のとおりである。  
国土地理院1/200000地勢図「長野」平成18年11月1日発行・国土地理院1/50000地形図「草津」平成11年1月1日発行・  
長野原町1/2500「長野原都市計画図」平成18年発行

# 目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

## 第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と地形	3
第3節 周辺の遺跡	4
第4節 調査の方法と経過	9
1 調査区の設定	9
2 調査の方法	10
3 東宮遺跡の調査経過	11
第5節 基本土層	12

## 第2章 発見された遺構と遺物

第1節 調査の概要	13
-----------	----

第2節 縄文時代の遺構と遺物	15
1 壇穴建物	15
2 壇穴状遺構	86
3 土坑	89
4 埋設土器	119
5 列石遺構	124
6 配石遺構	135
7 遺構外出土遺物	145
第3節 近世の遺構と遺物	196

## 第3章 まとめ

第1節 縄文時代の集落変遷について	212
-------------------	-----

## 抄録

## 写真図版

## 奥付

# 挿図目次

第1図 東宮遺跡の位置	2	第64図 墓区1号竪穴建物	68
第2図 遺跡周辺の地形	3	第65図 墓区1号竪穴建物出土遺物	69
第3図 四辺の道路	7	第66図 墓区5号竪穴建物	70
第4図 調査区の設定(1)	9	第67図 墓区5号竪穴建物(2)および出土遺物(1)	71
第5図 調査区の設定(2)	10	第68図 墓区5号竪穴建物出土遺物(2)	72
第6図 基本上層模式図	12	第69図 墓区8号竪穴建物(1)	72
第7図 縄文時代遺構全体図	13	第70図 墓区8号竪穴建物(2)および出土遺物	73
第8図 V・墓区縄文時代遺構全体図	14	第71図 墓区10号竪穴建物(1)	74
第9図 V区94号竪穴建物	17	第72図 墓区10号竪穴建物(2)および出土遺物(1)	75
第10図 V区94号竪穴建物出土遺物	18	第73図 墓区10号竪穴建物出土遺物(2)	76
第11図 V区95号竪穴建物	18	第74図 墓区11号竪穴建物(1)	76
第12図 V区95号竪穴建物(2)および出土遺物	19	第75図 墓区11号竪穴建物(2)および出土遺物	77
第13図 V区96号竪穴建物	20	第76図 墓区13号竪穴建物	78
第14図 V区96号竪穴建物出土遺物(1)	21	第77図 墓区13号竪穴建物出土遺物	79
第15図 V区96号竪穴建物出土遺物(2)	22	第78図 墓区14号竪穴建物および出土遺物(1)	80
第16図 V区96号竪穴建物出土遺物(3)	23	第79図 墓区14号竪穴建物出土遺物(2)	81
第17図 V区97号竪穴建物	24	第80図 墓区15号竪穴建物(1)	81
第18図 V区97号竪穴建物出土遺物	25	第81図 墓区15号竪穴建物(2)および出土遺物	82
第19図 V区98号竪穴建物(1)	25	第82図 墓区16号竪穴建物および出土遺物	83
第20図 V区98号竪穴建物(2)	26	第83図 墓区17号竪穴建物	84
第21図 V区98号竪穴建物出土遺物	27	第84図 墓区17号竪穴建物出土遺物	85
第22図 V区99号竪穴建物	28	第85図 墓区1号竪穴状構造	86
第23図 V区99号竪穴建物出土遺物	29	第86図 墓区1号竪穴状構造出土遺物	87
第24図 V区100号竪穴建物(1)	30	第87図 墓区2号竪穴状構造	87
第25図 V区100号竪穴建物(2)および出土遺物	31	第88図 墓区2号竪穴状構造出土遺物	88
第26図 V区101号竪穴建物(1)	32	第89図 土坑全体図	92
第27図 V区101号竪穴建物(2)および出土遺物(1)	33	第90図 V区土坑(1)	93
第28図 V区101号竪穴建物出土遺物(2)	34	第91図 V区土坑(2)	94
第29図 V区101号竪穴建物出土遺物(3)	35	第92図 V区土坑(3)	95
第30図 V区102号竪穴建物および出土遺物(1)	36	第93図 V区土坑(4)	96
第31図 V区102号竪穴建物出土遺物(2)	37	第94図 V区土坑(5)	97
第32図 V区103号竪穴建物	37	第95図 V区土坑(6)	98
第33図 V区103号竪穴建物出土遺物	38	第96図 墓区土坑(1)	99
第34図 V区104号竪穴建物および出土遺物	39	第97図 墓区土坑(2)	100
第35図 V区105号竪穴建物(1)	40	第98図 墓区土坑(3)	101
第36図 V区105号竪穴建物(2)および出土遺物(1)	41	第99図 墓区土坑(4)	102
第37図 V区106号竪穴建物出土遺物(2)	42	第100図 墓区土坑(5)	103
第38図 V区108・109号竪穴建物(1)	43	第101図 墓区土坑(6)	104
第39図 V区108・109号竪穴建物(2)および出土遺物	44	第102図 墓区土坑(7)	105
第40図 V区110号竪穴建物(1)	45	第103図 墓区土坑(8)	106
第41図 V区110号竪穴建物(2)	46	第104図 墓区土坑(9)	107
第42図 V区110号竪穴建物出土遺物	47	第105図 墓区土坑(10)	108
第43図 V区111号竪穴建物(1)	48	第106図 墓区土坑(11)	109
第44図 V区111号竪穴建物(2)および出土遺物	49	第107図 墓区土坑(12)	110
第45図 V区113号竪穴建物	50	第108図 墓区土坑(13)	111
第46図 V区113号竪穴建物出土遺物(1)	51	第109図 墓区土坑(14)	112
第47図 V区113号竪穴建物出土遺物(2)	52	第110図 墓区土坑(15)	113
第48図 V区114号竪穴建物および出土遺物(2)	53	第111図 墓区土坑(16)	114
第49図 V区115号竪穴建物および出土遺物	54	第112図 墓区土坑(17)	115
第50図 V区116号竪穴建物(1)	55	第113図 墓区土坑(18)	116
第51図 V区116号竪穴建物(2)および出土遺物	56	第114図 墓区土坑(19)	117
第52図 V区117号竪穴建物および出土遺物	57	第115図 墓区土坑(20)	118
第53図 V区118号竪穴建物(1)	58	第116図 理設土器全体図	120
第54図 V区118号竪穴建物(2)および出土遺物(1)	59	第117図 V区・墓区理設土器(1)	121
第55図 V区118号竪穴建物出土遺物(2)	60	第118図 墓区理設土器(2)	122
第56図 V区119・123号竪穴建物および119号竪穴建物出土遺物	61	第119図 墓区理設土器(3)	123
第57図 V区123号竪穴建物出土遺物	62	第120図 列石遺構全体図	125
第58図 V区120号竪穴建物(1)	62	第121図 V区9号列石	126
第59図 V区120号竪穴建物(2)	63	第122図 墓区1号列石	127
第60図 V区120号竪穴建物出土遺物	64	第123図 墓区1号列石出土遺物	128
第61図 V区121号竪穴建物および出土遺物	65	第124図 墓区2・3号列石	129
第62図 V区122号竪穴建物および出土遺物(1)	66	第125図 墓区2号列石出土遺物	131
第63図 V区122号竪穴建物出土遺物(2)	67	第126図 墓区3号列石出土遺物(1)	132

第122図	Ⅴ区3号石函道物(2) ······	133
第128図	Ⅴ区4・5号石函 ······	134
第129図	配石道構全体図 ······	138
第130図	Ⅴ区配石道構 ······	139
第131図	Ⅴ区配石道構(1) ······	140
第132図	Ⅴ区配石道構(2) ······	141
第133図	Ⅴ区配石道構(3) ······	142
第134図	Ⅴ区配石道構(4) ······	143
第135図	Ⅴ区配石道構(5) ······	144
第136図	Ⅴ区道構外出土道物(1) ······	145
第137図	Ⅴ区道構外出土道物(2) ······	146
第138図	Ⅴ区道構外出土道物(3) ······	147
第139図	Ⅴ区道構外出土道物(4) ······	148
第140図	Ⅴ区道構外出土道物(5) ······	149
第141図	Ⅴ区道構外出土道物(6) ······	150
第142図	Ⅴ区道構外出土道物(7) ······	151
第143図	Ⅴ区道構外出土道物(8) ······	152
第144図	Ⅴ区道構外出土道物(9) ······	153
第145図	Ⅴ区道構外出土道物(10) ······	154
第146図	Ⅴ区道構外出土道物(11) ······	155
第147図	Ⅴ区道構外出土道物(12) ······	156
第148図	Ⅴ区道構外出土道物(13) ······	157
第149図	Ⅴ区道構外出土道物(14) ······	158
第150図	Ⅴ区道構外出土道物(15) ······	159
第151図	Ⅴ区道構外出土道物(16) ······	160
第152図	Ⅴ区道構外出土道物(1) ······	161
第153図	Ⅴ区道構外出土道物(2) ······	162
第154図	Ⅴ区道構外出土道物(3) ······	163
第155図	Ⅴ区道構外出土道物(4) ······	164
第156図	Ⅴ区道構外出土道物(5) ······	165
第157図	Ⅴ区道構外出土道物(6) ······	166
第158図	Ⅴ区道構外出土道物(7) ······	167
第159図	Ⅴ区道構外出土道物(8) ······	168
第160図	Ⅴ区近世土坑全體 ······	195
第161図	Ⅴ区近世土坑(1) ······	196
第162図	Ⅴ区近世土坑(2) ······	197
第163図	Ⅴ区近世道物(1) ······	198
第164図	Ⅴ区近世道物(2) ······	199
第165図	Ⅴ区近世道物(3) ······	200
第166図	Ⅴ区近世道物(4) ······	201
第167図	Ⅴ区近世道物(5) ······	202
第168図	Ⅴ区近世道物(6) ······	203
第169図	Ⅴ区近世道物(7) ······	204
第170図	Ⅴ区近世道物(8) ······	205
第171図	Ⅴ区近世道物(9) ······	206
第172図	Ⅴ区近世道物(10) ······	207
第173図	Ⅴ区近世道物 ······	207
第174図	壁穴建物時期分布図(0期) ······	213
第175図	壁穴建物時期別分布図(1期) ······	214
第176図	壁穴建物時期別分布図(2期) ······	215
第177図	壁穴建物時期別分布図(3期) ······	216
第178図	壁穴建物時期別分布図(N・V期) ······	217

## 表目次

第1表	周辺の道路 ······	6
第2表	東宮道跡の調査経過 ······	11
第3表	Ⅴ区堅穴建物一覧 ······	15
第4表	Ⅴ区堅穴建物一覧 ······	16
第5表	Ⅴ区土坑一覧 ······	89
第6表	Ⅴ区土坑一覧(1) ······	90
第7表	Ⅴ区土坑一覧(2) ······	91
第8表	Ⅴ区近世土坑一覧 ······	196

# 写真図版目次

- PL 1 1. V区94号竪穴建物全景(南から)  
2. V区94号竪穴建物炉(南から)  
3. V区94号竪穴建物出土状況(西から)  
4. V区95号竪穴建物全景(北から)  
5. V区95号竪穴建物全景(南東から)  
PL 2 1. V区95号竪穴建物炉(南東から)  
2. V区96号竪穴建物全景(東から)  
3. V区96号竪穴建物遺物出土状況(南東から)  
4. V区96号竪穴建物炉(南東から)  
5. V区96号竪穴建物炉(北から)  
6. V区97号竪穴建物全景(北から)  
7. V区97号竪穴建物炉(北西から)  
8. V区98号竪穴建物全景(南西から)  
PL 3 1. V区98号竪穴建物遺物出土状況(南西から)  
2. V区98号竪穴建物遺物出土状況(北西から)  
3. V区98号竪穴建物炉(南西から)  
4. V区98号竪穴建物炉(北から)  
5. V区99号竪穴建物全景(南西から)  
6. V区99号竪穴建物遺物出土状況(南西から)  
7. V区99号竪穴建物遺物出土状況(西から)  
8. V区99号竪穴建物炉(北東から)  
PL 4 1. V区100号竪穴建物全景(南から)  
2. V区100号竪穴建物全景(西から)  
3. V区100号竪穴建物炉(東から)  
4. V区100号竪穴建物炉(北から)  
5. V区100号竪穴建物散石除去後全景(東から)  
PL 5 1. V区101号竪穴建物確認状況(北から)  
2. V区101号竪穴建物全景(南から)  
3. V区101号竪穴建物炉(北東から)  
4. V区102号竪穴建物全景(東から)  
5. V区102号竪穴建物遺物出土状況(北から)  
6. V区102号竪穴建物炉(東から)  
7. V区102号竪穴建物埋覆(東から)  
8. V区103号竪穴建物確認状況(北東から)  
PL 6 1. V区103号竪穴建物全景(南東から)  
2. V区103号竪穴建物炉(東から)  
3. V区104号竪穴建物全景(東から)  
4. V区104号竪穴建物遺物出土状況(南から)  
5. V区104号竪穴建物炉(東から)  
6. V区106号竪穴建物全景(西から)  
7. V区106号竪穴建物北西部(西から)  
8. V区106号竪穴建物南西部(西から)  
PL 7 1. V区106号竪穴建物全景(東から)  
2. V区106号竪穴建物炉(東から)  
3. V区106号竪穴建物石圓施設(東から)  
4. V区106号竪穴建物炉・石圓施設(北から)  
5. V区106号竪穴建物散石除去後全景(東から)  
PL 8 1. V区106号竪穴建物遺物出土状況(東から)  
2. V区108号竪穴建物全景(北西から)  
3. V区108号竪穴建物炉(南から)  
4. V区109号竪穴建物全景(東から)  
5. V区110号竪穴建物全景(東から)  
PL 9 1. V区110号竪穴建物全景(東から)  
2. V区110号竪穴建物全景(南から)  
3. V区110号竪穴建物炉(西から)  
4. V区110号竪穴建物主体部(北から)  
5. V区110号竪穴建物南西部(北から)  
PL 10 1. V区110号竪穴建物散石除去後全景(北から)  
2. V区110号竪穴建物張出部下層(北から)  
3. V区110号竪穴建物炉(東から)  
4. V区110号竪穴建物埋覆(南から)  
5. V区110号竪穴建物連接部(西から)  
6. V区110号竪穴建物散石除去後全景(東から)  
7. V区110号竪穴建物出土標  
8. V区111号竪穴建物全景(北西から)  
PL 11 1. V区111号竪穴建物遺物出土状況(南東から)  
2. V区111号竪穴建物炉(南東から)  
3. V区111号竪穴建物炉(南から)  
4. V区113号竪穴建物全景(北東から)  
5. V区113号竪穴建物炉(南から)  
6. V区114号竪穴建物全景(北から)  
7. V区114号竪穴建物炉(北から)  
8. V区115号竪穴建物全景(南東から)  
PL12 1. V区115号竪穴建物出土状況(南西から)  
2. V区116号竪穴建物全景(北西から)  
3. V区116号竪穴建物炉(北西から)  
4. V区117号竪穴建物炉(南から)  
5. V区118号竪穴建物全景(北東から)  
PL13 1. V区118号竪穴建物全景(北東から)  
2. V区118号竪穴建物炉(北東から)  
3. V区118号竪穴建物石圓施設(北から)  
4. V区118号竪穴建物炉・石圓施設(西から)  
5. V区118号竪穴建物散石除去後全景(南東から)  
6. V区119・123号竪穴建物全景(北東から)  
7. V区119・123号竪穴建物全景(北西から)  
8. V区119号竪穴建物炉(北西から)  
PL14 1. V区123号竪穴建物炉(南東から)  
2. V区120号竪穴建物全景(南から)  
3. V区120号竪穴建物炉(南東から)  
4. V区120号竪穴建物炉(北東から)  
5. V区121号竪穴建物全景(北東から)  
6. V区121号竪穴建物炉(北東から)  
7. V区122号竪穴建物全景(東から)  
8. V区122号竪穴建物炉(北から)  
PL15 1. V区1号竪穴建物全景(東から)  
2. V区1号竪穴建物全景(南から)  
3. V区1号竪穴建物炉(南から)  
4. V区1号竪穴建物全景(東から)  
5. V区5号竪穴建物全景(東から)  
6. V区5号竪穴建物炉(南西から)  
7. V区5号竪穴建物遺物出土状況(南東から)  
8. V区8号竪穴建物全景(東から)  
PL16 1. V区8号竪穴建物遺物出土状況(南東から)  
2. V区8号竪穴建物炉(東から)  
3. V区10号竪穴建物全景(東から)  
4. V区10号竪穴建物全景(北から)  
5. V区10号竪穴建物主体部(東から)  
PL17 1. V区10号竪穴建物張出部(東から)  
2. V区10号竪穴建物連結部(南から)  
3. V区10号竪穴建物炉(南から)  
4. V区11号竪穴建物全景(南東から)  
5. V区11号竪穴建物炉(東から)  
6. V区13号竪穴建物全景(北西から)  
7. V区14号竪穴建物全景(東から)  
8. V区14号竪穴建物炉(東から)  
PL18 1. V区15号竪穴建物全景(南から)  
2. V区15号竪穴建物炉(南から)  
3. V区16号竪穴建物全景(北東から)  
4. V区16号竪穴建物炉(北東から)  
5. V区17号竪穴建物全景(南から)  
6. V区1号竪穴状遺構出土状況(南東から)  
7. V区1号竪穴状遺構全景(南東から)  
8. V区2号竪穴状遺構全景(南から)  
PL19 1. V区248号土坑全景(南西から)  
2. V区249号土坑全景(南西から)  
3. V区251号土坑全景(北東から)  
4. V区252号土坑全景(東から)  
5. V区252号土坑遺物出土状況(東から)  
6. V区253号土坑全景(南から)  
7. V区254号土坑全景(北から)  
8. V区254号土坑遺物出土状況上層(南から)  
9. V区254号土坑遺物出土状況下層(北から)  
10. V区255号土坑全景(北西から)  
11. V区255号土坑遺物出土状況(北西から)

12. V区256号土坑全量(西から)  
 13. V区256号土坑底面ピット(南西から)  
 14. V区256号土坑断面(南西から)  
 15. V区257号土坑全量(北東から)
- PL20 1. V区257号土坑遺物出土状況(東から)  
 2. V区258号土坑全量(南東から)  
 3. V区259号土坑全量(南東から)  
 4. V区260号土坑全量(南東から)  
 5. V区261号土坑全量(東から)  
 6. V区262号土坑全量(南から)  
 7. V区264号土坑全量(北東から)  
 8. V区265号土坑全量(西から)  
 9. V区266号土坑全量(東から)  
 10. V区267号土坑全量(東から)  
 11. V区268号土坑断面(西北から)  
 12. V区269号土坑断面(北から)  
 13. V区272号土坑全量(北から)  
 14. V区273号土坑全量(東から)  
 15. V区274号土坑全量(南から)
- PL21 1. V区275号土坑全量(南から)  
 2. V区276号土坑全量(南から)  
 3. V区277号土坑全量(南から)  
 4. V区279号土坑全量(南から)  
 5. V区280号土坑断面(西北から)  
 6. V区283号土坑全量(東から)  
 7. V区284号土坑全量(東東から)  
 8. V区285号土坑全量(南から)  
 9. V区286号土坑全量(北から)  
 10. V区287号土坑全量(南東から)  
 11. V区288号土坑全量(北から)  
 12. V区289号土坑全量(南から)  
 13. V区291号土坑全量(南から)  
 14. V区291号土坑遺物出土状況(北から)  
 15. V区292号土坑全量(北東から)
- PL22 1. V区29号土坑全量(南から)  
 2. V区30号土坑断面(南から)  
 3. V区40号土坑全量(南から)  
 4. V区40号土坑遺物出土状況(南から)  
 5. V区40号土坑断面(南から)  
 6. V区43号土坑全量(東から)  
 7. V区44号土坑全量(東から)  
 8. V区45号土坑全量(北東から)  
 9. V区46号土坑全量(東から)  
 10. V区47号土坑全量(南西から)  
 11. V区48号土坑全量(東から)  
 12. V区49号土坑全量(東から)  
 13. V区51号土坑全量(南東から)  
 14. V区52号土坑全量(南から)  
 15. V区53号土坑全量(北東から)
- PL23 1. V区54・55号土坑全量(東から)  
 2. V区56号土坑全量(南から)  
 3. V区56号土坑遺物出土状況(南から)  
 4. V区57号土坑全量(南東から)  
 5. V区58号土坑全量(南から)  
 6. V区59号土坑断面(東から)  
 7. V区60号土坑全量(北から)  
 8. V区61号土坑全量(南東から)  
 9. V区62号土坑全量(南から)  
 10. V区63号土坑全量(北東から)  
 11. V区64号土坑全量(東から)  
 12. V区64号土坑遺物出土状況(南東から)  
 13. V区65号土坑全量(南東から)  
 14. V区65号土坑遺物出土状況(北東から)  
 15. V区66号土坑全量(南から)
- PL24 1. V区67号土坑全量(南東から)  
 2. V区68号土坑全量(東から)  
 3. V区71・72号土坑全量(南から)  
 4. V区78号土坑全量(東から)  
 5. V区79号土坑全量(東から)  
 6. V区80号土坑全量(南東から)
- PL25 7. V区82号土坑全量(北西から)  
 8. V区83号土坑全量(南東から)  
 9. V区84号土坑全量(南東から)  
 10. V区84号土坑断面(北から)  
 11. V区85号土坑全量(北から)  
 12. V区87号土坑全量(北から)  
 13. V区89号土坑全量(北東から)  
 14. V区91号土坑全量(北西から)  
 15. V区93号土坑全量(南東から)
- PL26 1. V区94号土坑全量(南から)  
 2. V区95号土坑全量(南から)  
 3. V区96号土坑全量(南西から)  
 4. V区97号土坑全量(南東から)  
 5. V区98号土坑全量(南東から)  
 6. V区99号土坑全量(南西から)  
 7. V区99号土坑遺物出土状況(南から)  
 8. V区100号土坑全量(南から)  
 9. V区100号土坑遺物出土状況(南から)  
 10. V区101号土坑全量(南から)
- PL27 11. V区102号土坑全量(南東から)  
 12. V区103号土坑全量(南から)  
 13. V区103号土坑断面(南から)  
 14. V区104号土坑全量(南西から)  
 15. V区105号土坑全量(南西から)
- PL28 1. V区108号土坑全量(南から)  
 2. V区109号土坑全量(南東から)  
 3. V区110号土坑全量(南から)  
 4. V区112号土坑全量(東から)  
 5. V区113号土坑全量(東から)  
 6. V区113号土坑断面(東から)  
 7. V区115号土坑全量(南西から)  
 8. V区116号土坑全量(東から)  
 9. V区117号土坑全量(南から)  
 10. V区117号土坑遺物出土状況(南から)  
 11. V区118号土坑全量(北から)  
 12. V区118号土坑遺物出土状況(北から)  
 13. V区118号土坑断面(北から)  
 14. V区119号土坑全量(南から)  
 15. V区120号土坑全量(南東から)
- PL29 1. V区122号土坑全量(南東から)  
 2. V区123号土坑全量(北東から)  
 3. V区123号土坑遺物出土状況(北東から)  
 4. V区124号土坑全量(南から)  
 5. V区124号土坑遺物出土状況(南から)  
 6. V区125号土坑全量(南東から)  
 7. V区126号土坑全量(北東から)  
 8. V区128号土坑全量(東から)  
 9. V区129号土坑全量(北東から)  
 10. V区130号土坑全量(南から)  
 11. V区132号土坑全量(南西から)  
 12. V区133号土坑全量(南東から)  
 13. V区134号土坑全量(北から)  
 14. V区135号土坑全量(北東から)  
 15. V区136号土坑全量(北東から)
- PL30 1. V区138号土坑全量(北東から)  
 2. V区139号土坑全量(南東から)  
 3. V区139号土坑遺物出土状況(北東から)  
 4. V区141号土坑全量(北東から)  
 5. V区141号土坑全量(南東から)  
 6. V区142号土坑全量(北東から)  
 7. V区143号土坑全量(北東から)  
 8. V区144号土坑全量(西から)  
 9. V区145号土坑全量(南から)  
 10. V区146号土坑全量(南東から)  
 11. V区147号土坑全量(南から)  
 12. V区151号土坑全量(南東から)  
 13. V区151号土坑遺物出土状況(北東から)  
 14. V区152号土坑全量(東から)  
 15. V区153号土坑全量(北東から)
- PL31 1. V区5号埋設上槽(南から)

2. VII区1号埋設土器(南から)	PL36	V区94～96号堅穴建物出土遺物
3. VII区2号埋設土器(西から)	PL37	V区96号堅穴建物出土遺物
4. VII区6号埋設土器(東から)	PL38	V区97～99号堅穴建物出土遺物
5. VII区8号埋設土器(南から)	PL39	V区99～101号堅穴建物出土遺物
6. VII区8号埋設土器出土状況(西から)	PL40	V区101・102号堅穴建物出土遺物
7. VII区9号埋設土器(北から)	PL41	V区103・104・105号堅穴建物出土遺物
8. VII区9号列石北端部(東から)	PL42	V区108～111号堅穴建物出土遺物
PL30 1. VII区9号列石中央部(東から)	PL43	V区113号堅穴建物出土遺物
2. VII区9号列石南端部(南から)	PL44	V区114～118号堅穴建物出土遺物
3. VII区1号列石全景(南東から)	PL45	V区118～123号堅穴建物出土遺物
4. VII区1号列石全景(南から)	PL46	VII区1・5号堅穴建物出土遺物
5. VII区1号列石全景(南東から)	PL47	VII区5・8・10・11号堅穴建物出土遺物
PL31 1. VII区1号列石棒出土状況(東から)	PL48	VII区13～16号堅穴建物出土遺物
2. VII区2号列石全景(南東から)	PL49	VII区17号堅穴建物、VII区1・2号堅穴状道構出土遺物
3. VII区2号列石南端部(北東から)	PL50	V区土坑出土遺物
4. VII区2号列石北端部(東から)	PL51	VII区土坑出土遺物(1)
5. VII区3号列石全景(東から)	PL52	VII区土坑出土遺物(2)
PL32 1. VII区3号列石北端部(東から)	PL53	VII区土坑出土遺物(3)
2. VII区3号列石中央部(東から)	PL54	VII区土坑出土遺物(4)
3. VII区4号列石全景(東から)	PL55	VII区土坑出土遺物(5)
4. VII区4号列石全景(南東から)	PL56	V・VII区配石器、V区9号列石出土遺物
5. VII区5号列石全景(南東から)	PL57	VII区1～3号列石出土遺物
6. VII区5号列石全景(南西から)	PL58	VII区3～5号列石出土遺物
7. V区32号配石全景(北東から)	PL59	V・VII区配石道構出土遺物
8. V区33号配石上層全景(北から)	PL60	V区道構外出土遺物(1)
PL33 1. VII区33号配石下層全景(北から)	PL61	V区道構外出土遺物(2)
2. VII区1号配石全景(東から)	PL62	V区道構外出土遺物(3)
3. VII区1号配石断面(北から)	PL63	V区道構外出土遺物(4)
4. VII区2号配石全景(東から)	PL64	V区道構外出土遺物(5)
5. VII区3号配石全景(東から)	PL65	V区道構外出土遺物(6)
6. VII区4号配石上層全景(東から)	PL66	V区道構外出土遺物(7)
7. VII区4号配石中層全景(北から)	PL67	V区道構外出土遺物(8)
8. VII区7号配石全景(東から)	PL68	VII区道構外出土遺物(1)
PL34 1. VII区7号配石全景(北から)	PL69	VII区道構外出土遺物(2)
2. VII区7号配石全景(南から)	PL70	VII区道構外出土遺物(3)
3. VII区5号配石全景(北から)	PL71	VII区道構外出土遺物(4)
4. VII区5号配石全景(南西から)	PL72	1. VII区31号土坑全景(南東から) 2. VII区32号土坑全景(南東から) 3. VII区33号土坑全景(南東から) 4. VII区34号土坑全景(南東から) 5. VII区35号土坑全景(北から) 6. VII区36号土坑全景(北から) 7. VII区37号土坑全景(南東から) 8. VII区38号土坑全景(北西から) 9. VII区39号土坑全景(南東から)
5. VII区6号配石全景(南から)		近世出土遺物(1)
6. VII区8号配石全景(北東から)	PL73	近世出土遺物(2)
7. VII区9号配石全景(北東から)	PL74	近世出土遺物(3)
8. VII区20号配石全景(東から)	PL75	近世出土遺物(4)
	PL76	近世出土遺物(5)

# 第1章 発掘調査と遺跡の概要

## 第1節 調査に至る経緯

吾妻川は、その源を群馬・長野県境の鳥居峰に発し、浅間山・草津白根山の中間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支流を合わせ、途中、吾妻峠と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支流を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川である。

ハッ場ダムは、その吾妻川の中流に建設され、①洪水調節、②流水の正常な機能維持、③水道及び工業用水の新たな確保、④発電を目的とする多目的ダムで、天端標高586m・堤高116m・湛水面積約3.0km<sup>2</sup>・総貯水量1,075億m<sup>3</sup>の規模を誇る重力式コンクリートダムである。ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字ハッ場、右岸が大字川原湯字金花山にあり、吾妻渓谷の入口部付近にある。

ハッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として、昭和27年(1952)5月に調査着手後、平成4年(1992)7月、「ハッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関しては、平成6年(1994)3月18日に建設省(現国土交通省)関東地方建設局と群馬県教育委員会教育長との間で「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより、委託者である建設省関東地方建設局と受託者である群馬県教育委員会教育長とが、年度区分ごとに発掘調査委託契約を締結のうえ、以後、発掘調査が実施されることが決定したのである。

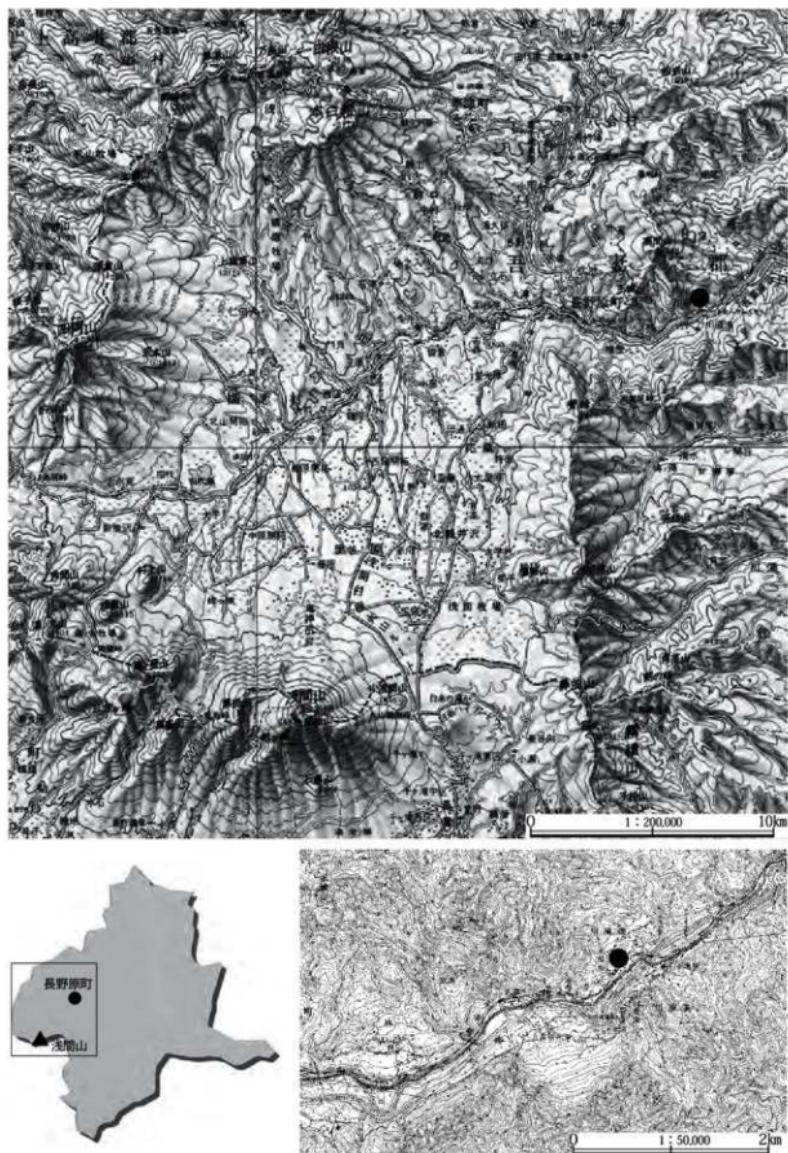
この協定を踏まえて、平成6年4月1日に関東地方建設局と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人(現公益財団法人)群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受託契約を締結し、ハッ場ダム進入路関連

遺跡を調査箇所とするハッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

平成11年(1999)4月1日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で、「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書(第1回変更)」が締結され、発掘調査受託契約についての変更が行われた。これにより、受託者が群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長へ変更となり、現在の調査体制に至っている。

本遺跡は、平成6年4月1日付けの受託契約に基づき、平成7年度(1995)と平成9年度(1997)の2か年にわたりて、工事用進入路(川原畑進入路)建設及び町道付け替えに伴う発掘調査が実施された。その結果、天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流堆積物(以下、「天明泥流」と略す)に埋没した畑が3地点において検出され、新発見の遺跡となった。また、確認された天明泥流下の畑は、周辺の状況からさらに隣接地へと拡がることを予測させた。

その後、ハッ場ダム建設工事の進展に伴い、これまで実施されてこなかったダム水没予定地域の埋蔵文化財調査が着手されることになり、本遺跡はその先駆けとして、発掘調査対象遺跡に選定された。そこで、平成18年(2006)5月、群馬県教育委員会文化財保護課(現群馬県地域創生部文化財保護課)により、本遺跡東部分についての試掘調査が実施された。その結果、事業地内的一部分で天明泥流に埋没した畑の分布が確認された。さらに同年9月、同課により遺跡西部分についても試掘調査が実施され、天明泥流に埋没した屋敷及び畑の分布が2地点で確認された。これらの試掘調査の結果から、本調査の必要があるとの判断に至り、平成19年度(2007)から本格的な発掘調査が実施されることになった。平成20・21・26~30年度と継続し、令和元年度(2019)は旧JR吾妻線線路から北側の町道までの部分及び旧国道145号線部分の調査となつた。



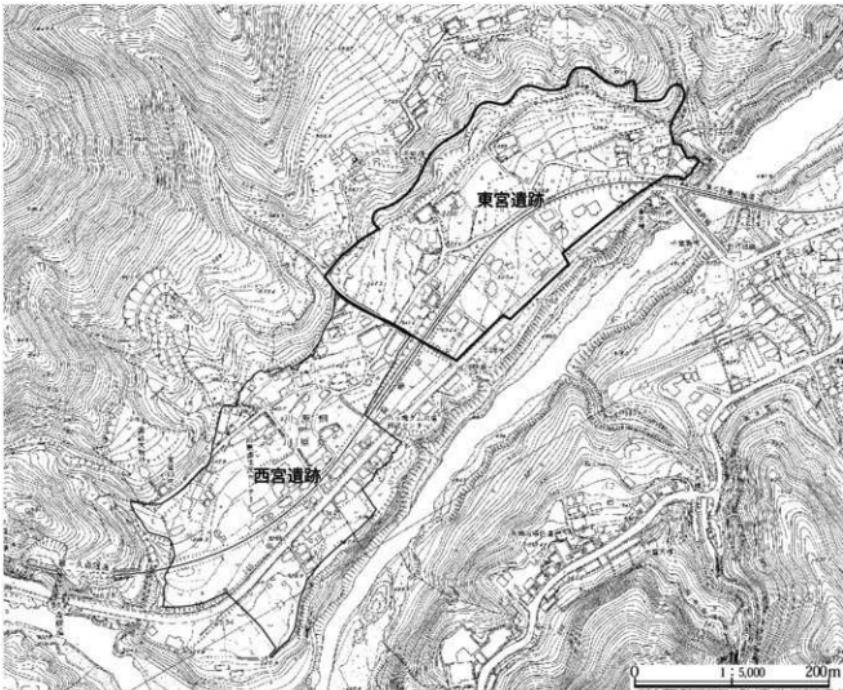
第1図 東宮遺跡の位置

## 第2節 遺跡の位置と地形

本遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑に所在する。群馬県北西部の山間地にあたり、遺跡の南西に浅間山(2,568m)、西に四阿山(2,354m)、北西に草津白根山(2,171m)という活火山を中心とした山脈が連なり、上信国境の分水嶺を構成している(第1図)。分水嶺の一つであり、上信国境をなす鳥居峠(1,362m)付近を源に吾妻川が発し、嬬恋村を経て長野原町・東吾妻町を東流し、渋川市白井で利根川と合流する。吾妻川両岸には、その形成時期から最上位・上位・中位・下位の4段階の河岸段丘面が形成されている。

本遺跡は高間山(1,342m)の東南麓にあたり、吾妻川左岸の中位段丘面上に立地する。本遺跡がある段丘面は、吾妻川の流れに沿って方位を南西→北東にとっており、

最上位段丘面との崖線下から吾妻川との崖線端部までの幅は170m程、長さが730m程の範囲である。この段丘面の北東側が本遺跡、境沢を挟んで南西側が西宮遺跡となる(第2図)。段丘面北東端の境界は山地斜面となり、これから旧吾妻川が東へ蛇行して右岸に同様の段丘面を形成するが、本遺跡の下流1km程から吾妻渓谷が約3.5kmにわたって形成されている。吾妻渓谷は、吾妻川が狭い幅で深く浸食したことによるもので、この間には段丘面を形成していない。そのため、本遺跡が立地する段丘面は、吾妻渓谷より上流部において南面する段丘面としては最下流部に位置することになる。標高は、遺跡地西端の山裾部が552mで最も高く、東に向けて下がっていく。遺跡地東端で522mを測り、吾妻川との比高は約30mを測る。本書で報告する縄文時代の集落が検出されたV・VII区も西側が高く、東に向けて緩やかに下がっている。標高は527~541m程度である。



第2図 遺跡周辺の地形

### 第3節 周辺の遺跡

本書では、主に縄文時代の遺構と遺物についての報告であるので、これと対比するため周辺の縄文遺跡について概観することとする。長野原町地内では、八ッ場ダム建設に伴って多くの遺跡の発掘調査が行われてきた。その多くは、吾妻川によって形成された最上位・上位・中位・下位の河岸段丘面に立地している。山間地にあって、これらの段丘面は居住に適した平坦地であり、南面する左岸により多くの遺跡が分布する傾向が見られる。以下、時期ごとに遺跡の分布状況について一瞥してみたい。なお、記載した段丘面の計測値は、崖線に沿う方向を間口、崖線に直交する方向を奥行きとした。

**草創期** 草創期の遺跡は少ない。そのなかにあって、表裏縄文土器を出土した石畠Ⅰ岩陰(29、以下、遺跡名の後のNoは第1表・第3図に対応)は注目される。石畠Ⅰ岩陰は吾妻川左岸にあり、間口40m・奥行き4m程の南に開口する大規模な岩陰遺跡である。表裏縄文土器が出土しており、草創期における岩陰利用の例として重要な遺跡である。八ッ場ダム建設に伴い、当事業団により調査が行われたが、調査環境も厳しく草創期の遺物は確認されなかった。また近年、國學院大學考古学研究室によって、居家以岩陰(30)の調査が進められている。吾妻川の支流である白砂川左岸に立地し、間口18m・奥行き5m程の南東に開口する岩陰である。総括的な報告書は今後であるが、隆線文土器や押圧縄文土器の報告例がある。そのほかには、立馬Ⅰ遺跡(2)、三平Ⅰ遺跡(5)、榎木Ⅱ遺跡(14)において、表裏縄文土器の出土がごくわずか見られる。

**早期** 吾妻川左岸の最上位段丘面と、それよりさらに標高の高い山地斜面部の狭小な平坦地や緩傾斜地に分布する傾向が見られる。

榎木Ⅱ遺跡(14)は最上位段丘面に比定される、両側を山地斜面に挟まれた間口100m・奥行き200m程の南面する狭小な緩傾斜地に占地する。山地の崖線を背後に控えた間口部東側に撫糸文期の竪穴建物31棟が検出され、なかには石圓炉を持つものも9棟あった。該期竪穴建物内で石圓炉の例は稀少であるが、そのいくつかは石が床面から浮いた状態にあることから竪穴建物には伴わないと

の意見もあり、さらなる類例の増加が待たれるところである。出土土器に関しては、撫糸文期以外の早期土器はほとんど見られず、撫糸文期にほぼ限定された集落として注目できよう。立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡(2～4)は、最上位段丘面より上位の山地斜面部に占地する遺跡群である。立馬Ⅰ遺跡は、南流する沢を望む間口60m・奥行き40m程の東斜面部に立地する。その沢を挟んだ東側の対岸が立馬Ⅱ遺跡である。立馬Ⅱ遺跡は山地斜面裾部に形成された間口40m・奥行き65m程の狭小な平坦地で、南西に張り出す痩せ尾根の様相を呈す。立馬Ⅲ遺跡は立馬Ⅰ遺跡の南側、一段下がった南東向きに張り出す間口60m・奥行き30m程の緩斜面地にある。立馬Ⅰ遺跡では撫糸文期と沈線文期の竪穴建物各1棟、立馬Ⅲ遺跡では撫糸文期1棟、条痕文期3棟の竪穴建物が調査されている。また包含層遺物として撫糸文・押型文・沈線文・条痕文の各段階の出土を見る。特に、立馬Ⅰ及びⅢ遺跡では沈線文土器が充実している。三平Ⅰ・Ⅱ遺跡(5・6)は、本遺跡北東側の最上位段丘面に立地する。段丘面とはいえ、両側を沢が開析していることにより、南東に張り出した舌状台地の様相を呈す。さらに、この台地を沢が浸食して分断し、西側に狭小な台地を形成している。東側の間口120m・奥行き210m程の台地部分が三平Ⅰ遺跡、西側の最大幅50m・奥行き100m程の台地が三平Ⅱ遺跡である。三平Ⅰ遺跡では撫糸文期の竪穴建物1棟の報告があるが、出土遺物が少なく判然としない。両遺跡ともに包含層遺物として、撫糸文・押型文・沈線文・条痕文の各土器群が出土しているが、三平Ⅱ遺跡でより充実した出土を見る。平坦面の広い三平Ⅰ遺跡より、狭小な台地である三平Ⅱ遺跡で充実した出土を見ることは、榎木Ⅱ遺跡や立馬Ⅰ～Ⅲ遺跡の立地との共通性が見られ、興味深い。左岸中位段丘面にある尾坂遺跡(19)では、鶴ヶ島台式の良好な個体が出土している。南面する舌状台地の南西縁に中期後葉の集落が占地するが、これと近接した位置で出土しており、これまで述べてきた早期遺跡群の立地とは異なった出土状態を示している。

**前期** 遺跡数、遺構数とともに早期より若干増えるが、上原Ⅰ遺跡を除いて大きな集落は見られず、数棟が点在する状況を示す。また、竪穴建物が確認されているのは最上位段丘面に偏っている。

上原Ⅰ遺跡(8)では、花積下層式期の集落が調査され

ている。遺跡は間口1.1km・奥行400m程の、周辺段丘面の中では最大の面積を持つ最上位段丘面に立地する。山側中央部は扇状地状の地形となっており、この扇状部東寄りの崖線下に、該期の竪穴建物15棟が占地する。広い段丘面であるにも関わらず、その奥まった崖線下に集落が展開することは特徴的である。上原I遺跡と同じ段丘面の南西部にある林中原I遺跡(11)でも、前期初頭1・前葉2・後葉1の計4棟の竪穴建物が調査されている。三平I遺跡(5)では、諸磯a及びb式期の竪穴建物各1棟が調査されている。榎木II遺跡(14)でも竪穴建物の報告があるが、建物内からのまとまった遺物の出土は見られない。ほか竪穴建物の検出はないが、石畠遺跡(28)から関山II式の良好な個体が出土しているほか、三平II遺跡(6)の土坑から十三菩提式の良好な資料が出土している。

**中期** 中期前葉及び中葉の竪穴建物の検出例は少ない。立馬II遺跡(3)で、尾根の縁辺に沿って配置された初頭～前葉の竪穴建物9棟が調査されている。包含層出土を含め、該期の出土遺物は豊富であり、当地域で最もまとまった資料である。上ノ平I遺跡(7)では、中期中葉(加曾利E1式古段階)の集落が検出されている。上ノ平I遺跡は、本遺跡北側の一段上がった間口300m・奥行80m程の最上位段丘面上に立地する。段丘面の南西部にやや偏る傾向が見られるが、吾妻川を望む低位に緩く弧を描くように竪穴建物16棟が検出されている。中葉としては、もっともまとまった遺跡である。左岸上位段丘面にある幸神遺跡(17)では、吾妻川を望む南西縁辺部で中葉の焼町土器を炉体とする竪穴建物1棟が検出されている。

中期後半には、広い面積をもつ段丘面に大規模集落が営まれるようになり、後期まで継続する遺跡が見られるようになる。長野原一本松遺跡(18)、横壁中村遺跡(23)、林中原II遺跡(12)が好例である。長野原一本松遺跡は沢を挟んで幸神遺跡の西側にあり、間口600m・奥行150m程の左岸上位段丘面に立地する。段丘面の東寄りで、段丘面の中では標高も高く、平坦面が最も広い場所に集落が占地しており、西側は緩やかに下がっている。東側に谷が入り込むことで、南に張り出す舌状台地の様相を呈している。ここから中期後葉～後期前葉にかかる150棟を超える竪穴建物が検出された。竪穴建物が確認できる

のは加曾利E2式期からで、台地の南縁辺部に沿った数棟程度であったが、E3式期になると急増し、平坦部のほぼ全域を利用して径100m規模の環状集落を形成する。さらに環状にとどまらず、東の谷頭に沿って弧状に拡がるとともに、西側にも拡がりを見せる。横壁中村遺跡では、中期後半～後期後半にわたって240棟を超える竪穴建物が検出されている。吾妻川右岸の間口900m・奥行200m程の中位段丘面のほぼ中央部に占地する。北流する沢によって段丘面は數か所に分断されており、遺跡地内にも沢が一筋流れて西と東に分断している。西地区は間口160m・奥行120m程、東地区は間口80m・奥行120m程のそれぞれ北面する舌状台地になっている。竪穴建物は勝坂期から造られはじめ、加曾利E3式期で97棟とピークを迎える。加曾利E3式期には東・西の両台地にそれぞれ径120m程の環状集落が形成されるが、E4式期には竪穴建物10棟と急速に規模が縮小する。冬場の午後3時には日が沈む右岸の台地にこれほどの集落が形成されたのは、沢の恩恵によるものと推定されている。林中原II遺跡は、林中原I遺跡(11)の東に隣接する。吾妻川を望む段丘面低位に100棟を超える竪穴建物が検出され、加曾利E3式期には径100m程の環状集落が推定されている。石川原遺跡(21)は現在、当事業団により整理作業を進めているところであるが、中期～後期の大型集落となるようである。横壁中村遺跡と同じ、右岸中位段丘面に立地する。そのほか、尾坂遺跡(20)では、加曾利E3式期の竪穴建物5棟が調査されている。南面する舌状台地の南西縁に沿って5棟が並ぶように配置されており、重複が見られないことから同時期か、あるいは極めて短期間に営まれた集落と位置づけられる。他遺跡では大規模集落が営まる時期であり、その性格の違いが際立っている。西久保I遺跡(25)は吾妻川右岸、間口600m・奥行200m程の中位段丘面の東端部にあたり、加曾利E3式期1・E4式期4棟の竪穴建物が検出されている。久々戸遺跡(27)では、遺存状態の非常に良好な加曾利E4式期の敷石住居1棟が調査されている。

**後期** 前半期は、中期後葉の大規模集落から継続するものが主体であり、集落規模は縮小するが列石や配石を伴うようになる。

長野原一本松遺跡(18)では、棟数は減少するものの称名寺式期・堀之内式期にわたり、環状集落の構成は維持

## 第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	段丘面等	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	文献	
									●堅穴建物	○遺物
1	東宮	左岸中位		○	○	●	●	○	「東宮遺跡(5)」2020群理文、本書	
2	立馬Ⅰ	左岸山地斜面	○	●	○	○	○	●	「立馬Ⅰ遺跡」2006群理文	
3	立馬Ⅱ	左岸山地斜面	○	○	●	●	○	○	「立馬Ⅱ遺跡」2006群理文	
4	立馬Ⅲ	左岸山地斜面	●	○	●	●	○	○	「立馬Ⅲ遺跡」2009群理文	
5	三平Ⅰ	左岸最上位	○	●	●	●	○	○	「三平Ⅰ・Ⅱ遺跡」2007群理文、「三平Ⅰ遺跡」2013長野原町教委	
6	三平Ⅱ	左岸最上位	○	○	○	○	○	○	「三平Ⅰ・Ⅱ遺跡」2007群理文	
7	上ノ平Ⅰ	左岸最上位	○	○	●	●	○	○	「上ノ平Ⅰ遺跡(1)」、「同(2)」、「同(3)」2008・2017・2018群理文	
8	上原Ⅰ	左岸最上位	○	●	●	●	○	○	「上原Ⅰ遺跡・上原圓墳・林宮原遺跡」2015群理文	
9	上原Ⅱ	左岸最上位				○	○	○	「林地区遺跡群」2015長野原町教委	
10	上原Ⅳ	左岸最上位		○	○	●	○	○	「山根田遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡」2008群理文	
11	林中原Ⅰ	左岸最上位	○	●	●	○	○	○	「長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡」2014群理文	
12	林中原Ⅱ	左岸最上位		●	●	●	●	○	「林中原Ⅱ遺跡(1)」「同(2)」2016・2018群理文	
13	榎木Ⅰ	左岸最上位		○	○	○	○	○	「榎木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺跡(2)・西久保Ⅳ遺跡」2012群理文	
14	榎木Ⅱ	左岸最上位	○	●	●	●	○	○	「榎木Ⅱ遺跡(2)」2009群理文	
15	中棚Ⅰ	左岸上位	○	○	○	○	○	○	「中棚Ⅰ遺跡」2019群理文	
16	中棚Ⅲ	左岸上位		○	○	○	○	○	「ハツ場ダム発掘調査集成(1)」2002群理文	
17	幸神	左岸上位	○	●	●	○	○	○	「山根田遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡」2008群理文	
18	長野原一本松	左岸上位	○	○	○	●	●	○	「長野原一本松遺跡(1)」～「同(7)」2002～2014群理文	
19	中棚Ⅱ	左岸中位	○	○	○	○	○	○	「林宮原遺跡(2)・林中原Ⅰ遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)」2020群理文	
20	尾坂	左岸中位	○	○	○	●	○	○	「尾坂遺跡(2)」2016群理文	
21	石川原	右岸中位	○	○	○	●	●	○	「川原湯勝沼遺跡(2)」2005群理文	
22	川原湯勝沼	右岸中位	○	○	○	○	○	○	「川原湯勝沼遺跡(2)」2005群理文	
23	横壁中村	右岸中位	○	○	●	●	●	○	「横壁中村遺跡(2)」～「同(14)」2005～2013群理文	
24	山根Ⅲ	右岸中位	○	○	●	●	○	○	「山根Ⅲ遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡」2008群理文	
25	西久保Ⅰ	右岸中位	○	○	○	●	○	○	「ハツ場ダム発掘調査集成(1)」2002群理文	
26	西久保Ⅴ	右岸中位	○	○	○	○	○	○	「西久保Ⅰ遺跡(2)・西久保Ⅴ遺跡」2019群理文	
27	々々々Ⅲ	右岸中位	○	○	○	●	○	○	「上原Ⅲ遺跡(2)・久々々Ⅲ遺跡(3)」2017群理文	
28	石畠	左岸中位相当		○	○	○	○	○	「ハツ場ダム発掘調査集成(1)」2002群理文	
29	石畠Ⅰ岩陰	左岸岩陰	○	○	○	○	○	○	「磐馬史 資料編1」1988磐馬県	
30	居家以岩陰	白砂川左岸岩陰	○	○	○	○	○	○	「居家以岩陰遺跡」2017群園大學考古學研究室	

\*段丘面は、「長野原町の自然」1993長野原町によった。これに記載のない榎木Ⅰ～Ⅲ、中棚Ⅱ遺跡は、必參泥流の堆積状況、標高値から判断した。

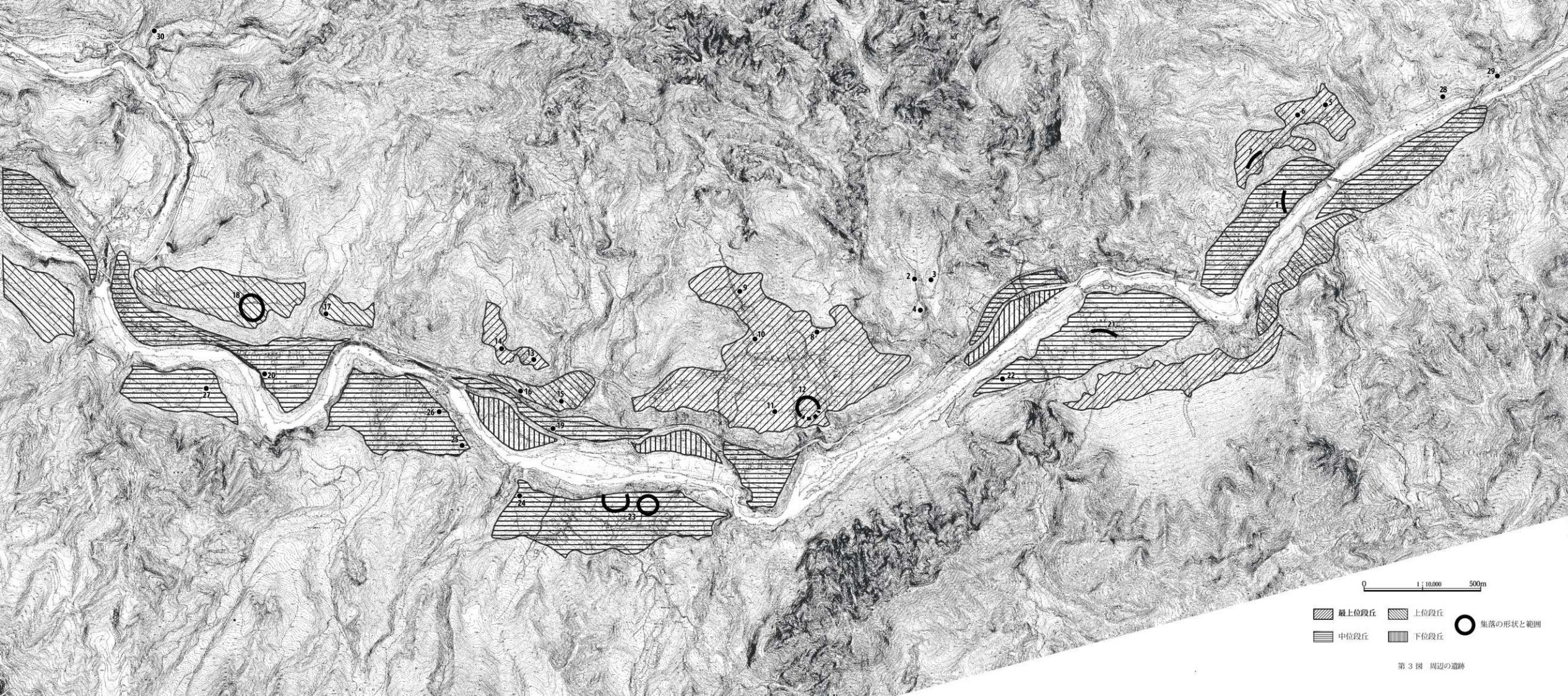
されているようだ。横壁中村遺跡(23)では、環状集落は解体・縮小し、数棟ずつのまとまりを持つ堅穴建物群が点在するようになる。称名寺式・堀之内Ⅰ式期は東・西の両台地に占地するが、堀之内Ⅱ式・加曾利B式期になるとさらに縮小し、西地区にのみ占地するようになる。上ノ平Ⅰ遺跡(7)でも、称名寺式期の集落が検出されている。段丘面南部の比較的狭い範囲に7棟が集中しておらず、横壁中村遺跡の例に近い。上原Ⅳ遺跡(10)では、堀之内Ⅱ式期の堅穴建物4棟が検出されている。中棚Ⅱ遺跡(19)は中位段丘面にあり、堅穴建物の検出を見ないが水場遺構が検出されている。埋没土からは堀之内Ⅰ式が主体的に出土しており、該期を中心に使用されていたととらえられよう。

後期後半は遺跡数が減少し、堅穴建物の検出も横壁中村遺跡(23)で見られる程度である。

**晩期** 晩期前半の資料も少なく、やはり横壁中村遺跡で

比較的まとまった出土を見る程度である。横壁中村遺跡では前半期に西地区の低位に遺物集中区が見られたが、後半期になると東地区の低位に集中区が移り、明らかに異なる分布が見られる。また、氷Ⅰ式期の堅穴建物1棟が西地区から検出されている。ほか、立馬Ⅰ遺跡(2)で、晩期後半の女鳥羽川式土器を出土した堅穴建物1棟が検出されている。早期の堅穴建物等が検出された地点とは異なり、沢を挟んださらに山側の尾根西縁辺部で確認された。川原湯勝沼遺跡(22)では、再葬墓の要素を持つ水Ⅰ式期の土坑が検出されている。

以上、時期毎に見てきたが、集落変遷の一端が看取できた。遺物については詳述しなかったが、上信国境に近いという地理的要因から、各期で濃淡はあるものの関東地方と中部地方の両文化圏の土器群が混在している。両者の関係性を探るうえで貴重な遺跡群といえよう。



第3図 周辺の遺跡

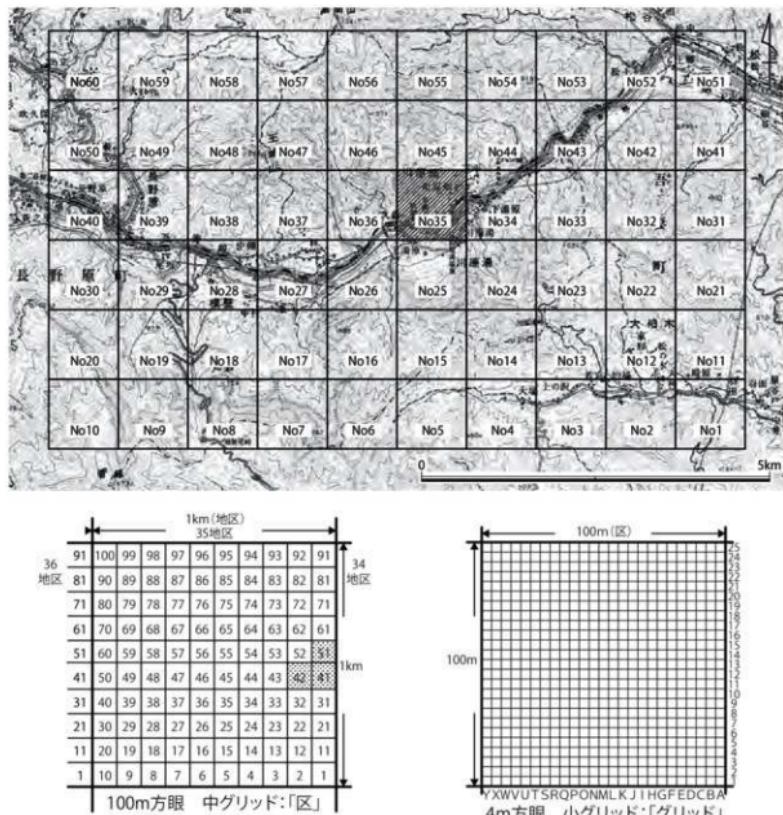
## 第4節 調査の方法と経過

### 1 調査区の設定

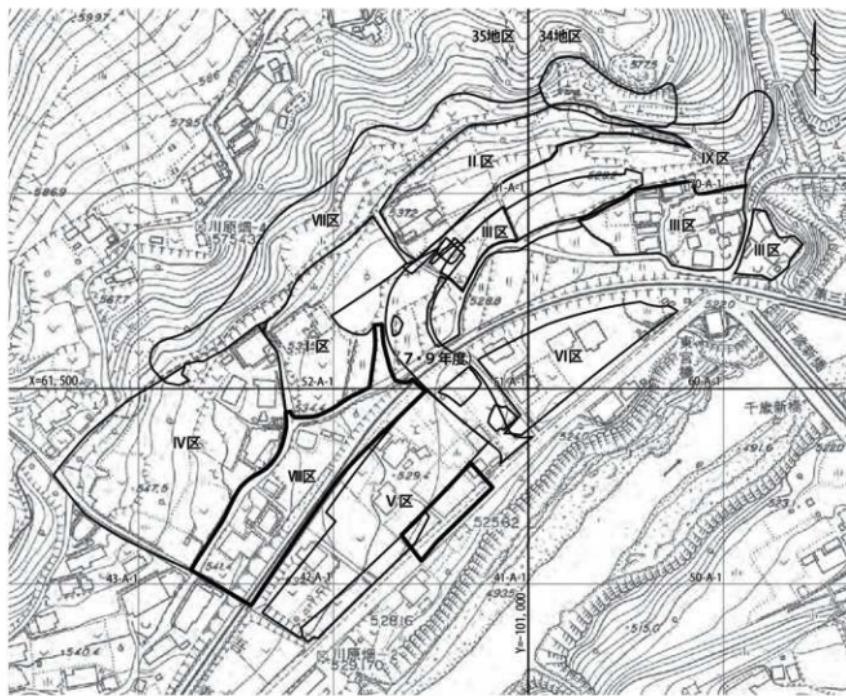
調査区の設定については、平成6年度(1994)から始まった八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査における「八ッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づく。設定にあたって国家座標(2002年4月改正前の日本測地系)を使用し、まず吾妻郡東吾妻町大柏木の東部付近を基点(X=58000.00, Y=-97000.00)として、この基点から1km四方の「地区」(大グリッド)を西に10区画、

北に6区画の60地区を設定する。次に、各地区を100m四方の「区」(中グリッド)に区分し、東南隅から西に1~10区、次の列を11~20区のように100区に区分する。さらに各区を4m四方のグリッドに細分するという方法で、グリッドは東南を基点に西へA~Y、北へ1~25までの番号を付し、組み合わせてグリッド名としている(第4図)。

本遺跡についても基本的にこの方法を踏襲しているが、独自の方法として遺跡地内を地形や現道・鉄道線路などの区画に沿って便宜的な「区」に分割し、I~IX区を設定して調査を進めた(第5図)。



第4図 調査区の設定(1)



第5図 調査区の設定(2)

## 2 調査の方法

発掘調査は、記録保存調査の方針に基づき、以下の通りとした。

- ①表土掘削には重機(バックホー)を用いた。表土除去後、ジョレン・移植ごて等により人力による遺構確認作業、遺構調査へと進めた。
- ②中近世面の調査を終了させた後、縄文時代の遺構を検出するため、グリッド毎にさらに掘り下げを行った。この作業により出土した包含層遺物は、一部ドットにより位置とレベルを記録したものもあるが、原則グリッド毎に一括して取り上げた。本書では、これらを遺構外遺物として扱っている。
- ③遺構の掘削は、遺構の平面形を確認した上で土層観察用のベルトを設定し、移植ごて等により埋土の掘り下

げを行った。原則として、竪穴建物は十字、土坑等は半截によっている。

- ④検出した遺構の番号は通し番号とせず、遺構種別にⅤ区1号竪穴建物、Ⅷ区1号竪穴建物のように区毎に付している。
- ⑤遺構内の遺物取り上げについては、個体や遺構の帰属時期を比定しうる破片等は、No.を付して位置とレベルを記録し、それ以外は遺構一括として取り上げた。
- ⑥遺構測量は外部委託とし、調査担当者の指示の下、トータルステーションによるデジタル遺構図を作成した。縮尺は1/20を基本とし、状況に応じて1/10、1/40で記録した。また、1/100、1/200の全体図を作成した。
- ⑦記録写真は、デジタルカメラ(Canon EOS Kiss Digital N)と6×7判モノクロフィルムによる撮影を行った。また、ドローンによる空中写真撮影を行った。

第2表 東宮遺跡の調査経過

調査年度	調査区	報告書	報告書の主な内容
平成7(1995) 平成9(1997)	進入路区	『八ッ場ダム発掘調査集成(1)』(2002)	天明泥流に埋没した烟。
平成19(1997) 平成20(2008) 平成21(2009)	I区 I~IV区 IV区	『東宮遺跡(1)~遺構・建築部材編一』(2011) 『東宮遺跡(2)~遺物編一』(2012)	平成19~21年度調査の遺構と遺物。 天明泥流に埋没した川原畠村の集落。
平成26(2014)	I・IV区	『東宮遺跡(3)』(2017)	平成26年度調査の遺構と遺物。 天明泥流に埋没した川原畠村の集落。
平成27(2015) 平成28(2016)	V区 V~VII区	『東宮遺跡(4)』(2018)	平成27・28年度調査の中世以降の遺構と遺物。 天明泥流に埋没した烟。
平成29(2017) 平成30(2018)	V・VII・IX区 V・VIII区	『東宮遺跡(5)』(2021)	平成29・30年度調査の遺構と遺物。平成28年度調査の縄文時代の遺構と遺物、令和元年度調査の近世遺構。 縄文時代中期後葉~後期中葉の集落。天明泥流に埋没した川原畠村の集落。
令和元(2019)	V・VII区	『東宮遺跡(6)』(本書)	令和元年度調査の近世遺物。 縄文時代中期後葉~後期中葉の集落。

### 3 東宮遺跡の調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成7年度(1995)に工事用進入路(川原畠進入路)建設及び町道付け替えに伴って実施したのが最初である。平成9年度(1997)にも継続し、天明泥流に埋没した烟が3地点で検出された。本遺跡は、長野原町の遺跡分布調査報告書に遺跡地として掲載されておらず、新発見の遺跡となった。また、見つかった烟はさらに隣接地へと拡がることが予測された。この2か年の発掘調査成果は、『八ッ場ダム発掘調査集成(1)』(群埋文2002)のなかに掲載されている。

本格的な発掘調査は平成19年度(2007)から始まり、まず平成21年度(2009)までの3か年にわたってI~IV区の調査を実施した。この調査では天明泥流に埋没した川原畠村の集落の一部が確認され、主屋及び付属建物・烟(前菜園)・石垣・井戸・水路等で構成される屋敷7区画や屋敷をつなぐ道等が検出された。建物のなかには礎石が原位置に残り、礎石上に敷設された束・土台・大引・根太・床板まで、泥流によって倒壊した状態そのままに残るものもあった。また酒蔵もあり、酒を搾る槽場も確認されている。出土遺物についても、陶磁器・漆器・木製品・金属製品など多岐にわたる。下駄や团扇、曲物、線香が残る香炉、刻み煙草が残る煙管、蚕繭など、通常の発掘調査では遺存しない遺物の出土が数多く見られ、目を見張るものであった。III区は全面的に烟が広がっていた。縄文時代の遺構は確認されていないが、早期後半条痕文系土器から晩期末葉に至る土器片が少量ながら出土して

いる。この3か年の調査成果は『東宮遺跡(1)~遺構・建築部材編一』(群埋文2011)、『東宮遺跡(2)~遺物編一』(群埋文2012)としてまとめられている。

平成26年度(2014)はI区とIV区を調査対象とし、未調査となっていた部分と平成19~21年度調査の継続部分の調査を実施した。IV区はI区の南西隣にあたり、ここで新たに3区画の屋敷が検出され、旧川原畠村の集落の様相がより鮮明になった。平成26年度の調査成果は、『東宮遺跡(3)』(群埋文2017)として報告している。

平成27年度(2015)は、国道145号線拡幅工事に伴うV区の小規模な調査であった。

平成28年度(2016)は、V~VII区の調査を実施し、V・VII区において天明泥流下の烟を、さらにV区では烟の復旧坑群を検出した。天明3年(1783)新暦7月27~29日に浅間山が大噴火して軽石を降らせた後、泥流が流下していく新暦8月5日までの間、村人たちが遺跡南西部の烟を復旧するために軽石を除去する作業をした様子がうかがえる。また、V区では縄文時代後期の堅穴建物や列石などの検出が見られた。平成27年度調査及び平成28年度調査の中世以降については、『東宮遺跡(4)』(群埋文2018)として報告している。

平成29年度(2017)からは、V・VII・IX区の調査を継続的に行なった。天明泥流下の調査では、VII区においてさらに3区画の屋敷が検出され、遺跡全体として計13区画の検出となった。また、烟とともにV区から続く烟の復旧坑群を検出している。これまでの結果として、段丘面の最も奥まった標高の高い地区に屋敷群が展開し、その下

方の吾妻川へと望む低位緩斜面を畑として利用していた旧川原畠村の様相の一面が明らかとなった。一連の調査によって検出した、遺存状態の極めて良好な建物や多くの出土遺物は、被災した当時の惨状を生きしく伝えるだけでなく、18世紀後半の生活様相を現在に伝えるもので、近世村落史を考える上で貴重な資料を提供したといえよう。

縄文時代については平成28年度からの継続となり、V・VI区において中期後葉～後期前葉の集落の検出を見た。縄文時代の集落は、天明泥流下の屋敷群が展開する段丘面奥部ではなく吾妻川を望む低位で、対照的な立地を示している。これら平成28～30年度調査成果を『東宮遺跡(5)』(群埋文2021)、令和元年度調査成果を本書により報告を行っている。

## 第5節 基本土層

右に、本土土層の模式図を示した。遺跡地は、約2.4万年前に発生した応桑泥流堆積物を基盤層としている。その上にはローム層は認められず、地滑り等によると考えられるローム等の二次堆積層である暗褐色土層(V層)が堆積している。地点によってはIV層とV層との間に青灰色土層や黒褐色土層が認められ、部分的に湿地化している時期があったと考えられるが、遺構確認面としてとらえるまでには至っていない。以下、説明を加える。

I層 表土層 現耕作土

II層 天明泥流堆積物

天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流堆積物。

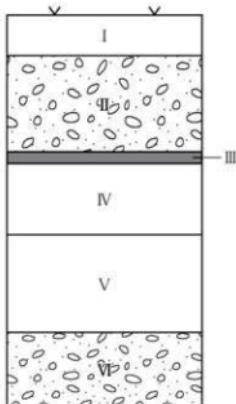
III層 As-A

IV層 褐色土

この層の上面がAs-A直下面として天明3年当時の地表面であり、屋敷や畠など旧川原畠村の集落が検出されている(第1面)。さらに、この層の下面を第2面として天明以前の中近世遺構を調査している。

V層 暗褐色土 炭化物、As-YPK、礫等を含む。

本書で報告する令和元年度調査は、旧国道145号線部分のV区、旧JR吾妻線線路から町道までのVI区を調査対象地として、平成31年(2019)4月1日に着手した。縄文時代の遺構については、次節で述べるV層中から検出されており、人力によって徐々に掘り下げを行なながら、色調や炭化物等の含有物の違い、遺物集中等によって遺構の有無を判断している。「ローム上面で精査を行い、黒褐色土を埋土とする遺構を確認する」というように、層位的に確認面としてとらえられないため遺構確認は非常に困難であり、石臼炉の発見によって建物と認識する例もあった。前項に記した調査方法に基づき、調査・記録を進め、令和元年(2019)9月30日をもって全調査を終了した。



第6図 基本土層模式図

縄文時代の遺物包含層であり、V層中が遺構検出面。VI層上面まで掘り下げると、遺構は削られて無くなってしまう。

VI層 暗褐色土

基盤層。約2.4万年前に発生した応桑泥流堆積物。

## 第2章 発見された遺構と遺物

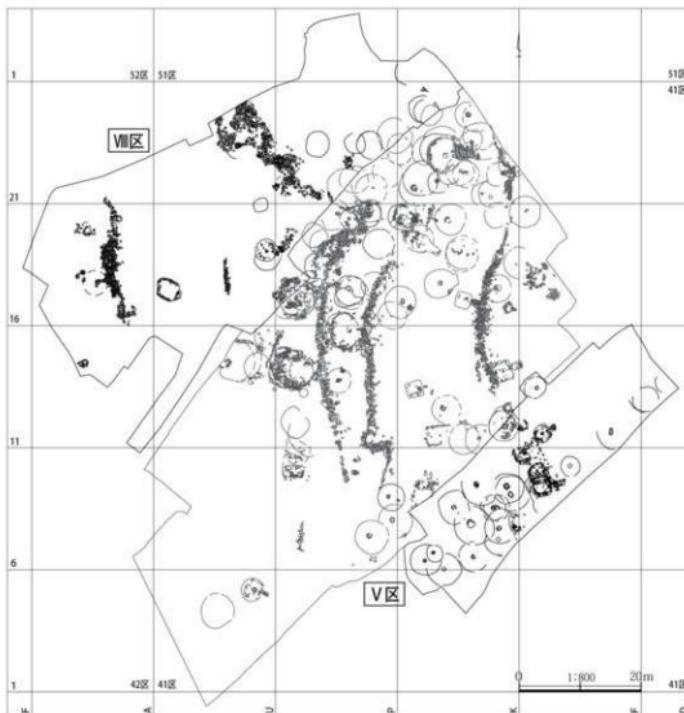
### 第1節 調査の概要

令和元年度調査は、旧国道145号線部分のV区及びVII区の調査であり、平成28～30年度調査のV区（『東宮遺跡（5）』で報告）を挟んで、南東と北西に離れた地点となる。遺跡全体から見れば、遺跡の南西部にあたり、縄文時代の集落、天明泥流下の遺構が調査されている。

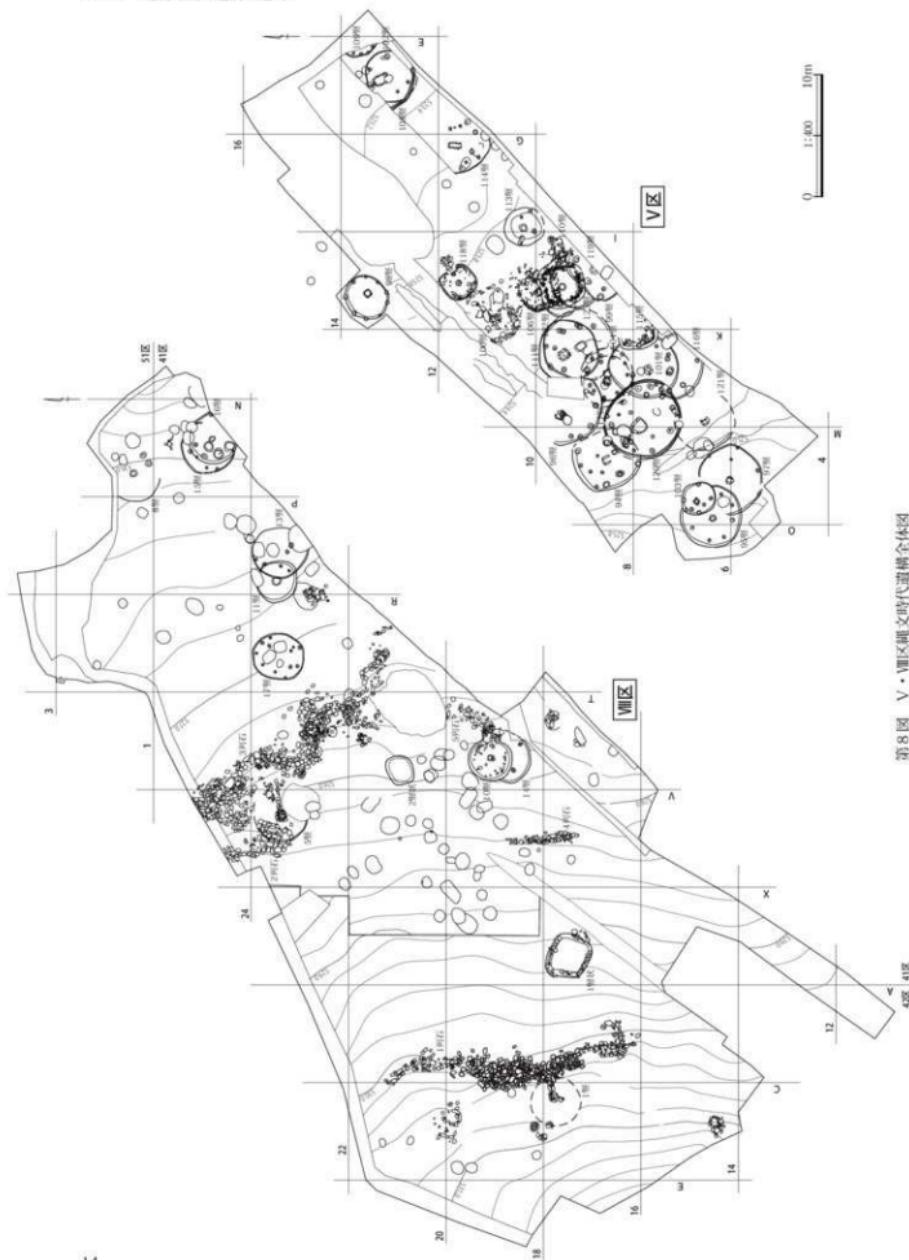
縄文時代の集落は、中期後葉～後期中葉期の所産で、竪穴建物37棟、土坑130基、列石、配石等が確認された（第8図）。V区では竪穴建物27棟、土坑40基、埋設土器1基、列石1基、配石2基が、VII区では竪穴建物10棟、竪穴状

遺構2基、土坑90基、埋設土器5基、列石5基、配石16基が検出されている。中期後葉の加曾利E3式期に最も集落が大きくなり、平成28～30年度調査分を含めた集落全体の竪穴建物の配置を見ると、V区からVII区南東部にかけて、緩く弧を描くように分布する様相が看取される（第7図）。

近世の遺構については、第1面の天明泥流下で検出された遺構は『東宮遺跡（5）』において報告しているため、本書では第2面で調査された土坑9基と、『東宮遺跡（5）』で報告できなかった第1面の出土遺物について報告を行う。



第7図 縄文時代遺構全体図



第8図 V・VII区縄文時代遺構全図

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

### 1 壁穴建物

本項では、壁穴建物37棟の報告を行う。内容は第3、4表のとおりであり、中期後葉加曾利E2式から後期中葉加曾利B式期にわたる集落である。前述したとおり、調査地点が離れているため、本報告は集落の北西部(VII区)及び南東部(V区)において検出された壁穴建物群となる。

調査にあたっては、建物間の重複が著しいうえ、土質

の違いによる遺構確認が困難であったため、建物全体が明瞭に調査されている例は少ない。また、包含層調査を進める過程で、床面近くに至って初めて壁穴建物と認識された例が多く、これに起因して出土遺物に乏しい建物も少なくない。本来、壁穴建物に帰属していた遺物が、包含層遺物として少なからず取り上げられていると思われる。こうした経緯により、限られた出土遺物から時期比定を行っているため、事実誤認がある可能性も否定できないが、調査された遺物の出土状態を吟味し、導き出したものである。

V区では27棟が調査されており、時期別の内訳は、加

第3表 V区壁穴建物一覧

番号	位置	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	方位	時期	新旧関係	備考
94	41-M-8	隅丸方形	5.67	—	38	N25° W	加曾利E式	120壁を切る 254,257坑に切られる	
95	41-N-6	円形	5.10	—	40	N44° W	加曾利E2式	97,103壁に切られる	
96	41-L-9	椭円形か	6.04	—	10	W41° N	加曾利E3式	99,104壁を切る 261坑に切られる	
97	41-M,N-5,6	円形	5.82	—	15	W35° N	加曾利E3式	95,103壁を切る	
98	41-J-13	椭円形	3.77	3.30	39	N40° W	加曾利E3式		
99	41-K-8,9	不整円形	5.92	—	26	N36° W	加曾利E3式	111壁、274坑を切る 96壁、253坑に切られる	
100	41-J-10,11	椭円形	—	—	—	W18° S	加曾利E4式	276坑を切る 9列石の下層	敷石住居
101	41-K-7	椭円形	5.80	5.02	31	N35° W	加曾利E3式	104,116壁を切る 115壁、255坑に切られる	
102	41-E-12,13	円形	4.30	—	8	W10° S	加曾利E3式	108壁、265坑を切る	
103	41-N-6	椭円形	3.00	2.75	7	W26° N	加曾利E3式	95壁を切る 97壁に切られる	
104	41-KL-8	円形	4.27	—	7	N24° W	加曾利E3式	111,117壁を切る 96,101壁、290坑に切られる	
106	41-J-9,10	隅丸方形	—	—	—	W24° S	加曾利E4式	110,122,123壁を切る	敷石住居
108	41-E-12,13	円形か	—	—	10	N27° W	加曾利E2式	102,109壁、265,268坑に切られる	
109	41-E-13	不明	—	—	13		不明	108壁を切る	
110	41-LJ-9	柄鏡形	全長5.76	3.82	13	W8° S	加曾利E4式	119,122,123壁を切る 106壁、291坑、33配石に切られる	敷石住居
111	41-K-9	円形	5.16	5.07	15	N42° W	加曾利E2式	99,104壁に切られる	
113	41-H-10	椭円形	—	3.10	36	N23° W	加曾利E3式		
114	41-G-11	不明	—	—	8	W1° N	加曾利E2式	287坑を切る 269,271,279坑に切られる	
115	41-K-7	柄鏡形か	—	—	10	W9° S	加曾利E4式	101壁を切る	敷石住居
116	41-K-6,7	椭円形	5.15	—	15	W40° N	加曾利E2式	120壁を切る 101壁、255坑に切られる	
117	41-L-8	不明	—	—	—		郷土式	104壁に切られる	
118	41-LJ-11	柄鏡形	全長3.85	2.79	30	W31° S	称名寺I式		敷石住居
119	41-I-8,9	隅丸方形か	5.26	—	19		加曾利E3式	123壁を切る 110壁に切られる	
120	41-L,M-7,8	椭円形	6.52	6.08	7	N34° W	加曾利E2式	285坑を切る 94,116壁、5埋に切られる	
121	41-L,M-6	不明	—	—	40	N32° W	加曾利E3式	289坑を切る 283坑に切られる	
122	41-J-9	不明	—	—	40	W19° N	加曾利E3式	123壁を切る 106,110壁に切られる	
123	41-J-9	椭円形か	4.12	—	27		加曾利E3式か	106,119,122壁に切られる	

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

第4表 VIII区竪穴建物一覧

番号	位置	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	方位	時期	新旧関係	備考
1	42-C-17	不明	—	—	—	W19°S	加曾利B式	1列石に取付く	
5	41-V-23	不明	—	—	14	W24°S	加曾利B1式	2列石、6配石の下層	
8	51-O-1	不明	—	—	17	N28°W	堀之内2式か		
10	41-U-18,19	柄鏡形	—	3.62	35	W0°	加曾利E4式	14壁を切る 5列石の下層	敷石住居
11	41-Q-23	円形	3.57	3.34	20	N0°	加曾利E4式	13壁を切る 105坑に切られる	
13	41-PQ-23	楕円形	4.62	4.15	26		加曾利E3式	11壁、125,133,139坑に切られる	
14	41-U-18	不明	—	—	31		加曾利E3式	10壁に切られる	
15	41-O-24,25	不整円形	4.46	—	15	N29°W	称名寺式	16壁を切る 124,134坑、8理に切られる	
16	41-N-24	円形	4.07	—	33	N39°W	郷土式	15壁、124,134,151～153坑、 8理に切られる	
17	41-S-23	楕円形	4.18	3.74	13		加曾利E3式	89,91,96坑に切られる	

曾利E2式期6棟、加曾利E3式期15棟(郷土式はE3式併行と判断した)、加曾利E4式期4棟、称名寺1式期1棟、時期不明1棟となる。VIII区では10棟が調査されており、時期別の内訳は、加曾利E3式期4棟、加曾利E4式期2棟、称名寺式期1棟、堀之内2式期1棟、加曾利B式期2棟となる。VIII区では、加曾利E2式期の竪穴建物は確認されていない。

V区は、吾妻川に面した低位の地区である。西から東に向けて下がっており、確認面の標高は西部で525.8m、東部で523.3m程で、比高は約2.5mある。竪穴建物は標高の高い西半部に集中しており、重複が著しい。加曾利E2式期は、吾妻川の崖線に沿ってほぼ1列に並ぶ様相を呈している。加曾利E3式期は棟数が増加し、西半部を主体に全体に拡がりを見せるようになる。加曾利E4式期は、中央部に南北方向の拡がりを見せる。該期は敷石を作りようになり、柄鏡形の建物も見られるようになる。敷石は床面全面に施すものではなく、周縁部に一部敷設する程度である。称名寺式期の1棟は、加曾利E4式期に近接した位置にあり、柄鏡形の敷石住居である。

VIII区は集落の北部にあたり、弧状集落の北縁となる調査区南東部に建物が集中する傾向が見られる。V区同様、西から東に向けて下がっており、確認面の標高は西部で531.8m、東部で525.4m程で、比高は約6.4mある。堀之内2式期までの竪穴建物は、V区から続く弧状集落に属していると考えられるが、加曾利B式期の2棟は分布を異にし、弧状集落からは離れ、列石との結び付きを強めている様子が看取される。1号竪穴建物は、最も標高の高い位置に造られている。

### ●V区94号竪穴建物

位置 41区M-8

規模 石圓炉の検出により竪穴建物と認識されたもので、東半部の壁は残存しないが、闊丸円形状と考えられる。現状の最大径で5.67m、壁が残存する西半部で深さ38cmを測る。

床面 概ね平坦である。

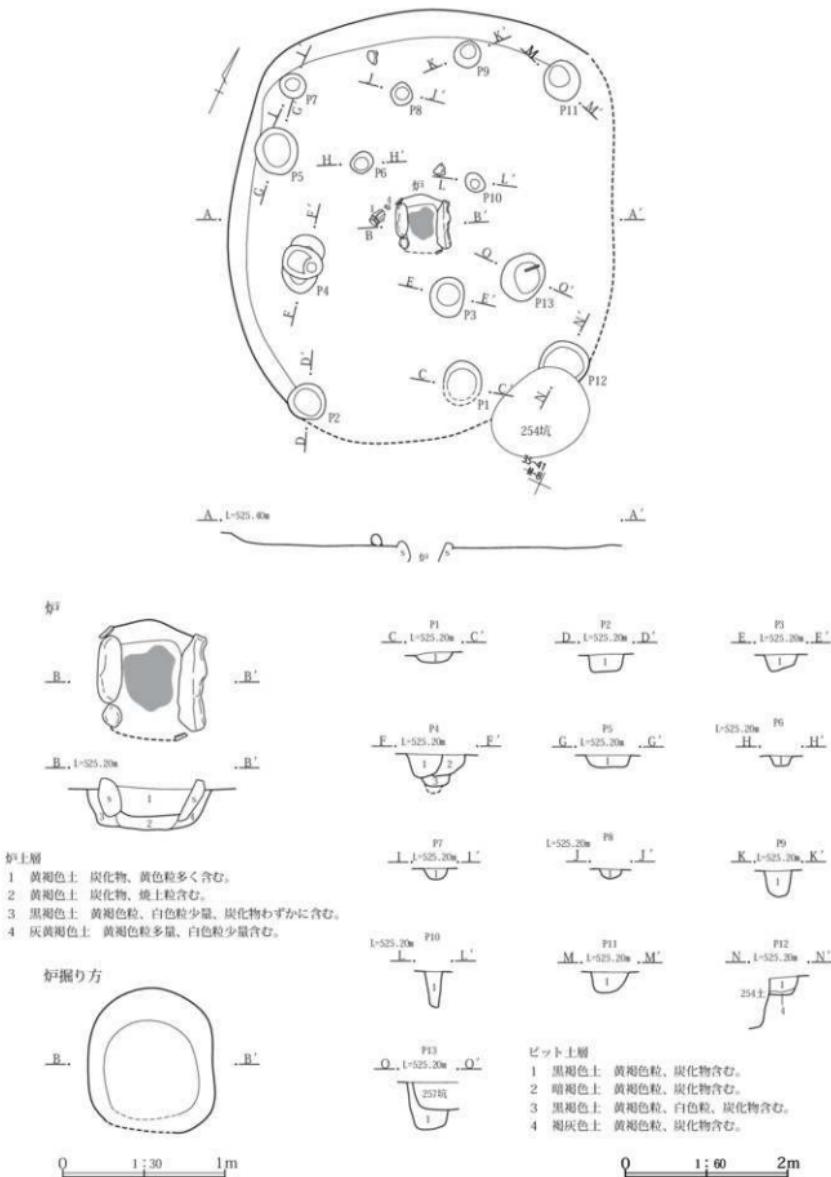
炉 中央で石圓炉が検出されている。87cm×77cm、深さ25cmの楕円形状の掘り方に、厚みのある板石や扁平な玉石を並べて四角形状に構築する。対面する2辺のみ、石が残存する。炉床面は36×50cm程、深さ17cmを測る。

柱穴 外周および中間部で13基のビットが確認されている。径が小さいものや浅いものが多く、柱穴として捉えてよいものか、判断が難しいものが多い。P4、P13あたりが主柱穴となろうか。

遺物 床面近くに至って建物と認識されたため、出土遺物は少ない。炉の脇で、床に接するようにNo.1が出土している。

時期 No.1から、郷土式期と考えられる。

重複 120号竪穴建物を切る。254,257号土坑に切られる。



第9図 V区94号壁穴建物



第10図 V区94号竪穴建物出土遺物

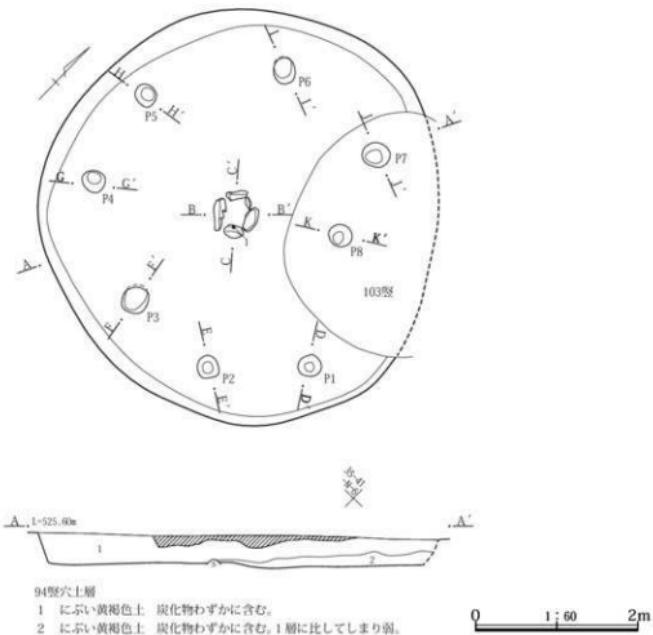
●V区95号竪穴建物

位置 41区N-6

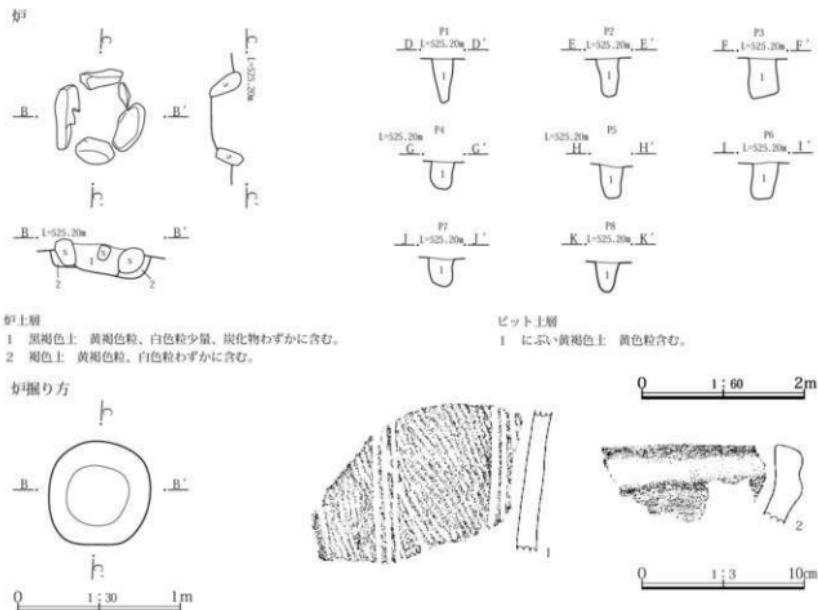
規模 現状の最大径5.1mの円形を呈す。確認面からの深さは40cmを測る。

床面 若干の凹凸が見られるものの、概ね平坦である。

炉 中央で石圓炉が検出されている。径63cm、深さ15cmの円形状の掘り方に、扁平な玉石を並べて構築する。大型の石4個と小型の石1個を配し、歪んだ五角形状を



第11図 V区95号竪穴建物



第12図 V IX 95号壁穴建物(2)および出土遺物

呈す。炉床面は30×26cmで、掘り方面を炉床とするため、深さは15cmを測る。

**柱穴** 外周に沿って8基のピットが検出されている。掘り込みもしっかりとしており、それぞれが柱穴として機能していたと考えられる。

**遺物** 残存が良好な割に出土遺物は少ない。炉内からNa<sub>1</sub>が出土している。

**時期** №1から、加曾利E 2式期と判断される。

**重複** 97, 103号壁穴建物に切られる。

### ● V IX 96号壁穴建物

**位置** 41区L-9

**規模** 遺物集中、石圓炉の検出により壁穴建物と認定したもので、北東半部は残存しないが楕円形状を呈すと思われる。現状の最大径で6.04mを測る。確認面からの深さは10cm前後だが、一部40cmを測る箇所もある。

**床面** 概ね平坦である。

**炉** 中央やや北寄りで石圓炉が検出されている。厚み

のある板石や扁平な玉石を並べて長方形状に構築する。西辺の石列は261号土坑に接してあり、動いている可能性がある。炉床面は63×34cm程で、北西隅に胸中位のみの深鉢(1)を埋設して炉体とする。

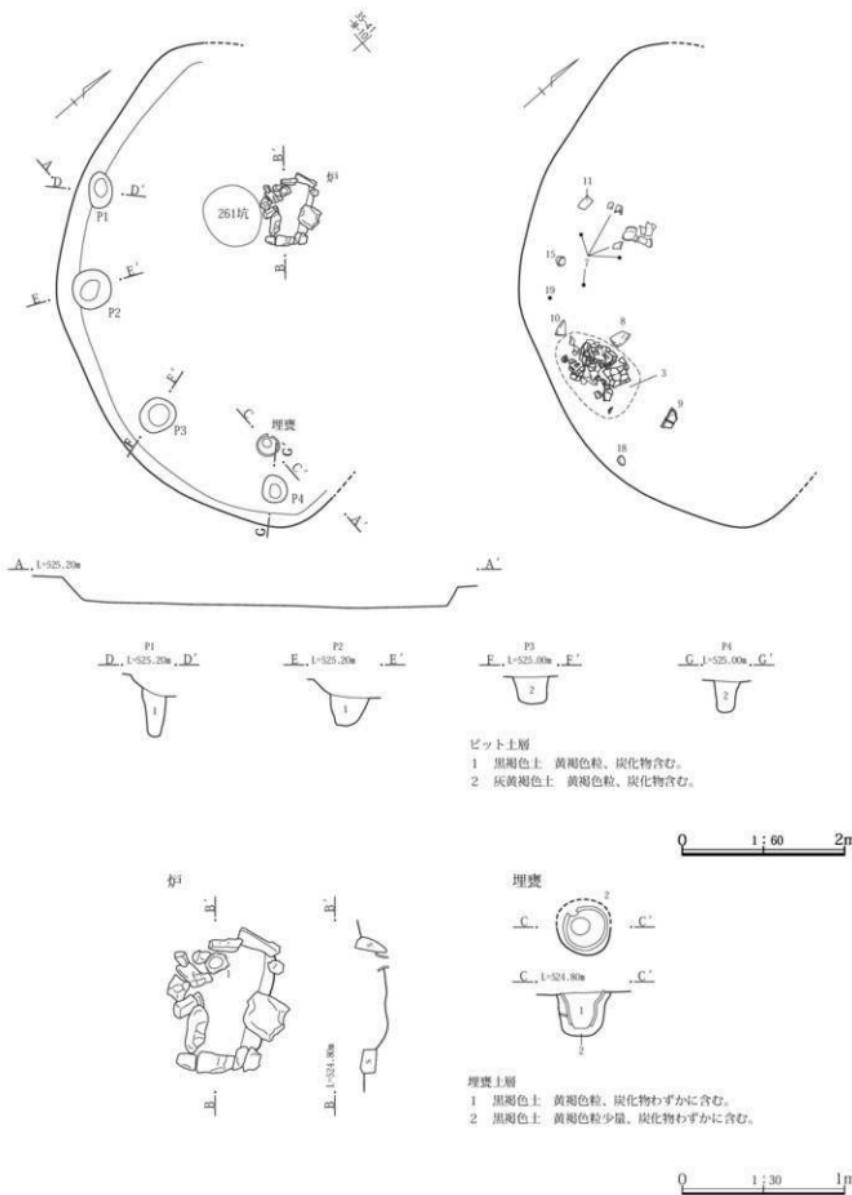
**埋甕** 南東部の壁から70cm内側の位置で、埋甕1基が検出された。径33cm、深さ27cmの掘り方に、口縁部と胸下位を欠いた深鉢(2)を正位に埋設している。

**柱穴** 壁際をめぐるように4基のピットが確認されている。P4は埋甕と壁との間にあり、ここが出入口だとすれば支障となる位置にある。

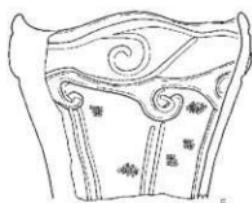
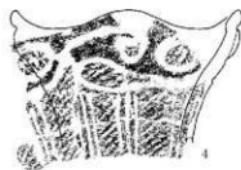
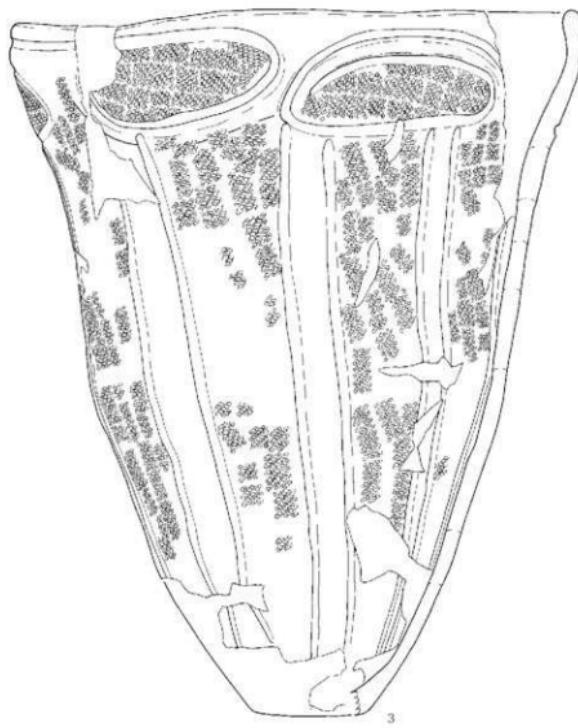
**遺物** 大型、小型土器を含め、多くの遺物が出土した。その多くは、床面から20cm前後浮いた状態で出土しており、建物廃絶後の廃棄行為に伴うものと考えられる。№7は床面から1~7cmの範囲で、比較的床面に近い出土状態を示す。№18の磨石は床直上で出土している。

**時期** 加曾利E 3式期と考えられる。

**重複** 99, 104号壁穴建物を切る。261号土坑に切られる。

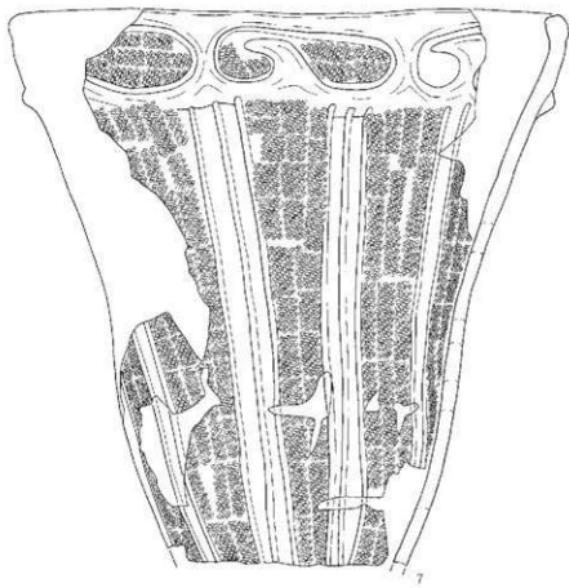
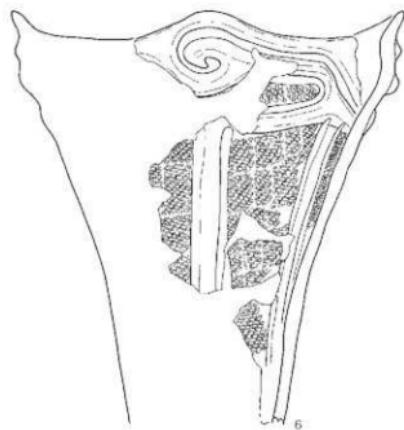


第13図 V区96号竪穴建物



0 1 : 4 10cm

第14図 V区96号壁穴建物出土遺物(1)



0 1 : 4 10cm

第15図 V区96号壁穴建物出土遺物(2)



第16圖 V区96号壁穴建物出土遺物(3)

## ●V区97号竪穴建物

位置 41区M, N-5, 6

規模 包含層調査の際、床面近くまで掘り下げた段階で確認されたもので、残存状況はよくない。ほぼ円形と考えられ、現状の最大径は5.82m、深さ15cmを測る。

床面 概ね平坦である。

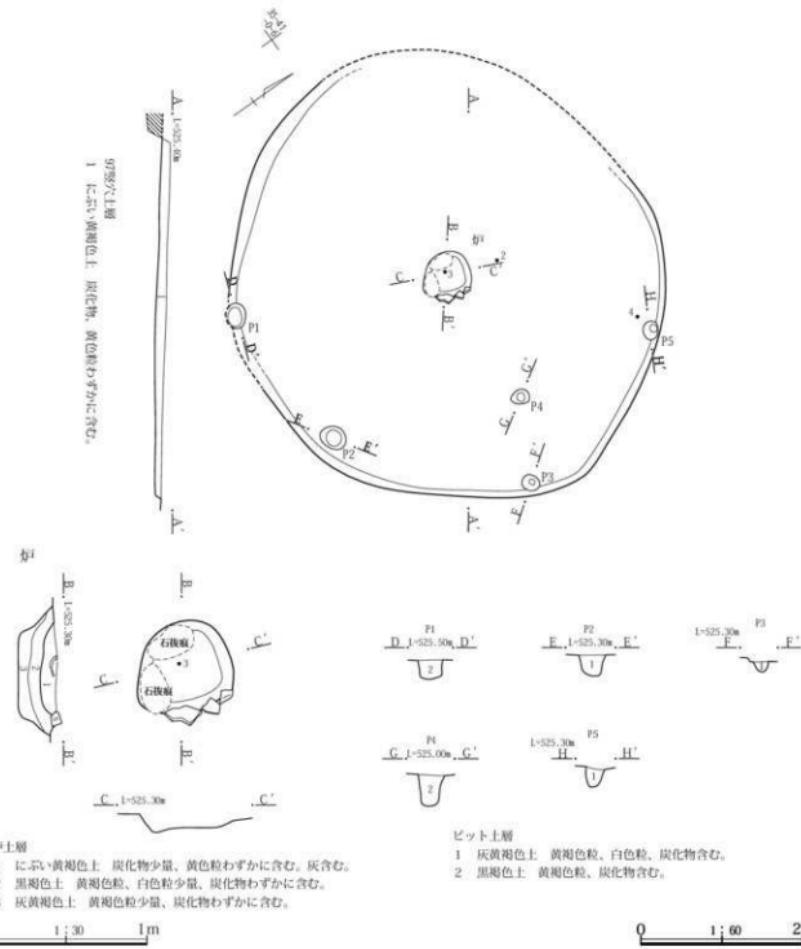
炉 中央で石臼が残る痕が検出されている。不定形の石3個が1列に並んでおり、残り3辺のうち2辺は石抜

取り痕の凹みが検出された。炉床面の深さは9cmを測る。柱穴 壁際および中間部で5基のビットが確認されている。径が小さいものや浅いものが多く、柱穴として捉えてよいものか判断が難しい。

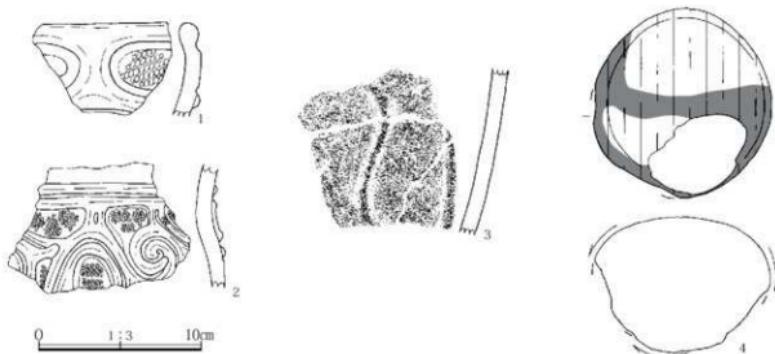
遺物 床面近くに至って建物と認識されたため、出土遺物は少ない。炉内からNo.3が出土している。

時期 加曾利E3式期と考えられる。

重複 95, 103号竪穴建物を切る。



第17図 V区97号竪穴建物



第18図 V区97号壁穴建物出土遺物

## ●V区98号壁穴建物

位置 41区J-13

規模 長径3.77m、短径3.30mの梢円形状を呈す。確認面からの深さ39cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや東寄りで石壇炉が検出されている。75×68cmの長方形形状の掘り方に、角礫を並べて正方形状に組んでいる。南西辺は厚みのある板石を1個置き、それ以外は複数の角礫を並べている。炉床面は43cm四方の規模で、深さは12cmを測る。

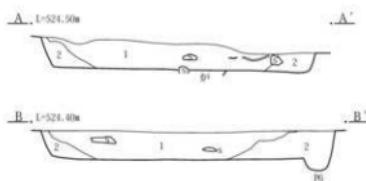
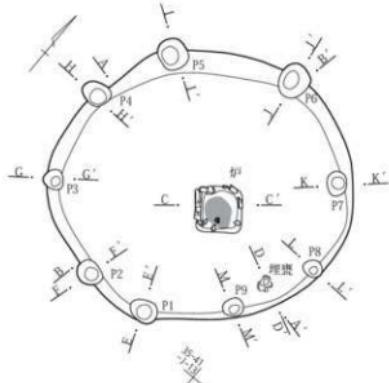
埋甕 東部の壁から17cm内側の位置で、埋甕1基が検出された。径18cm、深さ10cmの掘り方に、口縁部と胴下部を欠いた深鉢(1)を正位に埋設している。

柱穴 壁際をめぐるように9基のピットが検出されている。P1～P6の6基は、壁面より外側に掘り込まれている。

遺物 建物中央部を中心に比較的まとまった出土を見る。No.3、4は床面から7cm、No.2は床面から15～29cm浮いた状態で出土している。

時期 埋甕(1)から、加曾利E3式期と考えられる。

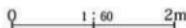
重複 なし



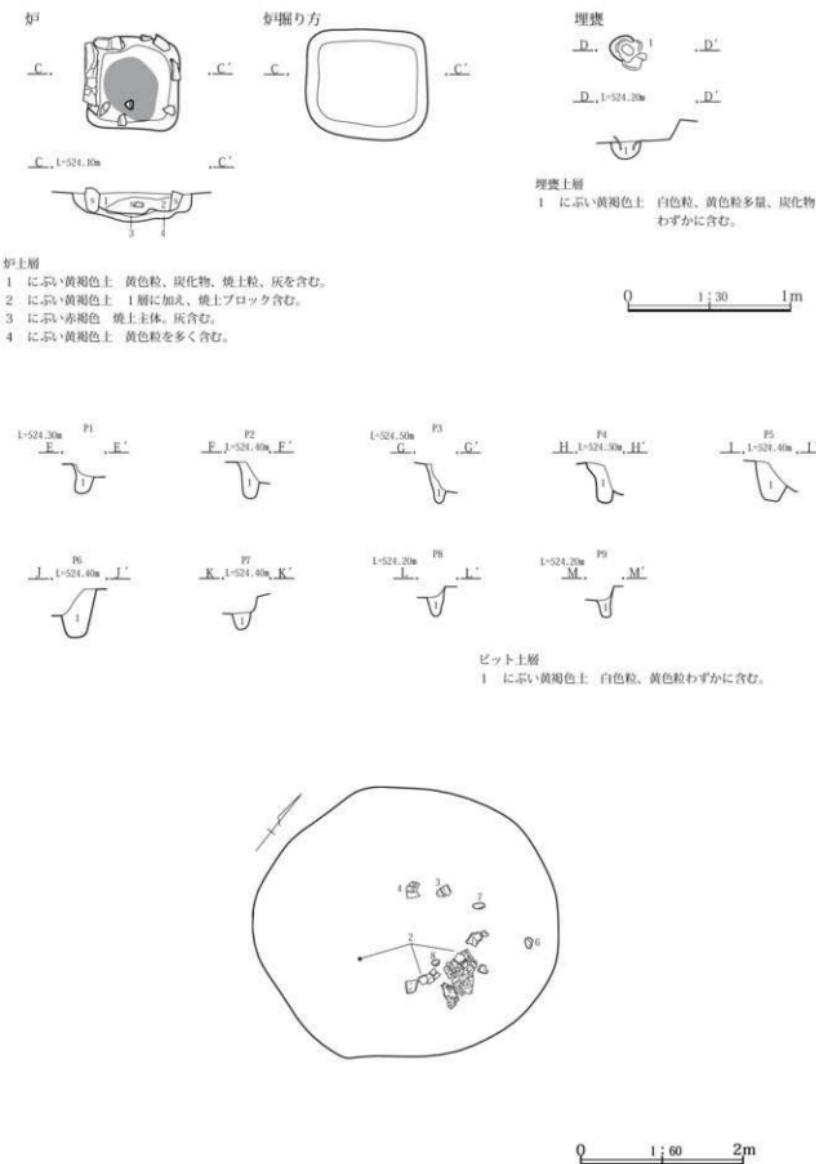
98壁穴上解

- 1 灰黄褐色土 白色粒、黄色粒、黄色褐石、炭化物含む。
- 2 にふい黄褐色土 黄色粒多く含む。

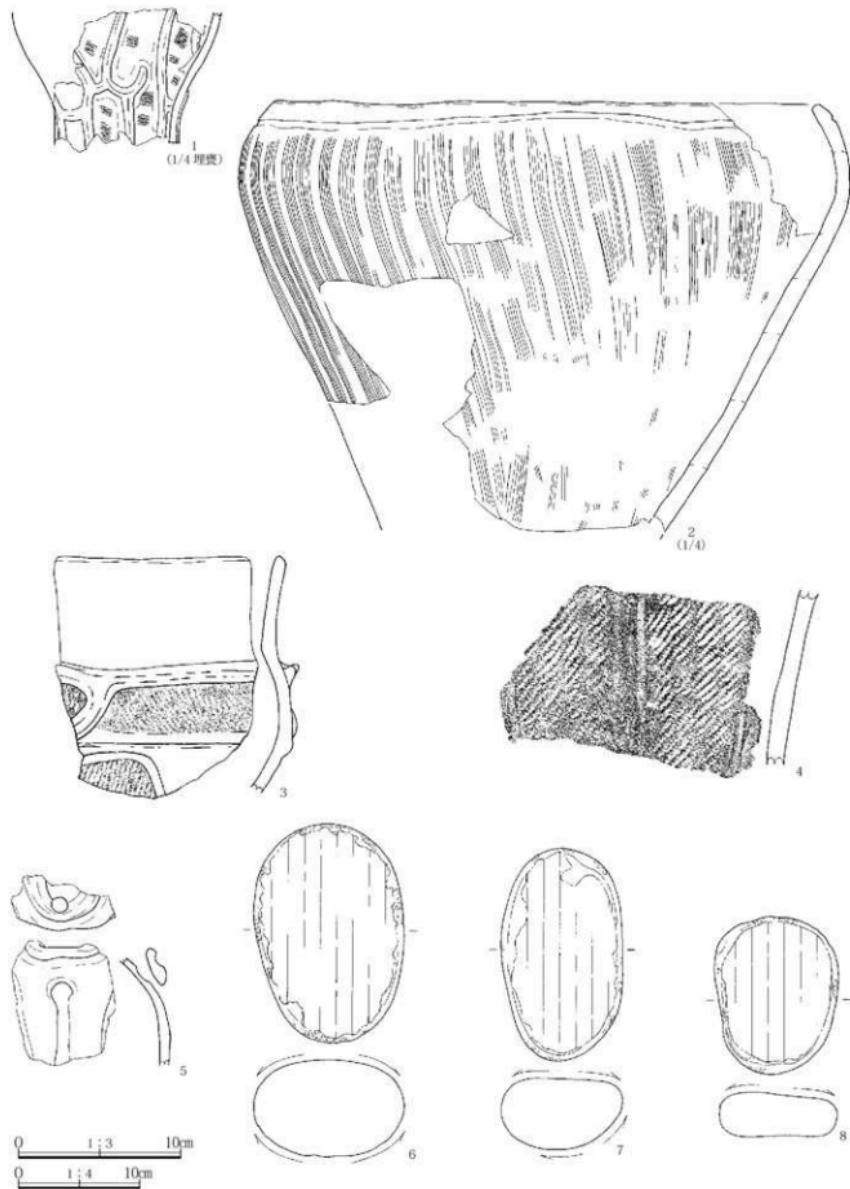
第19図 V区98号壁穴建物(1)



## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第20図 V区98号竪穴建物(2)



第21図 V区98号壁穴建物出土遺物

## ●V区99号竪穴建物

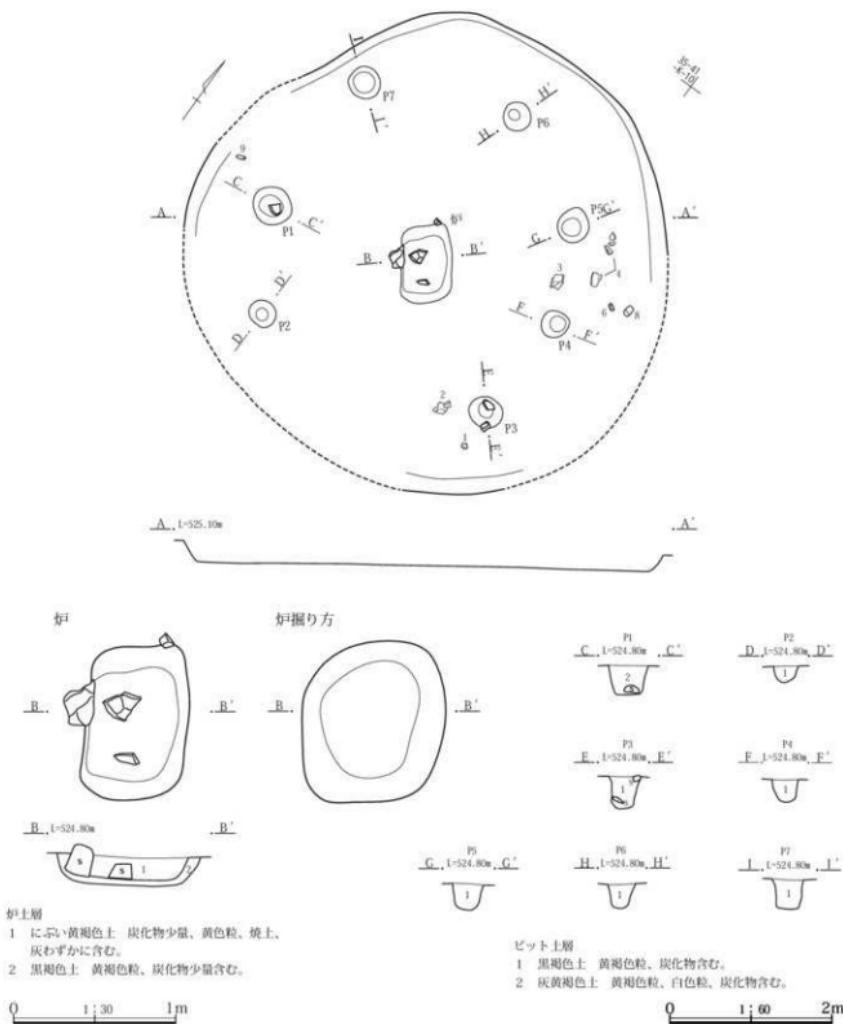
位置 41区K-8, 9

規模 撥乱や包含層調査により、部分的に床面より深く掘り下げられており、南東の大部分と西の一部の壁面が残存しない。残存する状況から不整円形と考えられ、現

状の最大径は5.92m、深さ26cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 中央で石圓炉の痕跡が検出されている。石1個のみが残存する。炉床面の規模は65×52cm、深さ13cmを測る。97×88cm、深さ17cmの椭円形の掘り方が確認されて



第22図 V区99号竪穴建物

## 1 壁穴建物

いる。

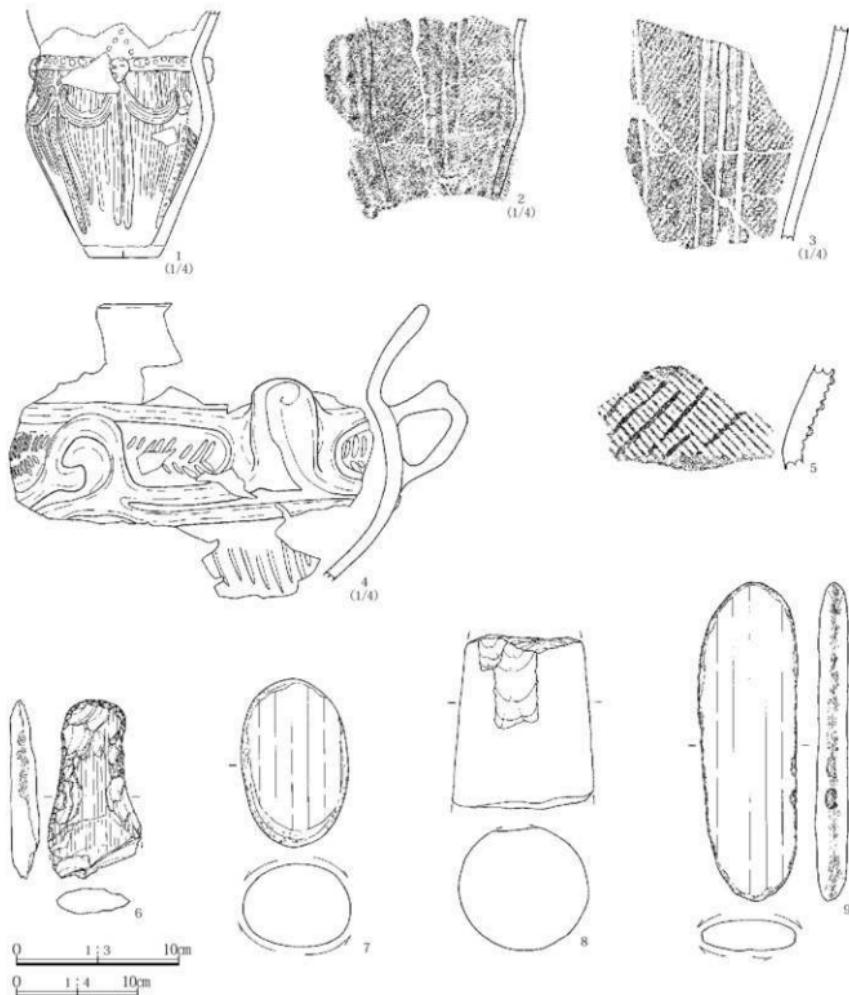
柱穴 中間部で7基のピットが検出されている。浅いものも見られるが、良好な配置を示している。

遺物 床面近くに至って建物と認識されたため、また擾乱等により壊されている部分が多いため、出土遺物は少

ない。No.2, 6が床面から4, 5cmと床面に近い出土状態を示す以外は、10cm以上浮いた位置で出土している。

時期 加曾利E 3式期と考えられる。

重複 111号壁穴建物、274号土坑を切る。96号壁穴建物、253号土坑に切られる。



第23図 V区99号壁穴建物出土遺物

## ●V区100号竪穴建物

位置 41区 J-10, 11

規模 包含層調査の際、床面の敷石を確認したことにより竪穴建物として認識されたもので、壁面はまったく残存していない。敷石の状況や柱穴の配置から柄鏡形ではなく、梢円形を呈すと判断される。壁が残存しないため正確な規模は不明であるが、参考として柱穴の上場外端でみるとP 1-P 8間で4.95m、P 3-P 6間で4.53mを測る。

床面 西壁際およびがいの北東側で、敷石が認められる。薄い板石を用いており、平坦に敷設している。第24図のトーンをかけた石は主に玉石であり、敷石とは石の素材が異なるため、敷石ではなく9号列石に伴う石と判断したものである。

炉 中央やや西寄りで石囲炉が検出されている。南西

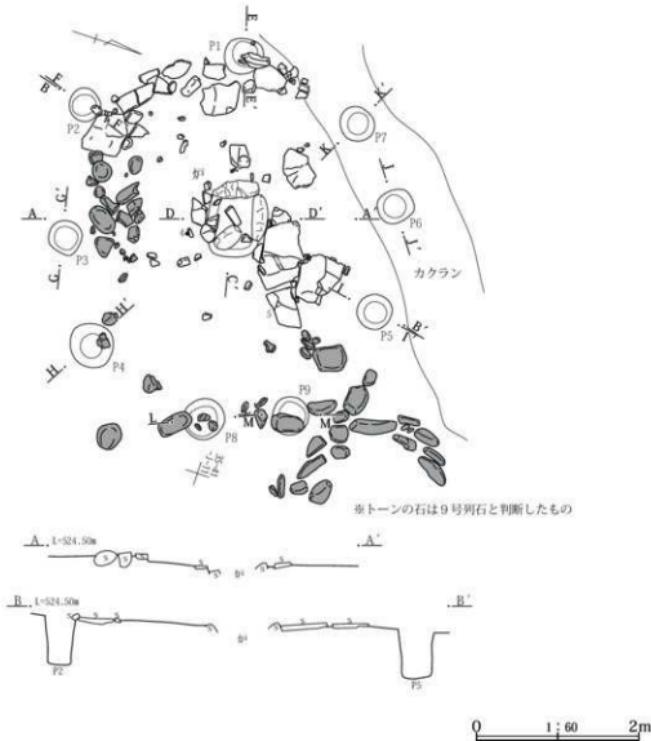
および北西の2辺の石は原位置を保っているが、他の2辺は動いている。がい床面の規模は60×40cm程で、深さ25cmを測る。

柱穴 敷石の外側をめぐるように9基のピットが検出されている。配置、規模ともに良好な状態を示す。

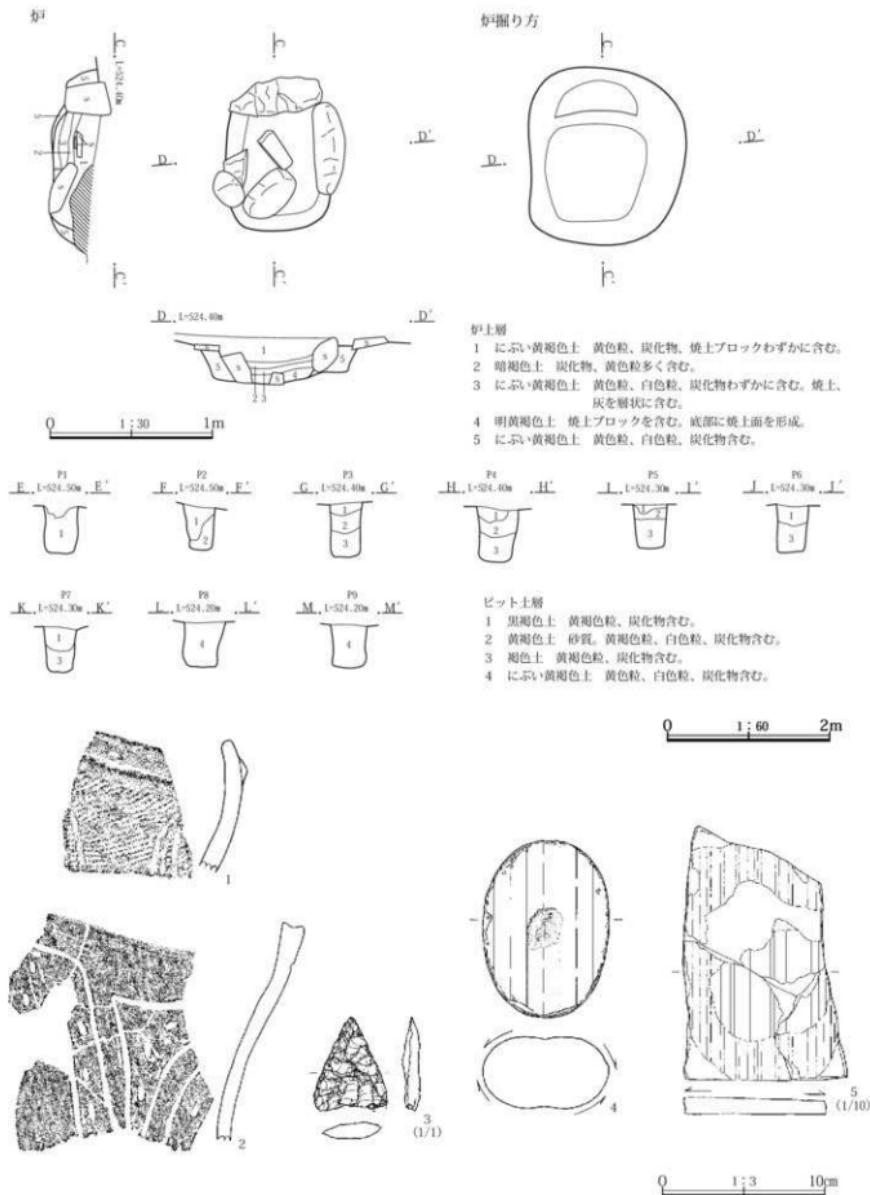
遺物 床面に至って竪穴建物と認識されたため、出土遺物は少ない。1~3は埋没土中の出土であるが、調査時には9号列石を含め、南東側に位置する106号竪穴建物の北外周部までを本建物出土として遺物を取り上げているため、本来の帰属が判然としない。No.5は床面に敷かれていた石である。

時期 9号列石が称名寺式期と考えられるため、No.1を根拠に加曾利E 4式期と考えたい。

重複 276号土坑を切る。9号列石に切られる。



第24図 V区100号竪穴建物(1)



第25図 V区100号壁穴建物(2)および出土遺物

## ●V区101号竪穴建物

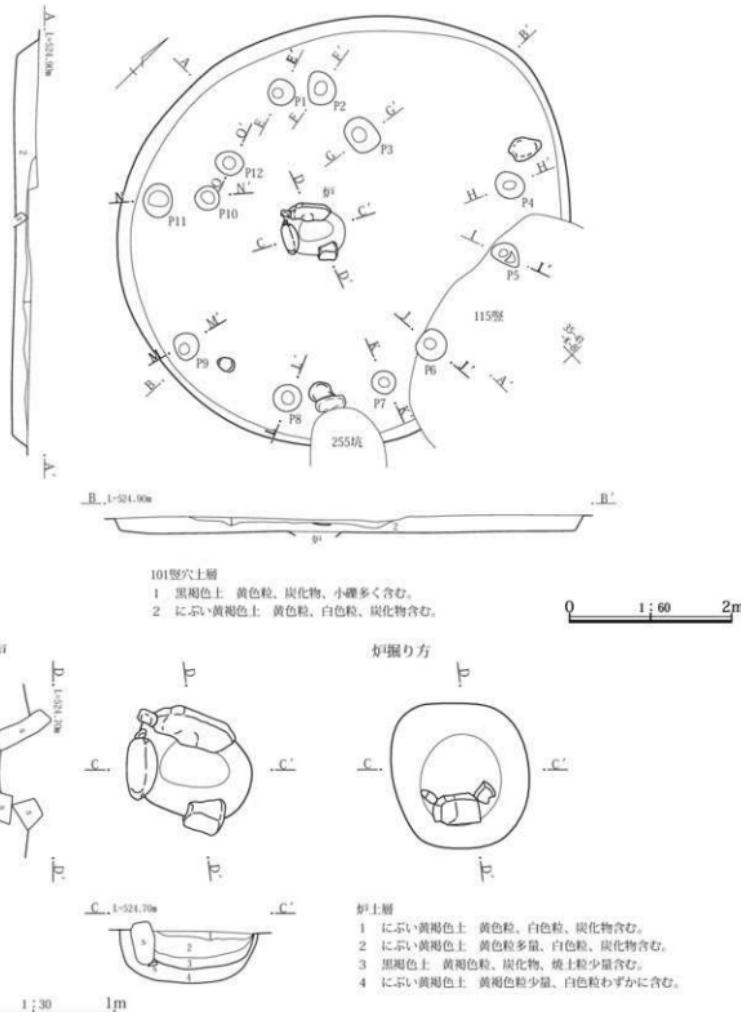
位置 41区K-7

規模 南北方向にやや長い楕円形状を呈す。長径5.80m、短径5.02m、深さ31cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや南寄りで石圓炉が検出されている。3辺3個の石が残存するが、他は抜き取られたようである。炉床面の規模は55×26cmで、深さ23cmを測る。

柱穴 周縁部で12基のピットが確認されている。小規模なものも見受けられ、本来の形状なのか疑問が残る。



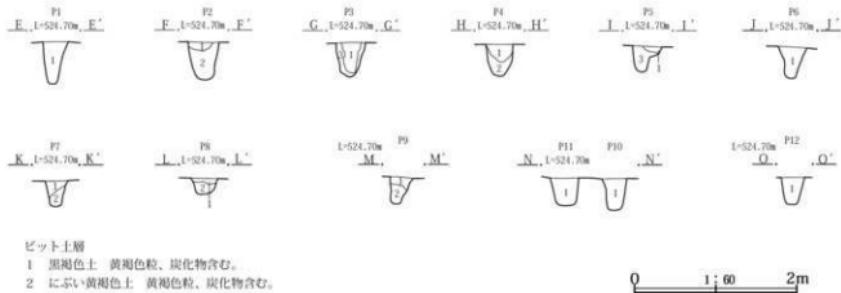
第26図 V区101号竪穴建物(1)

遺物 1層中から多量の遺物が出土しており、建物廃絶後の廃棄行為に伴うものと考えられる。土器については、No.7, 9が床面に近い位置で出土している以外はすべて1層中出土と判断され、床面から10cm以上浮いた状態で出土している。石器については、No.12～14が床面付近

で出土したほかは、埋没土中の出土である。

時期 加曾利E3式期と考えられる。

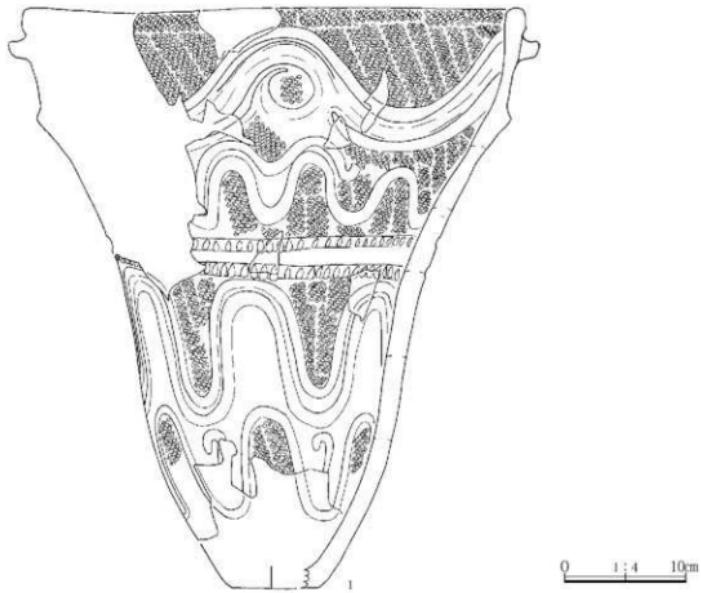
重複 104, 116号竪穴建物を切る。115号竪穴建物、255号土坑に切られる。



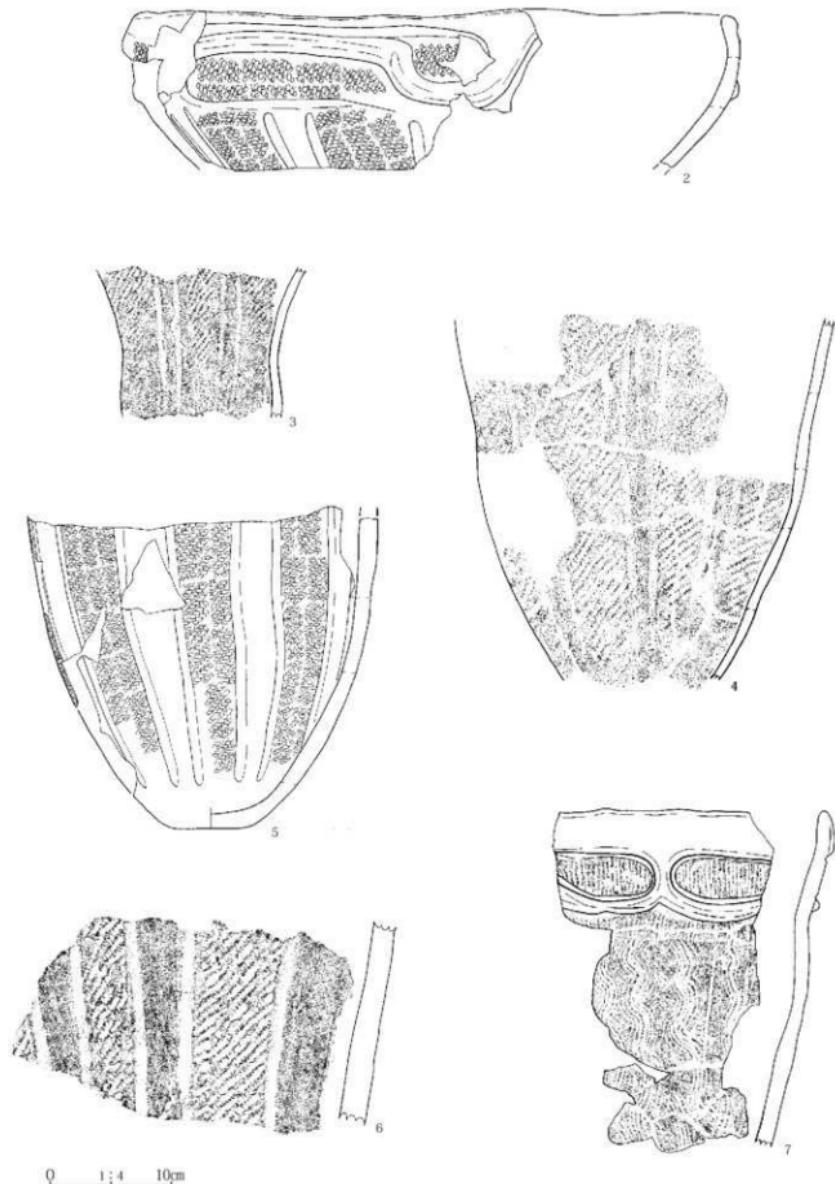
#### ビット土層

- 1 黒褐色土 黄褐色色粒、炭化物含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色色粒、炭化物含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色色粒、白色粒含む。

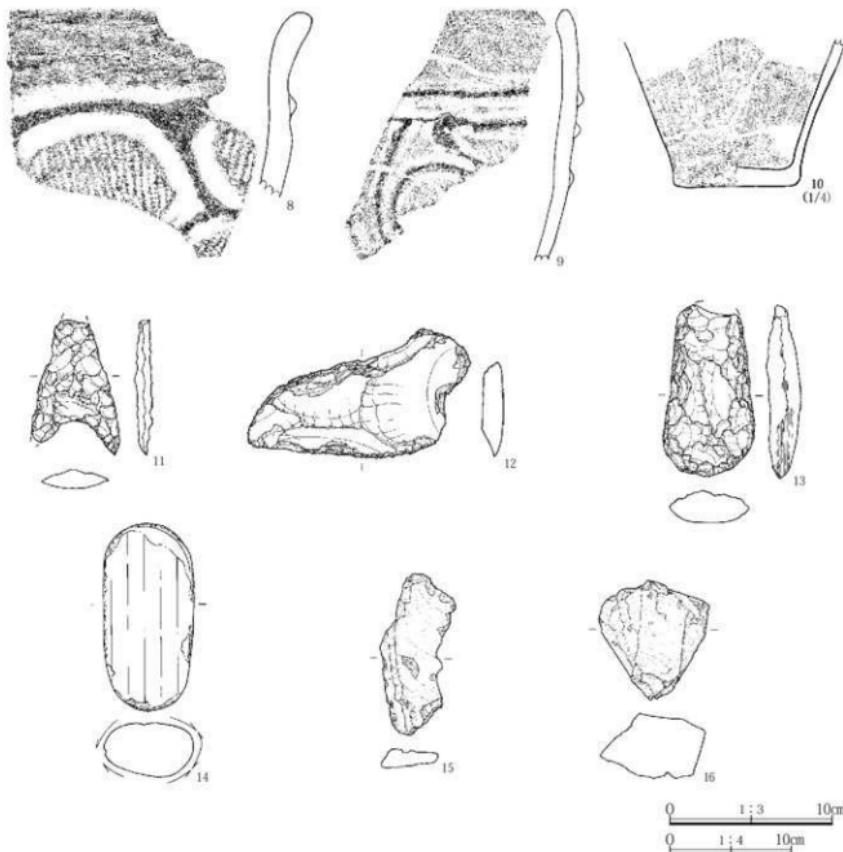
0 1:60 2m



第27図 V区101号竪穴建物(2)および出土遺物(1)



第28図 V区101号竪穴建物出土遺物(2)



第29図 V区101号壁穴建物出土遺物(3)

## ●V区102号壁穴建物

位置 41区E-12, 13

規模 包含層調査の際、床面近くまで掘り下げた段階で確認されたもので、残存状況はよくない。ほぼ円形と考えられ、現状の最大径は4.30m、深さ8cmを測る。

床面 概ね平坦ではあるが傾斜しており、西から東に向けて下がっている。床面の東西の比高は20cmある。

炉 中央やや北寄りで埋甕炉が検出されている。径50cm、深さ14cmの掘り方に、口縁～胴上位の深鉢(1)を逆位に埋設している。

**埋甕** 東部の壁から35cm内側の位置で、埋甕1基が検出された。径45cm、深さ24cmの掘り方に、胴下位を欠いた深鉢(2)を逆位に埋設している。

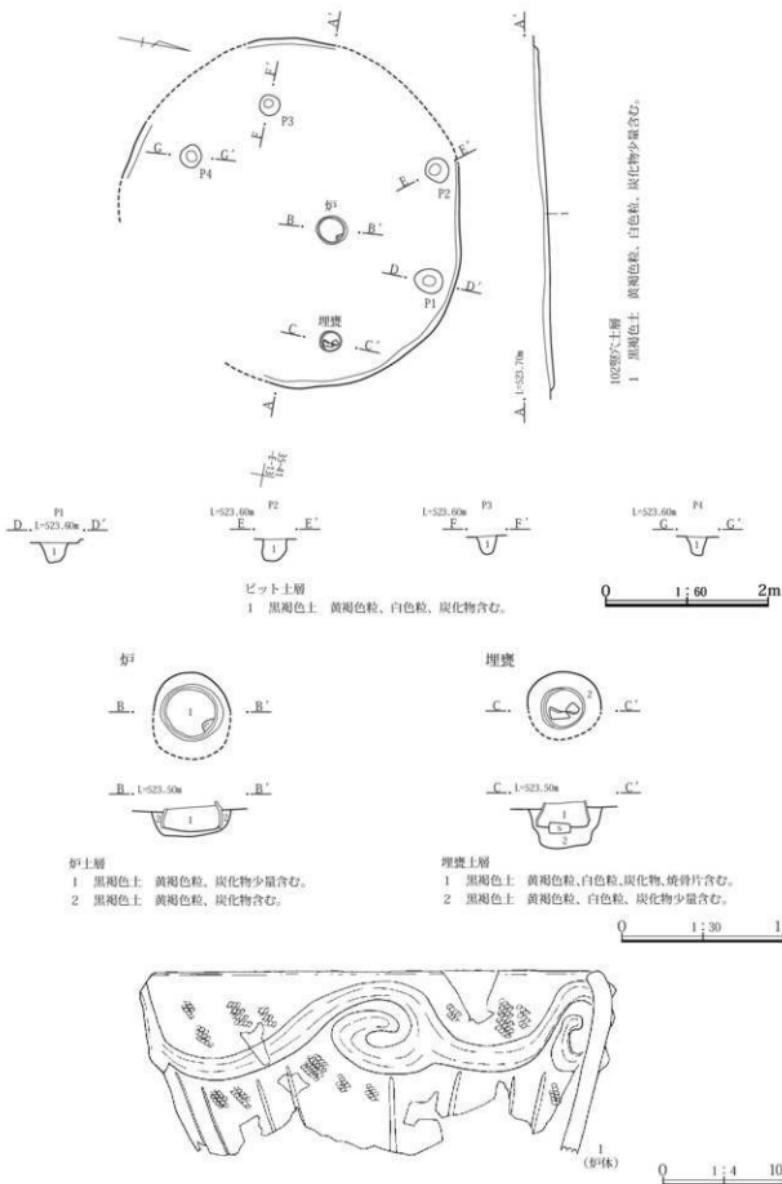
**柱穴** 5基のビットが確認されている。全体的に規模が小さく、柱穴として捉えてよいものか判断が難しい。

**遺物** 小破片が少量出土したのみである。

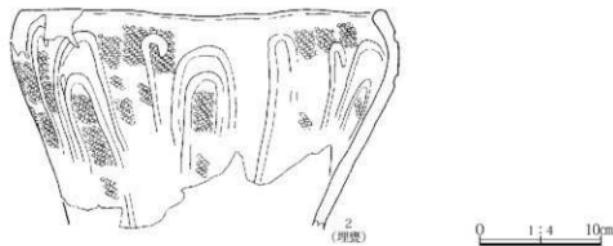
**時期** 加曾利E3式期と考えられる。

**重複** 108号壁穴建物、265号土坑を切る。

**その他** 掘り込みや柱穴の状況から考えると、壁穴建物ではなく単独の埋設土器2基の可能性も考えられる。



第30図 V区102号窓穴建物および出土遺物(1)



第31図 V区102号竪穴建物出土遺物(2)

## ●V区103号竪穴建物

位置 41区N-6

規模 楕円形状を呈す。長径3.00m、短径2.75m、深さ7cmを測る。小型の建物である。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや北西寄りで石圓炉が検出されている。62cm四方の隅丸方形状で深さ18cmの掘り方に、拳大の石を複数並べて正方形状に構築する。炉床面の規模は26cm四

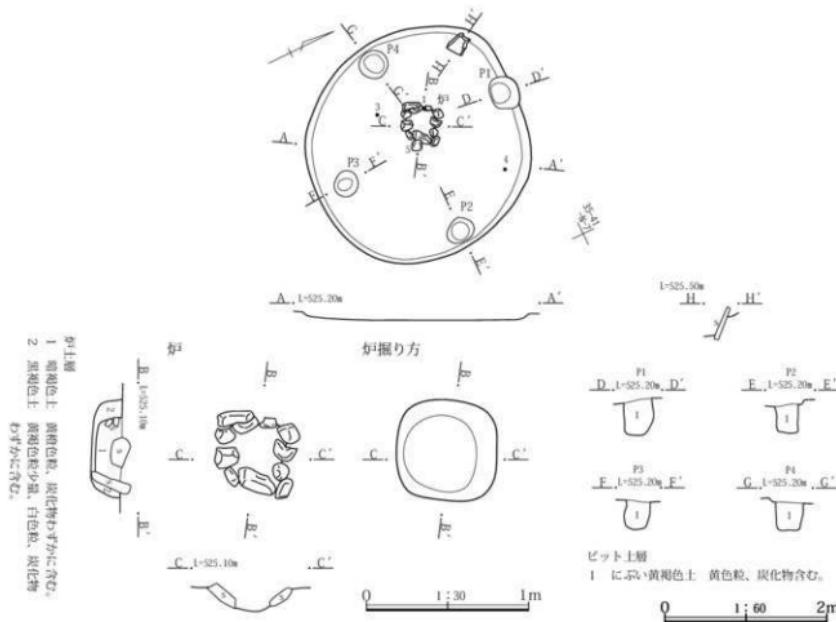
方ほど、深さは16cmを測る。

柱穴 4基のピットが正方形状に配されている。

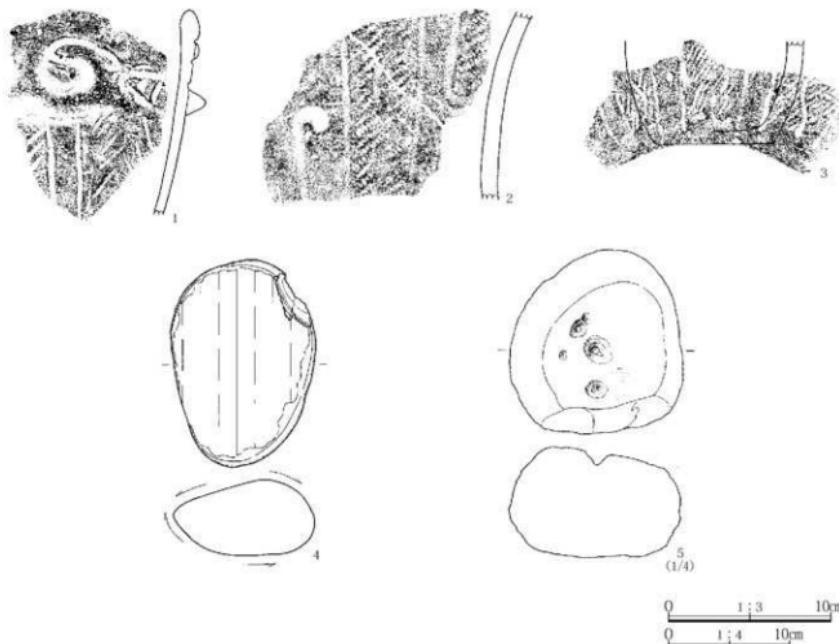
遺物 小破片が少量出土したのみである。北西の壁に立てかけたような状態で、長さ43cmの板石が出土している(断面H)。

時期 加曾利E3式期と考えられる。

重複 95号竪穴建物を切る。97号竪穴建物に切られる。



第32図 V区103号竪穴建物



第33図 V区103号竪穴建物出土遺物

### ●V区104号竪穴建物

位置 41区 K, L-8

規模 包含層調査の際、床面近くまで掘り下げた段階で確認されたもので、残存状況はよくない。また、101号竪穴建物に掘り込まれるため、壁面が残存するのは西と北の一隅のみである。ほぼ円形と考えられ、現状の最大径は4.27mを測る。

床面 概ね平坦で、確認面からの深さは7cmである。

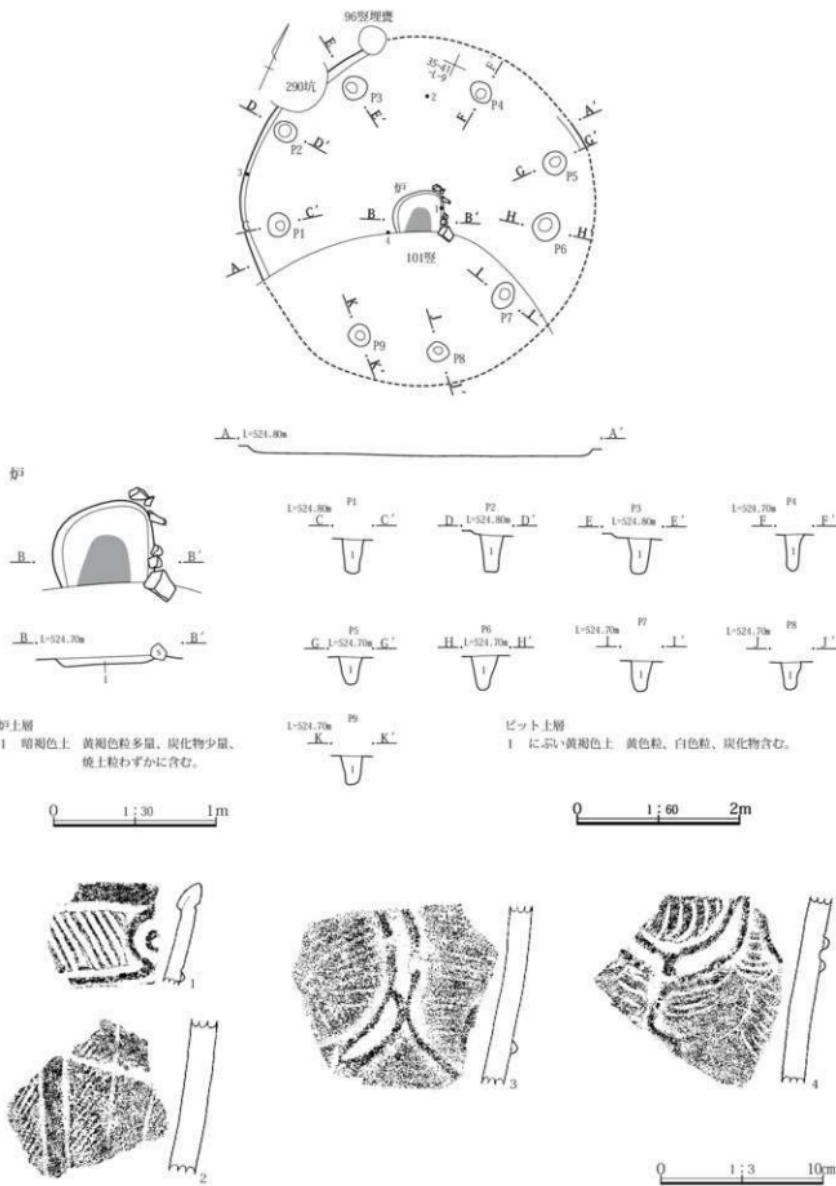
炉 ほぼ中央で検出されている。1辺に石列が認められるが、掘り込んで並べた状況ではなく、積極的に石圓炉とすることはできない。現状では地床炉と判断しておく。南半が壊されているため南北長は不明であるが、東西長は上端で62cm、炉床面までの深さは5cmを測る。

**柱穴** 壁の内側をめぐるように、9基のビットが規則的に配されている状況が確認された。規模も比較的そろっており、それぞれが柱穴として機能していたと考えられる。

**遺物** 小破片が少量出土したのみである。

**時期** 加曾利E3式期と考えられる。

**重複** 111, 117号竪穴建物を切る。96, 101号竪穴建物、290号土坑に切られる。



第34図 V区104号窯穴建物および出土遺物

## ●V区106号竪穴建物

位置 41区J-9, 10

規模 包含層調査の際、弧状にめぐる外周の立石が検出されたため竪穴建物として認識されたもので、壁面はまったく残存しない。外周の立石や敷石の状況から円形を呈すと考えられるが、西・南・東の石列はやや直線的になる。この部分だけを見れば、隅丸形状とするのが適当かもしれない。壁が残存しないため正確な規模は不明であるが、参考として敷石の外端でみると東西2.90m、南北3.28mを測る。東部の石圓施設の外側に石皿(9)を裏返して敷設しており、柄鏡形の短い張出部として捉えることが可能かもしれない。

床面 周縁部にのみ板石や扁平な玉石を敷設し、炉の周囲は地床とする。床面は概ね平坦である。また、外周に沿って立石をめぐらしている。立石は西から南にかけて良好に残存しており、15~20cm程の間隔を開けて配されている。

炉 中央で石圓炉が検出されている。正方形を呈し、各辺に大形の石や板石を並べている。炉床面の規模は48

×40cm、深さ12cmを測る。北東隅に口縁部と胴下位を欠いた深鉢(1)を埋設し、炉体とする。

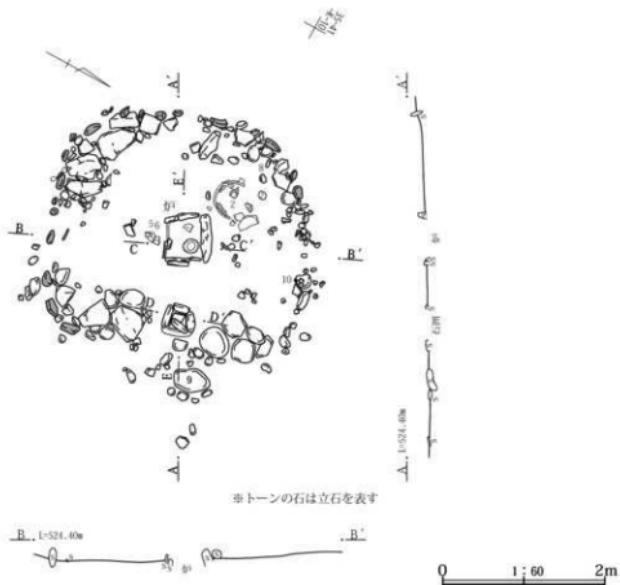
石圓施設 石圓炉の北東側47cmの位置で、石圓施設が検出された。石1個ずつを方形状に組んでおり、3個は原位置を保つが1個は転落した状態にある。底面に板石3枚を敷いている。底面の規模は22cm四方ほどで、深さは13cmを測る。

柱穴 敷石を除去した後に精査を行い、21基のピットが確認されている。しかし、外周の立石や敷石との整合性がとれず、すべてを本建物の柱穴として捉えてよいものか疑問が残る。なお、調査時に断面の記録がなされなかつたため、規模一覧を掲載した。

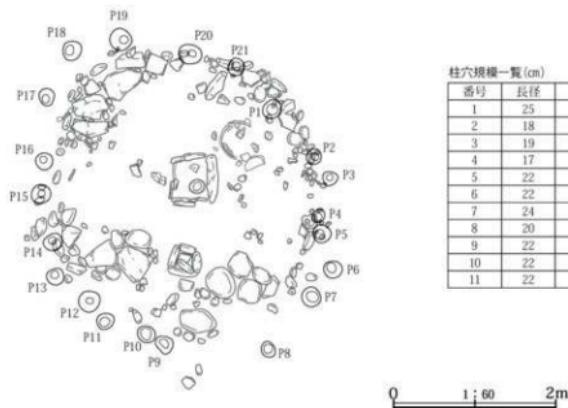
遺物 床面近くに至って竪穴建物と認識されたため、出土遺物は少ない。No.2が炉の西側の床面に逆位で置かれた状態で出土しているほか、5, 6が炉の脇、床直で出土している。炉体土器を含め、これらを一括遺物として捉えることができよう。

時期 炉体土器から加曾利E4式期と考えられる。

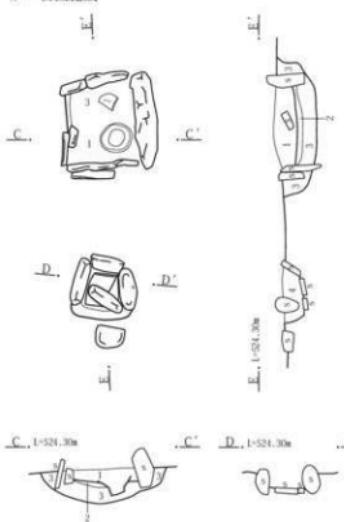
重複 110, 122, 123号竪穴建物を切る。



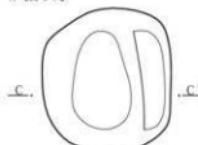
第35図 V区106号竪穴建物(1)



炉・石函施設

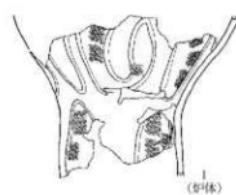


炉掘り方



炉・石函土層

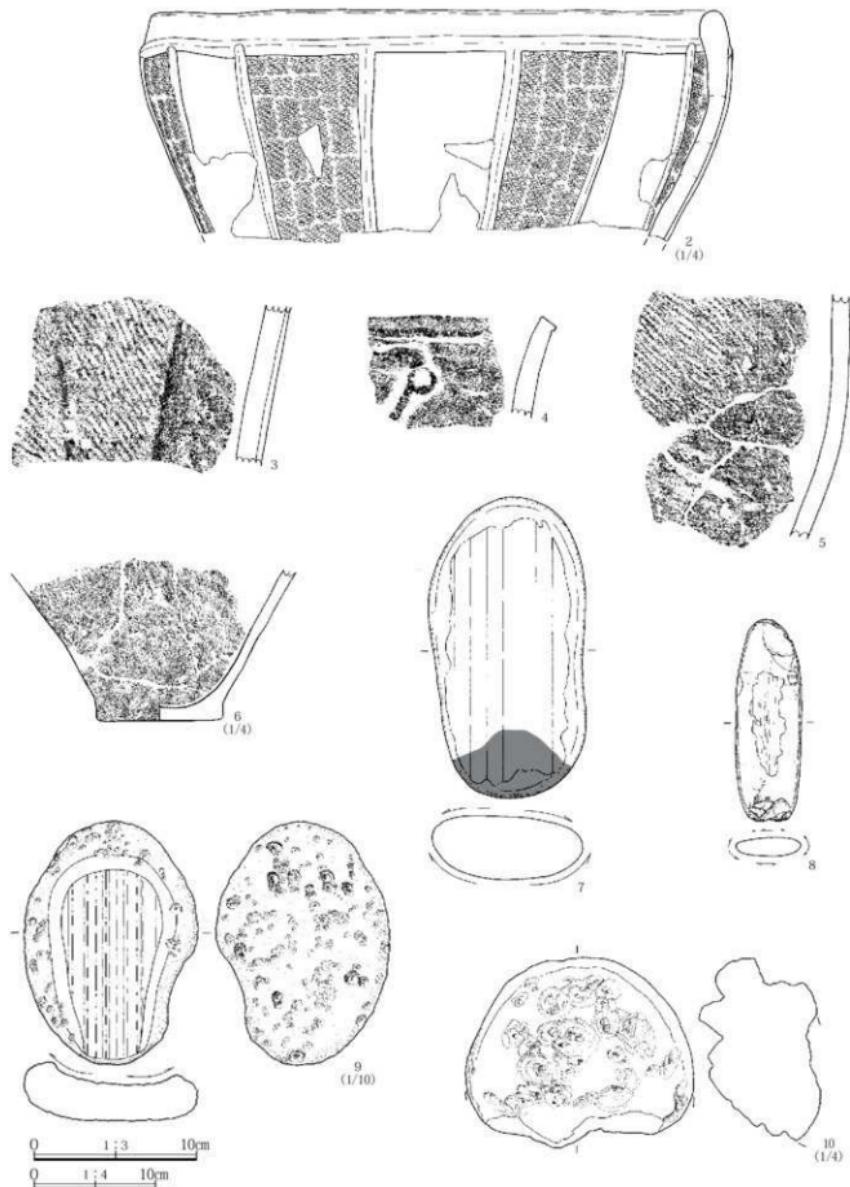
- 暗赤灰褐色土 黄色粒、白色粒、燒土粒含む。
- 暗赤褐色土 黄色粒、白色粒含む。底部に旋上ブロック含む。
- にぶい黄褐色土 黄色粒、白色粒含む。
- 黄褐色土 黄色粒、白色粒、黒色土粒、炭化物含む。



0 1:30 1m

0 1:4 10cm

第36図 V区106号壁穴建物(2)および出土遺物(1)



第37図 V区106号竪穴建物出土遺物(2)

## ●V区108号竪穴建物

位置 41区 E-12, 13

規模 102号竪穴建物の炉の調査を進めている際、下位から石圓炉が検出されたことにより、竪穴建物と確認されたものである。102号竪穴建物によって大部分が壊されているため、残存状況はよくない。円形と考えられるが、詳細は不明である。

床面 概ね平坦で、確認面からの深さは最大で10cmである。南壁際で周溝が確認されている。幅25cm程、深さ5cm前後を測る。

炉 大型の石圓炉が検出されている。拳大の石や扁平な玉石を複数並べて、長方形状に構築する。炉床面の規模は110×63cm、深さは20cmを測る。

柱穴 東部でピット1基が確認されているほかは、確認されていない。

遺物 小破片が少量出土したのみである。床面近くに至って建物と確認されたため、出土遺物はほぼ床直である。No.4は周溝内から出土している。

時期 出土遺物が少なく判然としないが、加曾利E2式期だろうか。

重複 102, 109号竪穴建物、265, 268号土坑に切られる。

## ●V区109号竪穴建物

位置 41区 E-13

規模 108号竪穴建物を精査する際に確認されたもので、西端部のみが残存する。

床面 概ね平坦で、確認面からの深さは13cmである。

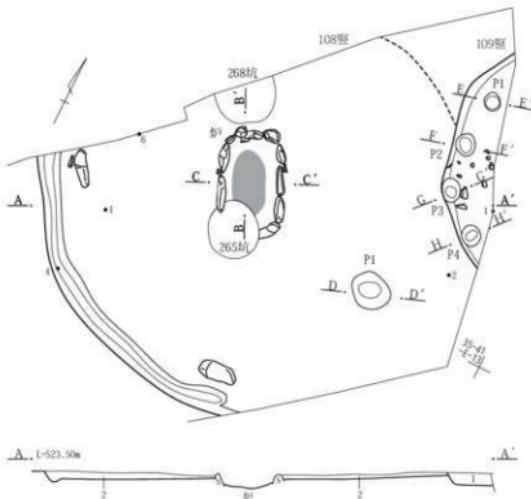
炉 検出されていない。

柱穴 壁際をめぐるようにピット4基が検出されている。掘り込み等、良好な状態を示す。

遺物 細片が少量出土したのみである。No.1の磨石が床直で出土している。

時期 出土遺物が少なく、不明である。

重複 108号竪穴建物を切る。



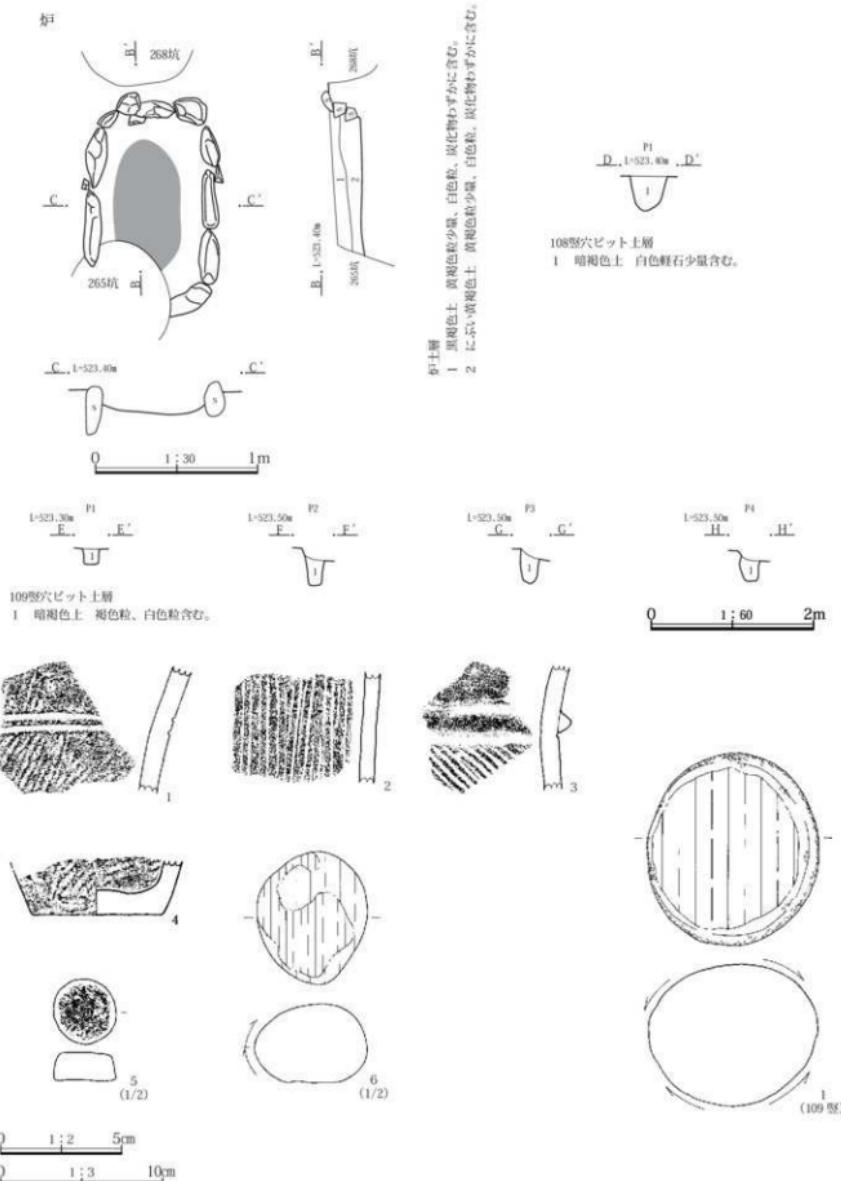
108・109号竪穴建物

1 噴褐色土 硬化物少量、φ 5mm程度の風化岩片多く含む。(109号建物理上)

2 噴褐色土 硬化物少量、φ 5mm程度の風化岩片少量含む。(108号建物理上)

0 1:60 2m

第38図 V区108・109号竪穴建物(1)



第39図 V区108・109号堅穴建物(2)および出土遺物

## ●V区110号壁穴建物

位置 41区I, J-9

規模 柄鏡形を呈す。主体部は隅丸の六角形状を呈し、東側の六角形の角から突出するように張出部が付く。主体部の径3.82m、張出部を含めた全長5.76m、張出部の長さ1.95m、張出部の幅1.00mを測る。

床面 概ね平坦であり、確認面からの深さは13cmである。周縁部に、大中円礫や板石を六角形状に1列並べている。北西角は途切れているが、本来は連続していたのである。この六角形状石列の上部に多数の礫が集積していた。主体部と張出部との連結部で埋甕が検出されているが、埋甕と接する南側で長方形の板石を2枚並べ、間に立てた円礫を挟み込んだ敷石が確認されている。張出部にも大中円礫や大形の石が認められるが、多くが床面から浮いた状態にあり、敷石の様相とは異なるようだ。

炉 中央やや西寄りで地床炉が検出されている。円形

を呈し、径60cm、深さ10cmを測る。

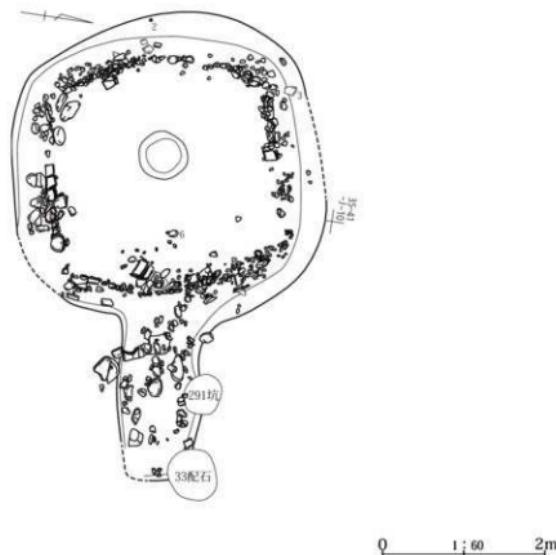
埋甕 主体部と張出部の連結部、六角形状石列の内側に接する位置で、埋甕1基が検出された。径46cm、深さ24cmの掘り方に、口縁の突起と底部を欠いた深鉢(1)を埋設する。底面には、平坦面をつくるよう板石1枚を敷いている。

柱穴 六角形状石列内外でピット12基が検出されており、六角形を意識した配置となる。主体部と張出部との連結部にP1, P9が位置し、対ピットと捉えられよう。

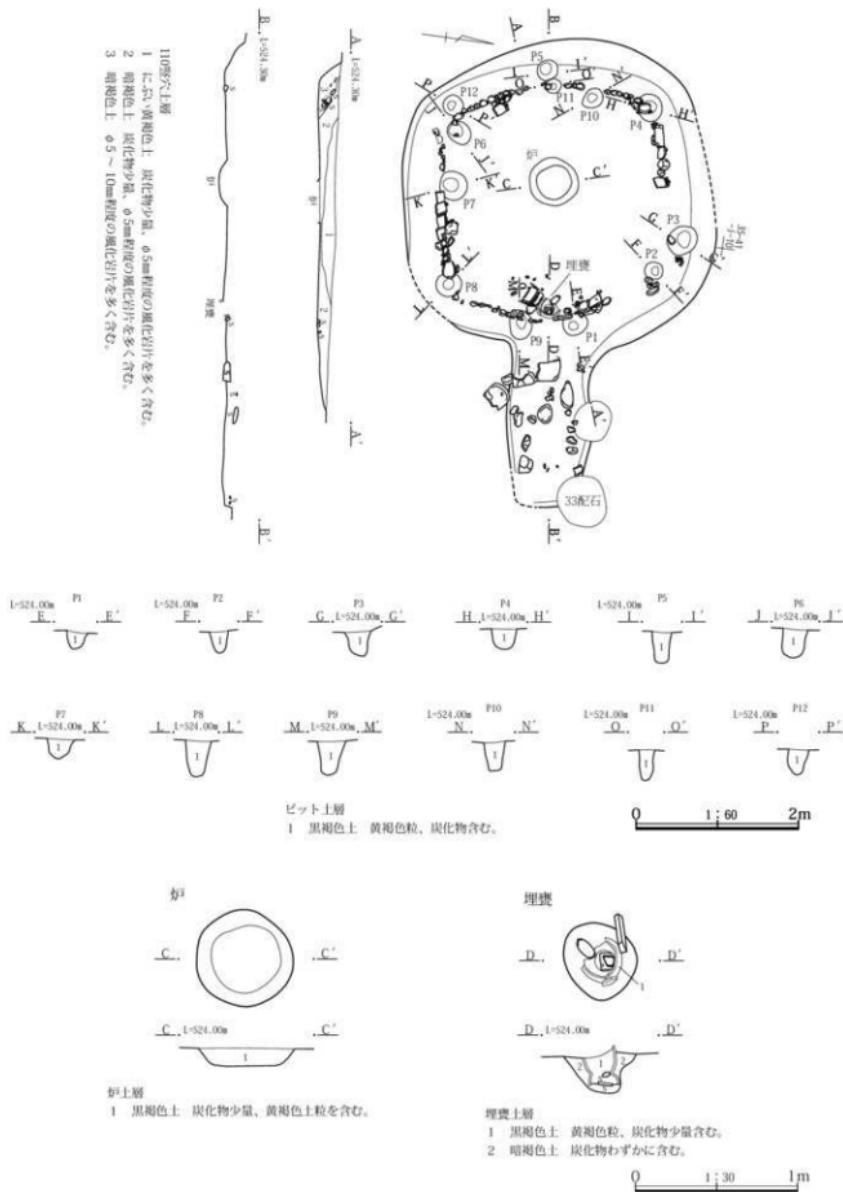
遺物 出土遺物は少ない。No.2, 3はともに壁際で、床面から浮いた状態で出土している。埋甕より時期が古いため、西側に重複する122号壁穴建物に帰属する可能性が高い。

時期 埋甕から加曾利E4式期と考えられる。

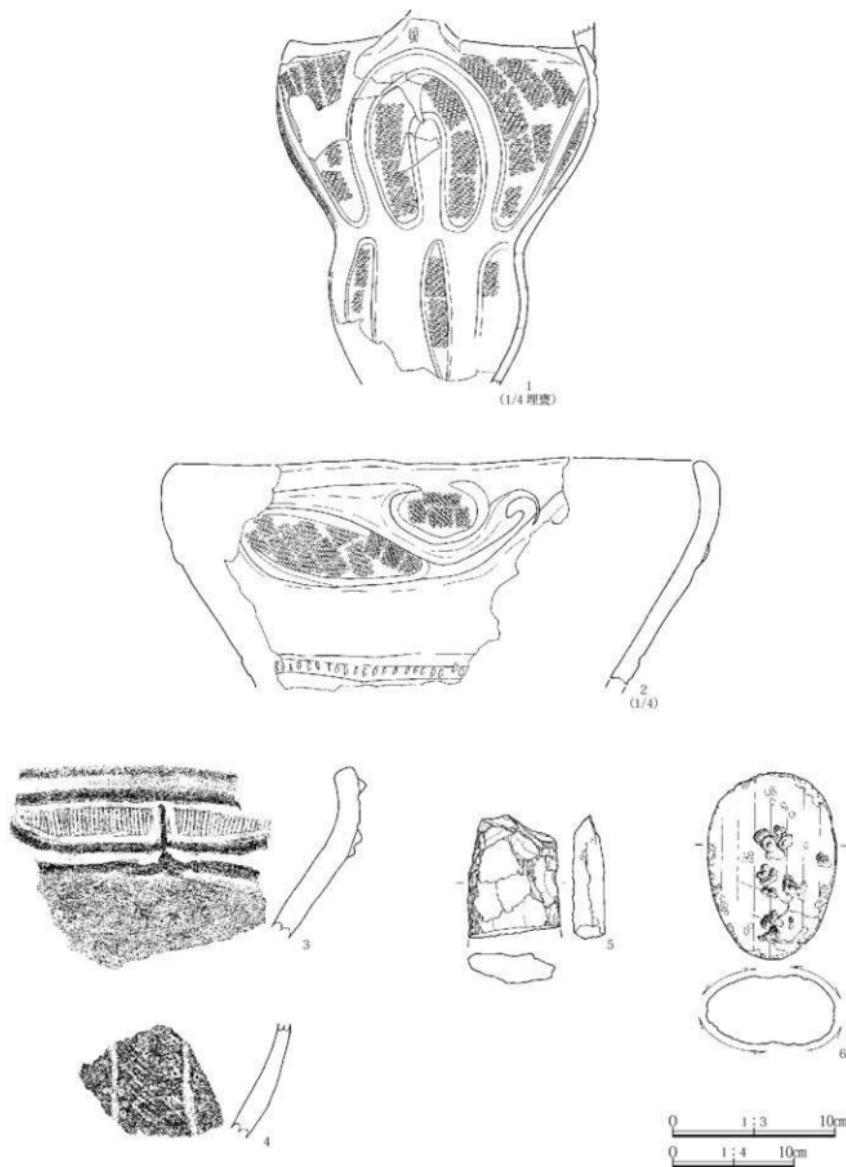
重複 119, 122, 123号壁穴建物を切る。106号壁穴建物、291号土坑、33号配石に切られる。



第40図 V区110号壁穴建物(1)



第41図 V区110号堅穴建物(2)



第42图 V区110号壁穴建物出土遗物

## ●V区111号竪穴建物

位置 41区K-9

規模 円形を呈し、長径5.16m、短径5.07mを測る。99号竪穴建物の調査後、さらに掘り下げを行い、石圓炉の石の上端を確認したことで竪穴建物と認識されたもので、残存状況はよくない。深さは最大15cmである。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや北西寄りで石圓炉が検出されている。長径113cm、短径94cmの楕円形状の掘り方に、扁平な玉石を用いて長方形状に丁寧に組む。南東辺に3個、他邊は2個ずつの玉石を並べ、隙間に小形の板石を組ませてい

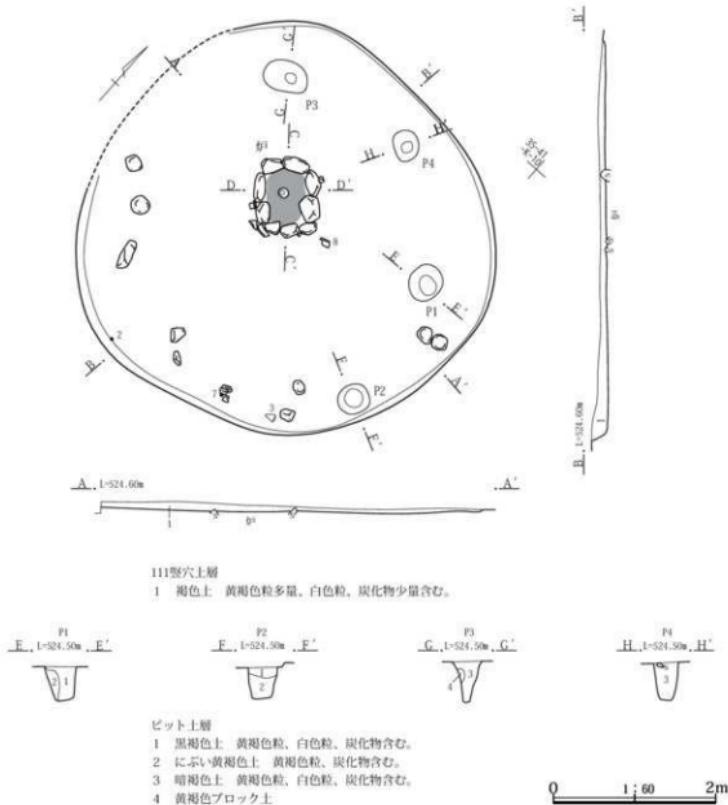
る。炉床面の規模は68×48cm、深さ18cmを測る。中央に、底部を欠いた小型の深鉢(1)を埋設し、炉体とする。

柱穴 床面北東側でピット4基が検出されている。柱痕跡が認められるものもあり、良好な状態を示すが、南西側での検出が認められず、全体の状況は不明である。

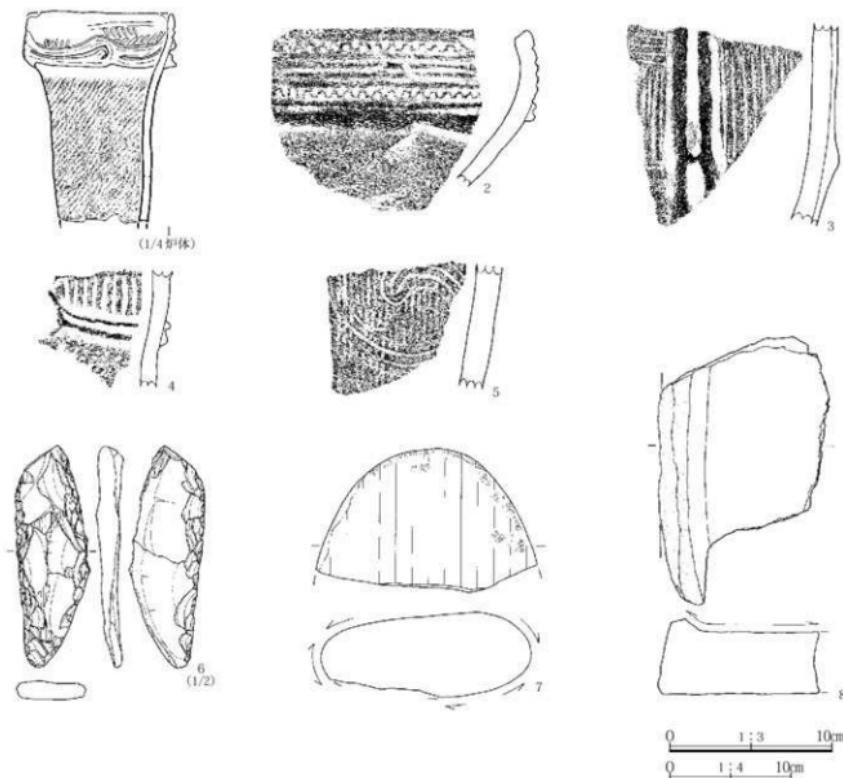
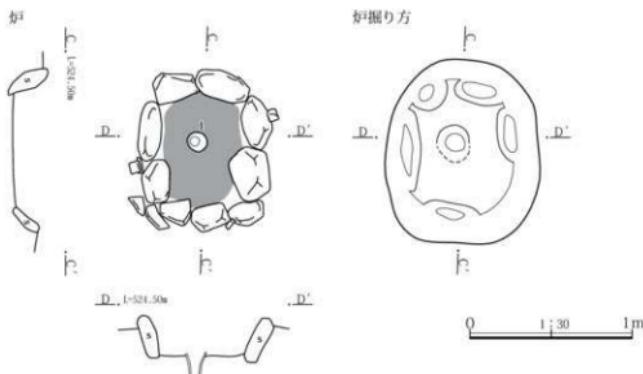
遺物 出土遺物は少ない。炉の脇で石皿の破片(8)、南東壁際で磨石の破片(7)が床面に近い位置で出土した以外は、床直遺物は確認されなかった。

時期 炉体土器から加曾利E式期と考えられる。

重複 99、104号竪穴建物に切られる。



第43図 V区111号竪穴建物(1)



第44図 V区111号壁穴建物(2)および出土遺物

## ●V区113号竪穴建物

位置 41区H-10

規模 楼円形状を呈す。南北方向に長軸をとるが、南壁が残存しないため長径は不明、短径は3.10m、深さ36cmを測る。

床面 中央部が低く、周縁に向かって緩やかに上がっていき。また、壁が垂直気味ではなく傾斜をもって掘られているため、掘り込み面に対して床面積が狭い。壁と床面との転換点も明瞭ではない。

炉 中央で歪んだ正方形状の炉が検出されている。周

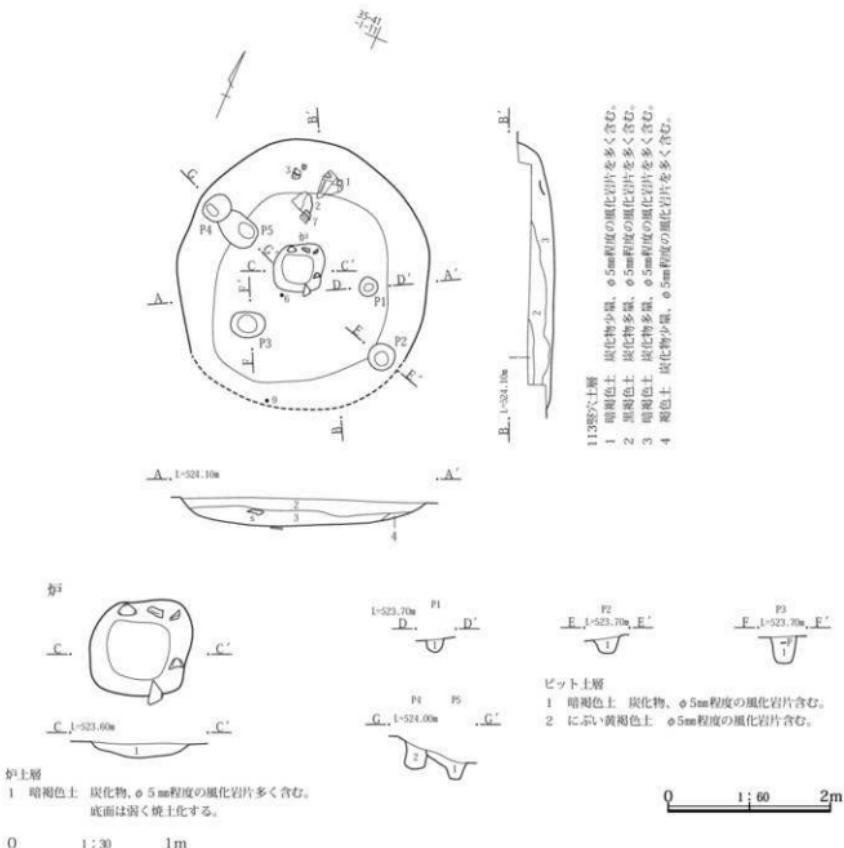
間に礫が散在するが、石壙の残痕なのか確認がもてないため、地床炉としておく。上端の規模で60cm四方ほど、深さは8cmを測る。

柱穴 床面や壁の法面でピット5基が確認されているが、配置は不規則である。

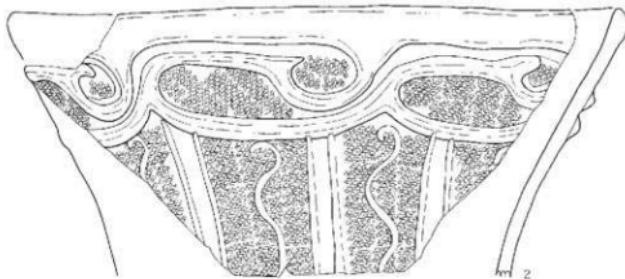
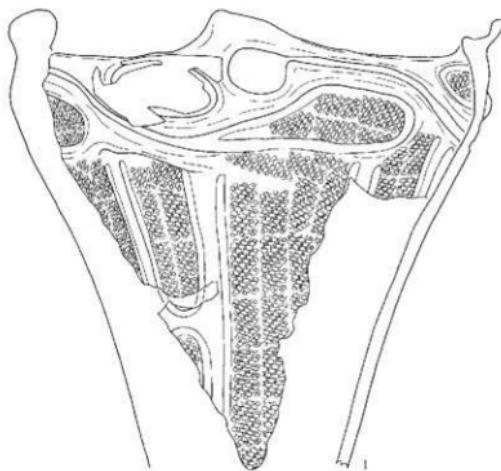
遺物 北部で大形の破片が複数出土している。床面から浮いた状態であり、建物廃絶後に北側から投げ込まれた様相を呈している。

時期 加曾利E3式期と考えられる。

重複 なし

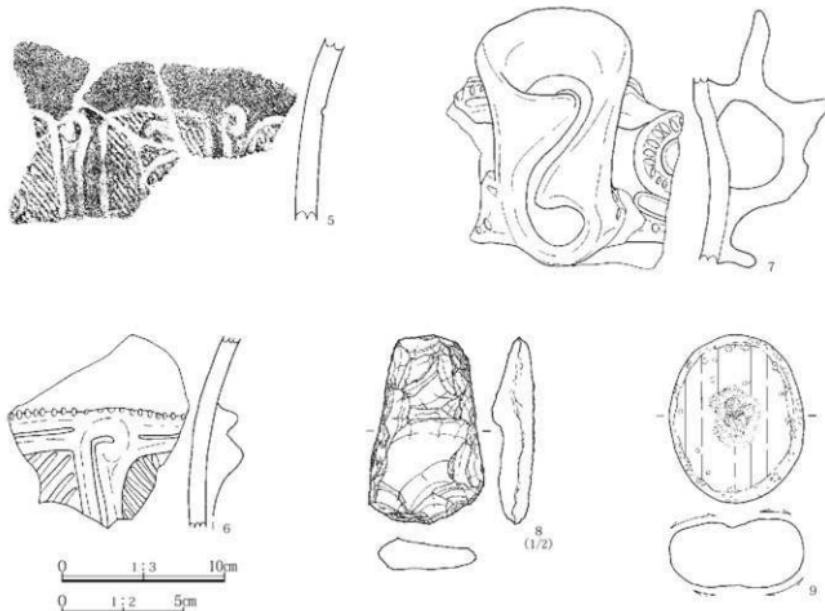


第45図 V区113号竪穴建物



0 1:4 10cm

第46图 V区113号壁穴建物出土遗物(1)



第47図 V区113号竪穴建物出土遺物(2)

### ●V区114号竪穴建物

位置 41区G-11

規模 包含層調査の際、床面近くまで掘り下げた段階で確認されたもので、残存状況はよくない。また、南東側は調査区外にあたり、北西側は床面より深く掘り下げられているため、壁面が残存するのは南西側の一部のみである。円形ないし楕円形と考えられるが、詳細は不明である。深さは最大で8cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 石圓炉が検出されている。南北に長い長方形状を呈し、北辺に2個、西辺に5個、東辺に6個、扁平な玉石を並べて構築する。南辺には石が確認できないが、当初から置かれてなかったのか、あるいは抜かれてしまったのかは判断できない。炉床面の規模は87×31cm、深さは5cmを測る。

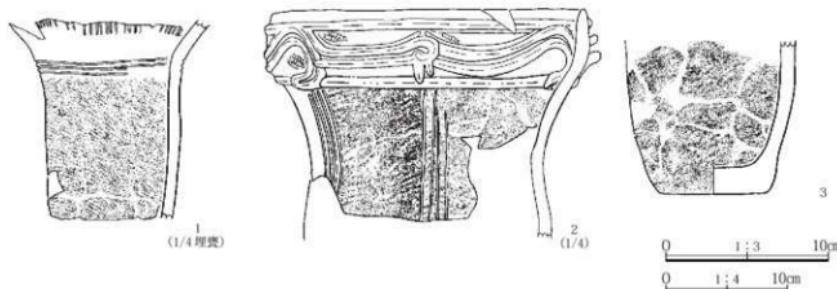
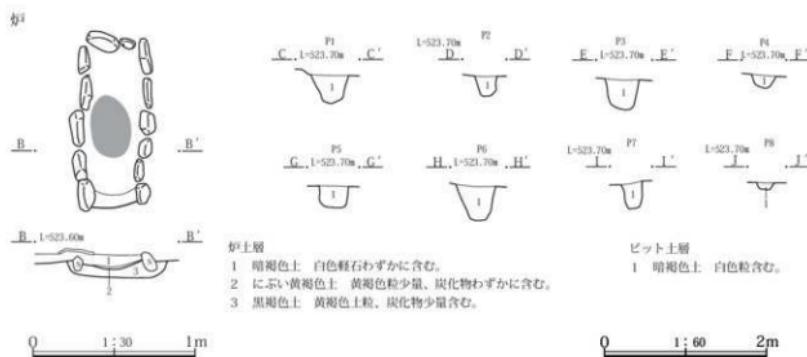
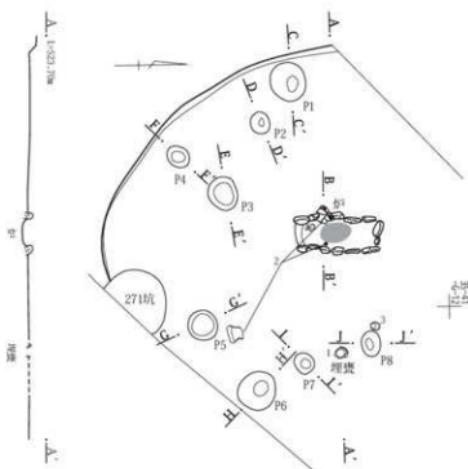
**埋甕** 炉の東側1.15mの位置で、埋甕1基が検出されている。口縁部と底部を欠いた小型の深鉢(1)を埋設する。調査時に周囲をトレンチ状に掘り抜いており、埋甕のみ露出した状態で確認されているため、掘り方は不明である。

**柱穴** 南半部でピット8基が確認されている。P1-P3-P5-P6が、主柱穴として位置づけられようか。

**遺物** 出土遺物は少ない。No.3が床面に置かれた状態で出土している。No.2は、炉西辺の石に被るように出土した大形破片と、南東部で出土した大形破片が接合した。床面からは若干浮いた出土状態である。

**時期** 埋甕から加曾利E2式期と考えられる。

**重複** 279号土坑を切る。269, 271号土坑に切られる。



第48図 V区114号窒穴建物および出土遺物

## ●V区115号竪穴建物

位置 41区K-7

規模 南東部は調査区外にあたり、また北東部は倒木痕によって大きく壊されているため、残存するのは建物西部のみである。敷石住居であり、床面壁際の石の配列を見ると、110号竪穴建物に酷似している。また、主軸方位もそろっていることから、110号竪穴建物と同様の柄鏡形敷石住居の可能性が高い。現状の南北長は3.3m程、深さは最大で10cmを測る。

床面 概ね平坦である。南西隅において敷石の残りが良好で、西壁際に礫を、南壁際に板石をそれぞれ直線状に1列並べている。両辺の角度から110号竪穴建物と同様、

六角形状を呈するようだ。西壁石列の内側にも板石を敷いているが整然としておらず、若干動いている可能性がある。

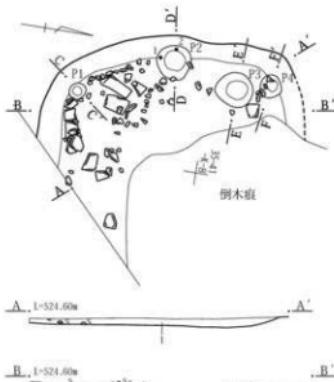
炉 調査された範囲では検出されていない。

柱穴 ピット4基が確認されているが、配置はやや不規則である。

遺物 小破片が少量出土したのみである。P2の周囲で若干まとまって出土しており、No1, 2もここからほぼ床直で出土したものである。

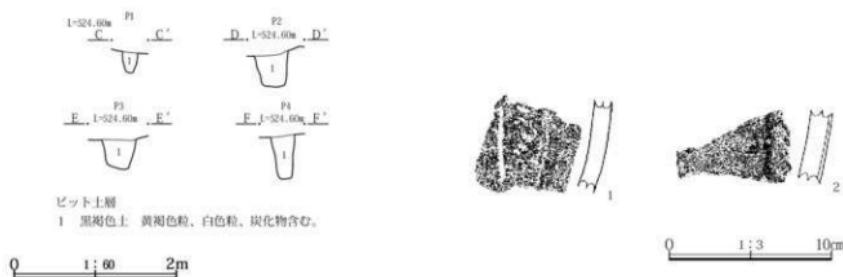
時期 加曾利E4式期と考えられる。

重複 101号竪穴建物を切る。



115号竪穴上層

1 に付い黄褐色土 岩化物少量、φ5mm程度の風化岩片を多く含む。



第49図 V区115号竪穴建物および出土遺物

## ●V区116号竪穴建物

位置 41区K-6, 7

規模 南東部は調査区外にあたり、また北部は101号竪穴建物が同レベルで床面を構築するため、壁面が残存するには西部と東部のごく一部である。残存する壁の状況から橢円形状を呈すと考えられ、残存部の径は5.15m、深さは西部で最大15cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや北西寄りで、炉の残痕が検出されている。周囲や内部に礫が散在するが、石窯の残痕なのかは確証がもてない。また、No.1が炉床面に据えられた状態で出

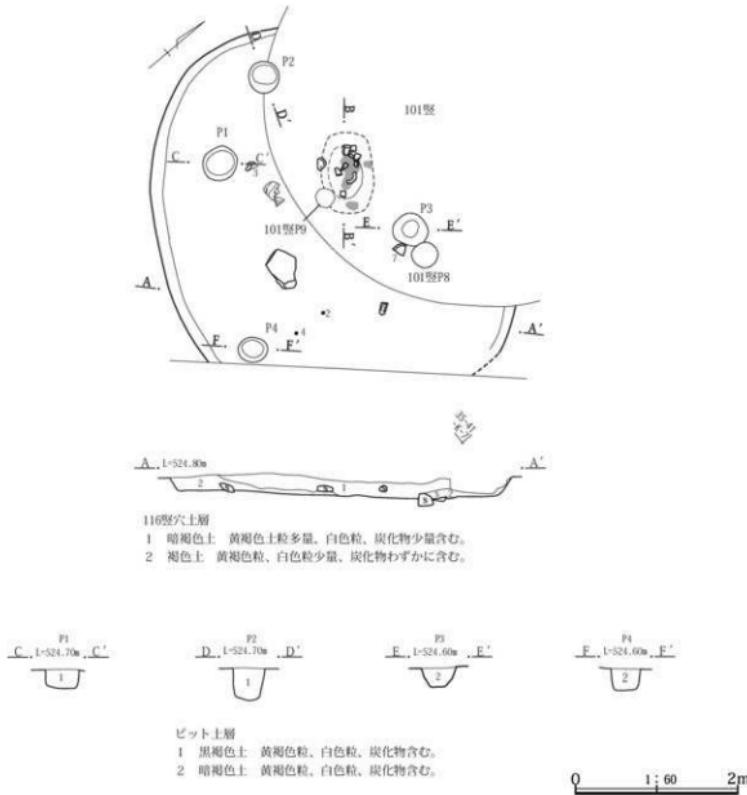
土しており、炉体であった可能性がある。掘り方の規模で98×83cm、炉床面までの深さは15cmを測る。

柱穴 南半部でピット4基が確認されているが、配置はやや不規則である。

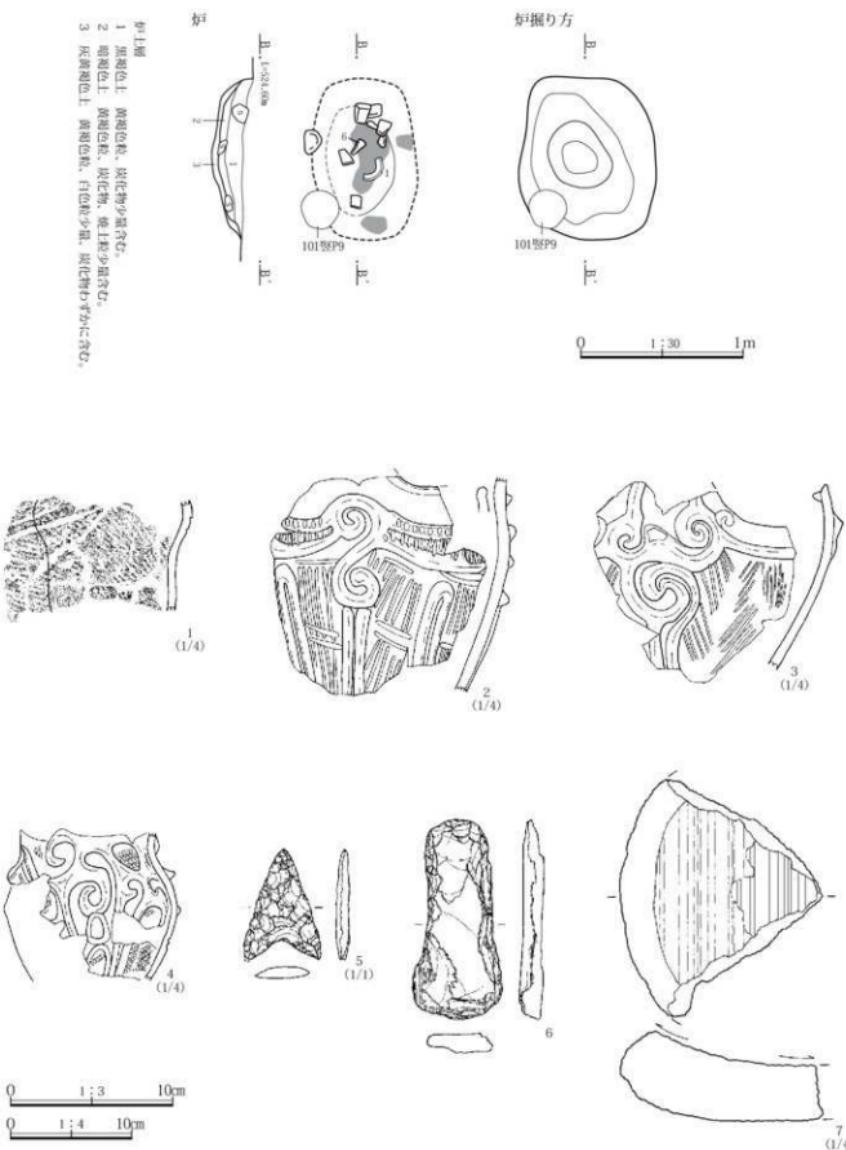
遺物 出土遺物は少ない。No.6の打製石斧がNo.1とともに炉内から出土した以外は、みな床面から浮いた状態で出土している。

時期 炉内出土器から、加曾利E2式期と考えられる。

重複 120号竪穴建物を切る。101号竪穴建物、255号土坑に切られる。



第50図 V区116号竪穴建物(1)



第51図 V区116号竪穴建物(2)および出土遺物

## ●V区117号竪穴建物

位置 41区L-8

規模 炉の残痕が確認されたため竪穴建物として認識されたもので、壁はまったく残存しておらず、平面形状や規模は不明である。

床面 概ね平坦である。

炉 炉の残痕が検出されている。楕円形状を呈し、上端で長径77cm、短径66cm、深さ13cmを測る。壁法面に玉石や大形玉石の破片が散在しており、石囲炉であった

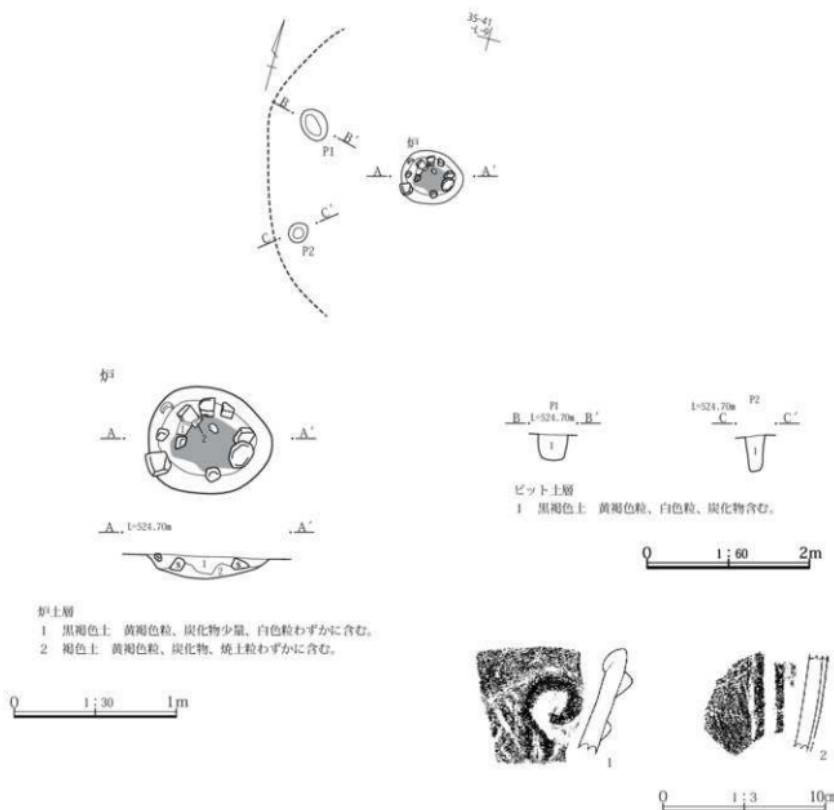
可能性が高いと考えられる。炉床面は火を受けて赤色酸化している。

柱穴 床面西部で2基のピットが確認されている。

遺物 小破片が少量出土したのみである。No.1, 2は炉内から出土している。

時期 郷土式期と考えられる。

重複 104号竪穴建物に切られる。



第52図 V区117号竪穴建物および出土遺物

## ●V区118号竪穴建物

位置 41区I, J-11

規模 小型の柄鏡形竪穴建物である。主体部は隅丸正方形を呈し、規模は2.79×2.60m、張出部を含めた全長は3.85mを測る。深さは最大30cmを測る。

床面 主体部は概ね平坦である。東角部の壁際に沿って玉石を1列並べた状態が確認され、北角部にも同様に並べていたと思われる歯痕が認められる。張出部は大形の玉石を敷設する。主体部との連結部から4個を1列に配し、4個目の両脇に一回り小さい玉石を並べている。これ以外にも石が認められるが、すべてが本建物に隸属するものは明瞭でない。石の並びやレベルも、あまり

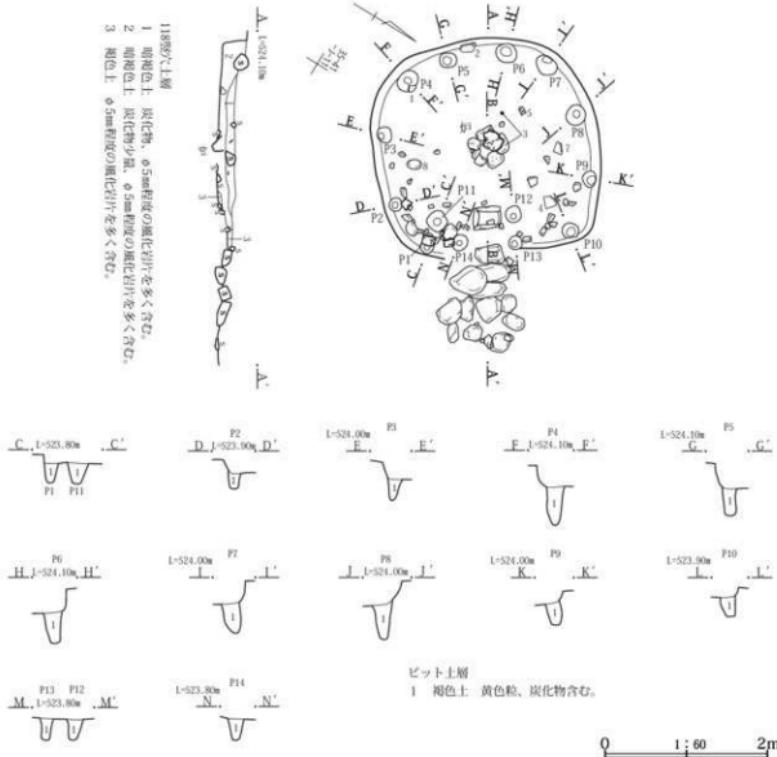
整ったものではない。張出部の敷石上面レベルは、主体部床面レベルより12~18cm高い。

炉 中央で石圓炉が検出されている。径55cm程、深さ15cmの不整円形の掘り方に、玉石6個を円形状に組んでいる。うち1個は多孔石(9)が転用されている。炉床面の規模は径25cm程、深さは11cmを測る。

石圓施設 炉の北東側54cmの位置で石圓施設が検出された。板石3個を用いてコの字状に組んでいる。長方形を呈し、内寸で24×15cm、深さ20cmを測る。

柱穴 壁際をめぐるように14基のビットが確認されている。配置、規模ともに良好な状態を示す。

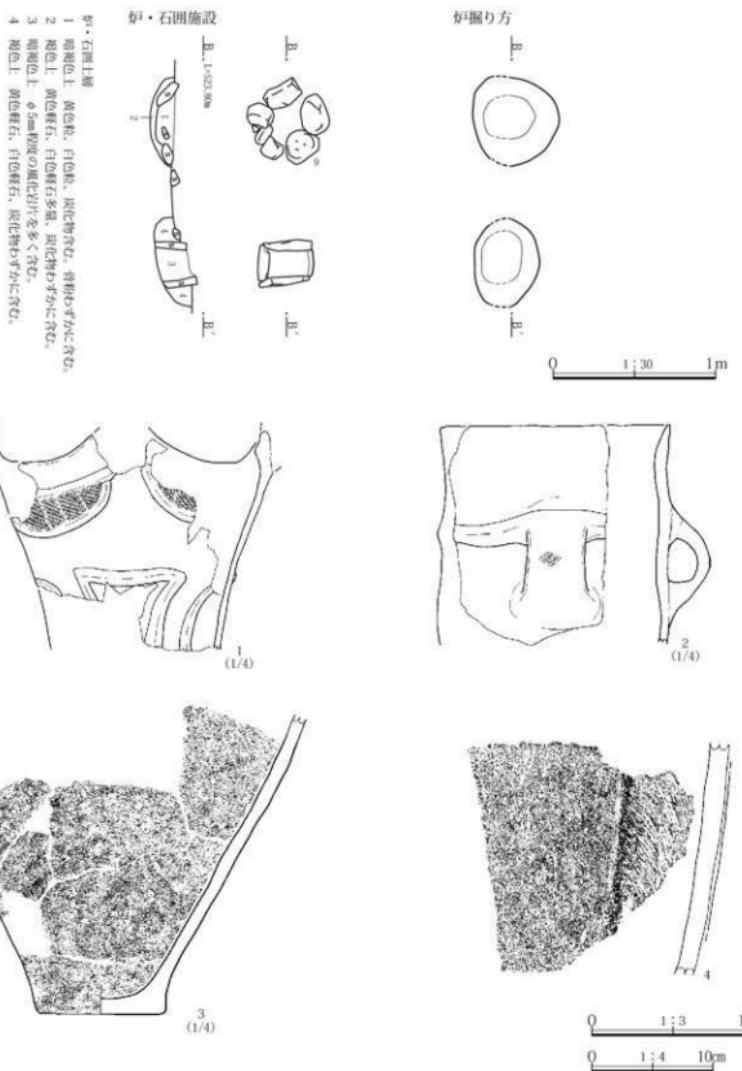
遺物 №3が炉内で出土した以外は、みな床面から浮い



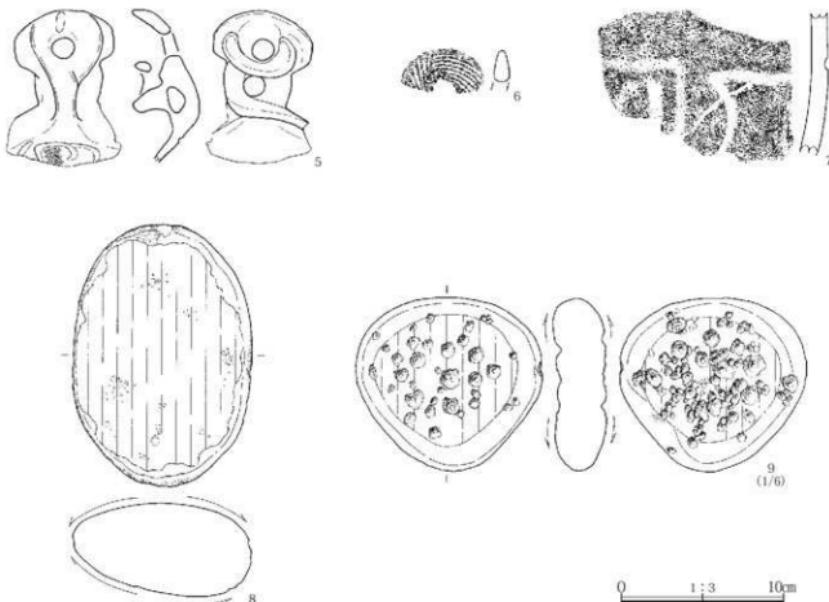
第53図 V区118号竪穴建物(1)

た状態で出土している。大形のものは図示したもののみで、多くは小破片が埋没土全体に分布する状況であった。ほか周縁部を中心に、大形の玉石が床面からかなり浮いて

た状態で複数認められた。  
時期 称名寺式期と考えられる。  
重複 なし



第54図 V区118号壁穴建物(2)および出土遺物(1)



第55図 V区118号竪穴建物出土遺物(2)

## ●V区119号竪穴建物

位置 41区I-8, 9

規模 南東側が調査区外にあたるため、調査されたのは北西部の一部のみである。全体の形状は不明であるが、調査された範囲から見ると、隅丸方形状を呈しているようだ。現状の最大径は5.26m、深さ19cmを測る。

床面 中心から周縁に向かって緩やかに上がっている。比高は最大で13cmある。

炉 調査区際で地床炉が確認された。東西にやや長い楕円形状を呈すようであり、上端の短径は65cm、深さ8cmを測る。

柱穴 5基のピットが確認されている。規模から見れば、P 3, P 5が柱穴として妥当であろう。

遺物 出土遺物は少ない。1は胴部が残る小型深鉢であるが、床面から15~25cm浮いた状態である。

時期 加曾利E 3式期と考えられる。

重複 123号竪穴建物を切る。110号竪穴建物に切られる。

## ●V区123号竪穴建物

位置 41区J-9

規模 南東半部が119号竪穴建物に壊されているため全体の形状は不明であるが、円形ないし楕円形を呈すと思われる。現状の最大径は4.12m、深さ27cmを測る。

床面 概ね平坦である。

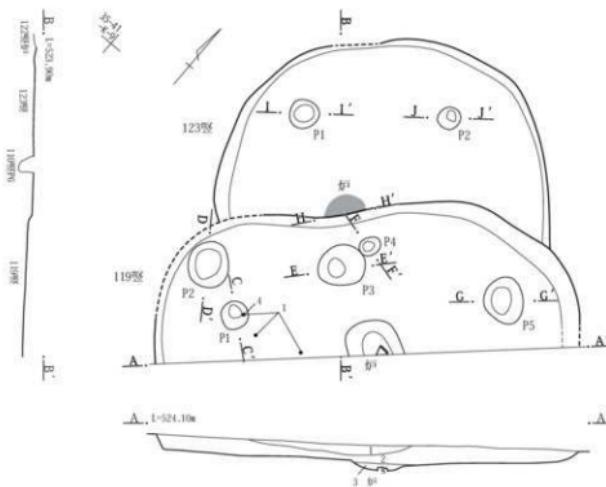
炉 地床炉と考えられる焼土面が検出されている。南東部は119号竪穴建物に壊されるが、現状で最大径50cmを測る。

柱穴 2基のピットが確認されている。

遺物 出土遺物はわずかである。

時期 時期を比定しうる遺物に乏しいため判然としないが、図示した遺物から加曾利E 3式期と考えておきたい。

重複 106, 119, 122号竪穴建物に切られる。



## 119号穴上層

- 1 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒少量、炭化物わずかに含む。
- 2 反黄褐色土 黄褐色粒少量、炭化物わずかに含む。
- 3 灰黄褐色土 黄褐色粒少量、焼土粒、炭化物わずかに含む。

C., 1-523.80m C'

D., 1-523.80m D'

E., 1-523.80m E'

H., 1-523.90m H'

F., 1-523.80m F'

G., 1-523.80m G'

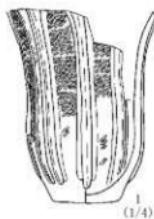
I., 1-523.90m I'

J., 1-523.90m J'

## 119号穴ビット上層

- 1 暗褐色土 褐色粒、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 褐色粒含む。

0 1:60 2m

0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm

## 123号穴ビット上層

- 1 暗褐色土 褐色粒含む。

第56図 V区119・123号壁穴建物および119号壁穴建物出土遺物



第57図 V区123号竪穴建物出土遺物

## ●V区120号竪穴建物

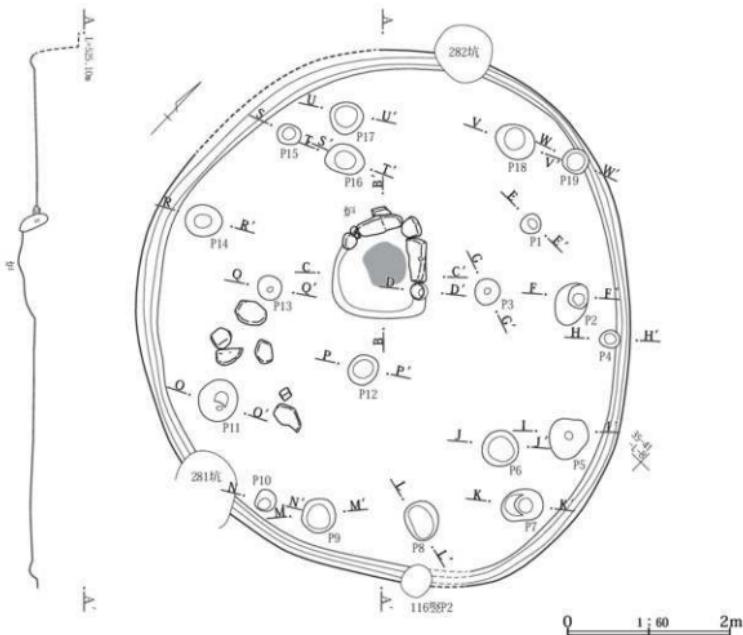
位置 41区L, M-7, 8

規模 石圓炉の検出によって竪穴建物と認識されたもので、壁面はほとんど残存しない。しかし、周溝が確認されたため、橢円形状を呈し、長径6.52m、短径6.08mであることを知ることができた。深さは7cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 中央やや北西寄りで石圓炉が検出されている。

142×130cmの橢円形状の掘り方に、大形の玉石を並べる。北西・北東の2辺が残存するが、おそらく南西・南東の2辺もこれらに並行するように組まれ、長方形状を呈していたと考えられる。この仮定による炉床面の規模は、90×60cm程となろう。中央がやや凹んでおり、この部分が火を受けて赤色酸化している。深さは18cmを測る。東角と思われる位置に、底部を欠いた深鉢(1)を埋設して炉体とする。



第58図 V区120号竪穴建物(1)

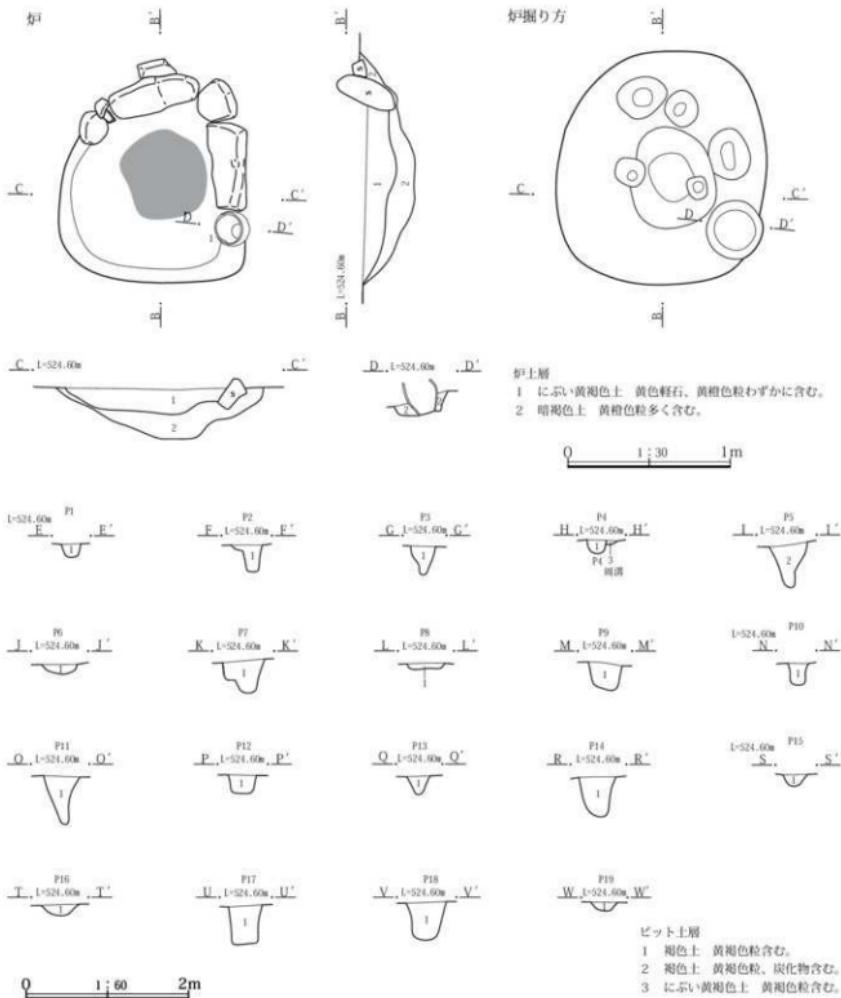
柱穴 床面全体から19基のピットが検出されている。浅いものが多く、柱穴として捉え難いものもあるが、P2-P5-P7-P9-P11-P14-P17-P18の8本を中心と組まれていたと考えられる。

遺物 床面に至って建物と認識されたため、出土遺物は

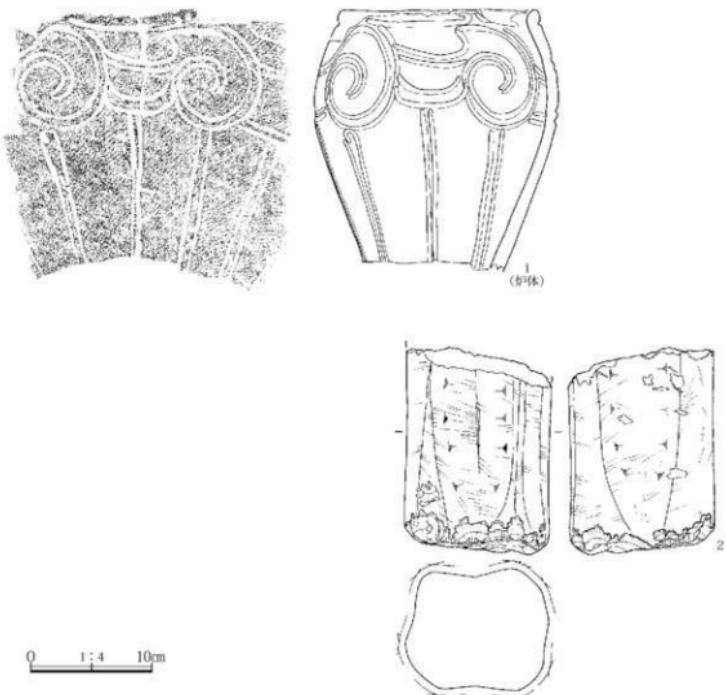
ほとんどない。No.2の砥石は、周溝内から出土したものである。

時期 炉体土器から、加曾利E2式期と考えられる。

重複 285号土坑を切る。94, 116号突穴建物に切られる。



第59図 V区120号突穴建物(2)



第60図 V区120号竪穴建物出土遺物

### ●V区121号竪穴建物

位置 41区L, M-6

規模 120号竪穴建物同様、石圓炉の検出によって竪穴建物と認識されたもので、壁面は27号溝の西側以外まったく残存しない。残存する壁から円形ないし梢円形と考えられるが、規模は不明である。西壁の深さは40cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 石圓炉が検出されている。径94×88cmの不整円形の掘り方に大形の玉石を1個ずつ、長方形状に組んでいる。北東辺を除いてコの字状に置かれ、北東辺は開くが、

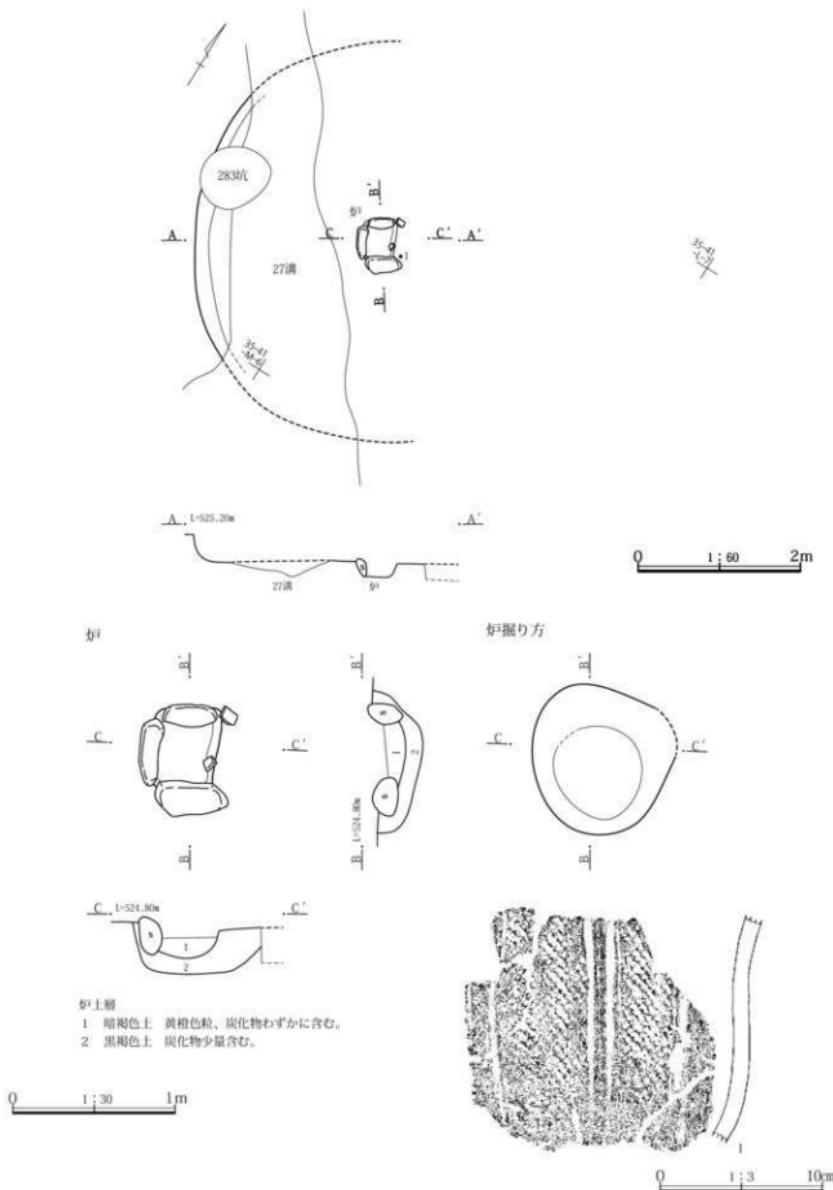
土層断面を見ると当初から置かれていたように見受けられる。炉床面の規模は33×30cm、深さ17cmを測る。

柱穴 ピットはまったく確認されていない。

遺物 床面に至って建物と認識されたため、出土遺物はほとんどない。No.1が炉の脇、ほぼ床直で出土している。

時期 出土遺物が少なく判然としないが、No.1から加曾利E3式期と考えておきたい。

重複 120号竪穴建物と重複する。出土遺物から見れば、本建物が切っていると考えられるが、調査での切り合いは確認されていない。289号土坑を切る。283号に切られる。



第61図 V区121号壁穴建物および出土遺物

## ●V区122号竪穴建物

位置 41区J-9

規模 東半部を110号竪穴建物に壊されているため全容は不明だが、円形ないし梢円形と考えられる。現状の最大径で2.80m、深さ40cmを測る。

床面 概ね平坦である。

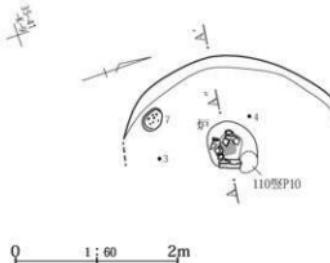
炉 石囲炉の残痕が検出されている。東辺に置かれた石は原位置と見られ、南辺部に複数の礫が散在する。炉床面の規模は30cm四方ほど、深さは10cmを測る。

柱穴 ピットはまったく確認されていない。

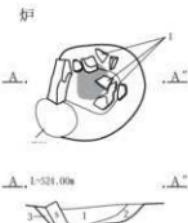
遺物 出土遺物は少ない。No.1が炉内、No.7の多孔石が西壁際ほぼ床直上で出土した以外は、床面から浮いた状態か埋没土中の出土である。

時期 炉内出土のNo.1から、加曾利E3式期と考えられる。

重複 123号竪穴建物を切る。106、110号竪穴建物に切られる。

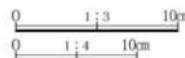
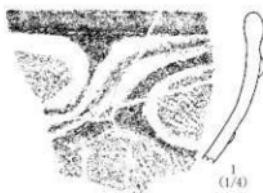


122号竪穴土器  
1 塗褐色土 黒褐色土粒、炭化物、φ5mm程度の風化岩片を多く含む。  
2 塗褐色土 炭化物少頭、φ5mm程度の風化岩片を多く含む。



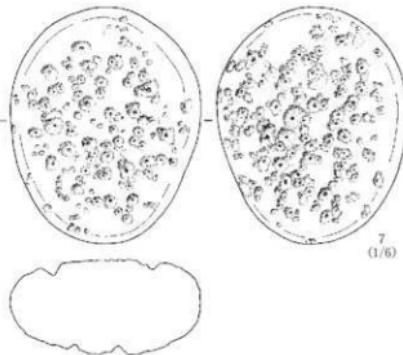
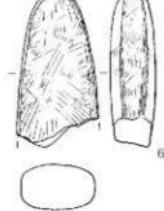
炉上層

- 1 塗褐色土 黒褐色土粒、炭化物、φ5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 塗褐色土 炭化物、φ5mm程度の風化岩片を多く、黒褐色土粒を含む。
- 3 塗褐色土 φ5mm程度の風化岩片を多く含む。



第62図 V区122号竪穴建物および出土遺物(1)

1 壁穴建物



0 1:3 10cm

第63图 V区122号壁穴建物出土遗物(2)

## ●VIII区 1号竪穴建物

位置 42区 C-17

規模 石圓炉の検出により竪穴建物として認識されたもので、壁面は全く残っておらず、平面形状や規模は不明である。

床面 概ね平坦である。1号列石から石圓炉にかけて、幅50cm程の帯状に板石を複数敷設する。また、石圓炉の南西側にも若干の敷石が認められる。

炉 石圓炉が検出されている。やや歪んだ正方形を呈し、各辺1個ずつの石を配す。3個は玉石であり、1

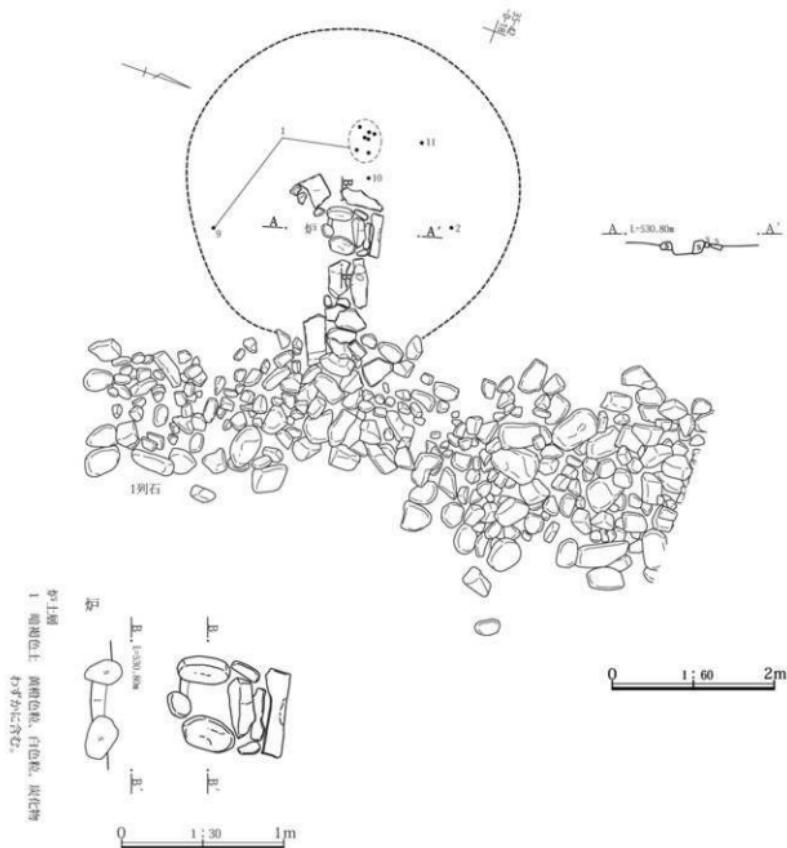
個は厚い板石を用いている。さらに北辺と西辺の外側に、板石を組んでいる。炉床面の規模は25cm四方ほど、深さ10cmを測る。

柱穴 ピットはまったく確認されていない。

遺物 石圓炉の周囲で、遺物の散発的な出土が見られる。No.2, 9, 11がほぼ床直で出土している。

時期 出土遺物は、堀之内2式から加曾利B2式が混在する。堀之内2式を混入と考え、加曾利B式期と捉えておきたい。

重複 1号列石と取付く。



第64図 VIII区 1号竪穴建物



第65図 VIII区1号壁穴建物出土遺物

## ●VII区 5号竪穴建物

位置 41区 V-23

規模 東部の石組が確認されたため、竪穴建物として調査されたものである。壁面は西側のみで、他は確認されなかった。西壁と東部石組の状況から楕円形形状を呈すと考えられ、両端の距離で5.20mを測る。深さは西壁で最大14cmである。

床面 概ね平坦である。1号竪穴建物と同様に、石圓炉から東側に帶状の石組が検出されている。石圓炉から60cmの位置に大形の玉石2個を直交するように配し、その先は30cm程の間隔を開けて並行する2条の石列を敷設する。石圓炉からの全長は2.6m程であり、並行する石列

の長さは1.4m程を測る。

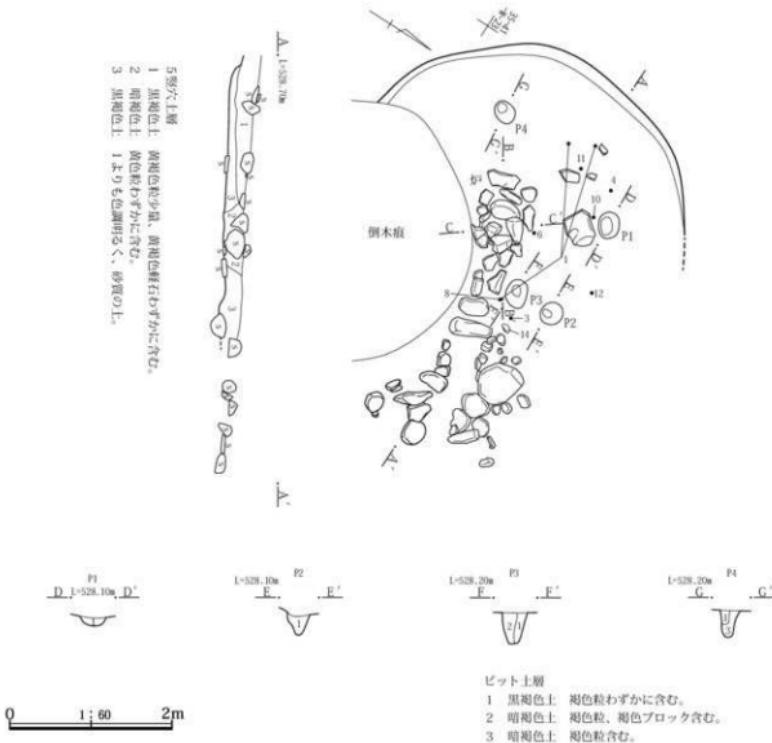
炉 石圓炉が検出されている。玉石5個を用いて五角形状に組んでいる。炉床面の規模は25cm四方ほど、深さは14cmを測る。

柱穴 壁と炉の中間部で、4基のピットが確認されている。

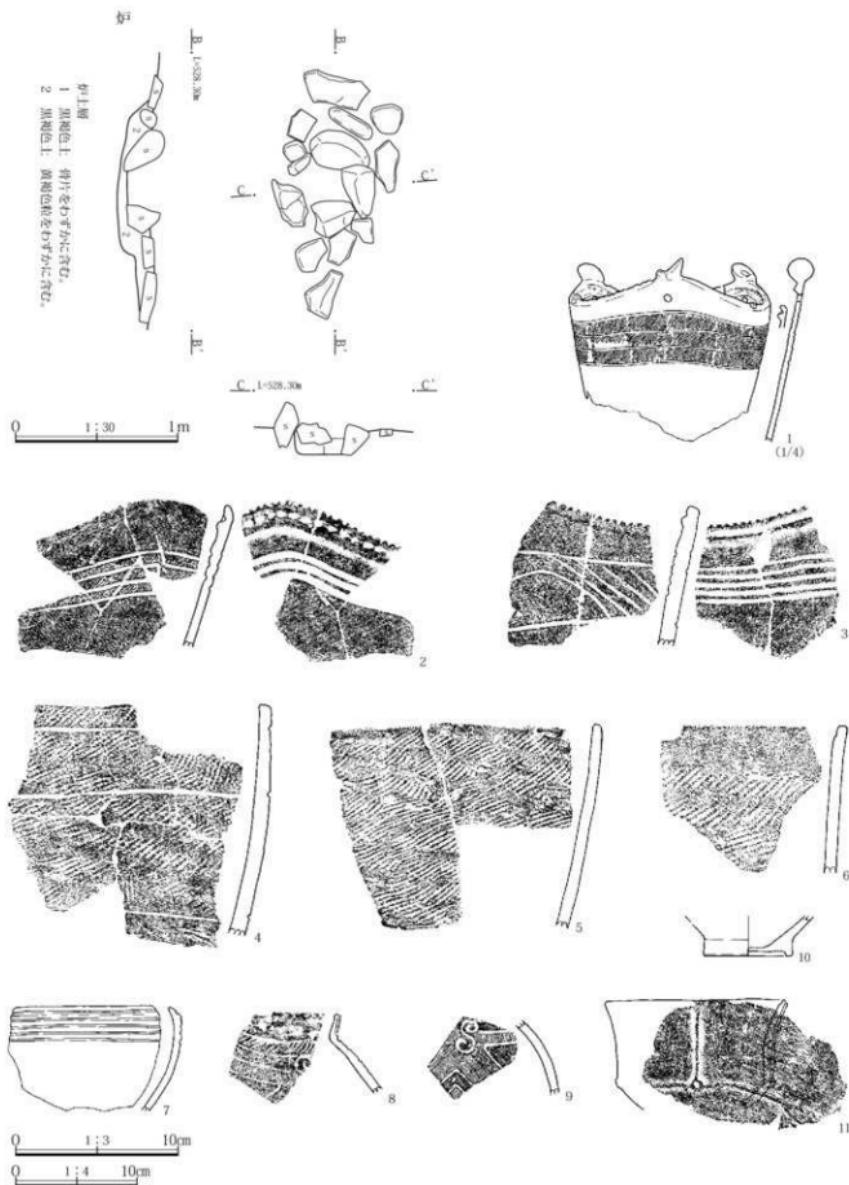
遺物 出土遺物は少なく、炉の北側を中心に散発的な出土状態を示す。No.3が床面以外は、みな床面から浮いた状態で出土している。

時期 加曾利B1式期と考えられる。

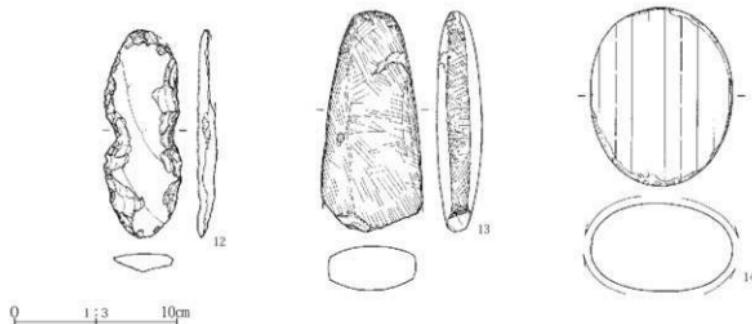
重複 2号列石、6号配石に切られる。



第66図 VII区 5号竪穴建物(1)



第67図 VIII区5号壁穴建物(2)および出土遺物(1)



第68図 VIII区 5号竪穴建物出土遺物(2)

## ●VIII区 8号竪穴建物

位置 51区O-1

規模 包含層調査の際、床面近くまで掘り下げた段階で確認されたもので、残存状況はよくない。壁面は西側のみで、他は確認されなかった。西壁から、円形ないし梢円形を呈すと考えられる。深さは西壁で最大17cmを測る。

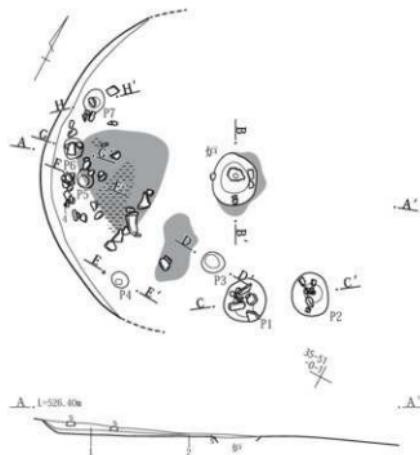
床面 概ね平坦である。床面西部において、焼土や炭の

広がりが見られた。

炉 地炉が検出されている。梢円形状を呈し、上端で長径63cm、短径53cm、深さ10cmを測る。炉床面の中央や北寄りに深鉢底部を埋設し、炉体とする。

柱穴 壁際をめぐるように7基のビットが検出されている。規模、配置ともに良好な状態を示す。

遺物 床面近くになって建物と確認されたため、出土



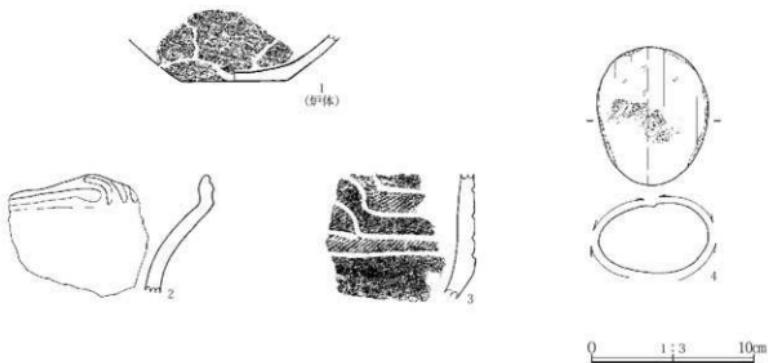
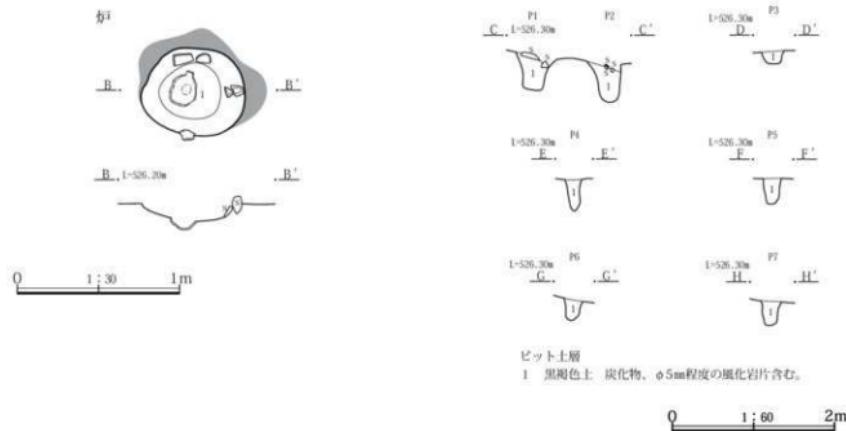
第69図 VIII区 8号竪穴建物(1)

## 1 壁穴建物

遺物は少ない。西壁際で礫が散在しており、またP 1・P 2の埋没土上位にも棒状石や板石の破片が集中している。No 2がP 1内、No 4の磨石が床直で出土している。

時期 出土遺物が少なく判然としないが、No 3から堀之内2式期と考えておきたい。

重複 なし



第70図 VIII区8号壁穴建物(2)および出土遺物

## ●VII区10号竪穴建物

位置 41区 U-18, 19

規模 張出部の全容が判然としないが、柄鏡形を呈すと考えられる。主体部は円形を呈し、径3.62m、現状の全長は4.84m、深さ35cmを測る。張出部の幅は1.41m、現状の長さは1.38mを測る。

床面 概ね平坦であり、主体部と張出部との高低差も認められない。主体部の北東壁際と張出部の北東部に、敷石が認められる。板石や扁平な玉石を用いて、平坦に敷設している。また、張出部には大形の玉石が不規則に、一部重なって検出されているが、その状況から本建物に帰属するものではなく、5号列石に帰属するものと判断した。

炉 主体部中央で石圓炉が検出されている。厚みがあ

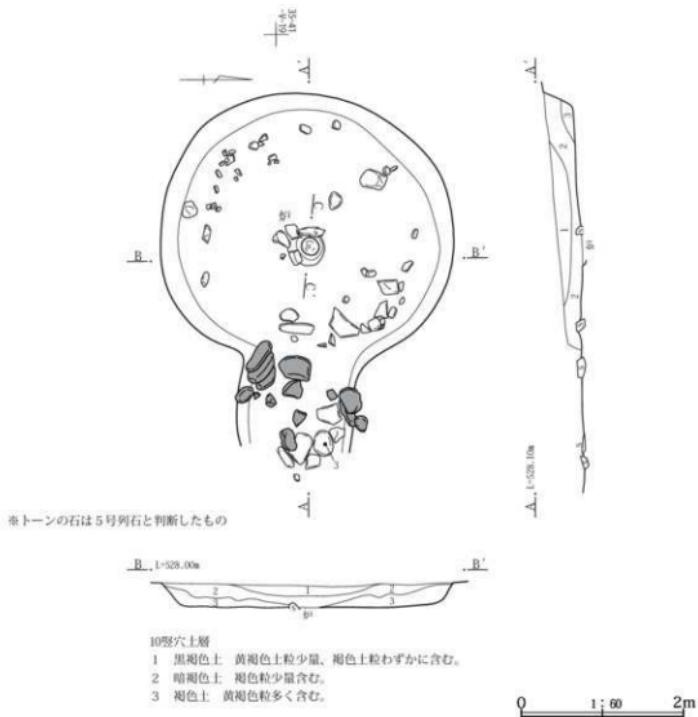
る板石を方形状に組んでいたと考えられるが、北辺と東辺の石は確認できない。炉床面の規模は30cm四方ほど、深さ10cmを測る。炉床面中央に完形の鉢を埋設し、炉体とする。

柱穴 ピットはまったく確認されていない。

遺物 出土遺物は少ない。1層中からNo 6～12がまとまって出土している。調査時には1層土を埋没土とする単独の土坑として調査されていたが、整理段階において位置や土層の堆積状況から、本建物が埋没する過程のレンズ状堆積の最上層として見直した。建物廃絶後、埋没途中の凹みにまとめて廃棄されたものと理解したい。他の遺物は、2層以下から出土したものである。

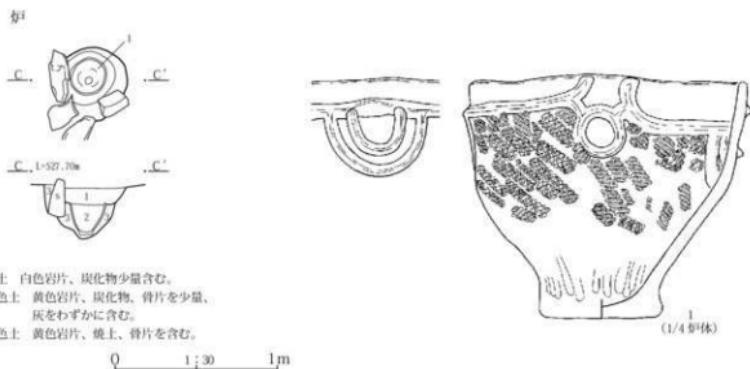
時期 炉体土器から、加曾利E 4式期と考えられる。

重複 14号竪穴建物を切る。5号列石に切られる。



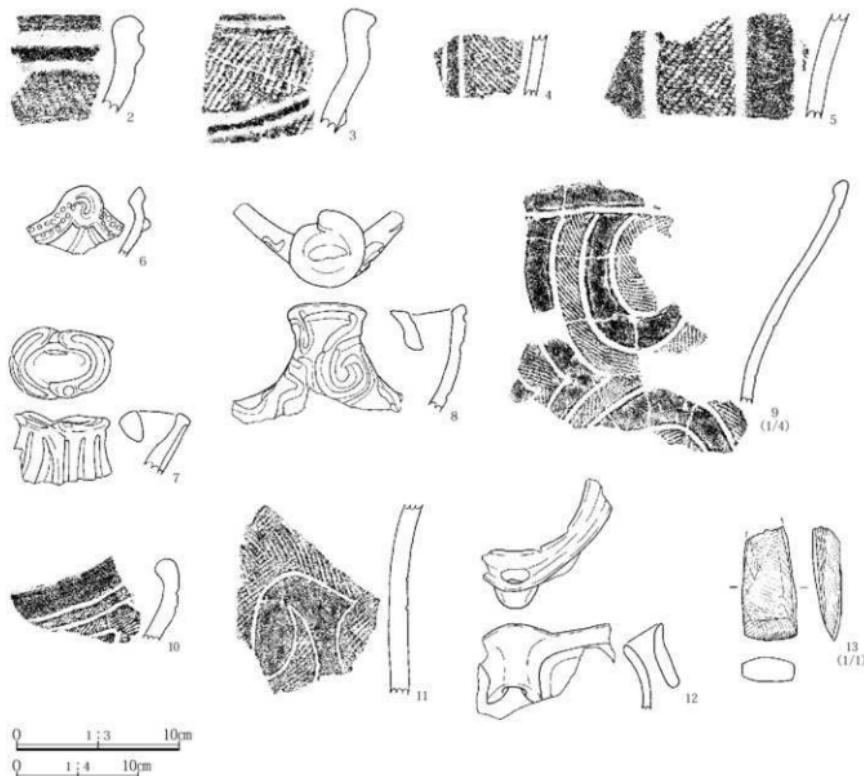
第71図 VII区10号竪穴建物(1)

1 壁穴建物

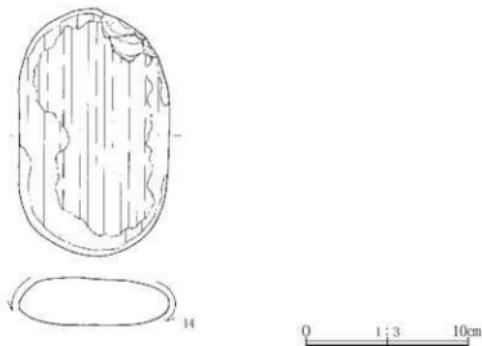


炉上層

- 1 褐色土 白色岩片、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色岩片、炭化物、骨片を少量、灰をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 黄色岩片、焼土、骨片を含む。



第72図 VIII区10号壁穴建物(2)および出土遺物(1)



第73図 VII区10号竪穴建物出土遺物(2)

●VII区11号竪穴建物

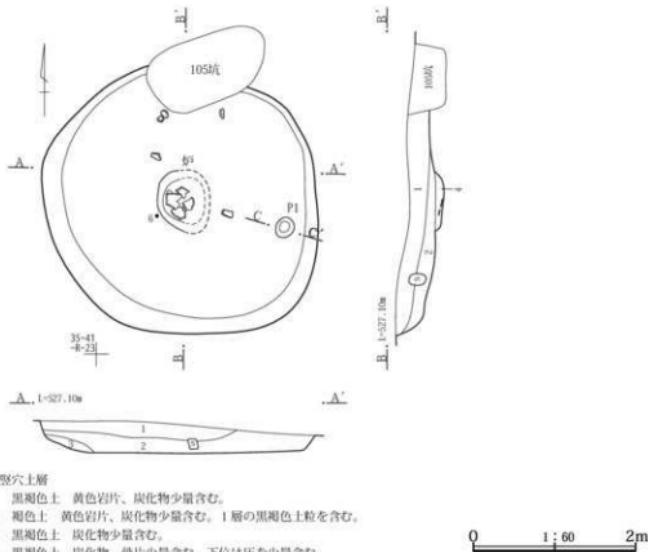
位置 41区Q-23

規模 北壁の一部が105号土坑に壊されているが、ほぼ円形を呈す。長径3.57m、短径3.34m、深さ20cmを測る。

床面 中央部が低く、周縁に向けて高くなる状況を示す。

比高は最大10cmを測る。

炉 中央で地床が検出されている。楕円形状を呈すと考えられ、上端で現状の最大径75cm、深さ10cmを測る。炉内からNo.1が潰れた状態で出土しているが、穴を掘つて埋め込まれた状況ではないため、炉体とは判断できな



第74図 VII区11号竪穴建物(1)

## 1 壁穴建物

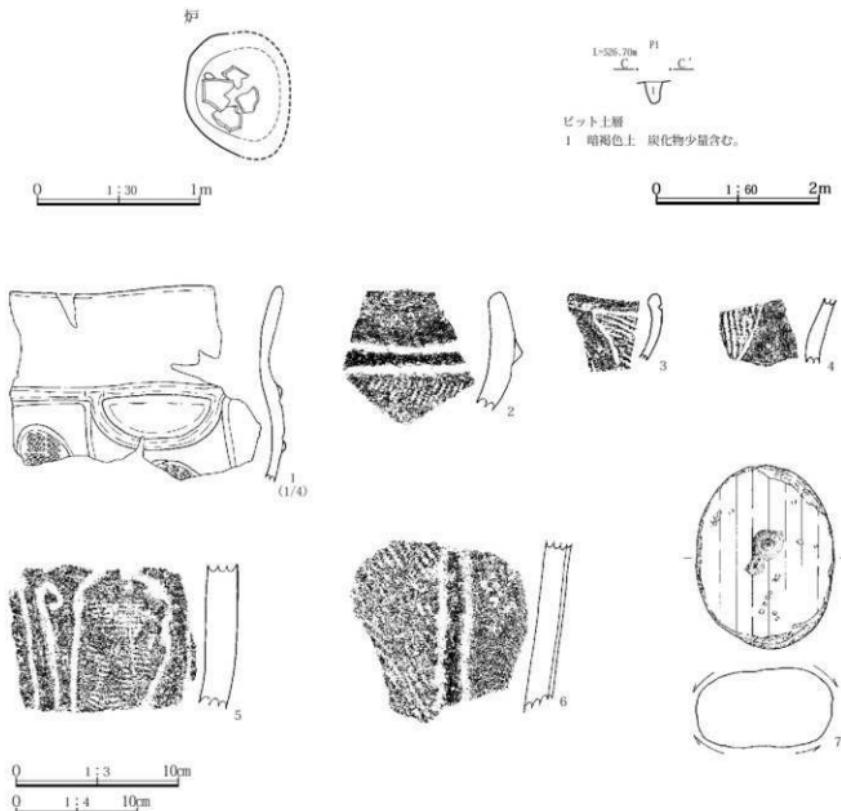
い。建物廃絶後に床面に置き、埋没過程で土圧により潰れた状態になったように見受けられたが、各破片が接合できないため、もともと壊れていた破片を敷いた可能性も考えられる。No.1は炉内から出土した破片の一部である。

柱穴 床面東部でピット1基が確認されているのみで、これ以外は確認されていない。

遺物 出土遺物は少ない。No.2が床直で出土している。

時期 No.1, 2から、加曾利E4式期と考えておきたい。

重複 13号壁穴建物を切る。105号土坑に切られる。



第75図 VIII区11号壁穴建物(2)および出土遺物

## ●VIII区13号竪穴建物

位置 41区P, Q-23

規模 楼円形状を呈す。長径4.62m、短径4.15m、深さ26cmを測る。

床面 断面Aのとおり、東から西に向けて高くなっている。東西の比高は最大27cmを測る。

炉 検出されていない。133号土坑によって壊されてしまったのか、あるいは床面の掘り下げが足りず、炉を

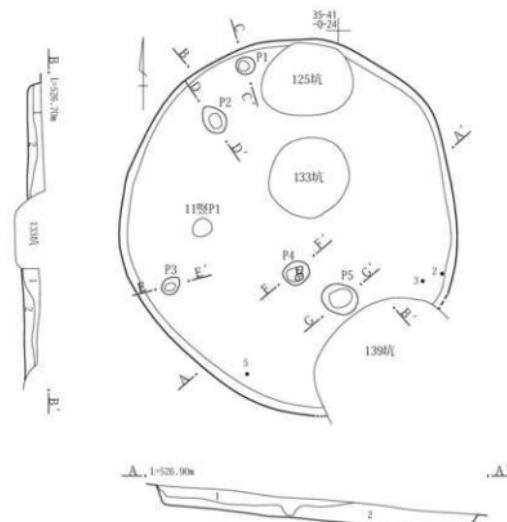
検出していない可能性も考えられよう。

柱穴 5基のビットが確認されているが、東部は欠落する。いずれも浅く、配置も不規則であり、柱穴として捉えられるか疑問である。

遺物 出土遺物は少ないが、ほぼ純粹に加曾利E 3式の破片が出土している。

時期 加曾利E 3式期と考えられる。

重複 11号竪穴建物、125、133、139号土坑に切られる。



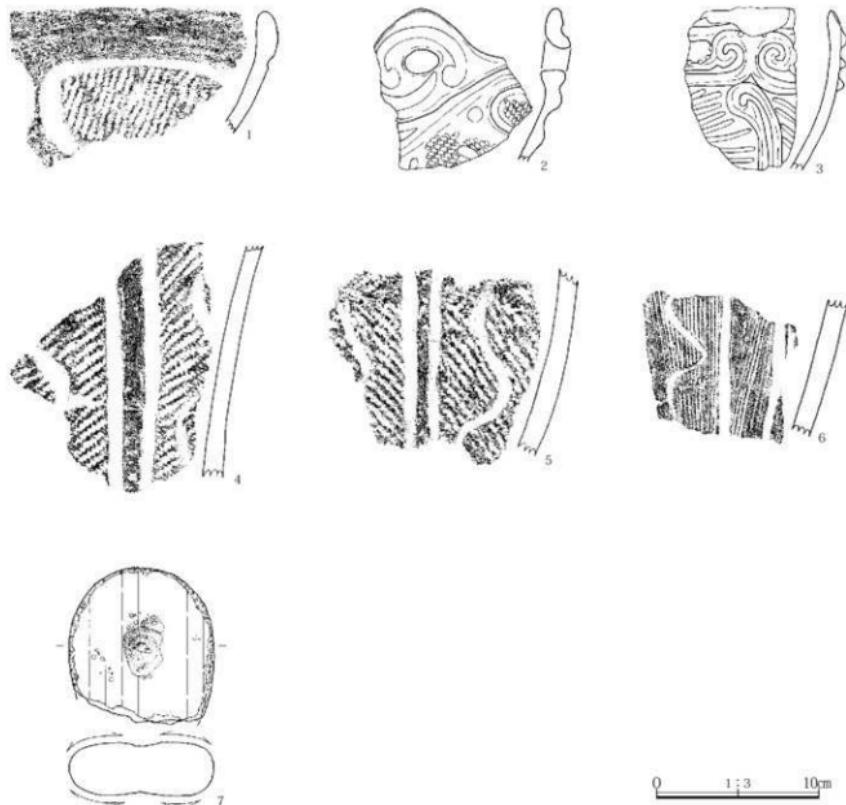
## 13号竪穴上層

1 黒褐色土 黄色岩片、炭化物を多く含む。

2 褐色土 一部グライ化した土を含む。緑色岩片を含む。



第76図 VIII区13号竪穴建物



第77図 VII区13号竪穴建物出土遺物

## ●VII区14号竪穴建物

位置 41区U-18

規模 北半部を10号竪穴建物に壊されており、また、東壁も確認されていないが、現状から楕円形状を呈すものと考えられる。現状の最大径は3.84m、深さ31cmを測る。床面 概ね平坦であるが、西に向けて緩やかに高くなっている。

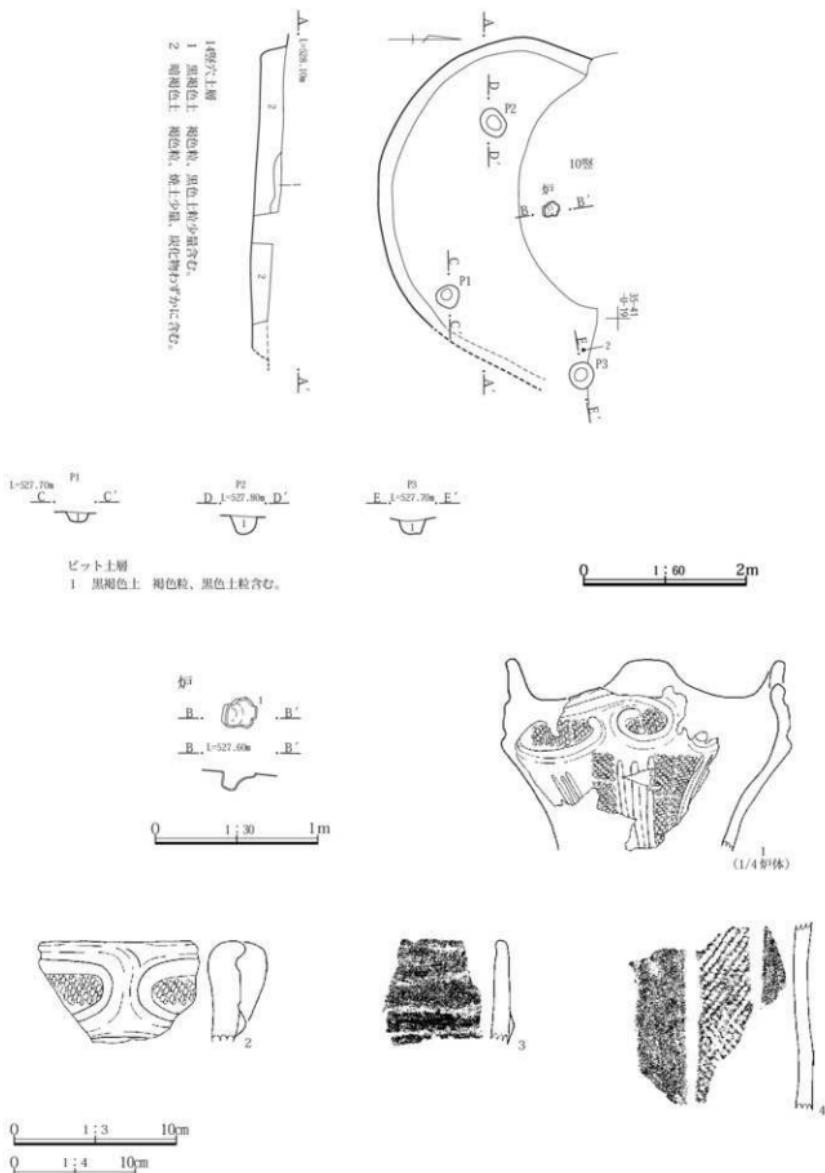
炉 埋甕炉が検出されている。波状口縁の波頂部と胴下半を欠いた深鉢を埋設する。

柱穴 3基のピットが確認されているが、いずれも浅く、配置も不規則である。

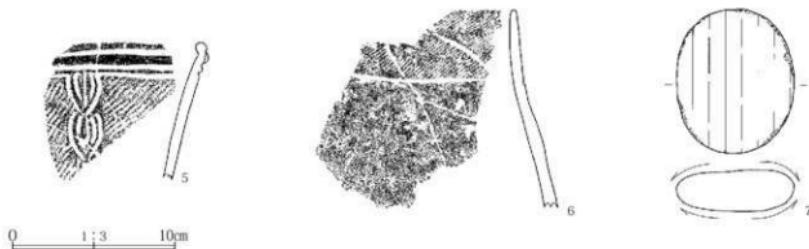
遺物 出土遺物は少ない。床直出土は無く、加曾利E3式を主体に後期まで出土している。

時期 炉体土器から、加曾利E3式期と考えられる。

重複 10号竪穴建物に切られる。



第78図 VIII区14号竪穴建物および出土遺物(1)



第79図 VIII区14号壁穴建物出土遺物(2)

## ●VIII区15号壁穴建物

位置 41区O-24, 25

規模 南東部を5区47号壁穴建物によって壊されるため全容は不明であるが、不整円形状を呈すようである。現状の最大径は4.46m、深さ15cmを測る。

床面 東から西に向けて高くなっている。比高は最大で27cmを測る。

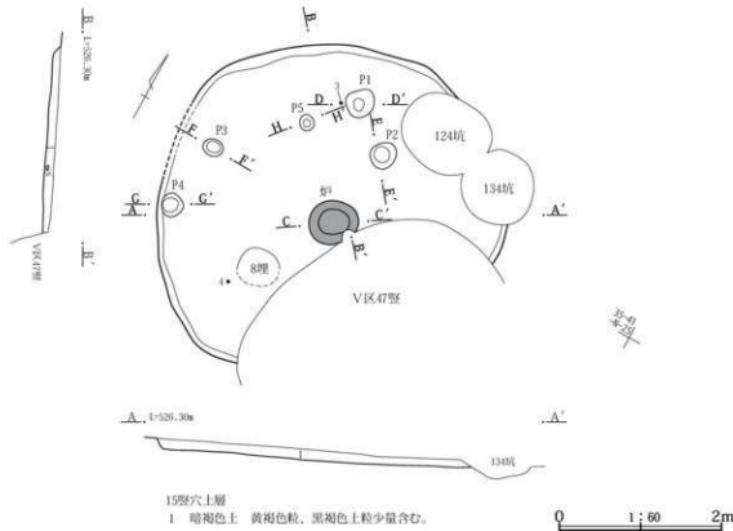
炉 地床炉が検出されている。梢円形状を呈し、上端で長径62cm、短径54cm、深さ10cmを測る。

柱穴 5基のビットが確認されているが、配置は不規則である。

遺物 床面近くになって建物と確認されたため、出土遺物は少ない。床直で出土したものはなく、すべて床面から浮いた状態ないし埋没土中の出土である。

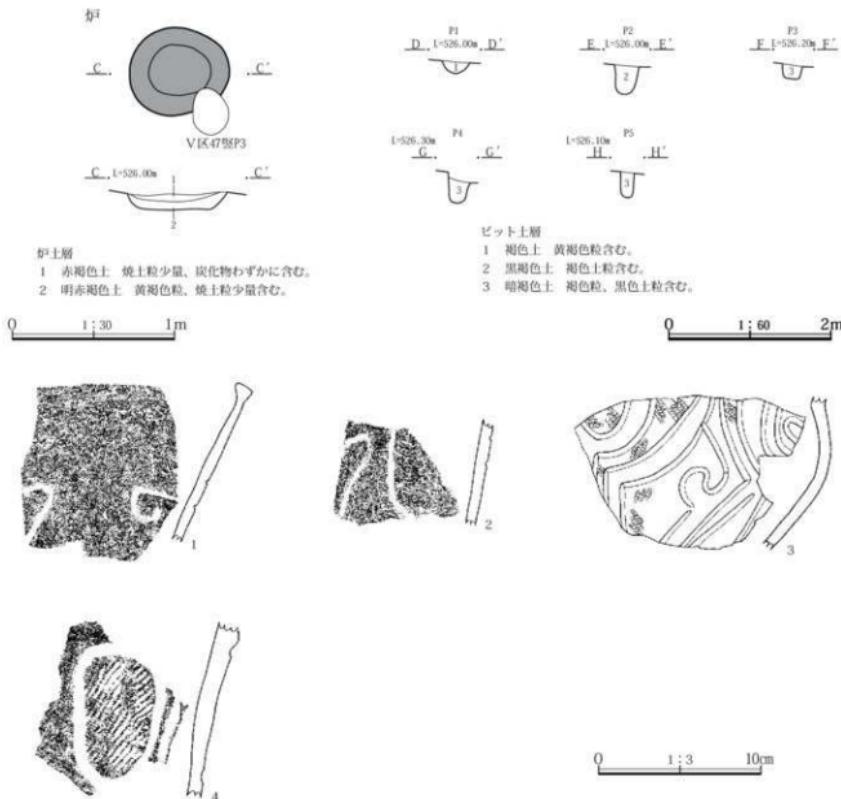
時期 出土遺物が少なく判然としないが、No 1～3により、称名寺式期と考えておきたい。

重複 16号壁穴建物を切る。124、134号土坑、8号埋設土器に切られる。



第80図 VIII区15号壁穴建物(1)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第81図 VII区15号竪穴建物(2)および出土遺物

### ●VII区16号竪穴建物

位置 41区N-24

規模 ほぼ円形を呈す。現状の最大径は4.07m、深さ33cmを測る。

床面 概ね平坦である。

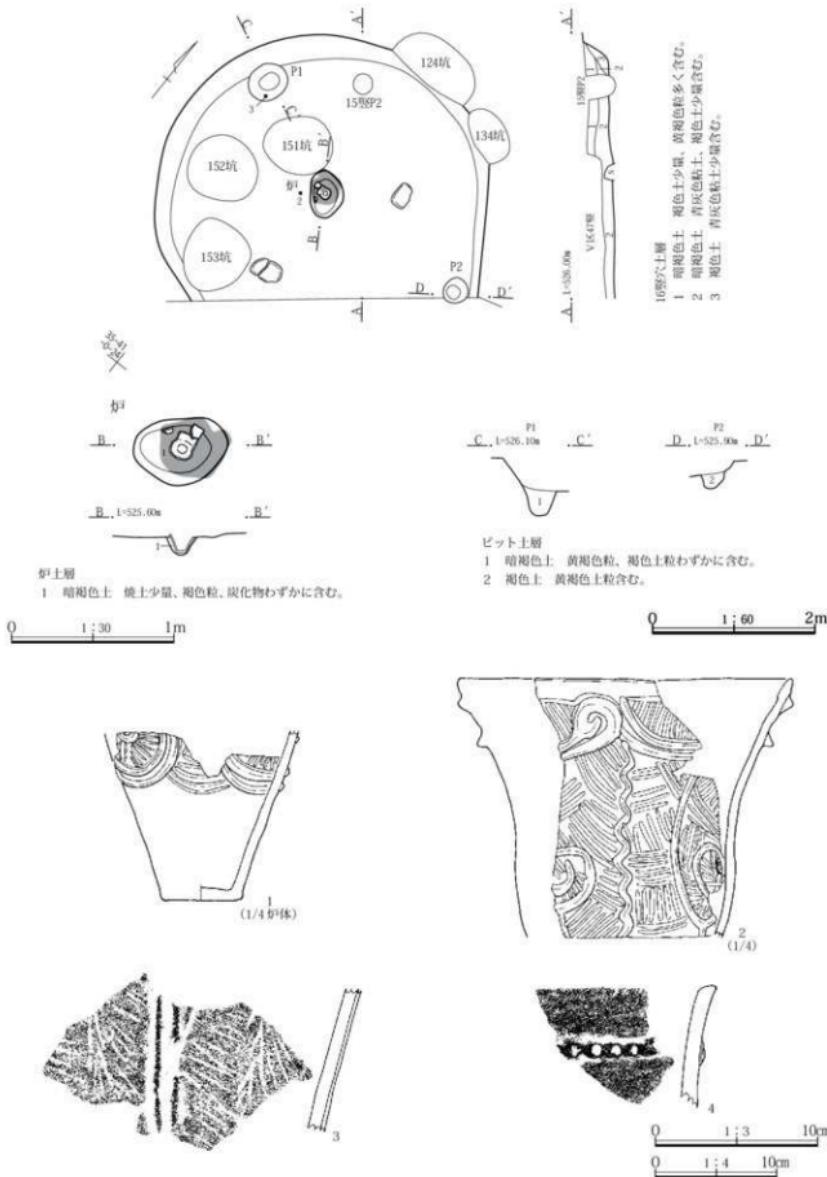
炉 ほぼ中央で地床炉が検出されている。不整椭円形状を呈し、上端で長径58cm、短径41cm、深さ4cmを測る。炉床面のほぼ中央に胴下位～底部の深鉢(1)を埋設し、炉体とする。

柱穴 2基のピットが確認されているのみである。

遺物 出土遺物は少ない。すべて床面から浮いた状態、ないし埋没土中の出土である。

時期 炉体土器から、郷土式期と考えられる。

重複 15号竪穴建物、124、134、151～153号土坑に切られる。



第82図 VII区16号壁穴建物および出土遺物

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

### ●VII区17号竪穴建物

位置 41区 S-23

規模 楕円形状を呈す。長径4.18m、短径3.74m、深さ13cmを測る。

床面 概ね平坦である。

炉 炉は検出されていない。

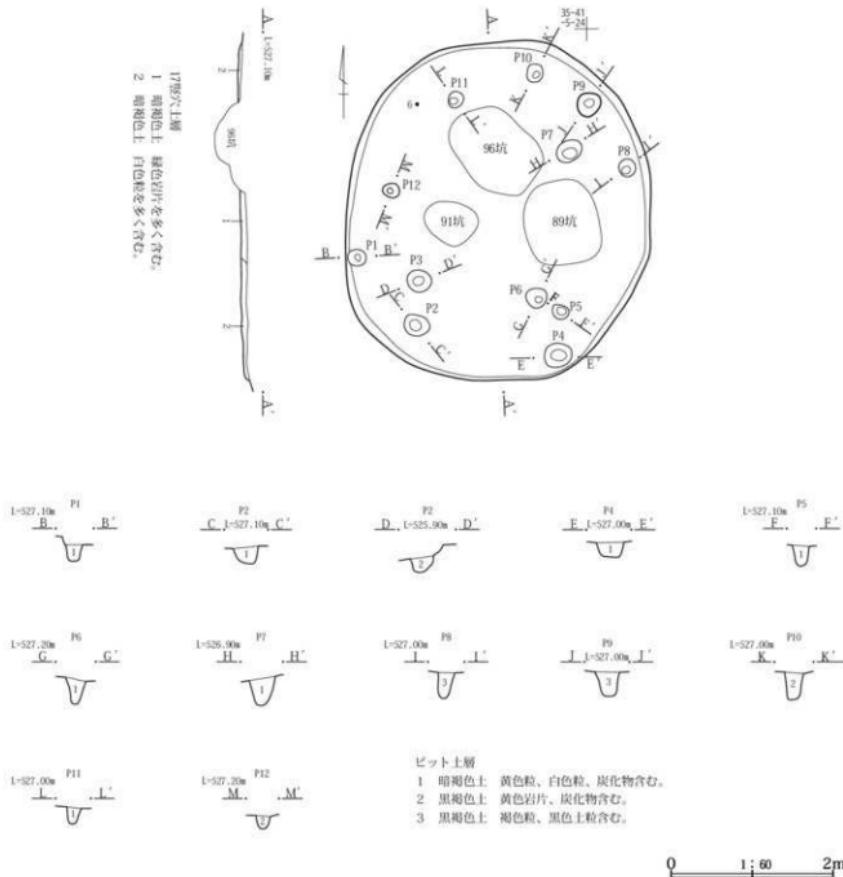
柱穴 周縁部を中心に12基のピットが確認されている。

配置、規模ともに良好な状態を示す。

遺物 №6が床直で出土した以外は、すべて埋没土中からの出土である。

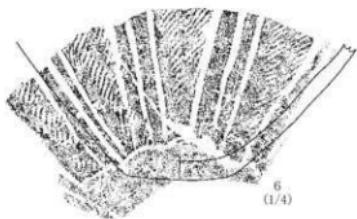
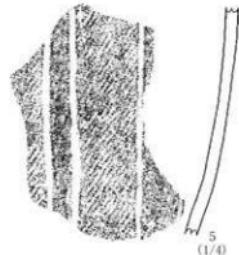
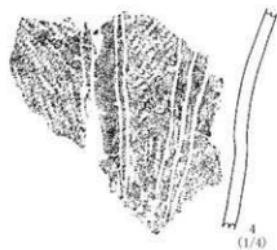
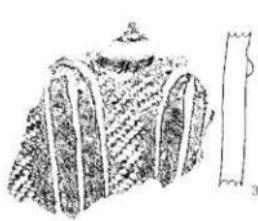
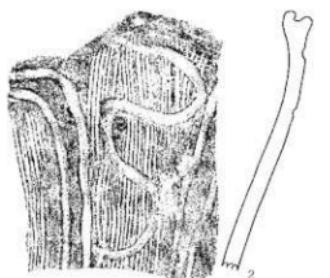
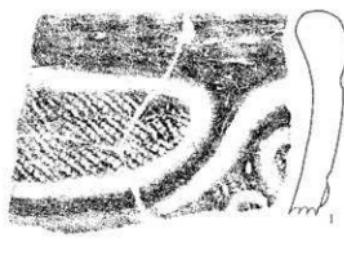
時期 加曾利E3式期と考えられる。

重複 89, 91, 96号土坑に切られる。



第83図 VII区17号竪穴建物

1 壁穴建物



0 1 : 3 10cm  
0 1 : 4 10cm

第84図 VII区17号壁穴建物出土遺物

## 2 竪穴状遺構

竪穴状遺構は、VII区で2基が検出されている。調査時には竪穴建物として調査されたものだが、形状や規模、柱穴としてのピットが検出されていないことから、整理段階において竪穴状遺構と変更したものである。時期は、2基とも加曾利B式期と捉えられる。

## ●VII区 1号竪穴状遺構

位置 41区 V-23

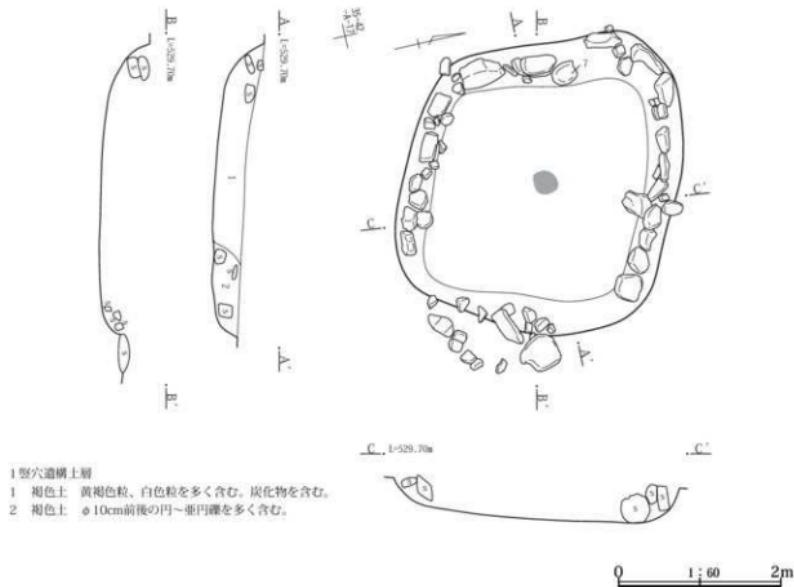
規模 北西角がやや張り出す隅丸方形を呈す。東西3.61m、南北3.35m、深さ37cmを測る。

床面 概ね平坦であるが、北から南、東から西に向けて緩やかに高くなっている。中央部で火を焚いた痕跡があり、焼土の分布が見られた。北・西・南の壁際をめぐるように大形の石が検出されている。床面に置かれた状態ではなく、それぞれが浮いた状態であり、また壁面の勾配に直交するように配されている。

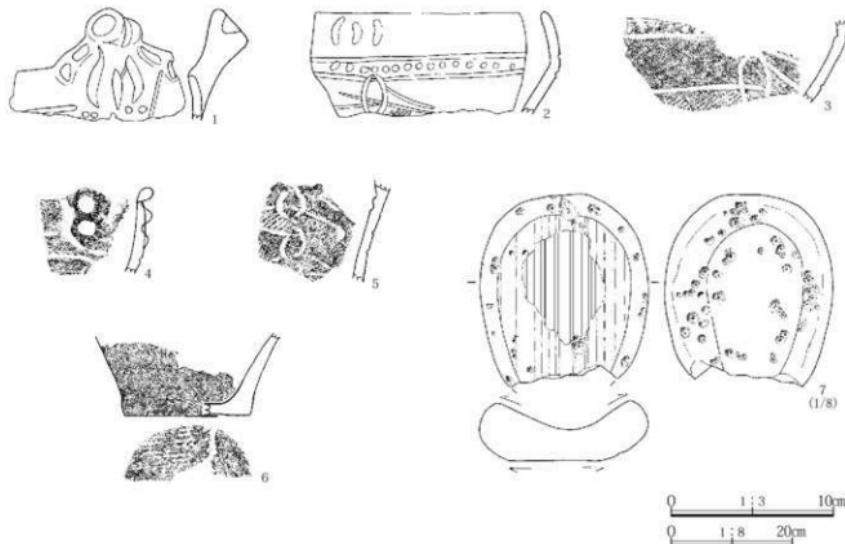
遺物 出土遺物は少ない。位置を記録した遺物がないため、すべて埋没土中の出土である。

時期 加曾利B 2式期と考えておきたい。

重複 なし



第85図 VII区 1号竪穴状遺構



第86図 VII区 1号竪穴状遺構出土遺物

## ●VII区 2号竪穴状遺構

位置 41区 U-20

規模 不整楕円形状を呈す。長径2.40m、短径2.10m、

深さ22cmを測る。

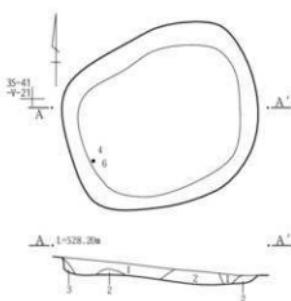
床面 概ね平坦であるが、東から西に向けて緩やかに高

くなっている。

遺物 4, 6が床直以外は、埋没土中の出土である。

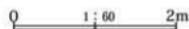
時期 加曾利B2式期と考えられる。

重複 なし

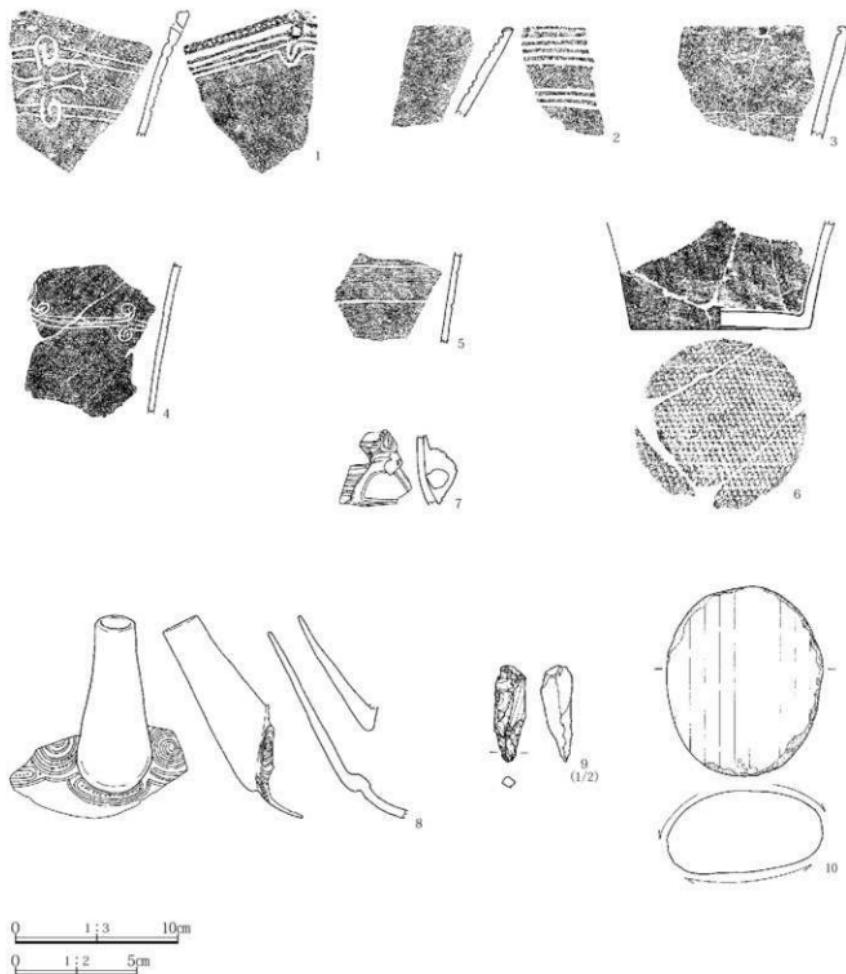


2号竪穴上層

- 1 黒褐色土 褐色粒少量含む。
- 2 明黄色土 黄褐色土、黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 褐色土 壁の崩れ。



第87図 VII区 2号竪穴状遺構



第88図 VII区 2号竪穴状遺構出土遺物

## 3 土坑

土坑は、V区で40基、VII区で90基の計130基が検出されている。詳細は第5~7表のとおりである。断面形状については、以下の6タイプに分類した。

掘鉢状…その名のとおり掘鉢状を呈し、底面に明確な

平坦面をたないもの

浅掘鉢状…掘鉢状のなかで、平面の長径に対して深さ  
が1/3以下のもの

皿状…掘鉢状のなかで、平面の長径に対して深さが  
1/5以下のもの

円筒状…壁の立ち上がりが垂直に近く、底面に平坦面  
をもつもの

浅円筒状…円筒状のなかで、平面の長径に対して深さ  
が1/3以下のもの

袋状…開口部の径よりも、底面あるいは壁面の径が大  
きいもの

浅掘鉢状や浅円筒状、皿状など深さが浅いものについ  
ても、豊穴建物の確認同様、土坑掘り込み面に対して調  
査時の確認面が下がっている可能性があり、本来はより  
深かったものも多いと考えられる。

時期比定については、出土遺物が皆無であったり小破  
片が少量のみであったりと、帰属時期の判断が困難なも  
のが多いが、第5~7表のとおりに判断した。表中の時  
期の欄に記載があるが、出土遺物図の掲載がないものは  
小破片のため掲載しなかったものである。

以下、区ごとに概要を述べる。

**V区** 40基が検出されているが、中期後葉期の所産と判  
断されるものが13基、後期前半期の所産と判断されるも  
のが15基である。それ以外の12基は帰属時期が判断でき  
ない。

第5表 V区土坑一覧

(単位:cm)																	
No	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考	No	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
248	41-E-14	円形	掘鉢状	70	64	33	後期前半		270	41-G-10		円筒状	—	77	42	称名寺	
249	41-F-13	円形	円筒状	104	100	36	加曾利E3		271	41-G-11		円筒状	—	85	41	称名寺I	11個穴を切 る
251	41-L-8	楕丸長方形	浅円筒状	108	77	15	瓶之内2		272	41-K-7	不整円形	円筒状	63	60	33	加曾利E3	
252	41-L-8	円形	浅掘鉢状	62	62	13	瓶之内2		273	41-L-7	円形	掘鉢状	62	60	54	中期後葉	
253	41-K-8	楕円形	掘鉢状	(230)	120	45	称名寺	9厘米を切る	274	41-K-8	楕円形	浅掘鉢状	72	60	23		99個穴に切 られる
254	41-M-8	楕円形	円筒状	123	100	60	瓶之内2		275	41-H-11	円形	円筒状	85	82	54	郷土	
255	41-K-7	不整円形	浅円筒状	88	(84)	22	加曾利E3	101,116個 を切る	276	41-J-10	楕円形	皿状	—	107	21	後期前半	100%, 26個穴に切 られる
256	41-L-10	楕円形	円筒状	158	126	88	瓶之内	菊穴六	277	41-L-7	楕円形	浅円筒状	68	55	19	中期	
257	41-M-8	円形	円筒状	77	76	33	瓶之内1	9厘米を切る	279	41-G-11		浅掘鉢状	—	83	17	後期前半	11個穴を切 る
258	41-N-6	円形	浅掘鉢状	97	85	26			280	41-G-10		袋状	—	66	36	後期前半	焼土含 む
259	41-J-14	円形	円筒状	64	60	71	瓶之内1		283	41-M-6	円形	掘鉢状	86	74	50		121個, 289個穴を切 れる
260	41-L-14	楕円形	浅掘鉢状	81	73	21	中期後葉		284	41-M-6	楕円形	浅円筒状	88	62	22		289個穴を切 れる
261	41-L-9	円形	袋状	78 (最 大87)	69 (最 大76)	43	加曾利E4	90厘米を切る	285	41-L-7	不整円形	浅掘鉢状	86	80	20		101,116, 120個穴に切 られる
262	41-G-12	円形	皿状	55	52	13			286	41-L-6	楕円形	浅円筒状	81	72	21	後期前半	
264	41-J-10	楕円形	浅掘鉢状	128	92	32		278個穴を切 る	287	41-G-11	楕円形	掘鉢状	96	70	27		11個穴に切 られる
265	41-E-13	円形	掘鉢状	73	62	61	郷土		288	41-H-11	円形	掘鉢状	73	67	35	郷土	
266	41-E-13	楕円形	掘鉢状	60	48	30			289	41-M-6	楕円形	掘鉢状	183	140	62		121個, 283,288個穴 に切られる
267	41-E-13	不整円形	掘鉢状	68	61	52	郷土		290	41-L-8	円形	円筒状	80	79	56	加曾利E3	10個穴を切 る 99個穴に切 られる
268	41-F-13		円筒状	—	75	32		103厘米を切 る	291	41-I-9	円形	浅掘鉢状	50	44	17	後期前半	110個穴を切 る 燒土含 む
269	41-G-11		円筒状	—	48	35		11厘米を切 る	292	41-L-8	楕円形	皿状	76	67	10	加曾利E3	120個穴を切 る

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

第6表 VIII区土坑一覧(1)

												(単位:cm)					
№	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考	№	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
29	42-D-17	円形	皿状	78	71	9			93	41-X-19	圓丸長方形	皿状	203	103	25	加曾利B	
30	42-C-18	楕円形	浅円筒状	79	63	21			94	41-W-20	円形	円筒状	91	87	42		
40	41-X-17	円形	袋狀	63 (最 大86) 54 (最 大76)	52	後期中葉			95	41-T-18	不整円形	浅円筒状	96	53	20	縛之内2	埴上、骨 片含 5列石の 下層
43	42-D-19	楕円形	浅円筒状	100	82	23	加曾利B		96	41-S-23	楕円形	円筒二段	(121)	86	38	加曾利E3	17孔を切る
44	42-D-19	円形	浅鑿跡状	113	101	24	加曾利B		97	41-X-19	楕円形	鑿跡状	131	108	42		9孔に切 られる
45	42-D-20	楕円形	浅鑿跡状	67	53	17	中期後葉		98	41-R-25	楕円形	皿状	164	118	27	加曾利E3	
46	42-D-21	楕円形	鑿跡状	70	50	39	加曾利B		99	41-R-25	円形	浅円筒状	123	107	26	後期前葉	
47	41-W-22	楕円形	皿状	128	108	19	加曾利Bか	48孔を切る	100	41-W-20	楕円形	浅鑿跡状	92	77	25	加曾利E4	
48	41-W-21	楕円形	浅鑿跡状	108	72	20	縛之内2	47孔に切 られる	101	51-P-1	不整円形	皿状	87	77	19	縛之内1	焼得多含
49	41-V-19	楕円形	浅鑿跡状	127	96	25	縛之内2	燒上含	102	41-P-25	円形	浅円筒状	86	81	9		
51	41-V-19	圓丸方形	浅円筒状	109	101	22	後期中葉		103	51-N-1	円形	円筒状	125	120	55	加曾利B	
52	41-V-19	圓丸長方形	浅円筒状	176	100	22	加曾利B		104	51-R-1	円形	浅鑿跡状	79	76	26		
53	41-V-20	不整円形	浅円筒状	107	100	30	縛之内1		105	41-Q-23	楕円形	円筒状	151	83	45	加曾利E3	17孔を切る
54	41-W-19	楕円形	浅鑿跡状	—	47	20	加曾利E4	55孔に切 られる	108	41-R-24	不整円形	円筒状	61	50	28		
55	41-W-19	円形	円筒状	133	118	42	後期前葉 ～中葉	燒上含 5個を切る	109	41-R-24	円形	円筒状	41	31	37		
56	41-W-19	楕円形	浅鑿跡状	—	58	23		底面近く 燒上、灰 57孔に切 られる	110	41-R-24	円形	円筒状	51	41	22		
57	41-W-19	楕円形	浅鑿跡状	88	62	21	後期前葉	骨片含 56孔を切る	112	51-S-2	円形	円筒状	74	66	26	加曾利B	埴上、灰、 骨片含
58	41-W-17	円形	浅円筒状	73	63	15	後期前葉	骨片含	113	41-P-24	円形	円筒状	165	150	70	縛上	148孔を切 る
59	41-U-19	楕円形	円筒状	78	56	28	縛之内2	骨片含	115	41-U-20	圓丸方形	浅円筒状	106	94	23		66孔に切 られる
60	41-W-18	楕円形	円筒状	99	78	45	加曾利E4		116	41-P-24	楕円形	皿状	130	110	8	縛之内2	
61	41-U-16	楕円形	浅鑿跡状	107	79	33	加曾利E4		117	41-U-20	不整円形	円筒状	120	115	44	加曾利B	
62	41-V-20	円形	浅円筒状	91	83	33	後期前葉	骨片含	118	41-O-24	円形	袋狀	112	80	48	後期中葉	
63	41-V-20	不整円形	皿状	90	76	6	加曾利B		119	41-P-24	円形	浅円筒状	67	66	10		169孔を切 る
64	41-V-18	円形	浅円筒状	123	121	18	加曾利B		120	51-O-1	楕円形	円筒状	86	65	42		2理に切 られる
65	41-W-21	楕円形	浅円筒状	151	114	18	縛之内1		122	51-O-1	円形	浅鑿跡状	62	58	23	E3か 縛之内1	
66	41-U-20	楕円形	浅円筒状	101	75	30	加曾利B	119孔を切 る	123	41-Q-22	圓丸長方形	浅円筒状	120	84	32		
67	41-U-20	楕円形	円筒状	73	63	40	後期前葉 ～中葉		124	41-N-25	楕円形	浅円筒状	110	92	10	称名寺II	15.16壁、 145孔を切 る
68	41-V-21	円形	皿状	159	144	23	加曾利E3		125	41-Q-23	圓丸長方形	浅円筒状	121	111	22	縛之内1	137孔を切 る
71	41-V-22		浅鑿跡状	—	80	22		72孔に切 られる	126	41-T-23	楕円形	浅円筒状	88	64	22	加曾利B	
72	41-V-22	楕円形	浅円筒状	123	98	23	縛之内2	71孔を切る	128	41-R-22	円形	皿状	87	77	9	加曾利E3	
78	41-X-19	円形	円筒状	86	80	50	縛之内1		129	41-T-22	楕円形	円筒状	103	75	40	後期前葉	3列石の 下層
79	41-W-18	楕円形	鑿跡状	90	68	40			130	41-V-19	円形	円筒状	87	80	45	加曾利E3	
80	41-U-19	不整円形	皿状	143	124	18		下層に燒 上、灰	132	41-V-21	楕円形	浅円筒状	(170)	103	16		
82	41-U-16	円形	浅円筒状	—	86	27	加曾利E4		133	41-Q-23	円形	浅円筒状	113	95	32	縛之内1か 骨片含	137孔を切 る
83	41-X-20	円形	浅円筒状	98	91	25	称名寺I		134	41-N-25	円形	浅円筒状	92	89	17	称名寺I	15.16壁、 145孔を切 る
84	41-X-19	円形	円筒状	110	110	73	称名寺I		135	41-N-25	楕円形	浅円筒状	113	67	9	骨片含	
85	41-T-19	不整円形	浅円筒状	86	77	15		5列石の 下層	136	41-N-25	円形	浅円筒状	83	73	23	骨片含	
87	41-U-20	楕円形	鑿跡状	—	89	41	加曾利B		138	41-M-25		皿状	203	—	10	加曾利B	骨片含
89	41-S-23	不整円形	円筒状	103	92	62	加曾利Bか	17孔を切る	139	41-Q-23		円筒二段	—	225	32	加曾利E3	137孔を切 る
91	41-S-23	楕円形	鑿跡状	61	52	42	加曾利Bか	17孔を切る	141	41-T-22	楕円形	円筒状	114	86	66	後期前葉 ～中葉	3列石の 下層
92	41-X-19	楕円形	浅円筒状	222	138	24	加曾利E3	97孔を切る	142	41-T-22	円形	浅円筒状	88	83	20		3列石の 下層

第7表 VIII区土坑一覧(2)

No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考	No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
143	41-U-22	楕円形	円筒状	79	62	35	加曾利B式期	3列石の下層	147	41-T-22	楕円形	浅円筒状	106	62	17	後期前葉	3列石の下層
144	41-R-22	楕円形	浅円筒状	248	171	32	加曾利E式期	8配石の下層	151	41-N-24	円形	浅鑿鉢状	86	71	20	称名寺Ⅱ	16壁を切る
145	41-N-25		浅鑿鉢状	-	88	22	称名寺Iか	12A,12B坑に切られる	152	41-O-24	円形	浅円筒状	87	82	23		16壁を切る
146	41-P-24		浅円筒状	-	106	28	中期後葉	113,119坑に切られる	153	41-N-24	円形	浅円筒状	87	78	19		16壁を切る

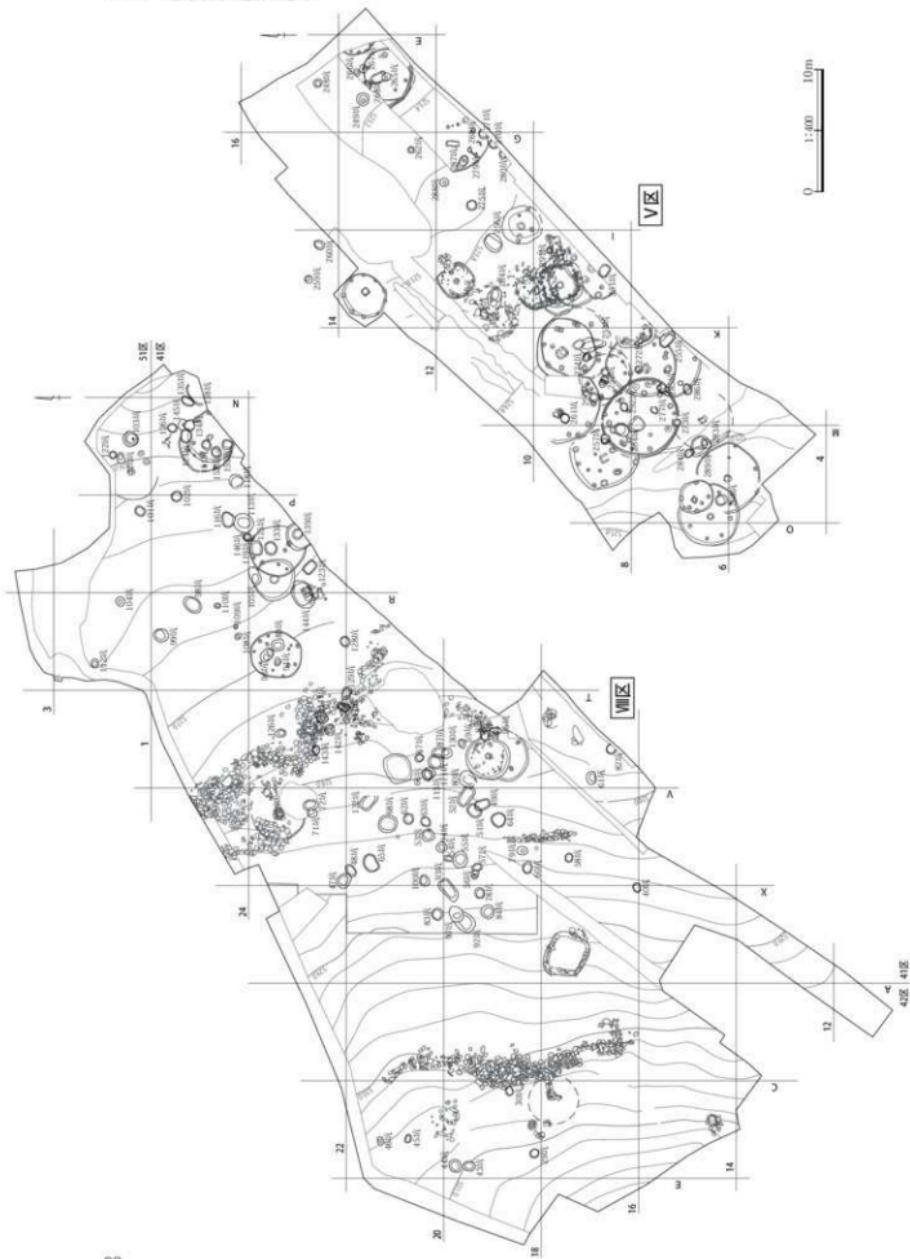
ないものであるが、中期後葉～後期前半期の所産であることは間違いないであろう。V区では後期の竪穴建物は称名寺Ⅰ式期1棟のみであったが、多くの土坑の検出を見ており、特徴的である。なお、堀之内2式期までであり、加曾利B式期の土坑は見られない。北接するV区(『東宮遺跡(5)所収』)においては、該期の竪穴建物が多く検出されており、本V区は竪穴建物周縁部の貯蔵穴群として捉えることが可能であろう。また、中期後半期に閲しても、V区は区全域が集落域内であるため、検出された土坑も竪穴建物に付随するもので、多くは貯蔵穴の用途であると考えられる。254, 257, 275, 290号土坑など、断面形状が円筒状を呈し、掘り込みもしっかりしている。252号から磨石が、255号から磨製石斧、凹石、石皿が、290号から石皿が出土しており、貯蔵穴としての機能を失った後、廃棄されたものと推測できる。また、261, 280号は掲載できるほどの遺物は出土しなかったが、断面形状が袋状を呈していることから、やはり貯蔵穴として位置づけられるだろう。256号は、その形状から陥穴と考えられるが、集落域内に存在するのは疑問であり、周辺遺跡で多くの例がある古代の所産である可能性も考えられる。

VII区 90基が検出されているが、中期後葉期の所産と判断されるものが19基、加曾利B式を含めた後期前半期の所産と判断されるものが46基であり、それ以外についても中期後葉～後期前半期の所産と考えられる。V区に比べて後期が多くなる傾向が看取され、また加曾利B式期が多いことが特筆される。竪穴建物の分布と連動しているといえよう。VII区は弧状集落の北縁にあたり、調査区南東部に竪穴建物が集中する。土坑についても、各時期にわたって竪穴建物群の外周に沿った分布を示す傾向が看取される。これらはV区に比べて掘り込みが深い傾向があるが、V区同様、貯蔵穴群の性格を有していると考

えられる。54, 58, 129, 151号から磨石、99号から凹石、49, 89, 100, 116号から多孔石が出土しており、植物質食料加工に関わる遺物の出土が見られることは、これらの土坑が貯蔵穴であった証左となる。他にも断面形状が袋状であったり、円筒状で掘り込みのしっかりしているものは貯蔵穴である可能性が高いと考えられる。一方で、明らかに墓穴に比定しうる土坑は分からなかった。29, 30, 43～46号は1号列石の背後(列石の山側)に位置しており、他とは異なった様相を示す。土坑構築の意図が異なる可能性も考えられるが、多くは加曾利B式期であるため、時期による偏在と捉えておきたい。

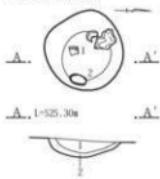
ここで若干の補足を加えておきたい。60号については、加曾利B式と加曾利E4式が混じるが、底面に接するようにNo.5が出土していることから加曾利E4式期の所産であり、60号の上部に加曾利B式期の土坑がもう1基重複していたと判断したい。124号の出土遺物No.3は、調査時には16号竪穴建物の床下土坑として取り上げられたものである。16号竪穴建物は郷土式期と判断しており、齶齶が生じたため上層にある124号土坑に帰属を修正した。そのため遺物観察表の出土位置に底下23cmと記載している。本来の124号は、掲載図より深い掘り込みであったと考えられる。

最後に、土坑埋没土中に含まれる骨片について触れておく。V区291号、VII区57～59, 62, 101, 133, 135, 136, 138号は、埋没土中に骨片が含まれている。またV区254, 280号、VII区49, 55, 56, 80号では焼土が、VII区95, 112号では焼土とともに骨片が含まれていることが確認されている。どのような経緯で骨片が混入するのかは不明であるが、時期が比定できるものはすべて後期の所産であり、特徴的な事例といえよう。



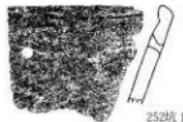
第80図 土坑全体図

VI区252号土坑



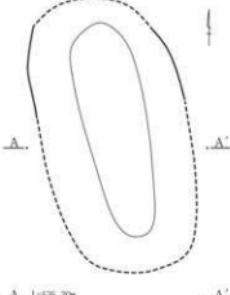
252号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒、黄色鉱石、炭化物多く含む。  
2 灰黄褐色土 1層に比して黄色粒多く含む。



252坑2

VI区253号土坑

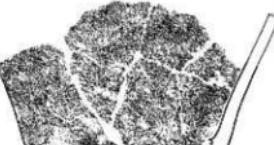
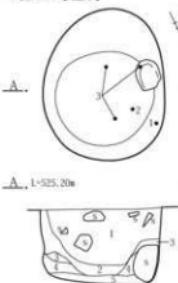


253号土坑

- 1 に赤い黄褐色土 黄色粒、白色粒多量、小礫、炭化物わずかに含む。  
2 に赤い黄褐色土 白色粒多量、炭化物含む。  
3 に赤い黄褐色土 黄色粒、白色粒多く含む。



VI区254号土坑



254号土坑

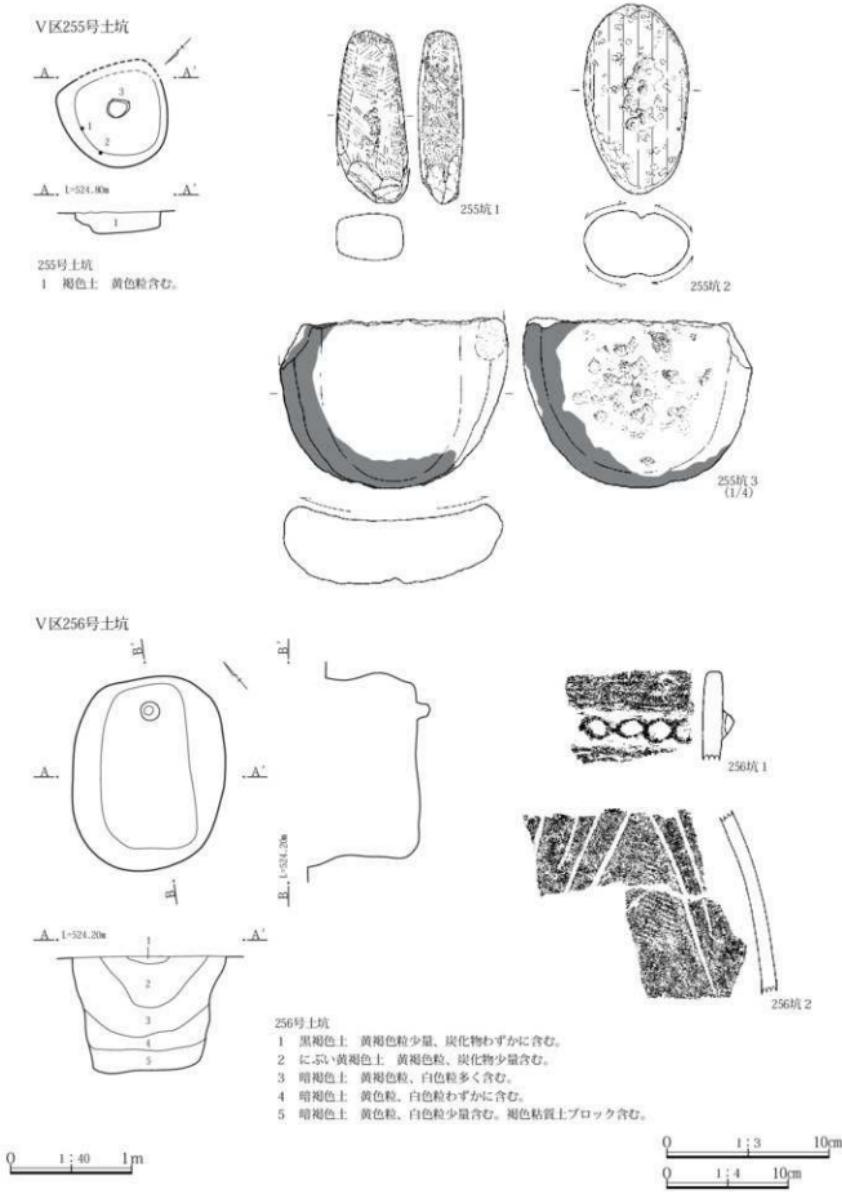
- 1 暗褐色土 黄褐色粒多量、白色粒、炭化物少量含む。  
2 に赤い黄褐色土 黄褐色粒、炭化物少量、燒土粒含む。  
3 明赤褐色土 燃土層、黄褐色粒含む。  
4 黑褐色土 黄褐色粒わずか、炭化物多く含む。  
5 に赤い黄褐色土 黄褐色土、白色粒少量、炭化物、燒土粒わずかに含む。

0 1:40 1m

0 1:3 10cm

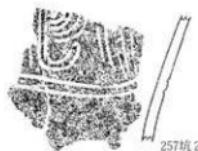
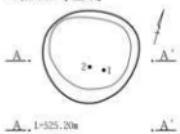
第90図 VI区土坑(1)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第91図 V区土坑(2)

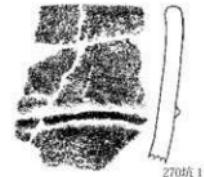
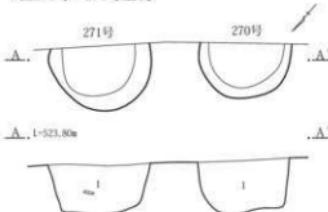
V区257号土坑



257号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒、炭化物わずかに含む。  
2 黒褐色土 黄褐色粒、炭化物少量、白色粒わずかに含む。

V区270号・271号土坑



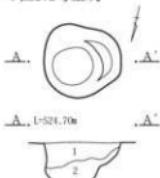
271号土坑

- 1 黑褐色土 炭化物少量、白色粒、褐色鉄石わずかに含む。

270号土坑

- 1 黑褐色土 褐色粒、白色粒わずかに含む。

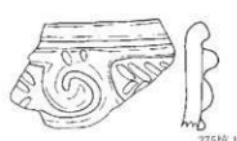
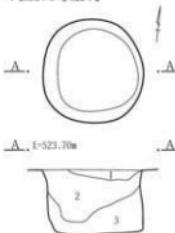
V区272号土坑



272号土坑

- 1 黑褐色土 黄褐色粒多量、白色粒、炭化物少量含む。  
2 黑褐色土と褐色土の混土 黄褐色粒、白色粒、炭化物わずかに含む。

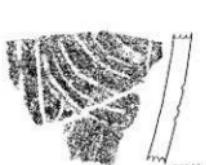
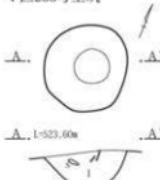
V区275号土坑



275号土坑

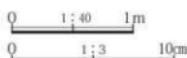
- 1 褐色土 炭化物少量、 $\phi 5\text{ mm}$ 程度の風化岩片を多く含む。  
2 褐色土 炭化物少量、 $\phi 5\text{ mm}$ 程度の風化岩片を非常に多く、径3~5cmの塊を少量含む。  
3 に赤い黄褐色土 炭化物少量、 $\phi 5\text{ mm}$ 程度の風化岩片を多く含む。

V区288号土坑



288号土坑

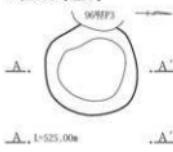
- 1 暗褐色土 黄褐色粒少量、炭化物わずかに含む。



第92図 V区土坑(3)

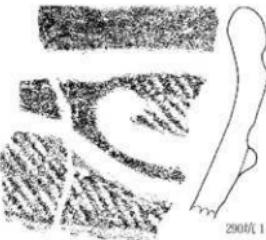
## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

V区290号土坑

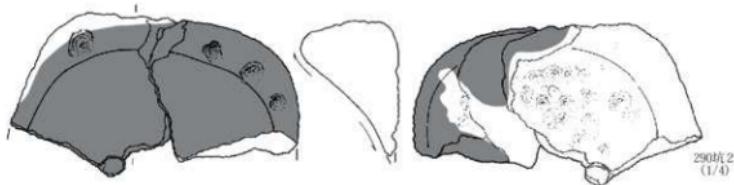


290号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色粒多量、炭化物少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色粒わずかに含む。
- 3 灰黄褐色土 黄褐色色粒少量、黒褐色土粒わずかに含む。

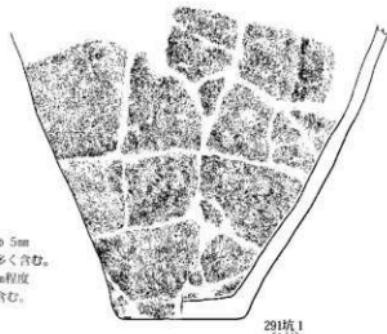
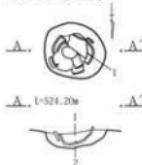


290坑1



290坑2  
(1/4)

V区291号土坑

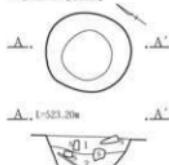


291坑1  
(1/4)

291号土坑

- 1 黒褐色土 烧骨片、炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 暗褐色土 炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

V区248号土坑



V区292号土坑



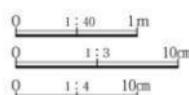
292坑1

292号土坑

- 1 にふい黄褐色土 黄色粒、黄色鉢石多量、炭化物わずかに含む。

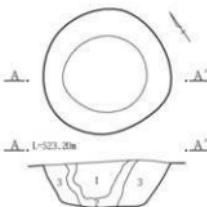
248号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒少量、炭化物多く含む。
- 2 褐色土 黄褐色粒少量、炭化物わずかに含む。

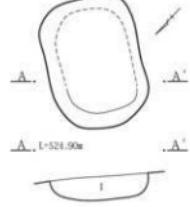


第93図 V区土坑(4)

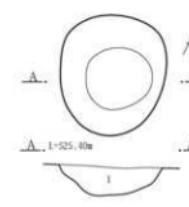
V区249号土坑



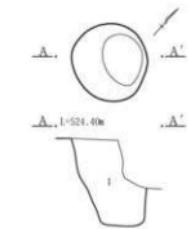
V区251号土坑



V区258号土坑



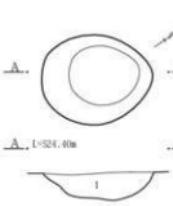
V区259号土坑



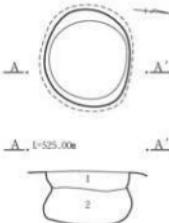
249号土坑

- 1 黄褐色土 黄褐色粒、白色粒、炭化物少量含む。
  - 2 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒少量含む。
  - 3 にぶい黄褐色土 砂質。白色粒、黄褐色粒少量含む。
- 251号土坑
- 1 にぶい黄褐色土 黄色粒わずかに含む。

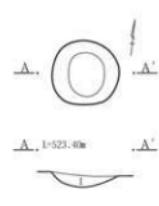
V区260号土坑



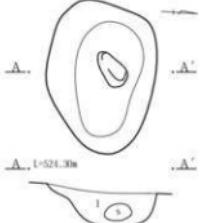
V区261号土坑



V区262号土坑



V区264号土坑



260号土坑

- 1 黄褐色土 黄褐色粒多量、白色粒少量、炭化物わずかに含む。
- 261号土坑

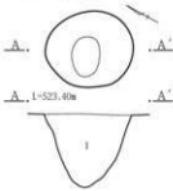
  - 1 黄褐色土 黄褐色粒少量、白色粒、炭化物わずかに含む。
  - 2 黄褐色土 黄褐色粒、白色粒わずかに含む。

262号土坑

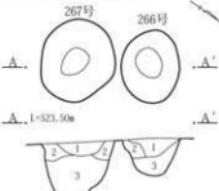
- 1 黄褐色土 黄褐色粒、白色粒少量、炭化物わずかに含む。
- 264号土坑

  - 1 暗褐色土 黄色土、白色粒、炭化物多く含む。

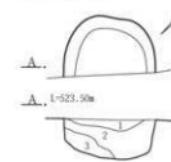
V区265号土坑



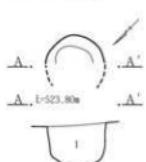
V区266号・267号土坑



V区268号土坑



V区269号土坑



265号土坑

- 1 黑褐色土 黄褐色粒少量、炭化物わずかに含む。
- 266・267号土坑

  - 1 にぶい黄褐色土 炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
  - 2 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック。φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
  - 3 にぶい黄褐色土 φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

268号土坑

- 1 灰褐色土 褐色粒わずかに含む。
- 2 褐色土 白色粒わずかに含む。
- 3 黑褐色土 褐色粒わずかに含む。
- 269号土坑

  - 1 暗褐色土 炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

0 1:40 1m

第94図 V区土坑(5)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第95図 V区土坑(6)

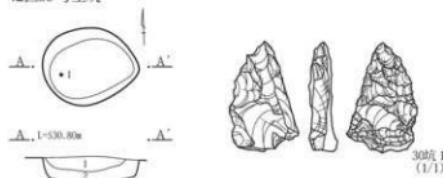
## VIII区 29号土坑



## 29号土坑

1 灰褐色土 黄褐色粒、炭化物含む。一部グライ化土含む。  
2 灰黑色土 1層より明るい。グライ化土主体。

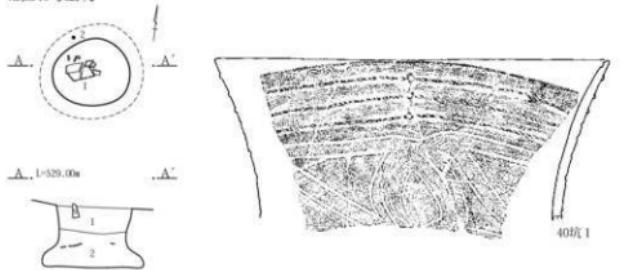
## VIII区 30号土坑



## 30号土坑

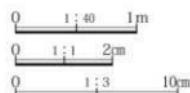
1 灰黑色土 小岩碎片多く含む。グライ化見られる。  
2 灰褐色土 1層より岩碎片少ない。一部グライ化土含む。

## VIII区 40号土坑

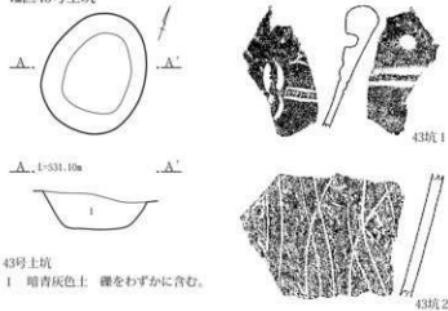


## 40号土坑

1 暗褐色土 黄褐色粒少量、褐色土粒わずかに含む。  
2 黑褐色土 褐色粒、黑色土粒少量含む。



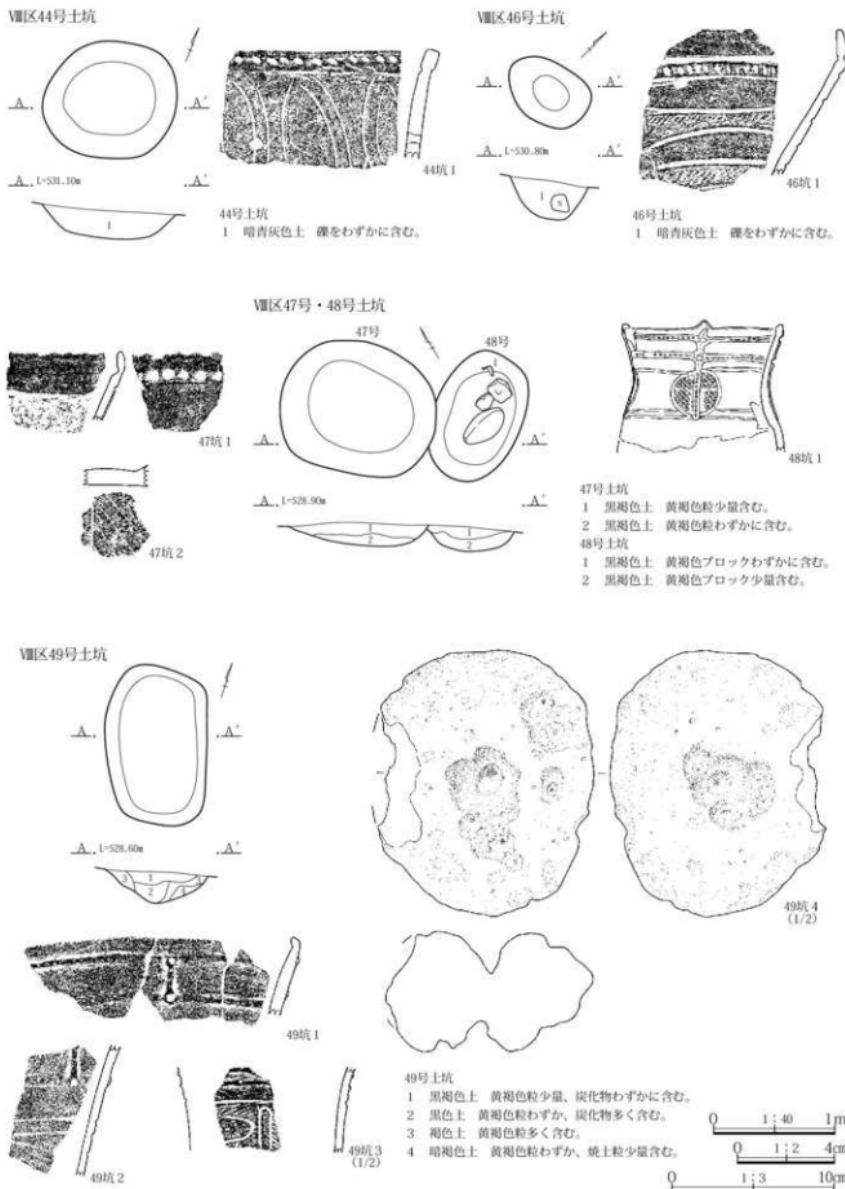
## VIII区 43号土坑



43号土坑  
1 墓青灰色土 磬をわずかに含む。

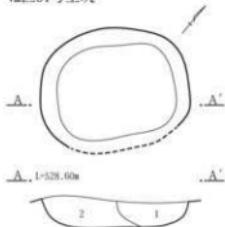
第96図 VIII区土坑(1)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



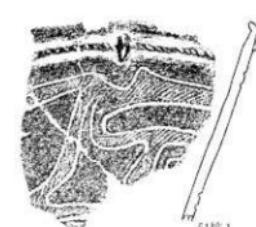
第97図 VII区土坑(2)

## VIII区51号土坑

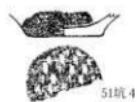


## 51号上坑

1 暗褐色土 褐色粒少量含む。  
2 黑褐色土 黄褐色ブロック少量含む。

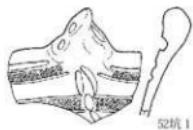
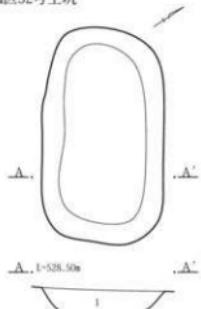


51坑 3



51坑 4

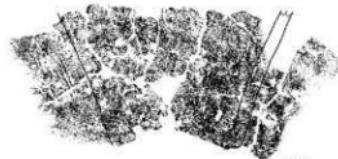
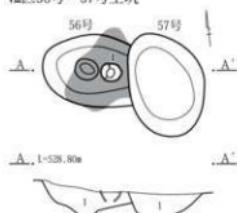
## VIII区52号土坑

51坑 5  
(1/2)

## 52号上坑

1 暗褐色土 褐色粒少量、炭化物わずかに含む。

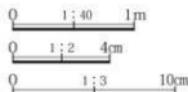
## VIII区56号・57号土坑



56坑 1

56号土坑  
1 黑褐色土 黄色岩片、炭化物を多く含む。底部に燒土粒、灰を多く含む。

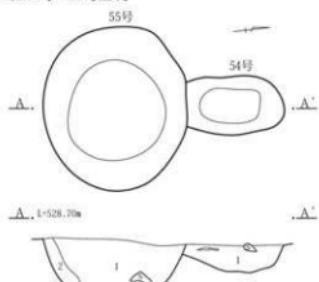
57号土坑  
1 黑褐色土 黄色岩片、白色岩片、炭化物、骨片を多く含む。



第98図 VIII区土坑(3)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

VII区54号・55号土坑

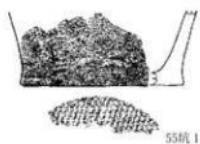


54号土坑

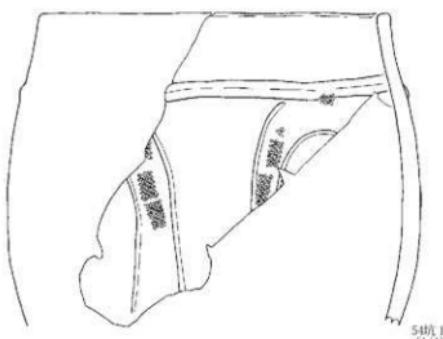
1 暗褐色土 黄色岩片を多く含む。

55号土坑

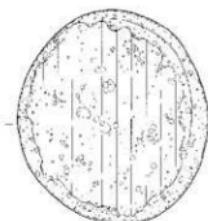
1 黒褐色土 黄色岩片、白色岩片多量、燒土粒、炭化物を含む。  
2 暗褐色土 1層と地山の土の混土。



55坑1

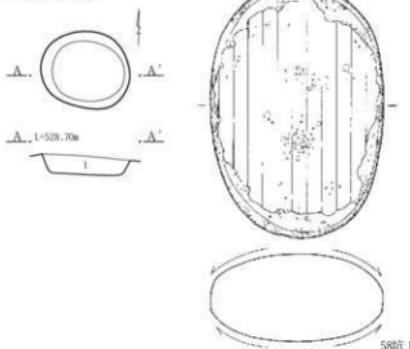


54坑1  
(1/4)



54坑2

VII区58号土坑



VII区59号土坑

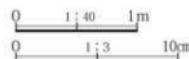


58号土坑

1 暗褐色土 黄色岩片、白色岩片、炭化物を多量、骨片を少量含む。

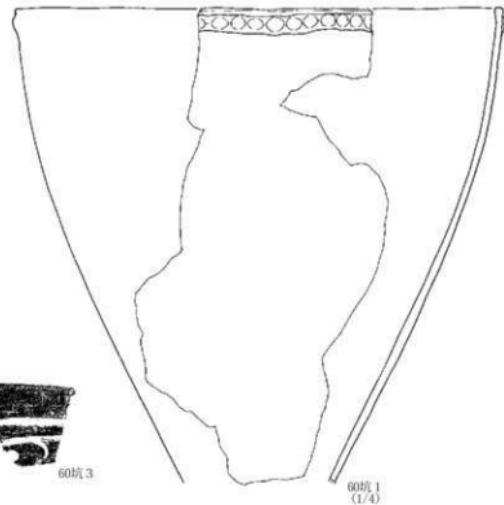
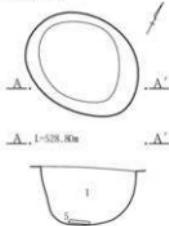
59号土坑

1 黑褐色土 やや砂質の上。炭化物、骨片含む。

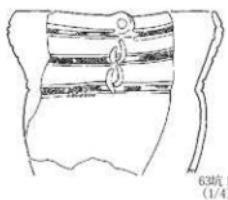
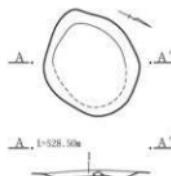


第99図 VII区土坑(4)

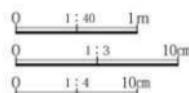
## VII区60号土坑



## VII区63号土坑

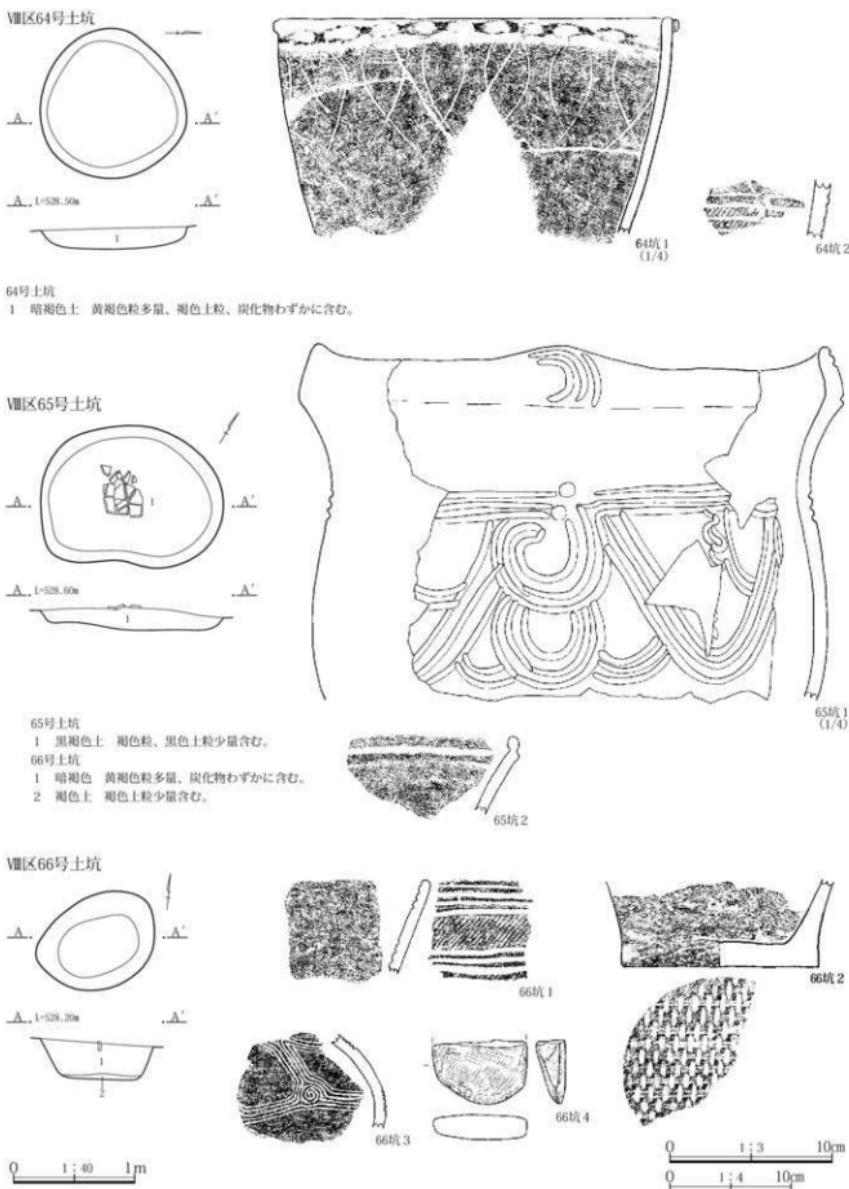


63号土坑  
1 暗褐色土 黄褐色粒少量含む。



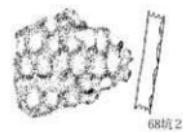
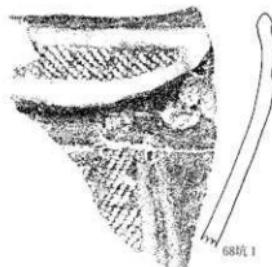
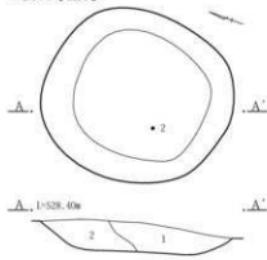
第100図 VII区土坑(5)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

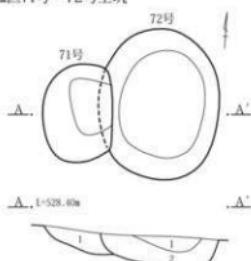


第101図 VIII区土坑(6)

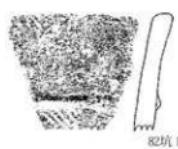
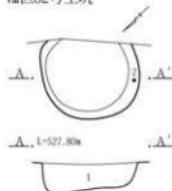
VIII区68号土坑



VIII区71号・72号土坑

68号土坑  
1 暗褐色土 黄褐色土粒多量、褐色土粒少量含む。  
2 褐色土 黄褐色土粒わずか。褐色土粒少量含む。71号土坑  
1 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。72号土坑  
1 褐色土 暗褐色土粒少含む。  
2 暗褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。

VIII区82号土坑

78号土坑  
1 黒褐色土 黄褐色土粒多量、炭化物わずかに含む。  
2 暗褐色土 やや砂質。82号土坑  
1 暗褐色土 炭化物、 $\phi 5\text{ mm}$ 程度の風化岩片を多く含む。

第102図 VIII区土坑(7)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

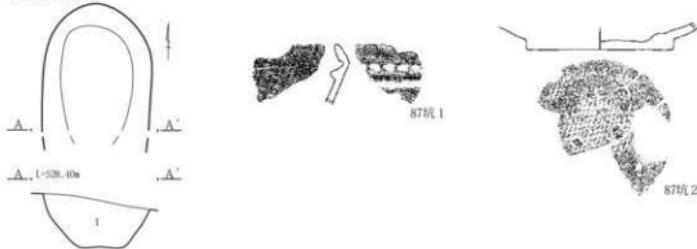
VII区83号土坑



83号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。
- 2 褐色土 褐色土粒少量含む。壁の崩れ。

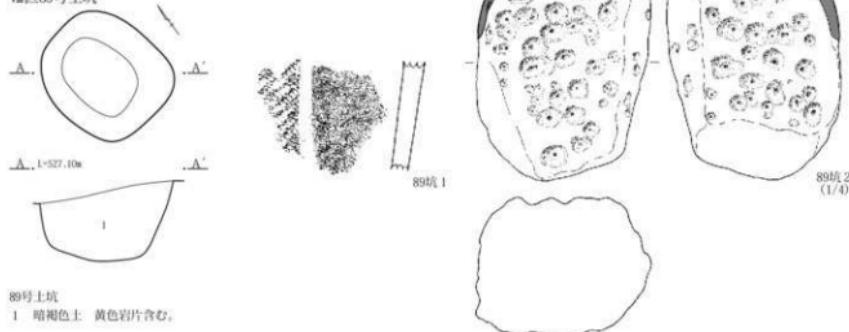
VII区87号土坑



87号土坑

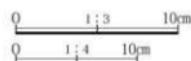
- 1 暗褐色土 黄色岩片多量、炭化物含む。

VII区89号土坑



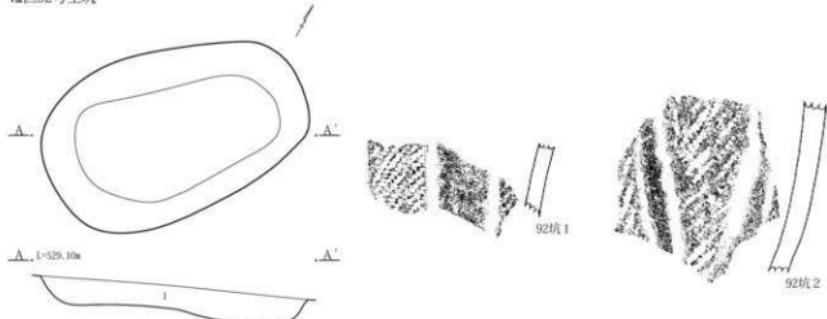
89号土坑

- 1 暗褐色土 黄色岩片含む。



第103図 VII区土坑(8)

VIII区92号土坑



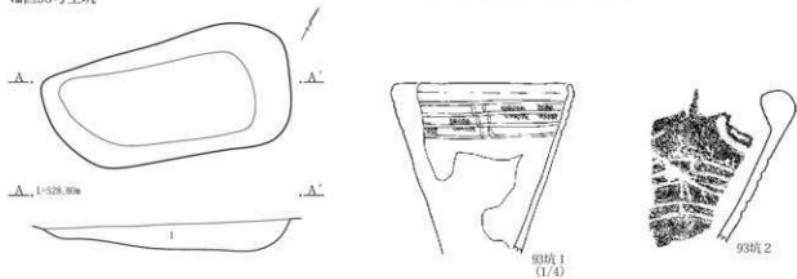
92号土坑

1 暗褐色土 黄褐色土粒多含砂。

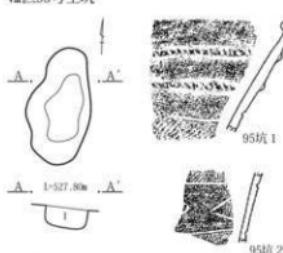
93号土坑

1 暗褐色土 黄褐色土粒、褐色土粒少量含砂。

VIII区93号土坑



VIII区95号土坑

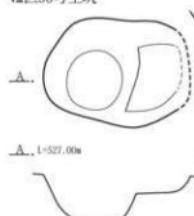


95号土坑

1 黑色土 碳化物多量、烧土粒少量、骨片含砂。

0 1:40 1m

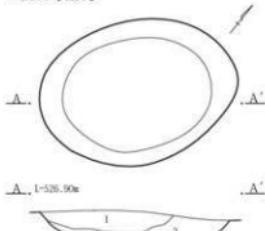
VIII区96号土坑

0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm

第104图 VIII区土坑(9)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

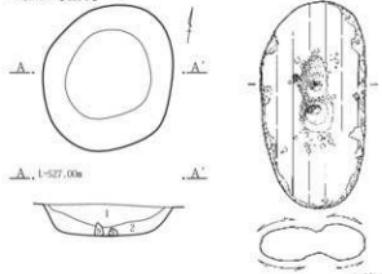
VII区98号土坑



98号土坑

- 1 暗オリーブ色土 グライ化。炭化物少量、 $\phi$  5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 オリーブ黒色土 グライ化。 $\phi$  5mm程度の風化岩片を多く含む。

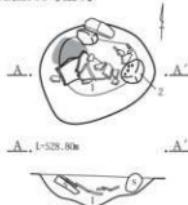
VII区99号土坑



99号土坑

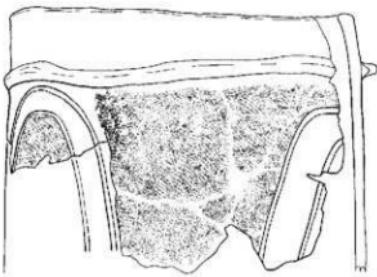
- 1 オリーブ黒色土 グライ化。 $\phi$  5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 オリーブ褐色土 グライ化。 $\phi$  5mm程度の風化岩片を多く含む。

VII区100号土坑

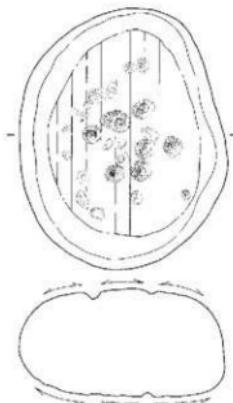


100号土坑

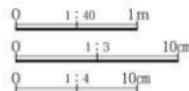
- 1 黒褐色土 褐色粒、黑色土粒少量含む。



100坑1  
(1/4)

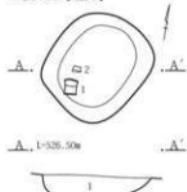


100坑2  
(1/4)



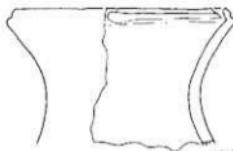
第105図 VII区土坑(10)

VIII区101号土坑



101号土坑

1 黒褐色土 炭化物。焼骨片多く含む

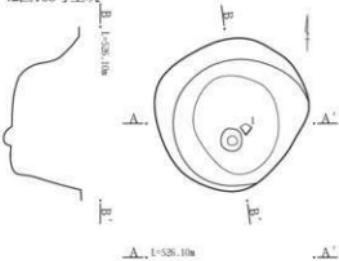
101坑1  
(1/4)

101坑2



101坑3

VIII区103号土坑

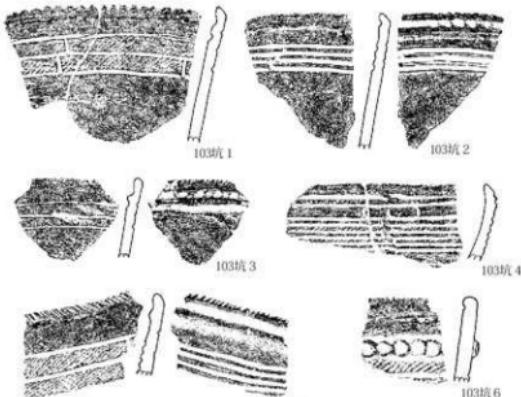


103号土坑

1 暗灰色土 炭化物少量、焼骨片、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

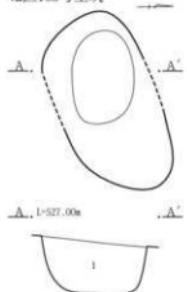
2 黒色土 炭化物少量含む。

3 細灰色土 ダライ化。やや砂質。炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。



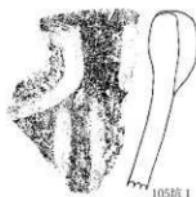
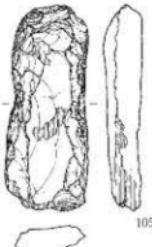
103坑5

VIII区105号土坑



105号土坑

1 暗褐色土 黄色岩片を多く含む。

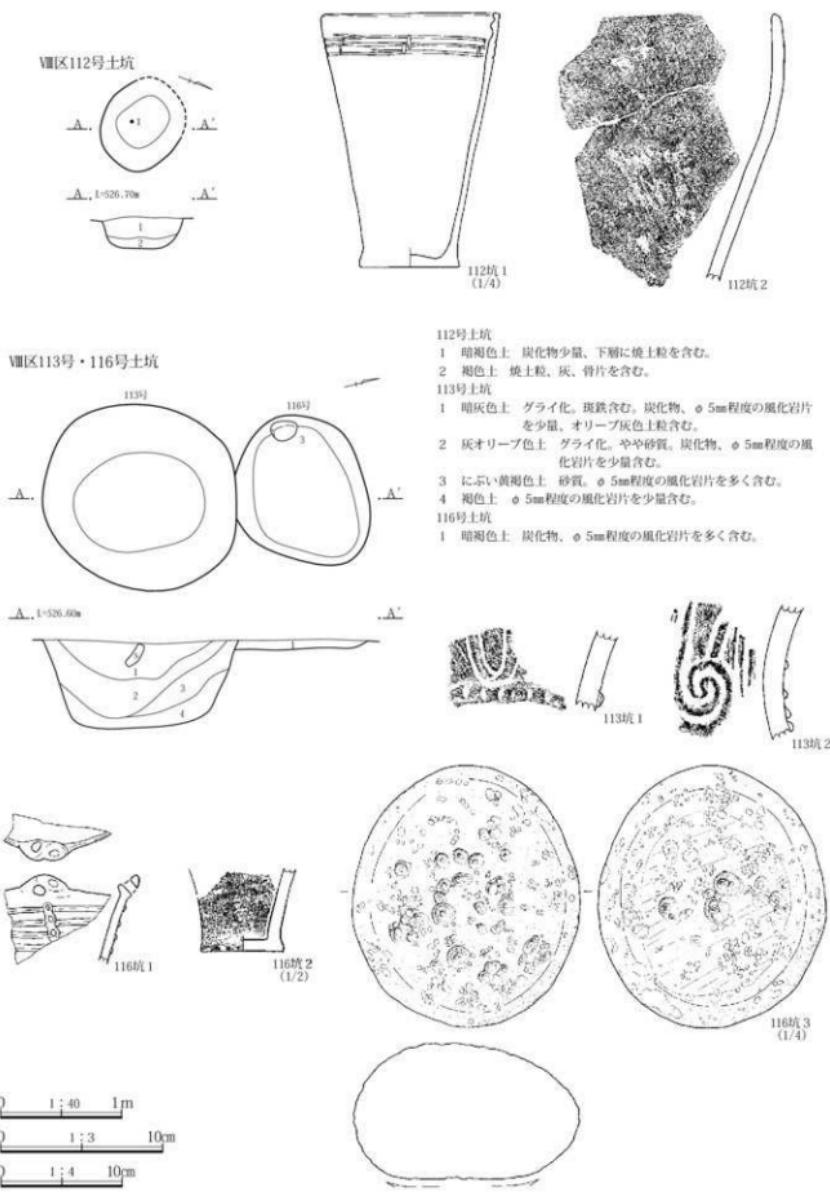
105坑2  
(1/2)

105坑3

0 1:40 1m

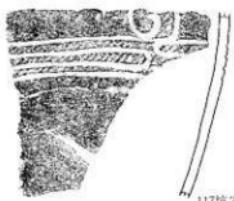
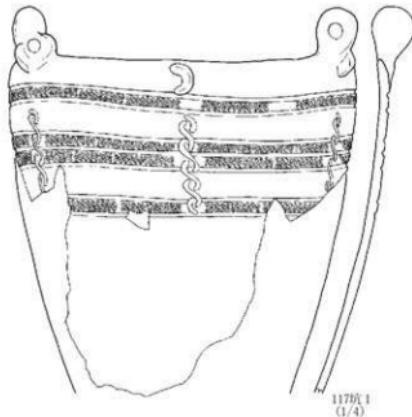
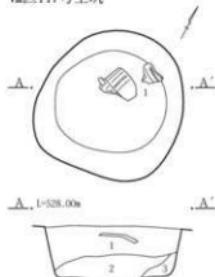
0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm

第106図 VIII区土坑(11)



第107図 VII区土坑(12)

## VIII区117号土坑



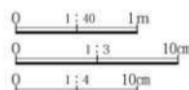
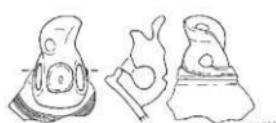
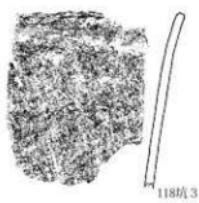
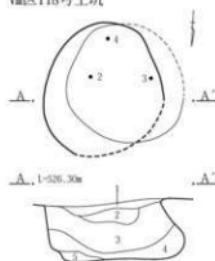
## 117号土坑

- 1 黒色土 黄褐色土粒、褐色土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒多量、炭化物わずかに含む。
- 3 暗褐色土 褐色土粒少量含む。壁の崩れ。

## 118号土坑

- 1 黒色土 炭化物、焼骨、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質。φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 3 暗褐色土 炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 4 褐色土 炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を少量含む。
- 5 暗褐色土 やや砂質。炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

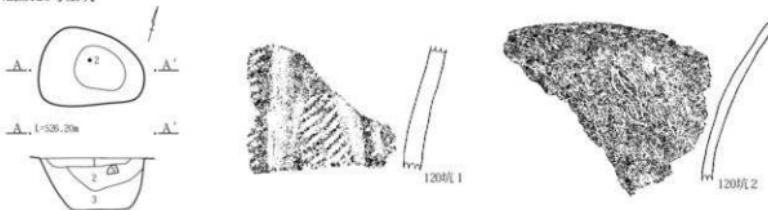
## VIII区118号土坑



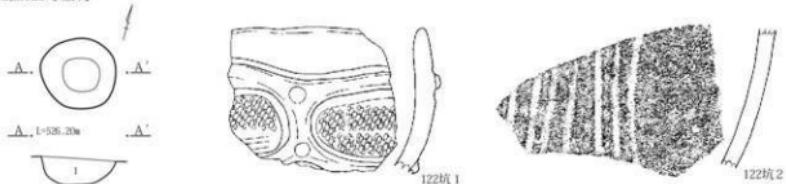
第108図 VIII区土坑(13)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

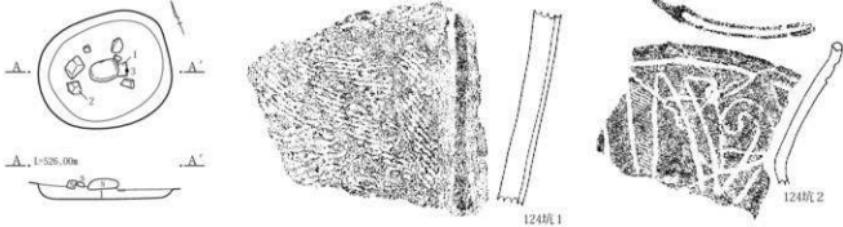
VIII区120号土坑



VIII区122号土坑



VIII区124号土坑



120号土坑

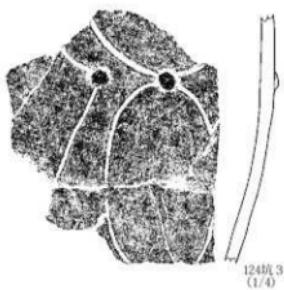
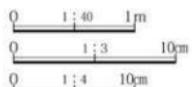
- 1 暗褐色土 炭化物少量。φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 にぶい黄褐色土 やや砂質。φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒含む。

122号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

124号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

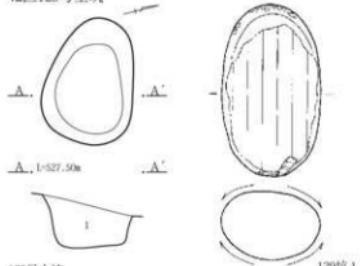


第109図 VIII区土坑(14)

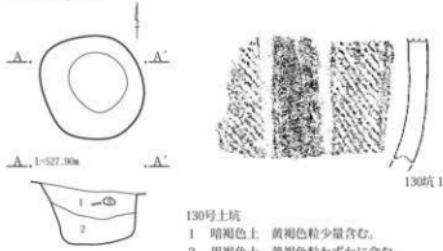
VII区125号土坑



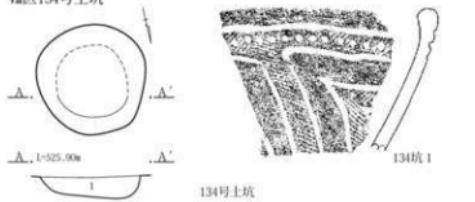
VII区129号土坑



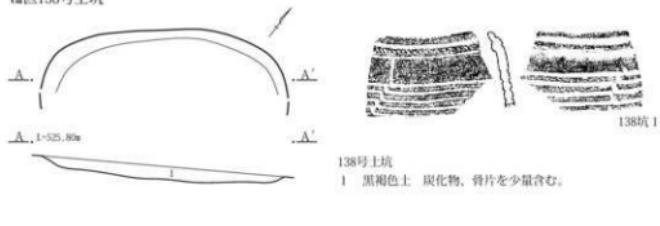
VII区130号土坑



VII区134号土坑



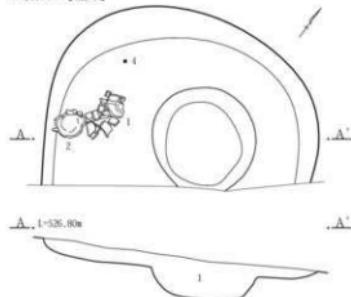
VII区138号土坑



第110図 VII区土坑(15)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

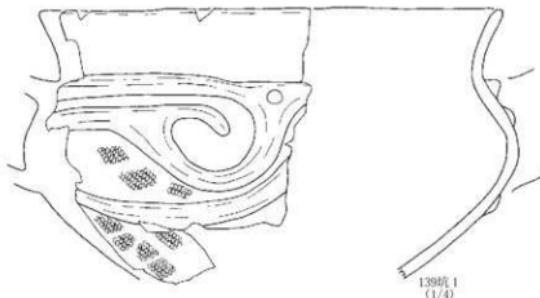
VII区139号土坑



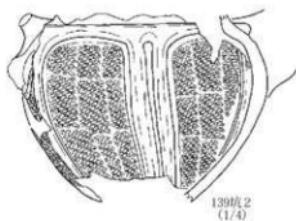
139号土坑

- 1 黒褐色土 薄黄緑色の岩片多量、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 黃褐色土粒多く含む。
- 3 暗褐色土 黃褐色ブロック、炭化物含む。
- 4 黒褐色土 褐色粒、黒色土粒少量含む。
- 5 暗褐色土 黃褐色土粒わずかに含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。壁の崩れ。
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。壁の崩れ。

141号土坑



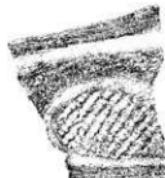
139坑1  
(1/4)



139坑2  
(1/4)

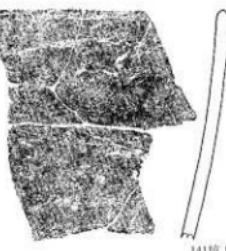
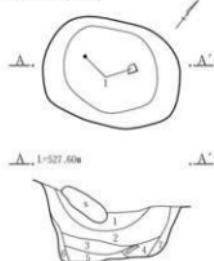


139坑3

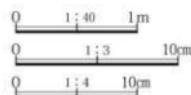


139坑4

VII区141号土坑

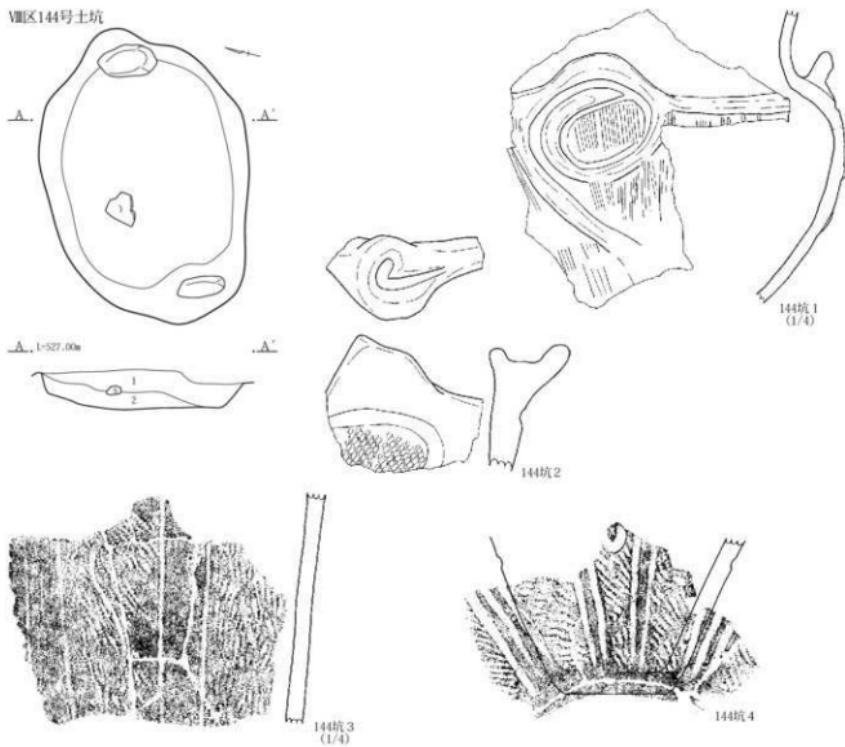


141坑1

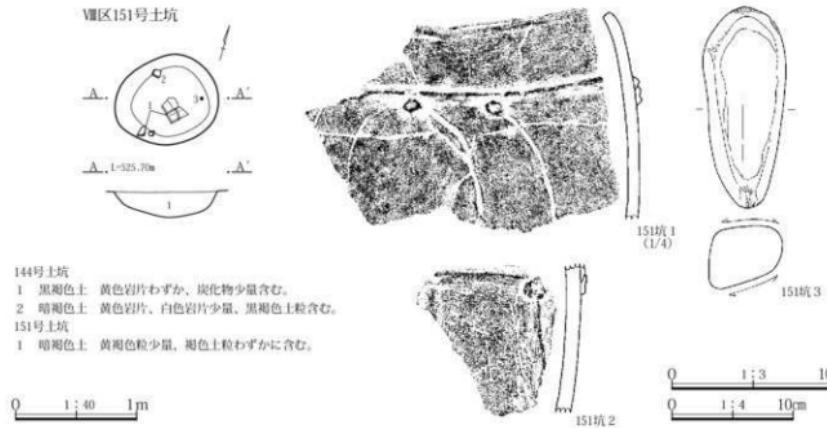


第111図 VII区土坑(16)

VII区144号土坑

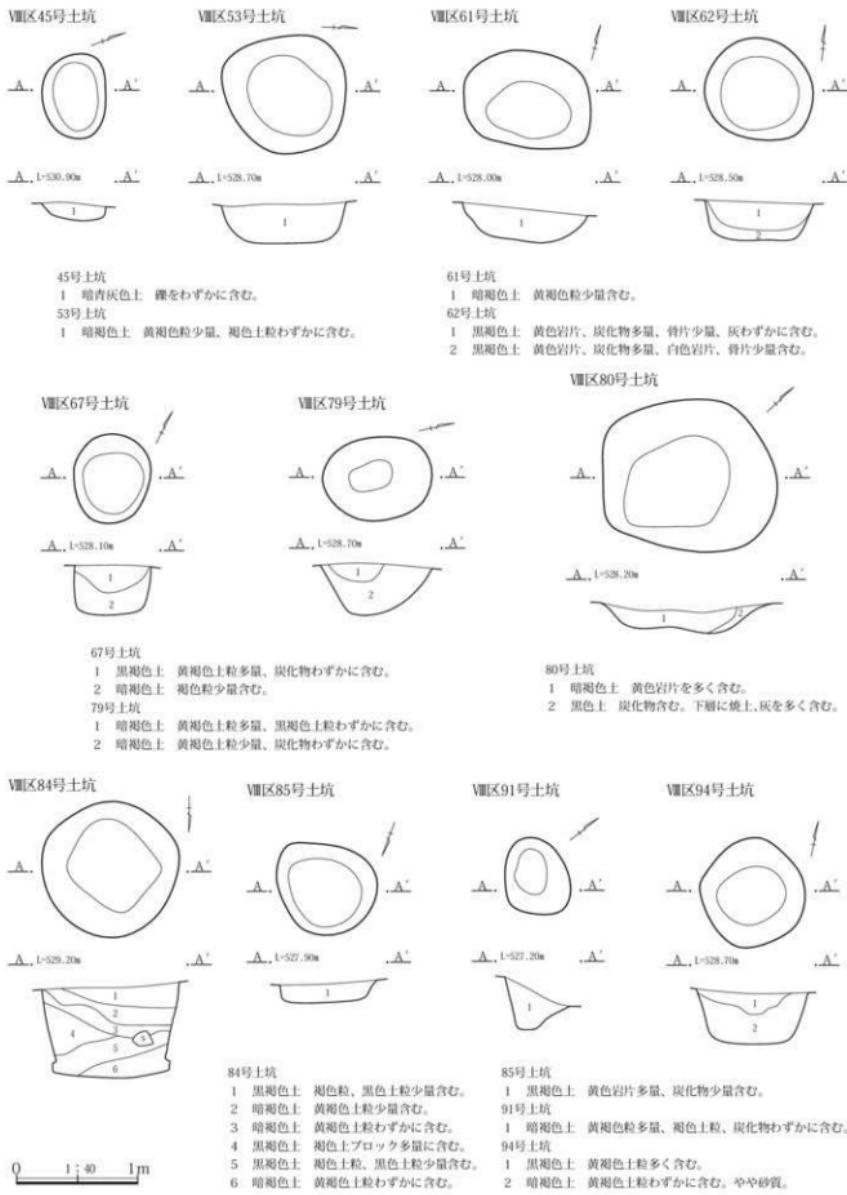


VII区151号土坑



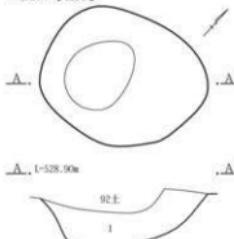
第112図 VII区土坑(17)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第113図 VII区土坑(18)

VII区97号土坑



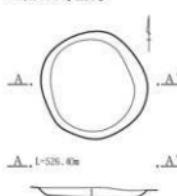
97号土坑

1 黒褐色土 黄褐色粒多く含む。

102号土坑

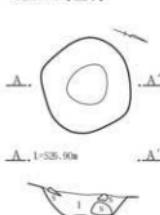
1 黒褐色土 炭化物少量。φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

VII区102号土坑



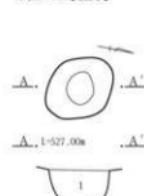
1.526.80m

VII区104号土坑



1.526.90m

VII区108号土坑



1.527.00m

104号土坑

1 黒色土 φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

108号土坑

1 黒褐色土 白色粒含む。

VII区109号土坑



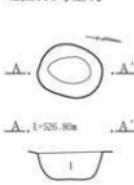
109号土坑

1 黒褐色土 黄色岩片少量。炭化物わずかに含む。

110号土坑

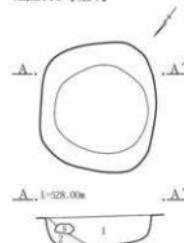
1 褐色土 白色粒含む。

VII区110号土坑



1.526.80m

VII区115号土坑



115号土坑

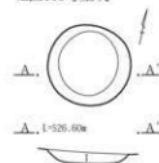
1 黄色土 黄褐色粒少量含む。

2 喀褐色土 褐色粒わずかに含む。やや砂質。

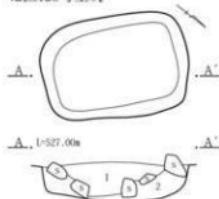
119号土坑

1 黑褐色土 黑褐色土粒多量、炭化物わずかに含む。

VII区119号土坑



VII区123号土坑

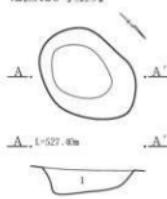


123号土坑

1 黑褐色土 炭化物少量含む。

2 黑色土 上面に垂れ縫多く含む。

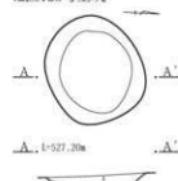
VII区126号土坑



126号土坑

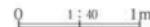
1 黑褐色土 炭化物を少量含む。

VII区128号土坑



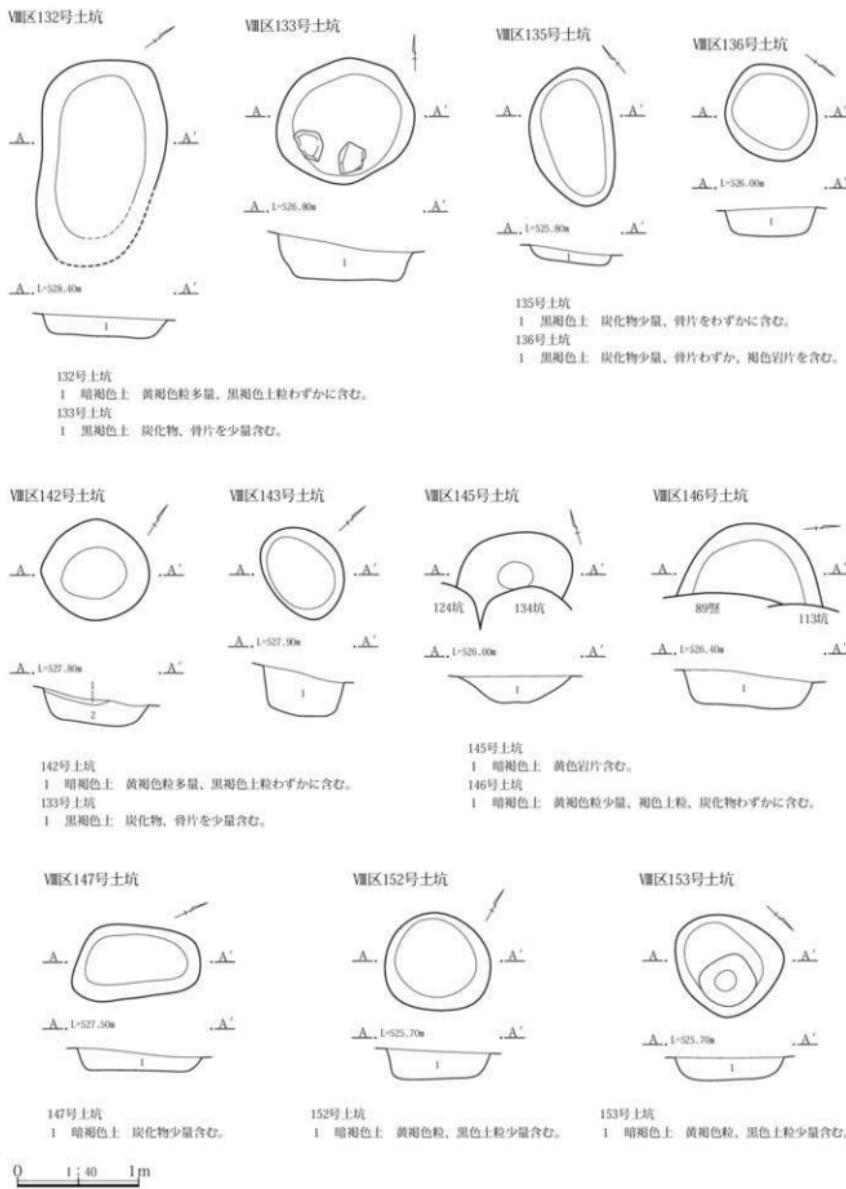
128号土坑

1 黑褐色土 炭化物を少量含む。



第114図 VII区土坑(19)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物



第115図 VII区土坑(20)

## 4 埋設土器

埋設土器は、竪穴建物内に付設された埋甕とは別に、竪穴建物外に単独で構築されたものと定義して、本項で扱う。

埋設土器は、V区で1基、VII区で5基の計6基が検出されている。時期別に見ると、V区5号・VII区9号が中期後葉、VII区1, 2, 6, 8号が後期前葉～中葉の所産と考えられる。分布に関しては、特に集中する箇所は見られず、VII区1号と2号が近接するほかは、散発的な分布を示す。弧状の集落域と対比すれば、V区5号・VII区8, 9号が集落域内、VII区1, 2, 6号が集落域の外側にあたる。なかでもVII区6号は、集落域から離れた位置に単独であり、特異な分布を示す。埋設される土器は、口縁部や底部、あるいは両方を意図的に欠いたと思われる個体を用いており、VII区6, 8号はやや大型の深鉢を使用している。

### ●V区5号埋設土器

V区西部の41区L-7グリッドに位置し、120号竪穴建物を切っている。長径43cm、短径35cm、深さ20cmの楕円形の掘り方に、胴下位を欠いた深鉢を逆位に埋設する。土器は中期後葉の神ノ原式である。口径17.3cm、下端径15.9cm、現存高19.6cmを測る。

### ●VII区1号埋設土器

VII区のほぼ中央、41区W-20グリッドに位置する。径30cm、深さ22cmの掘り方に、口縁部と胴下位を欠いた深鉢を正位に埋設する。土器は無文のため時期比定は難しいが、堀之内2式ないし加曾利B式と判断される。上端径26.6cm、下端径14.3cm、現存高22.6cmを測る。

### ●VII区2号埋設土器

VII区のほぼ中央、41区V-20グリッドに位置し、120号土坑を切っている。1号埋設土器の南方2.5mにあり、近接している。径23cm、深さ14cmの掘り方に、胴中位のみの深鉢を正位に埋設する。土器は無文のため時期比定は難しいが、後期前半と判断される。上端径19.4cm、下端径12.3cm、現存高9.8cmを測る。

### ●VII区6号埋設土器

VII区北端部の51区S-2グリッドに位置する。集落域から離れた位置にあり、他の埋設土器と比べてやや異質な印象を受ける。径45cm、深さ15cmの円形の掘り方に、口縁部を欠いた深鉢を正位に埋設する。断面図を見ても分かることおり、土器の上部が露出しているため、本来の掘り方はより深かったはずである。土器は無文のため時期比定は難しいが、堀之内2式ないし加曾利B式と判断される。上端径29.1cm、底径12.2cm、現存高29.6cmを測り、比較的大型の深鉢である。

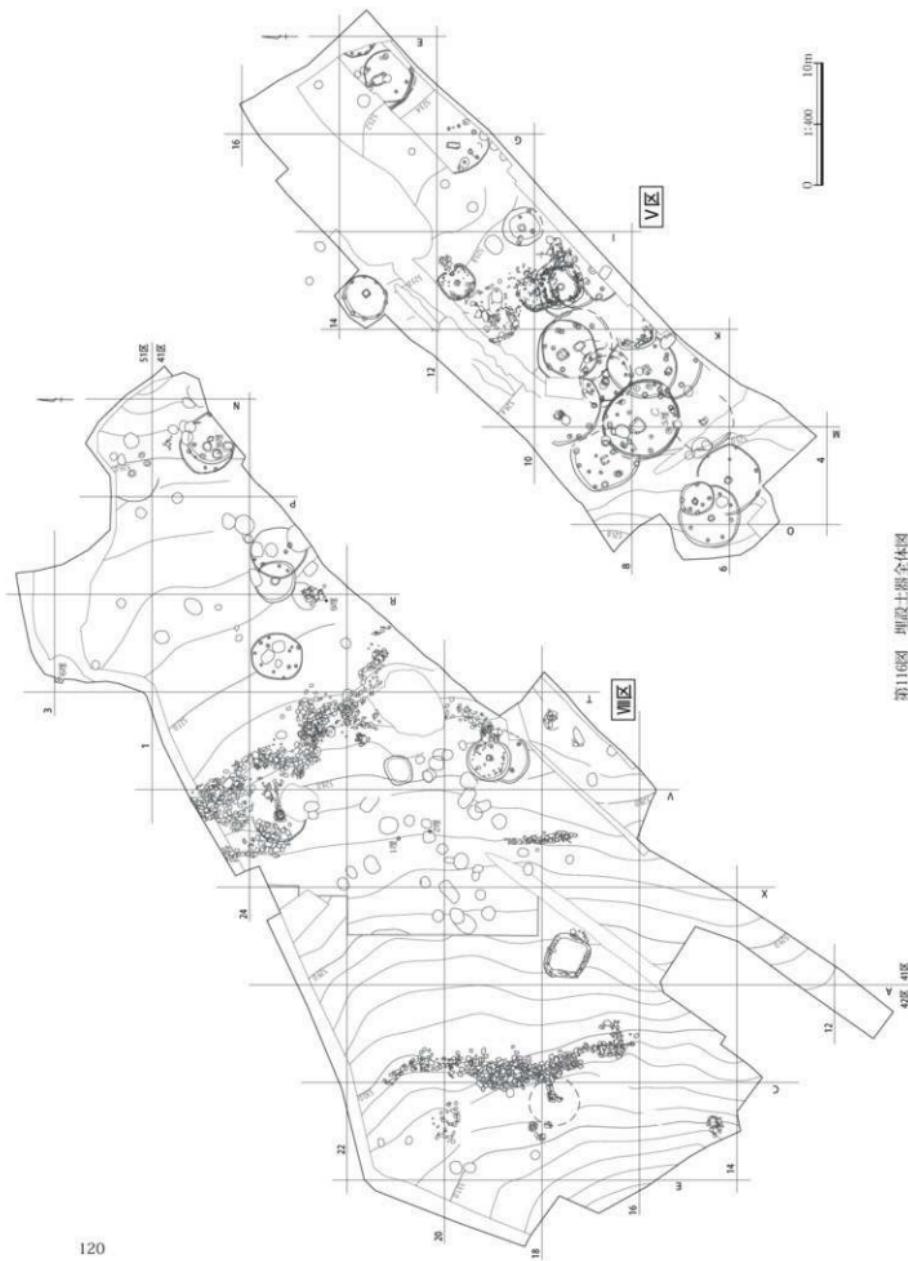
### ●VII区8号埋設土器

VII区東端部の41区O-24グリッドに位置する。弧状集落の北縁に重なり、16号竪穴建物を切っている。径43cm、深さ33cmの円形の掘り方に、口縁部を欠いた深鉢を正位に埋設する。土器は称名寺式と考えられる。上端径27.0cm、底径9.3cm、現存高37.5cmを測り、比較的大型の深鉢である。

### ●VII区9号埋設土器

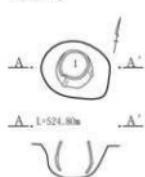
VII区中央と東端の中間、41区R-22グリッドに位置し、弧状集落の北縁に重なる。径30cm、深さ18cmの掘り方に、深鉢を正位に埋設する。土器は中期末葉の加曾利E4式である。口縁の一部が散逸しているため、埋設当時の土器形状は判然としないが、波頂部の突起のみを意図的に欠いた状態で埋設されていたと考えたい。推定口径17.0cm、底径6.5cm、現存高19.5cmを測る。

他にも、V区106号竪穴建物出土のNo.2、V区120号竪穴建物の炉体土器、VII区14号竪穴建物の炉体土器が、調査時に単独の埋設土器として調査されていたが、整理段階において位置や検出状況を再検討し、修正したものである。

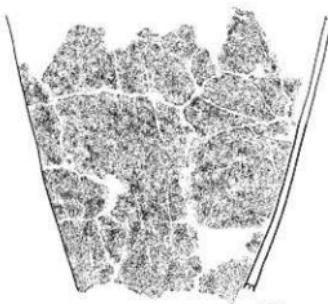
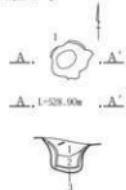


第116図 墓設土器全體図

VI区5号



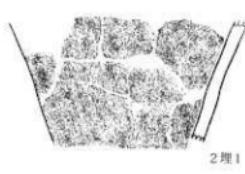
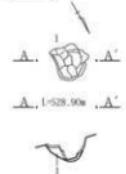
VIII区1号



1号埋設土器

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。  
2 黑褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。  
3 浅黄褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。

VIII区2号



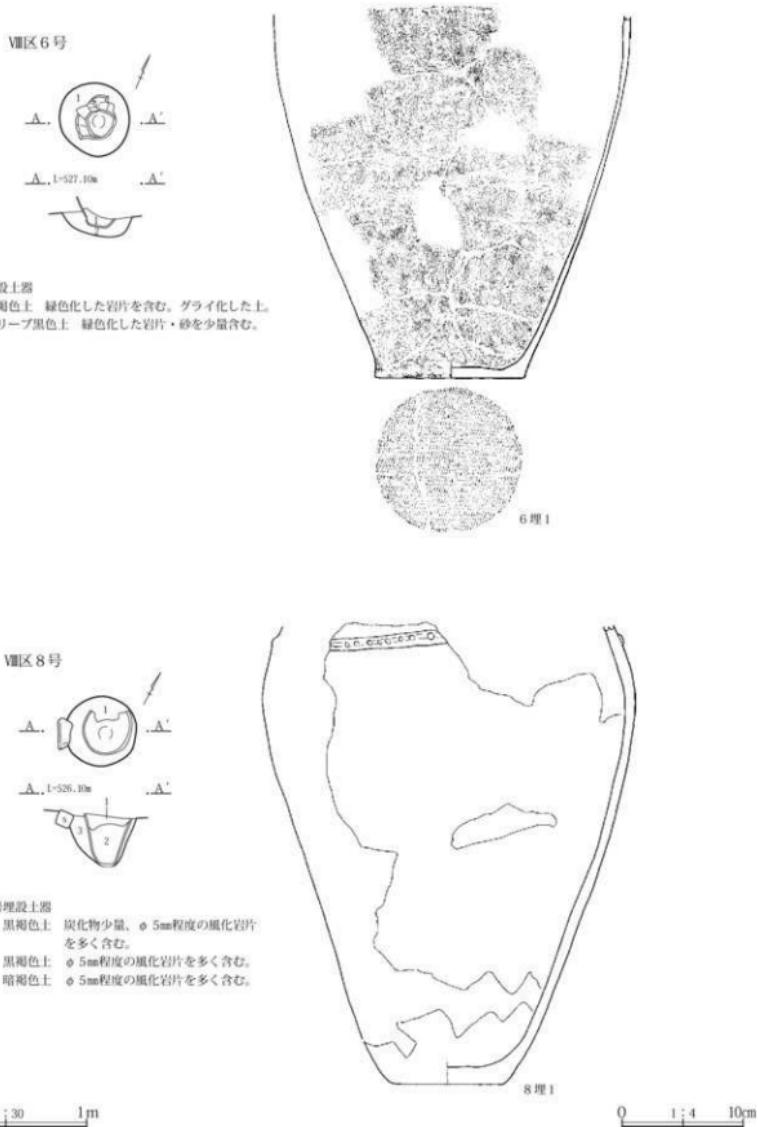
2号埋設土器

- 1 黑褐色土 黄褐色土粒わずかに含む。

0 1:30 1m

0 1:4 10cm

第117図 VI区・VIII区埋設土器(1)



第118図 VII区埋設土器(2)



第119図 VIII区埋設土器(3)

## 5 列石遺構

列石遺構は、V区で1基、VII区で5基の計6基が検出されている。VII区1, 3号の規模が大きく、VII区2, 4, 5号は小規模な列石である。中間のV区(『東宮遺跡(5)所収』)では、3, 5, 6号とされた大型の列石が検出されており(第120図)、6号→5号→3号の変遷が推定されている。本書で報告するV区1, 4, 5号も、若干の走向の違いはあるがV区3, 5, 6号の背後にあたり、これらと一連のものと捉えられるだろう。これに対し、VII区2, 3号は明らかに走向が異なる。3号は、V区3号の北端に連続してV字状となる可能性も考えられるが、形状が蛇行していく様相がやや異なることから、単独の列石と判断しておきたい。V区9号は、V区6号に連続するものと判断した。

### ●V区9号列石

V区のほぼ中央で検出された。調査時には列石との認識はなされなかつたが、整理段階において北接するV区(『東宮遺跡(5)所収』)6号列石に連なるとの判断に至ったため、9号列石として報告する。配された石はやや疎らではあるが北西—南東の走向を示し、全長12.8mを測る。中ほどで南西に伸びる、長さ3m程の列状の張り出しをもつ。南東端部には33号配石が位置しており、有機的な結びつきがうかがえる。加曾利E 4式期と比定した100号竪穴建物の上層に構築され、同じく加曾利E 4式期と比定した106号竪穴建物の東辺部と接している。時期は、周辺での出土遺物から称名寺式期と判断される。特殊遺物として、ミニチュア土器(3)や石棒の破片(6)が出土している。V区6号列石を含めれば、全長58m程の規模となる。

### ●VII区1号列石

VII区の西部、最も標高の高い場所で検出された。等高線に沿って南北に伸びており、緩やかに蛇行する。全長は21.3mを測る。中央部で幅が広くなつており、石も濃密に集積されている。中央や南寄りでは、1号竪穴建物が接続する。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内1式～加曾利B 2式の破片が取り上げられていることから、該期の所産と判断される。特殊遺物として石棒(10)

が出土している。

### ●VII区2号列石

VII区中央部の北壁際で検出された。3号列石のすぐ背後にあたり、3号列石に沿わせて構築されたと見ることができよう。走向は北北西—南南東である。全長は6m程であるが、さらに北へ伸びる様相を呈す。南端部に長方形形状の石團状石組2基がV字状に配され、間に扁平な玉石を平坦に敷きつめている。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内2式～加曾利B 1式の破片が取り上げられていることから、該期の所産と判断される。

### ●VII区3号列石

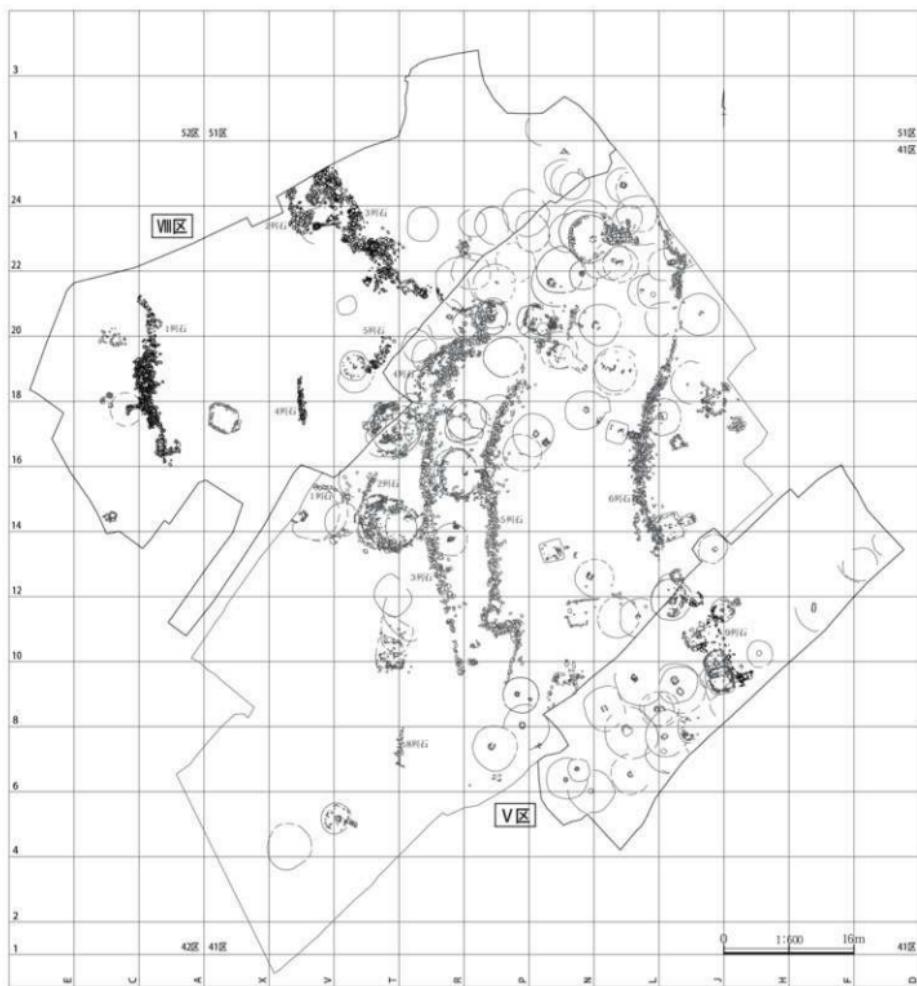
VII区中央部やや東寄りの北壁際で検出された。走向は北西—南東であり、他と比べてかなり蛇行している。全長は21.9mを測るが、さらに北へ伸びる様相を呈す。中央やや南寄りの東縁に12, 13号配石が接続する。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内1式～加曾利B 2式の破片が取り上げられていることから、該期の所産と判断される。特殊遺物として石棒の破片(25)が出土している。

### ●VII区4号列石

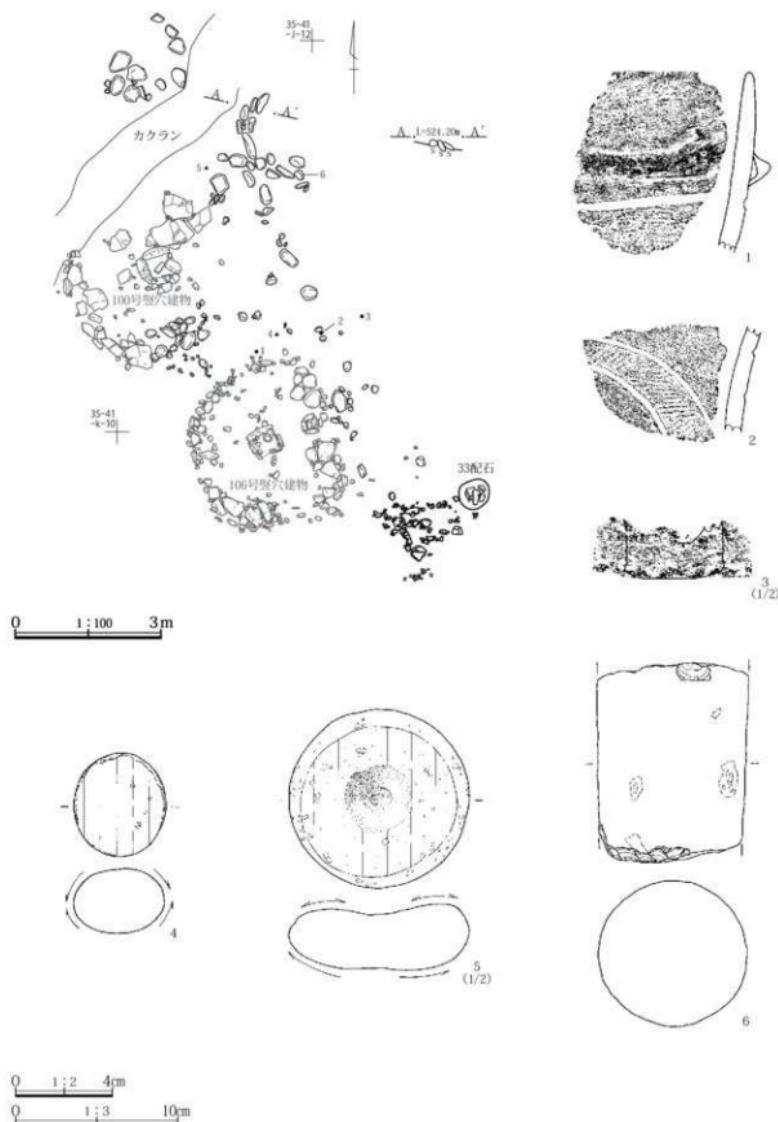
VII区中央からやや南西寄りで検出された。V区3号とVII区1号のほぼ中間地点にあたる。走向はほぼ南北方向である。全長は6.0mで小規模な列石である。南半部がやや膨らみ、石も濃密に集積されている。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内1式～2式の破片が取り上げられていることから、該期の所産と判断される。

### ●VII区5号列石

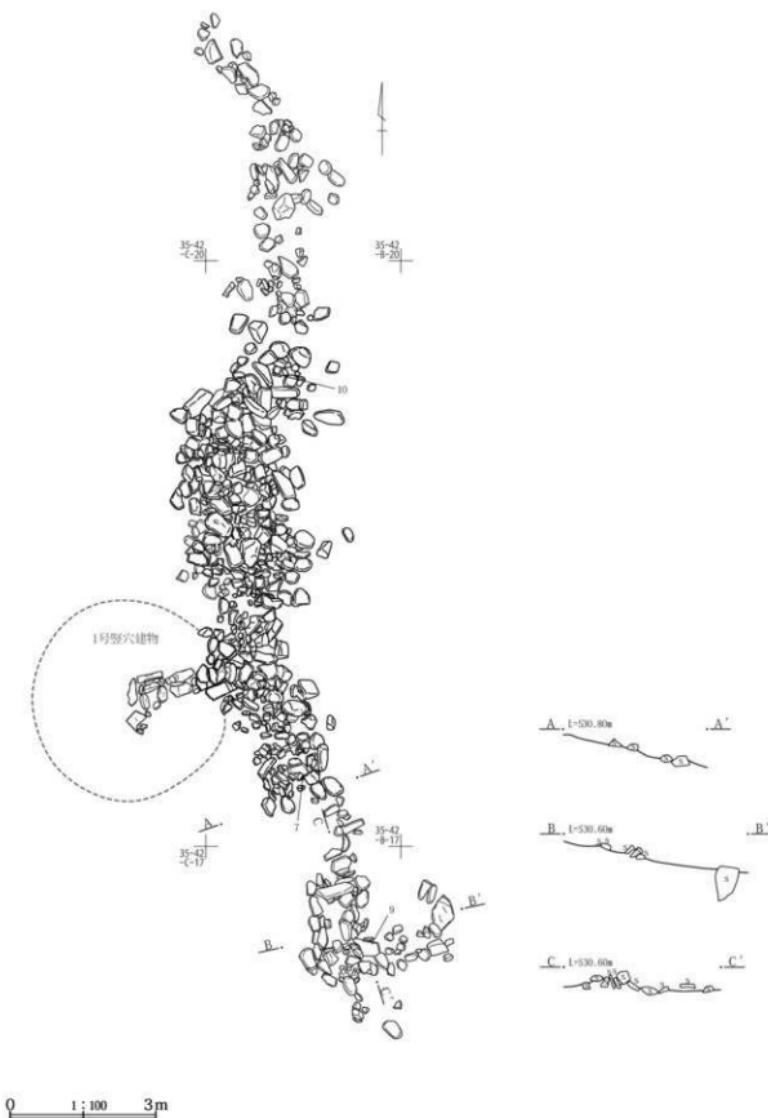
VII区中央部の南壁際で検出された。V区4号の背後にあたる。配された石はやや疎らではあるが、北東—南西の走向を示す。全長は5.2mで小規模な列石である。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内1式～2式の破片が取り上げられていることから、該期の所産と判断しておきたい。



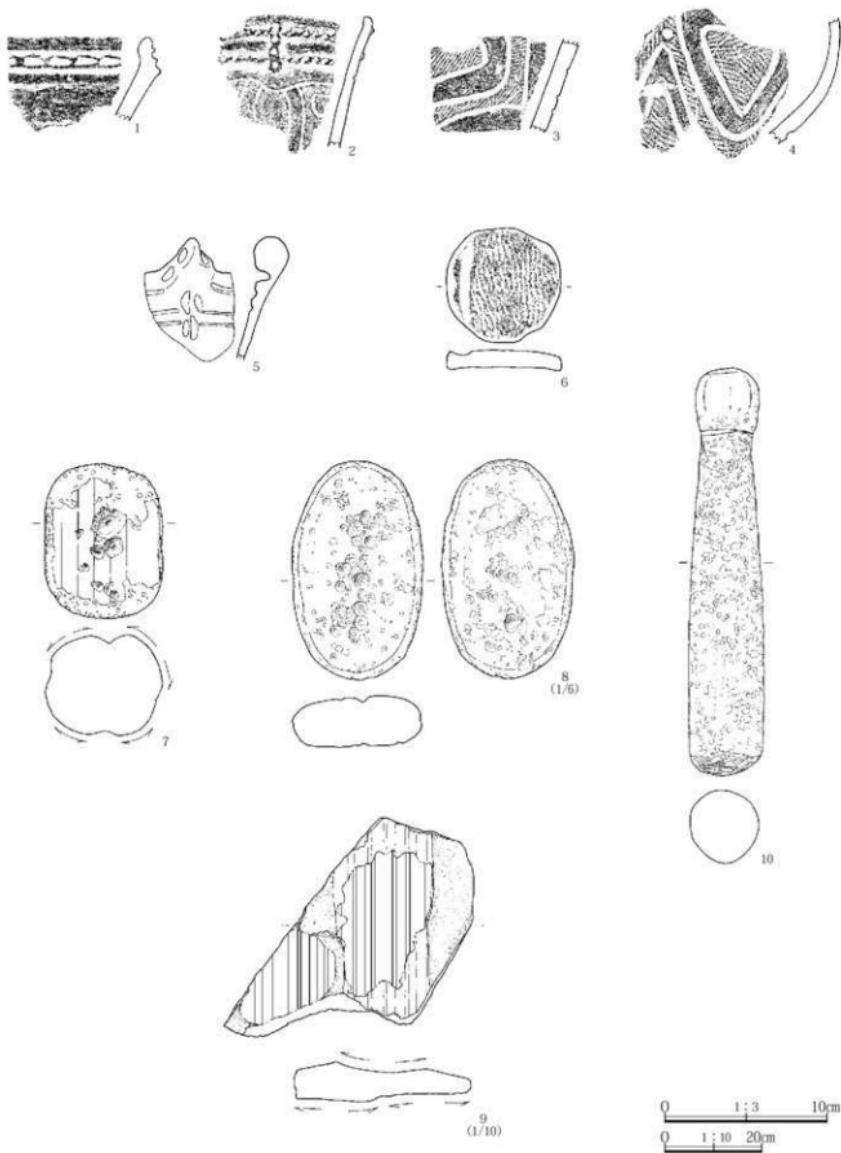
第120図 列石遺構全体図



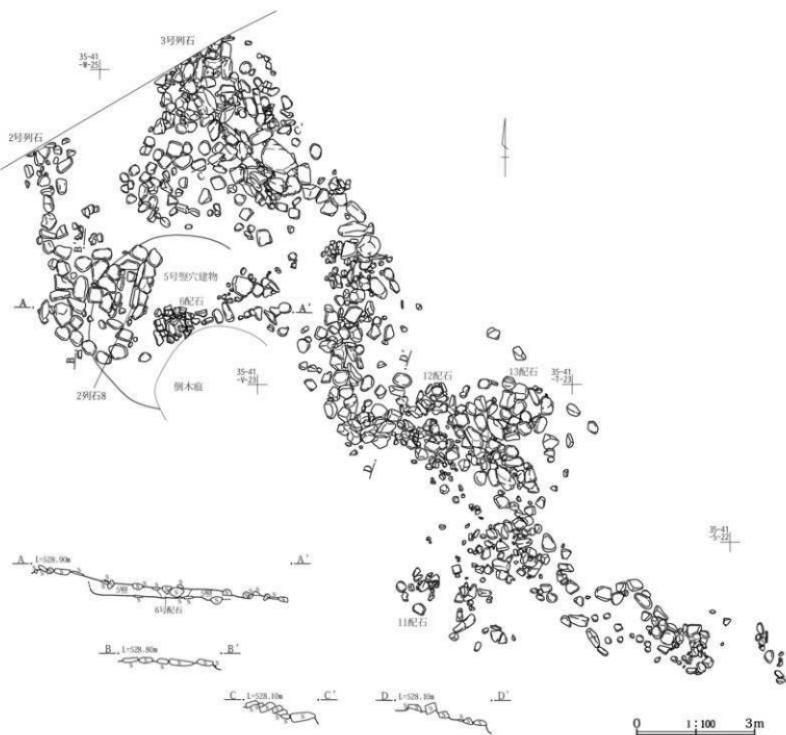
第121図 V区9号列石



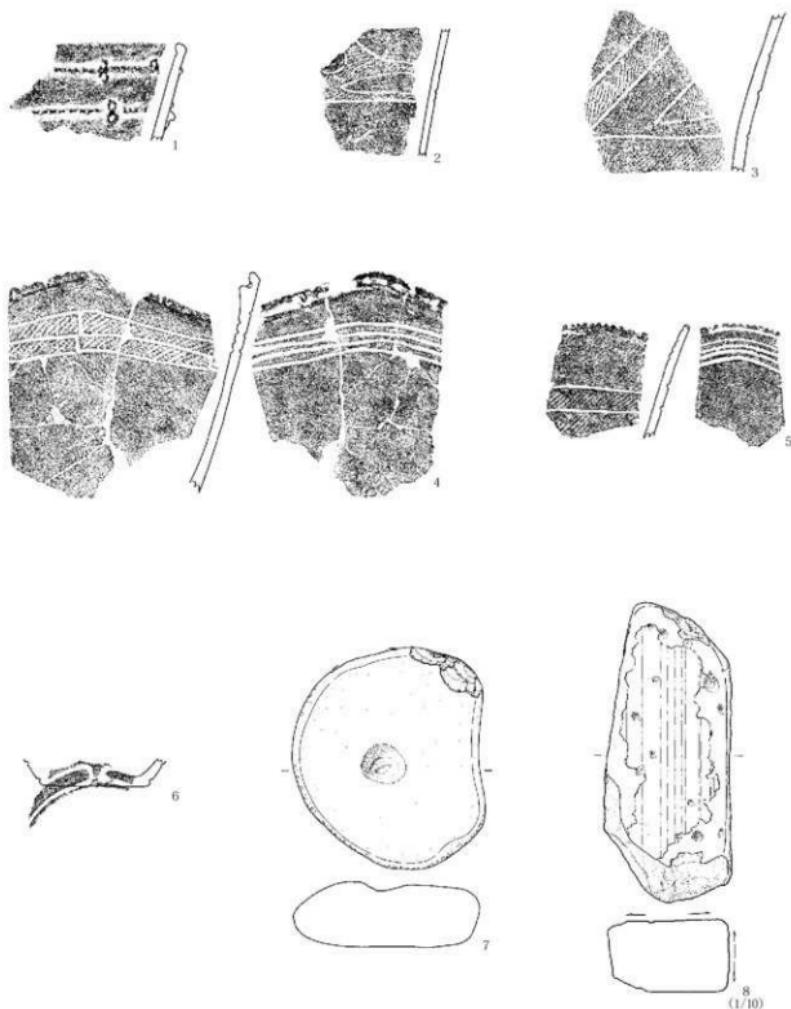
第122図 VII区 1号列石



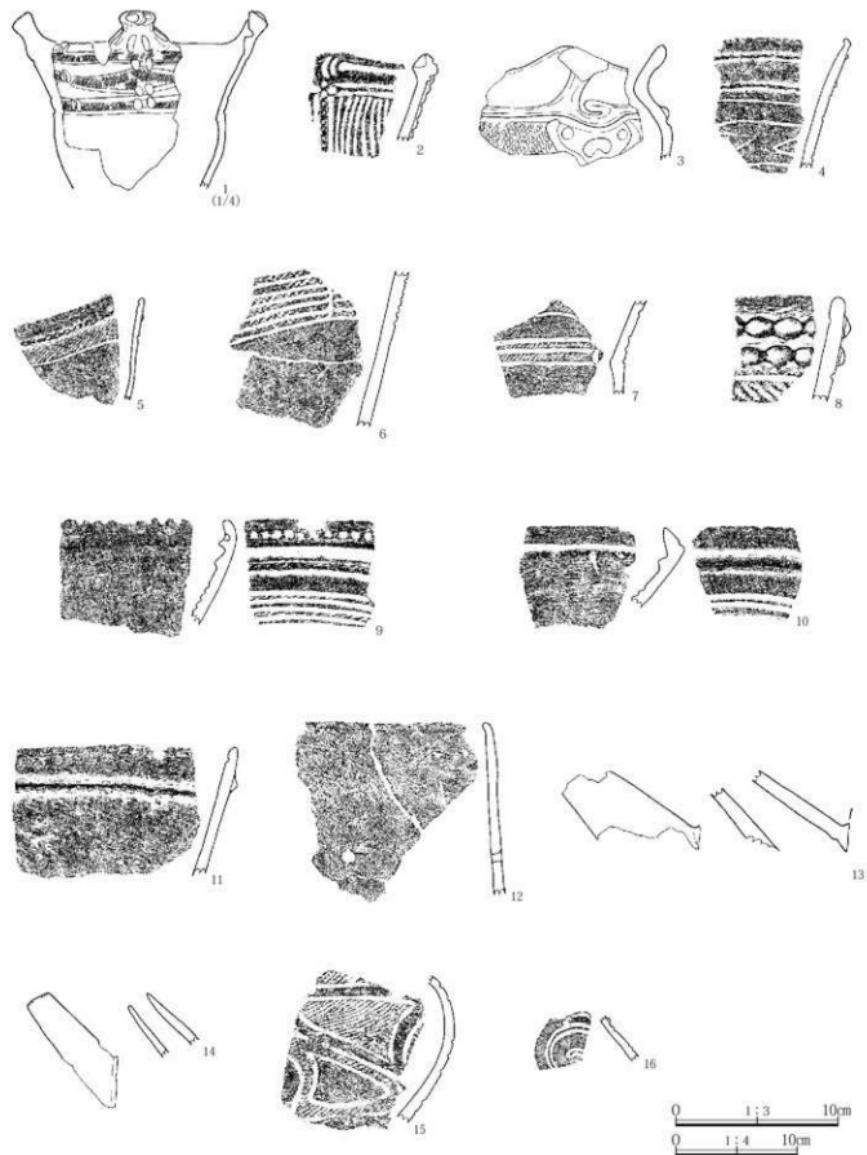
第123図 VIII区 1号列石出土遺物



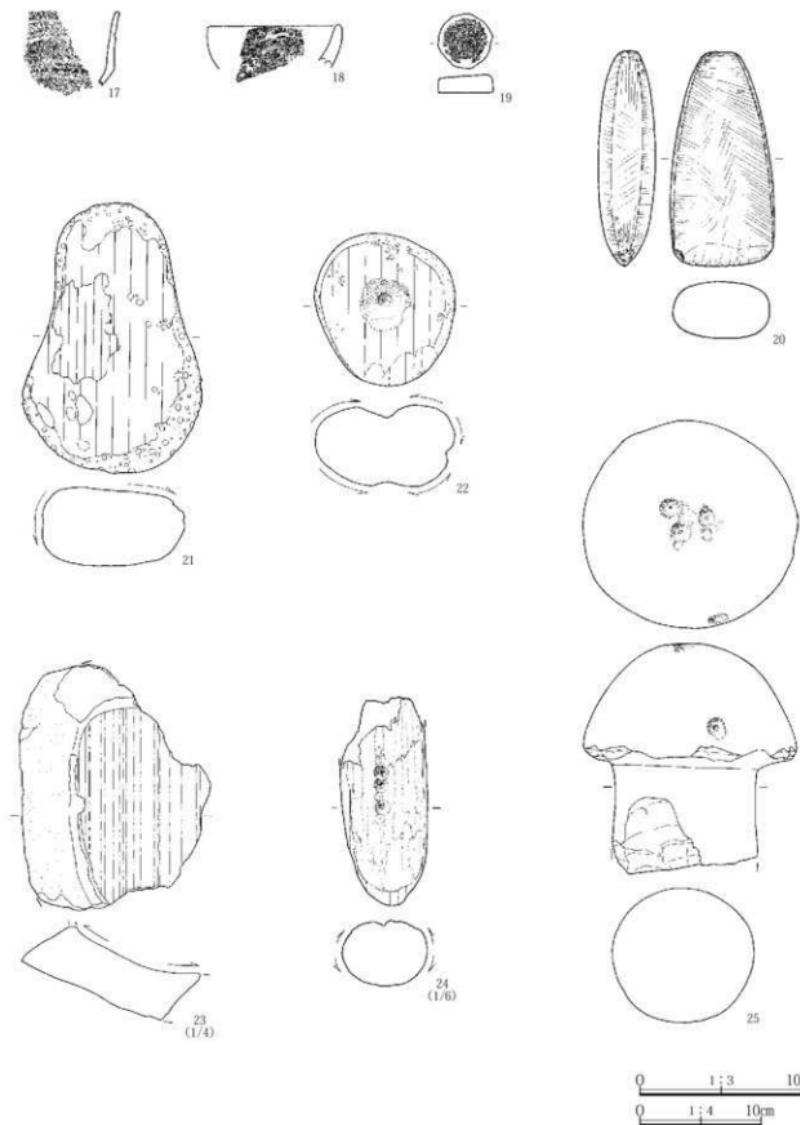
第124图 VII区2·3号列石



第125圖 VIII區 2號石列出土遺物

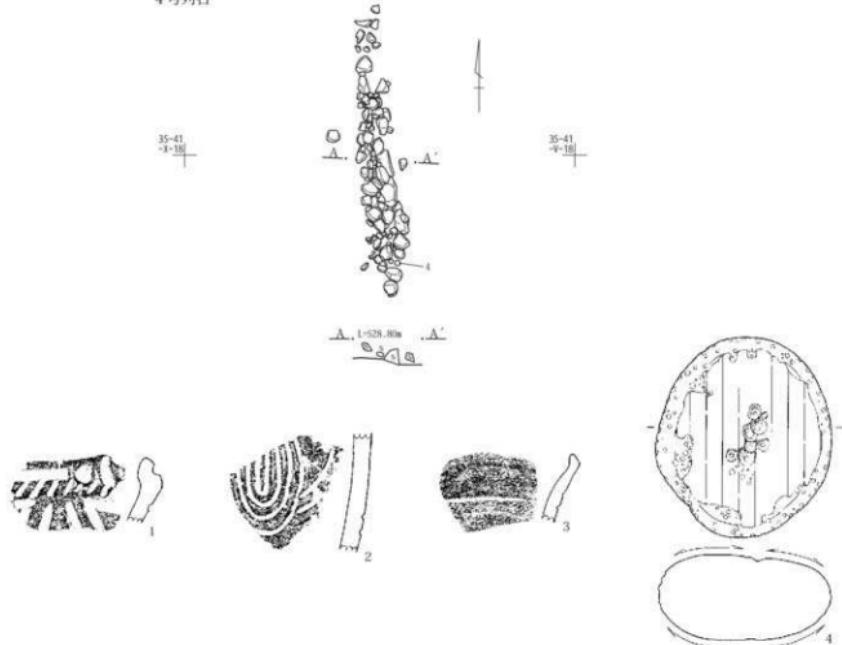


第126図 VIII区3号列石出土遺物(1)

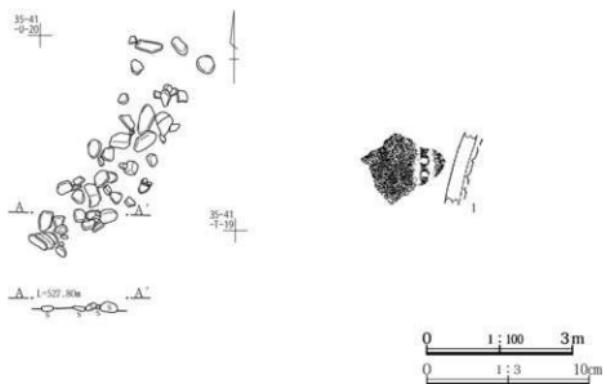


第127図 VIII区3号列石出土遺物(2)

4号列石



5号列石



第128図 VII区 4・5号列石

## 6 配石遺構

配石遺構は、V区で2基、VII区で16基の計18基が検出されている。配石遺構は、数個から十数個程度の石を意図的に組んだものであり、掘り込みをもたず地表面に置かれただけのものと、掘り込みを伴うものの二者が確認されている。後者については、配石墓としての性格をもつものが含まれると考えられるが、いずれにしてもその分布から、前項で記述した列石遺構に強く関連するものと考えられる。

分布について概要を述べておく。V区では、33号が9号列石の南端部にあたり、列石の一構成要素とも捉えられる。32号は西部に単独に存在し、列石との関連性はやや希薄である。VII区では、1～4、7、20号が1号列石の背後(列石の山側)に位置し、5、8、9号が南接するV区(『東宮跡(5)所取』)3号列石の背後に位置しており、それぞれ関連が深いものと考えられる。12、13号は、3号列石に直接取付いており、列石の構成要素にもなっている。6、11号は、3号列石の背後に位置し、特に6号は2号列石と3号列石の中間部にある。17、19号は、3号列石の下層から検出されている。10号は東端部で単独に検出されており、列石との関連性をあまり見出すことはできない。

### ●V区32号配石遺構

掘り込みを伴う配石遺構で、41区M-8グリッドに位置する。掘り込みは55×45cm程、深さ22cmの隅丸長方形を呈す。掘り込みの縁辺にくの字状に石を配し、中央に玉石を置いている。94号竪穴建物の上層に構築されている。

### ●V区33号配石遺構

掘り込みを伴う配石遺構で、41区I-9グリッド、9号列石の南端部に位置する。長径65cm、短径58cm、深さ20cmの円形状の掘り方に、玉石や板石を用いて不整六角形状の5辺に石を配し、北辺は開放する。底面に板石を敷き、間に小礫を詰めている。その上に玉石を1個置き、さらに蓋をするような形で中央に大型の石を置く。柄鏡形竪穴建物に付設される石圓施設に様相が酷似する。小破片ながら後期前半と考えられる土器片が出土してお

り、該期に位置づけられる可能性が高い。

### ●VII区1号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、42区C-18グリッドに位置する。VII区西方の最も標高の高い場所で、1号列石の背後にあたる。中央に長さが82cmある柱状の石を立て、その周囲に4個の石で四角く囲み、さらにその周囲に7個の石を用いて七角形状に囲んで2重に組んでいる。2重の石組は外周が内周より一段下がっており、雑壇状を呈している。径は76cm程である。断面観察によれば、構築に際して掘り込んだ状況は見られないことから、当時の地表面と考えられる2層上面から地中に押し付けながら中央の石を立て、半分ほどの高さまで1層土で円錐状に土を盛り、立石周囲に石を組んだと考えられる。2層上面レベルは530.75m程である。調査時に本遺構に伴う遺物として、塙之内2式の破片(1, 2)や多孔石(4)が取り上げられている。

### ●VII区2号配石遺構

1号配石に関連すると考えられる配石遺構で、42区C-17グリッド、1号配石の南54cmに位置する。扁平な玉石を平置きし、南から東の縁辺に3個の玉石を長軸を横にして立てている。規模は南北60cm、東西56cmを測る。平置きした石の底面レベルが531.05mであり、1号配石の状況と対比すれば、本遺構も盛土した上に構築されていると判断される。

### ●VII区3号配石遺構

1, 2号配石に関連すると考えられる配石遺構で、42区D-17グリッド、1号配石の南西12cm、2号配石の北西52cmに位置する。南北方向に短い列をなしている。規模は南北で87cmを測る。石の底面レベルが530.9mであり、2号同様、盛土した上に構築されていると考えられる。調査時に本遺構に伴う遺物として、加曾利B式の破片(1)が取り上げられており、1～3号配石は塙之内2～加曾利B式期の所産と判断される。

### ●VII区4・7号配石遺構

42区C-14グリッドに位置する。7号は掘り込みを伴う配石遺構で、隅丸長方形の掘り方の壁面に石を積み

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

上げている。南北の2辺は、長さ30～50cm程の玉石を、長軸を掘り込みの壁に沿わせて4,5個を一列に並べる。平置きにしており、それを3段ずつ積み上げている。北辺は、さらにその上に一回り小さい石を積んでいる。東辺は弧状を呈す。南北辺に比べて整然と積んでおらず、また石も小振りな礫を並べている。西辺については積石は見られない。底面の規模は南北180cm、東西65cm、深さは50cm程を測る。底面はほぼ平坦である。掘り込み内からは、土器の小破片がわずかに出土したのみで、帰属時期を特定することはできなかった。

4号は、7号の上層で確認されたものであり、7号のほぼ中央に位置する。玉石の短辺を立て六角形状に組んでいると見られ、東辺のV字状に2重に組まれた石組が顕著である。西辺の石は見られない。六角形状に石を組んだ後、蓋をするように一回り大きい石を平置きしている。規模は径90cm程である。調査時には、4号、7号と別遺構として扱われているが、その配置から重複ではなく、一連の遺構の可能性が考えられる。7号とした下層の配石を構築して埋め戻した後、中央に4号の石組を構築したと理解することができる。本遺構は、配石墓としての位置づけが妥当であろう。

### ●VII区5号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、41区T-17グリッドに位置する。南接するV区(『東宮遺跡(5)所収』)3号列石の背後にあたる。西部に玉石を数個敷き、長さ1.5m程ある角柱状の石を載せている。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内2式の破片(1～3)が取り上げられていることから、堀之内2式期の所産である可能性が高い。

### ●VII区6号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、41区V-23グリッド、2号列石と3号列石の間に位置する。亜角礫をコの字状に配し、規模は1m四方ほどである。5号竪穴建物の上層に構築されている。遺物の出土は無かった。

### ●VII区8号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、41区R-22グリッドに位置する。3号列石の東方7.6m程に、単独で分布す

るが、南接するV区(『東宮遺跡(5)所収』)3号列石の背後との見方もできよう。主体は北東部の立石であり、重んだ矩形の中に大小2個の立石が配されている。立石を囲む1重目の矩形の規模は70cm四方ほど、大型の立石は長さ40cm、幅25cm程。小型の立石は長さ25cm、幅10cm程を測る。矩形の石組の周囲には、不規則に石が配されている。全体の規模としては、南北2m、東西1.6m程となる。調査時に本遺構に伴う遺物として、加曾利E3式の胸部破片(1)が取り上げられているが、混入と理解すべきであろう。掲載できるほどではなかったが、堀之内2式、加曾利B式の小破片も含まれており、該期の所産である可能性が高い。

### ●VII区9号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、41区T-17グリッドに位置する。南接するV区(『東宮遺跡(5)所収』)3号列石の背後にあたり、5号配石と近接する。長径163cm、短径118cm、深さ35cmの不整楕円形状の掘り方に、大小さまざまな石を詰め込んだ様相を示す。何らかの意図をもって石を組んだ様子は見受けられないことから、掘り込みをもたうものの配石墓としての位置づけは難しいであろう。掘り込み理没土中から堀之内1式の破片(1)が出土しており、該期の所産と判断しておきたい。

### ●VII区10号配石遺構

掘り込みをもたない配石遺構で、41区N-25グリッドに位置する。一回り大きな玉石を中心として、周囲に礫の分布を見るが、意図的な配置と判断するには根拠に乏しい。掘り方は長径126cm、短径82cm、深さ15cmの不整楕円形状を呈す。出土遺物は無文や小破片がわずかに出土した程度であるが、中期後葉の可能性がある。配石遺構とするより、土坑に入った石と判断すべきかもしれない。

### ●VII区11号配石遺構

41区T-21グリッドに位置し、3号列石の背後にあたる。掘り込みをもたず、大小の石がまとまりをもつ、いわゆる集石の様相を呈す。規模は東西110cm、南北120cm程である。3号列石に近接することから、3号列石と有機的に結び付くものと考えられる。

### ●VII区12号配石遺構

41区T-22グリッドに位置し、3号列石の東縁に接する。2基の石組が、南西-北東方向に隣接した形になっている。南西の石組は、中心にやや扁平な柱状の石を立て、4個の石で四角く囲う。規模は東西42cm、南北55cmを測る。北東の石組は、中心に玉石を平置きし、6個の石で不整五角形状に囲う。規模は東西53cm、南北60cmを測る。出土遺物は皆無であることから帰属時期は特定できないが、隣接する3号列石と同時期、あるいは本遺構から3号列石が派生したと考えれば、3号列石にやや先行する時期と捉えられよう。

### ●VII区13号配石遺構

41区T-22グリッドに位置し、3号列石の東縁に接する。12号配石の東側1m程に位置する。玉石を楕円形状に敷き並べ、さらに南縁に立てかけるように複数の石を配す。規模は東西174cm、南北168cm程を測る。上面から、長さが43cmある石棒の基部が出土している。時期は12号配石と同様に考えられよう。

### ●VII区17号配石遺構

掘り込みを作り配石遺構で、41区T-22グリッドに位置する。3号列石の下層から検出された。楕円形状の掘り方に、玉石や板石を壁面の傾斜に沿って斜めにめぐらしている。概ね1個ずつだが、部分的に複数個重ねる箇所もある。石の素材として、石皿の破片(1)が転用されていた。底面の規模は長径95cm、短径80cm程、深さは35cm程を測る。出土遺物は土器の小破片が2点のみで、帰属時期は特定できない。7号配石と石の組み方は異なるが、規模と形状から配石墓の可能性を考えておきたい。

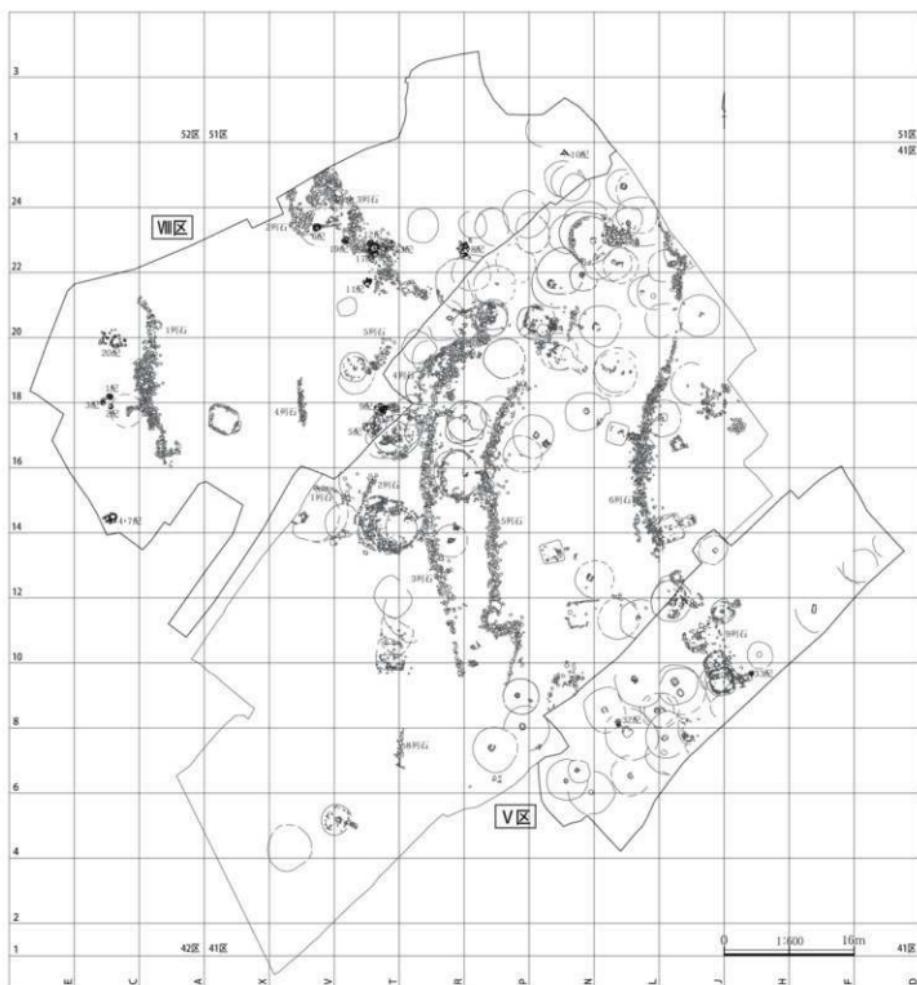
### ●VII区19号配石遺構

掘り込みを作り配石遺構で、41区U-22グリッドに位置する。3号列石の下層から検出された。板石を平坦に敷き並べ、その上に小型の玉石やNa1の磨石が載る様相を呈していた。規模は東西77cm、南北85cmを測る。遺物は、土器の小破片が少量出土したのみであるが、称名寺式も確認できることから該期の可能性が考えられる。しかし、配石遺構として他の遺構と比較すれば、石の素材や構築方法が異なることから、敷石竪穴建物の一

部であった可能性も否定できない。

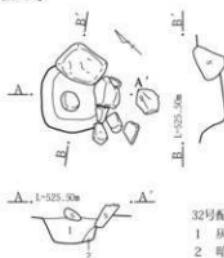
### ●VII区20号配石遺構

掘り込みを作り配石遺構で、42区C-19グリッドに位置する。VII区西方の最も標高の高い場所で、1号列石の背後にあたり、1号配石の北方5.6m程の位置にある。調査時には竪穴建物として調査されたが、整理段階において竪穴建物とする根拠が見出せないため、配石遺構としたものである。コの字状に大型の棒状石を配し、その中央に玉石や板石を列状に並べて「山」字状に配している。周囲にも石が散在する。「山」の幅は240cm、中央辺の長さ144cmを測る。調査時に本遺構に伴う遺物として、堀之内1式(1)、堀之内2式(2)の破片が取り上げられており、概期の所産と考えられよう。



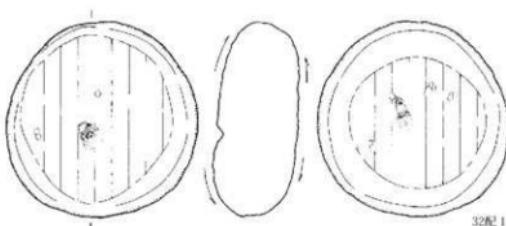
第129図 配石遺構全体図

V区32号



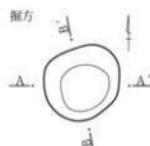
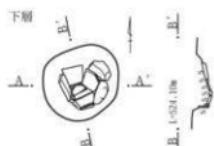
32号配石

- 1 灰黄褐色土 黄色粒、黄色軽石多量、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒わずかに含む。



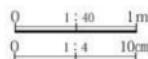
32号配石

V区33号



33号配石

- 1 暗褐色土 炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒、炭化物少量、φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

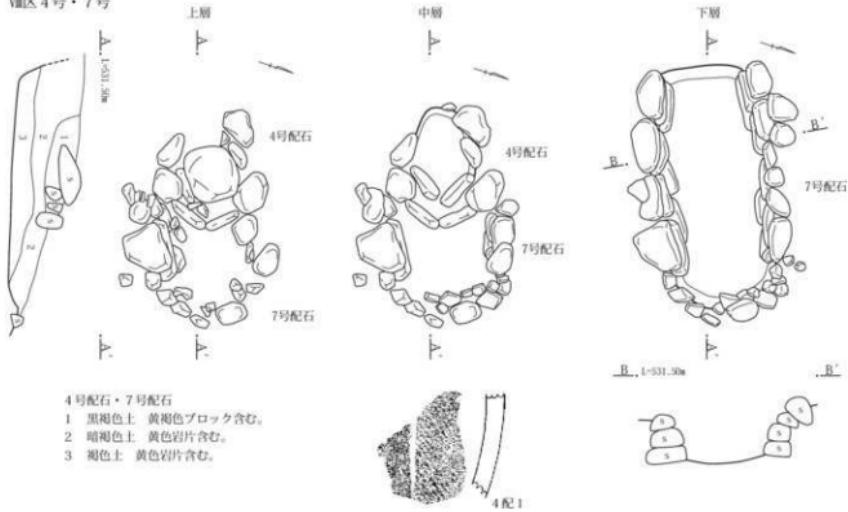


第130図 V区配石遺構

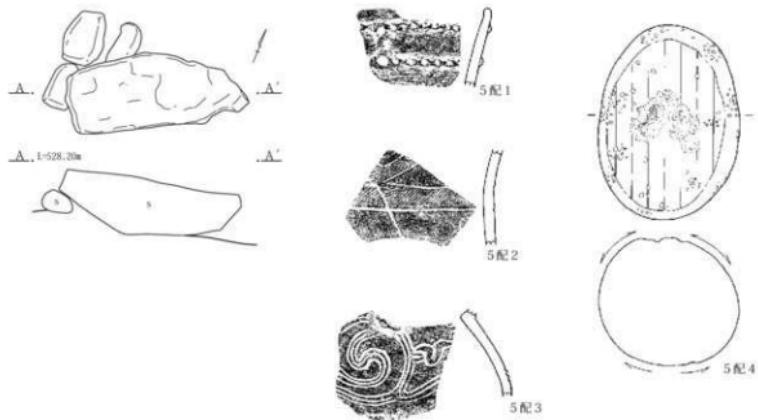


第131図 VII区配石遺構(1)

## VIII区 4号・7号



## VIII区 5号



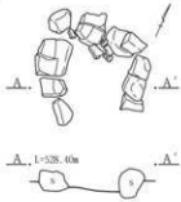
0 1:40 1m

0 1:3 10cm

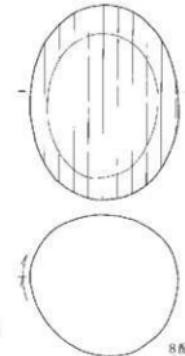
第132図 VIII区配石遺構(2)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

VIII区 6号



A-A' 1-528.40m



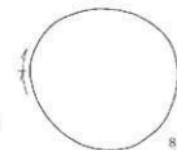
VIII区 8号



※トーンの石は立石を表す

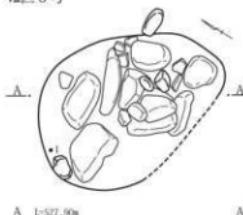


8配1



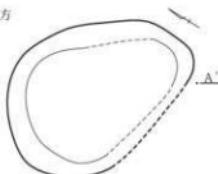
(1/4)

VIII区 9号

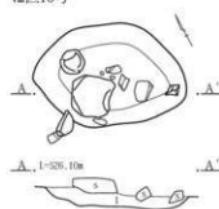


A-A' 1-527.90m

掘り方



VIII区 10号



A-A' 1-526.10m

10号配石

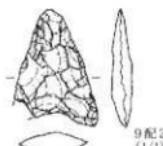
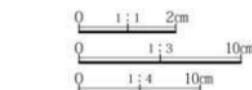
1 黒褐色土 塵化物わずかに含む。

9号配石

1 黒褐色土 塘化物少量。

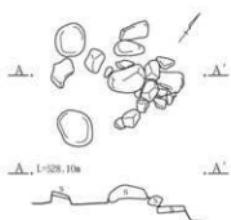
φ 5mm程度の風化岩片を多く含む。

0 1:40 1m



第133図 VIII区配石遺構(3)

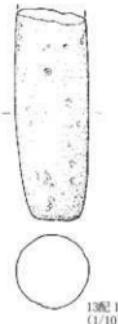
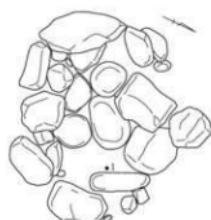
VII区11号



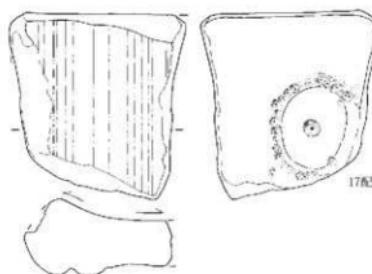
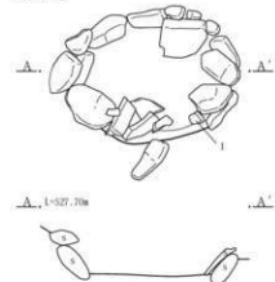
VII区12号



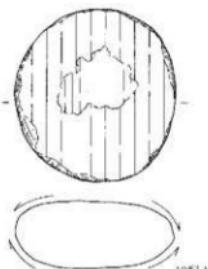
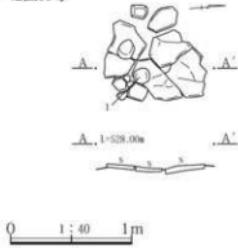
VII区13号



VII区17号



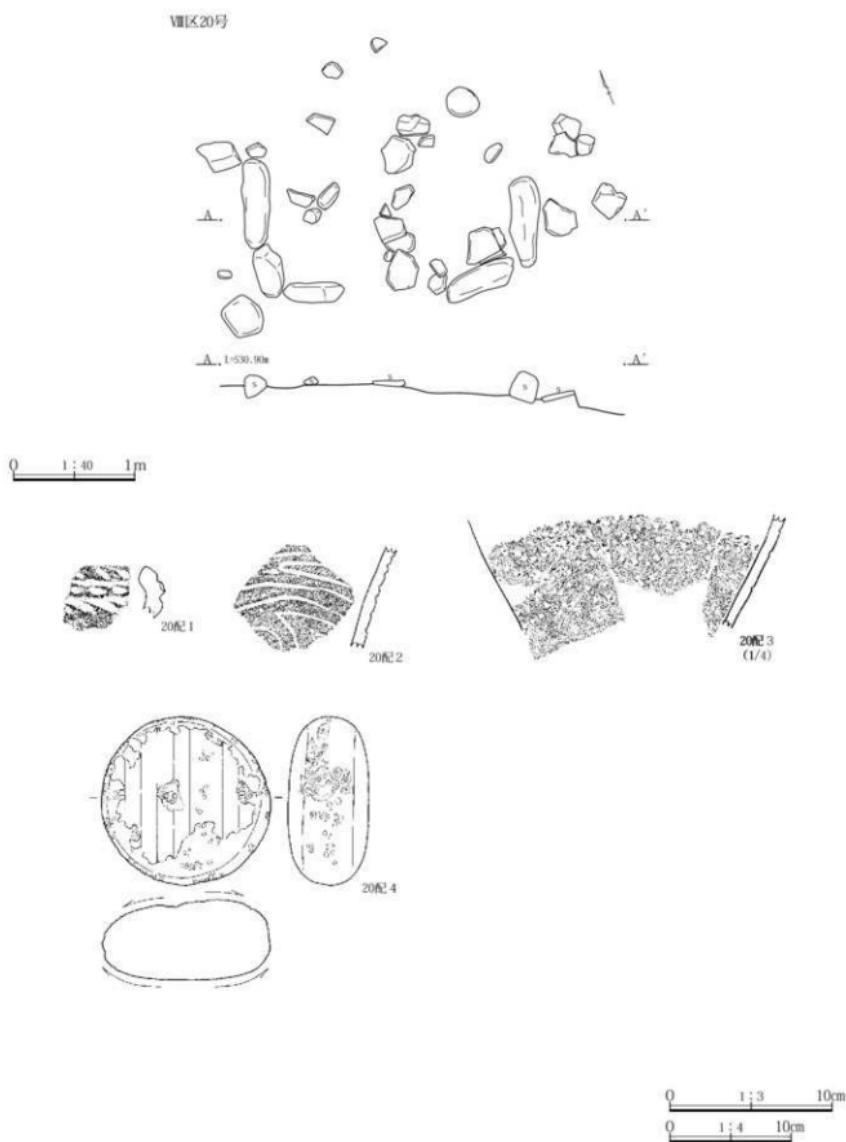
VII区19号



0 1:40 1m

0 1:4 10cm  
0 1:10 20cm

第134図 VII区配石遺構(4)



第135図 VII区配石遺構(5)

## 7 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、遺物包含層であるV層から出土したものと、表土や近世遺構の遺構内出土のものを含めて扱っている。また、V層の包含層調査に際し、竪穴建物が床面近くまで掘り下げられて、あるいは石垣が確認されて初めて竪穴建物として認識された例が多く、遺構確認に至るまでは包含層遺物として取り上げられていることを考慮すると、本来は竪穴建物や土坑など、縄文時代の遺構内に帰属していたものも少なからず含まれていると思われる。

土器については、遺物収納箱121箱分が出土した。そのほとんどは、集落継続期に並行する中期後葉～後期中葉期に比定できるものである。これより時期が前後するものは、V区において五領ヶ台式や焼町土器がわずかに見られたが、それ以外の時期は全く確認できず、ほぼ中期後葉～後期中葉に限定された出土状況を示す。本遺跡初期の調査では、山際にあたる標高の高いI～IV区(第5図参照)において、早期後半条痕文系～晩期末葉に至る幅広い時期の土器が確認されているが、これと好対照をなす。同じ段丘面の上でも、時期によって縄文人の活動範囲、土地利用が異なるということの表れであろう。

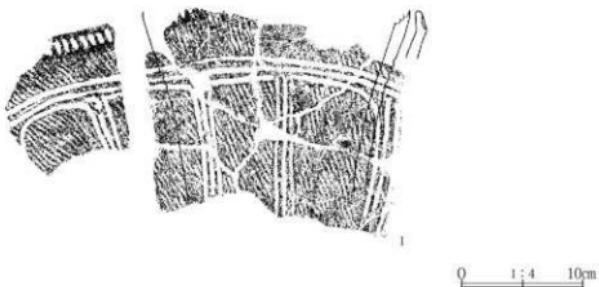
V区では、半完形に復元できた個体が比較的多く、加曾利E3式やE4式、郷土式の大型個体の中には、前述したとおり、本来は竪穴建物の埋没土中に含まれていたものがあると思われる。また、特筆すべきこととして、堀之内1・2式の個体や大形破片が多い傾向があげられ

る。V区では後期の竪穴建物は称名寺I式期1棟のみで、土坑の分布が認められる程度であった。このことからV区は、居住城からはやや外れた竪穴建物周囲の貯蔵穴群との位置づけができると考えられるが、堀之内式期には土器捨て場として利用された可能性も考えられるであろう。また、ミニチュア土器(122)と変質蛇紋岩製の勾玉(129)、翡翠製の玉(130)があるが、すべて41区J-8グリッドから出土しており、興味深い。

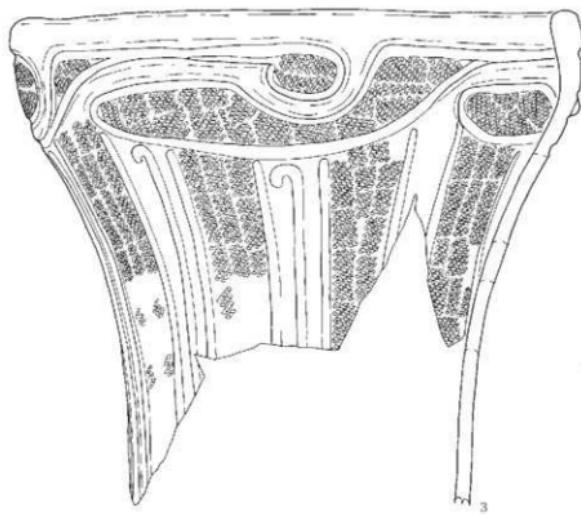
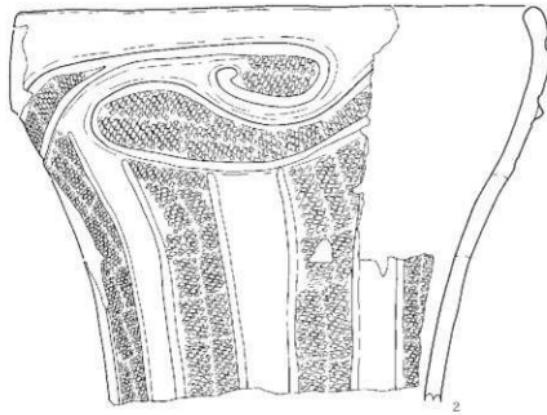
VIII区は、V区に比べて後期の遺物が目立つ。称名寺式～加曾利B2式までが確認されており、特に標高の高い西半部で堀之内式～加曾利B式の出土が多い傾向が看取される。列石遺構との関連性を窺うことができよう。ミニチュア土器(97～99)は、3号列石の背後にまとまっている。

石器については、未完成品を含め二次的な加工のある製品が244点(V区116点・VIII区128点)出土している。内訳を見ると、剥片石器では打製石斧が43点(V区30点・VIII区13点)と最も多く、石鏃27点(V区14点・VIII区13点)、二次加工ある剥片が19点(V区13点・VIII区6点)、石鏃未完成品が10点(V区4点・VIII区6点)、磨製石斧が10点(V区4点・VIII区7点)、楔形石器が5点(V区4点・VIII区1点)、石錐(V区3点・VIII区1点)・石核(VIII区4点)がそれぞれ4点と続く。打製石斧がV区に多い傾向がある。

砾石器については、磨石が63点(V区14点・VIII区49点)で最も多く、凹石32点(V区14点・VIII区18点)、多孔石7点(V区4点・VIII区3点)、石皿6点(V区3点・VIII区3点)となる。磨石・凹石がVIII区に多い傾向が認められる。

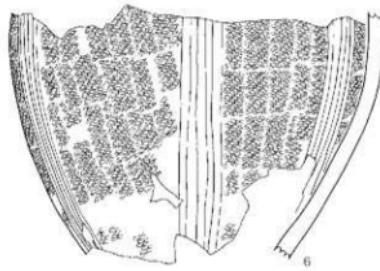
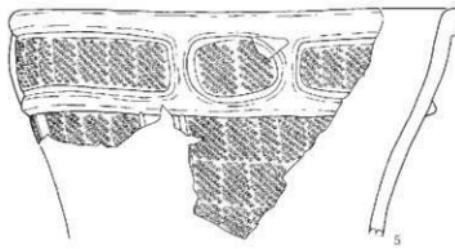
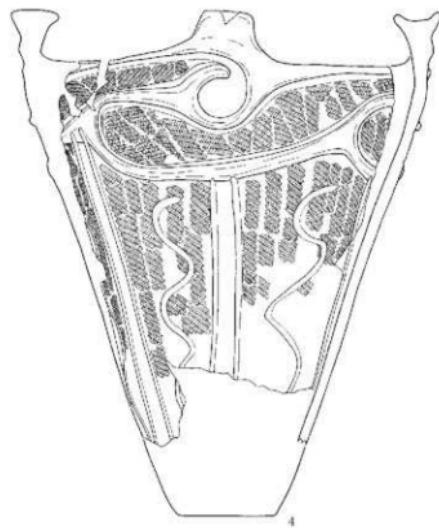


第136図 V区遺構外出土遺物(1)



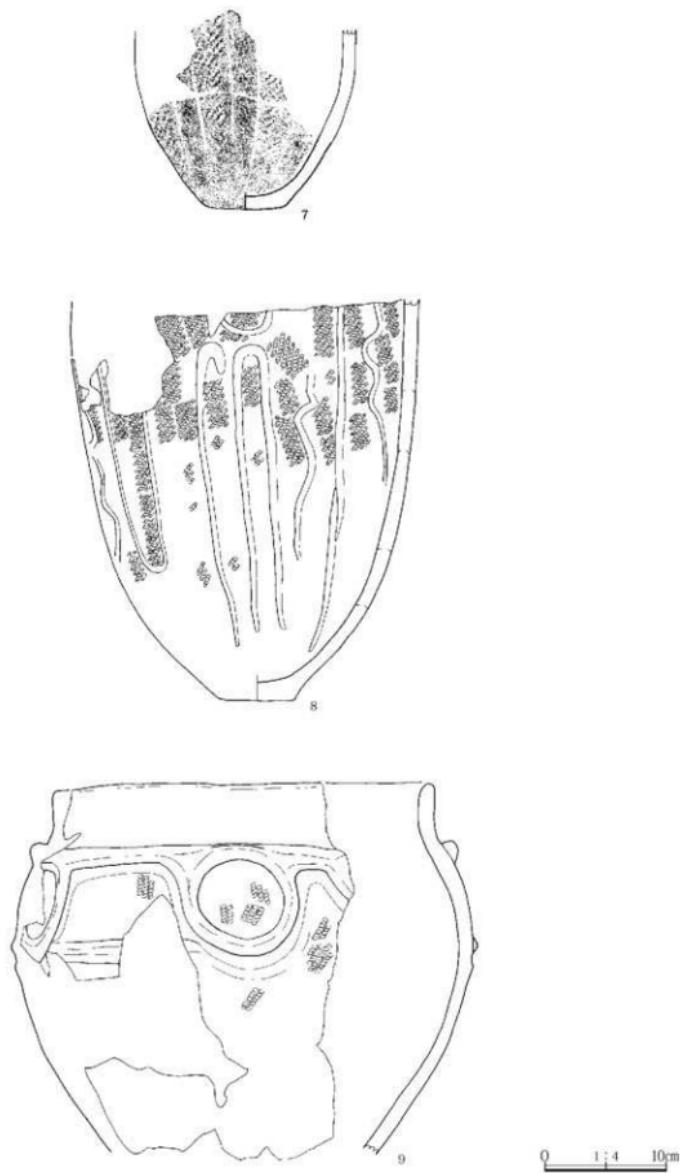
0 1 : 4 10cm

第137図 V区遺構外出土遺物(2)

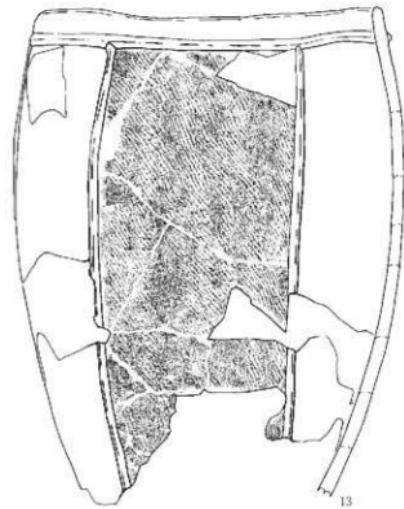
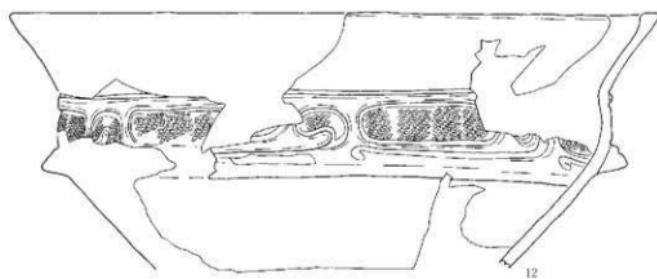
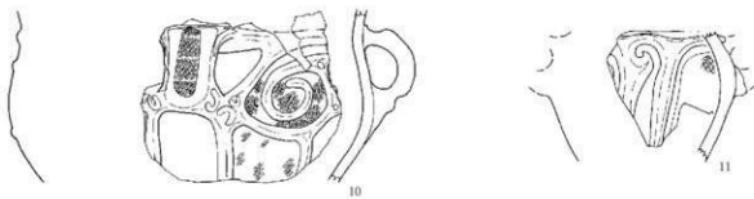


0 1:4 10cm

第138圖 V区遺構外出土遺物(3)

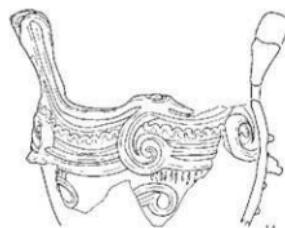
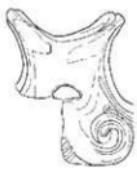


第139図 V区遺構出土遺物(4)

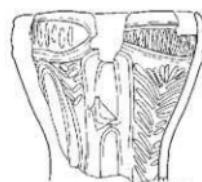


0 1:4 10cm

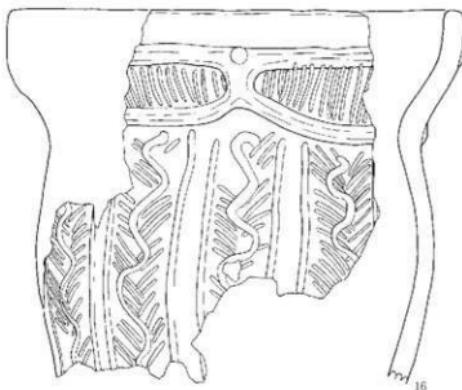
第140圖 V区造構外出土遺物(5)



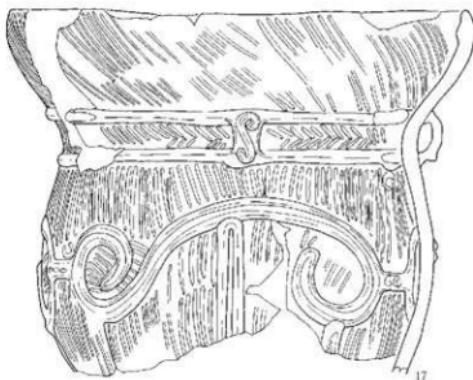
14



15



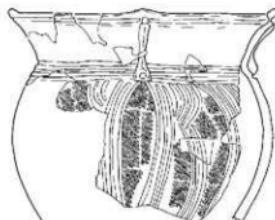
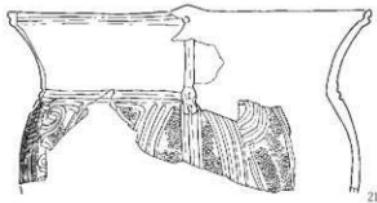
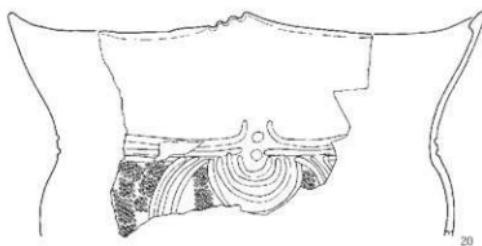
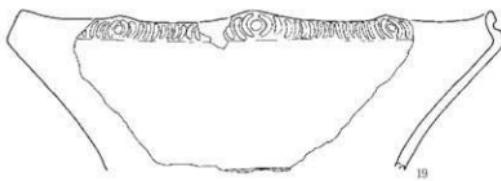
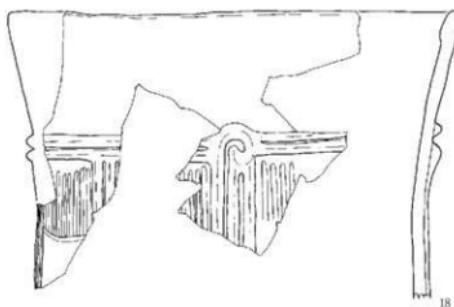
16



17

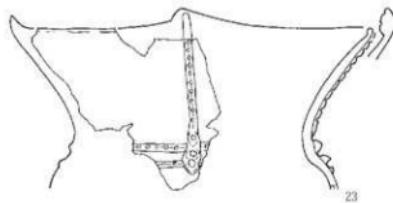
0 1:4 10cm

第141図 V区遺構出土遺物(6)

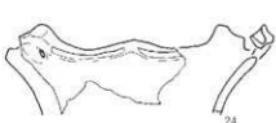


0 1 : 4 10cm

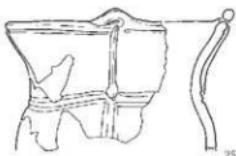
第142圖 V区造構外出土遺物(7)



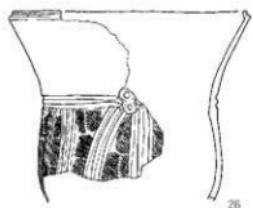
23



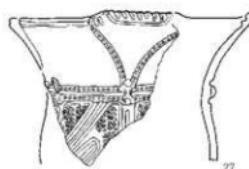
24



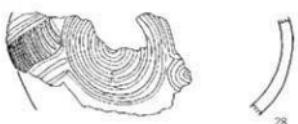
25



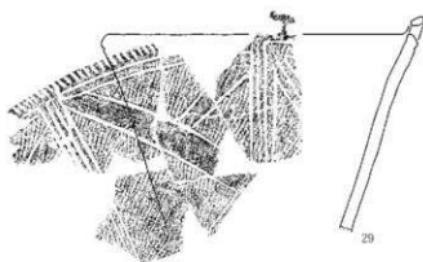
26



27



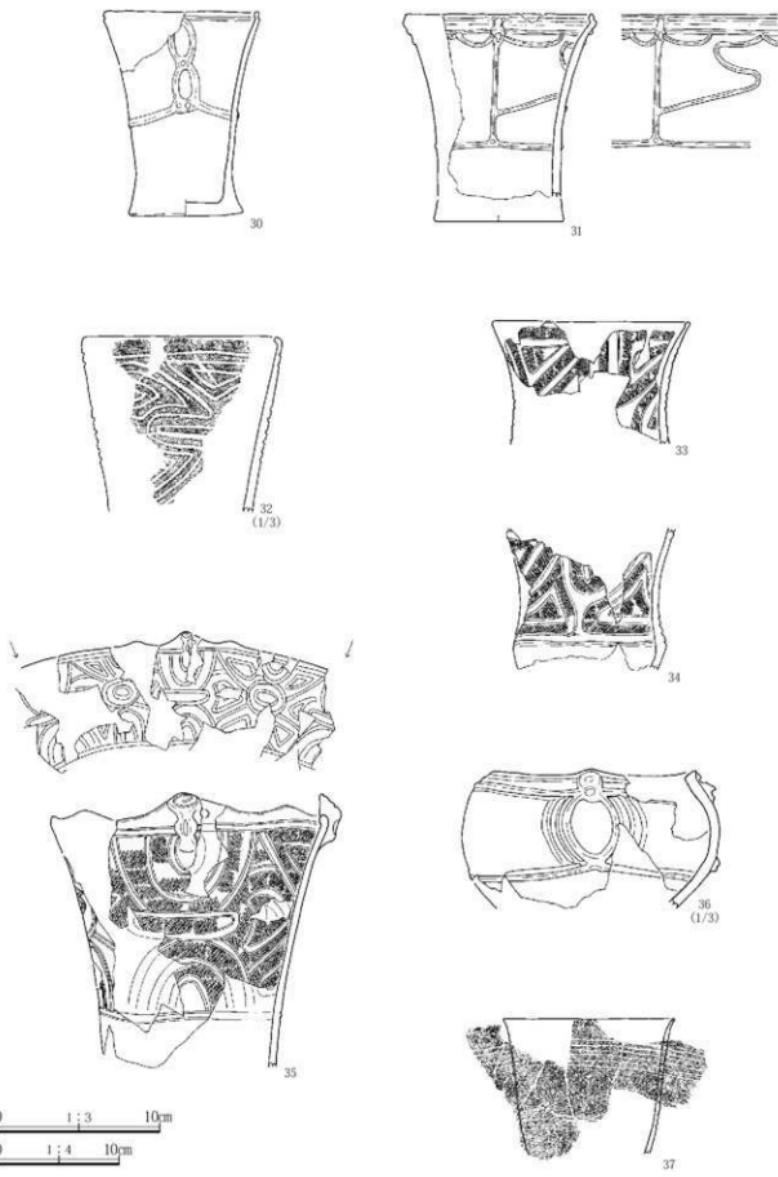
28



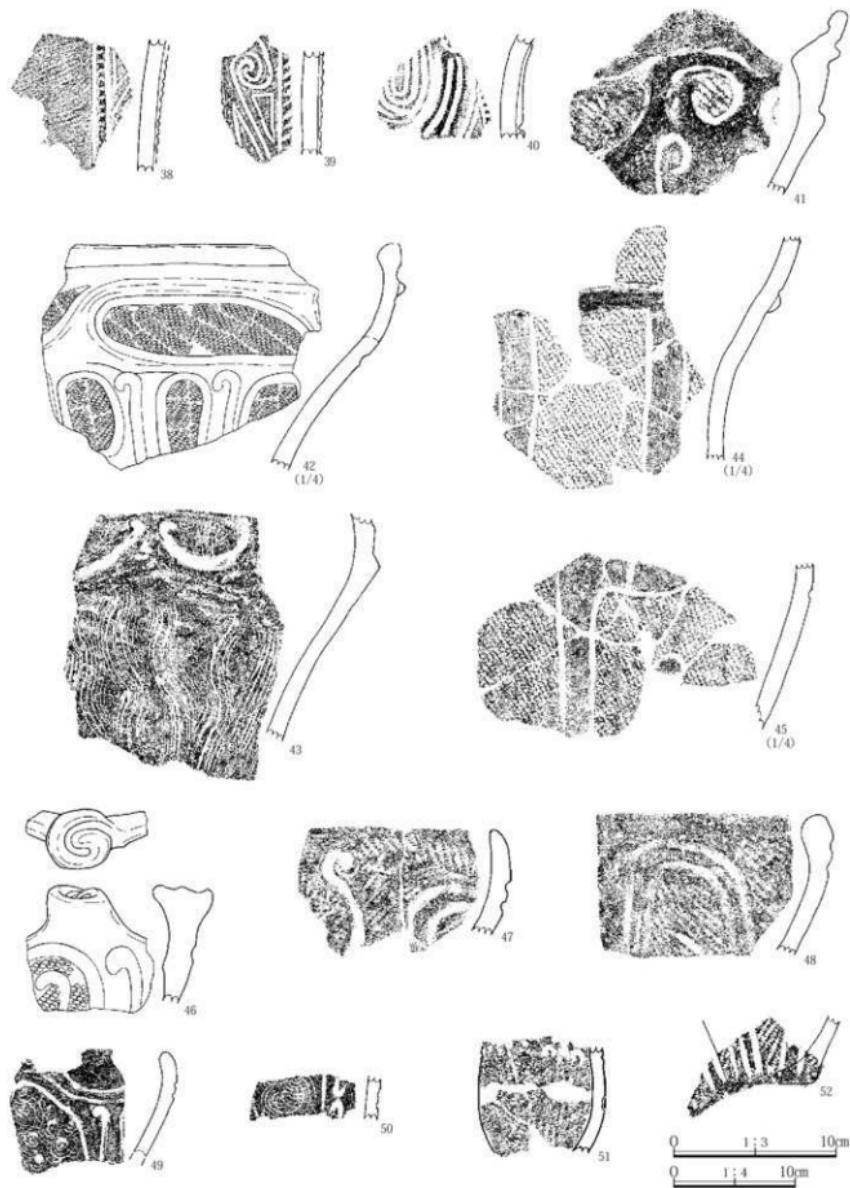
29

0 1 : 4 10cm

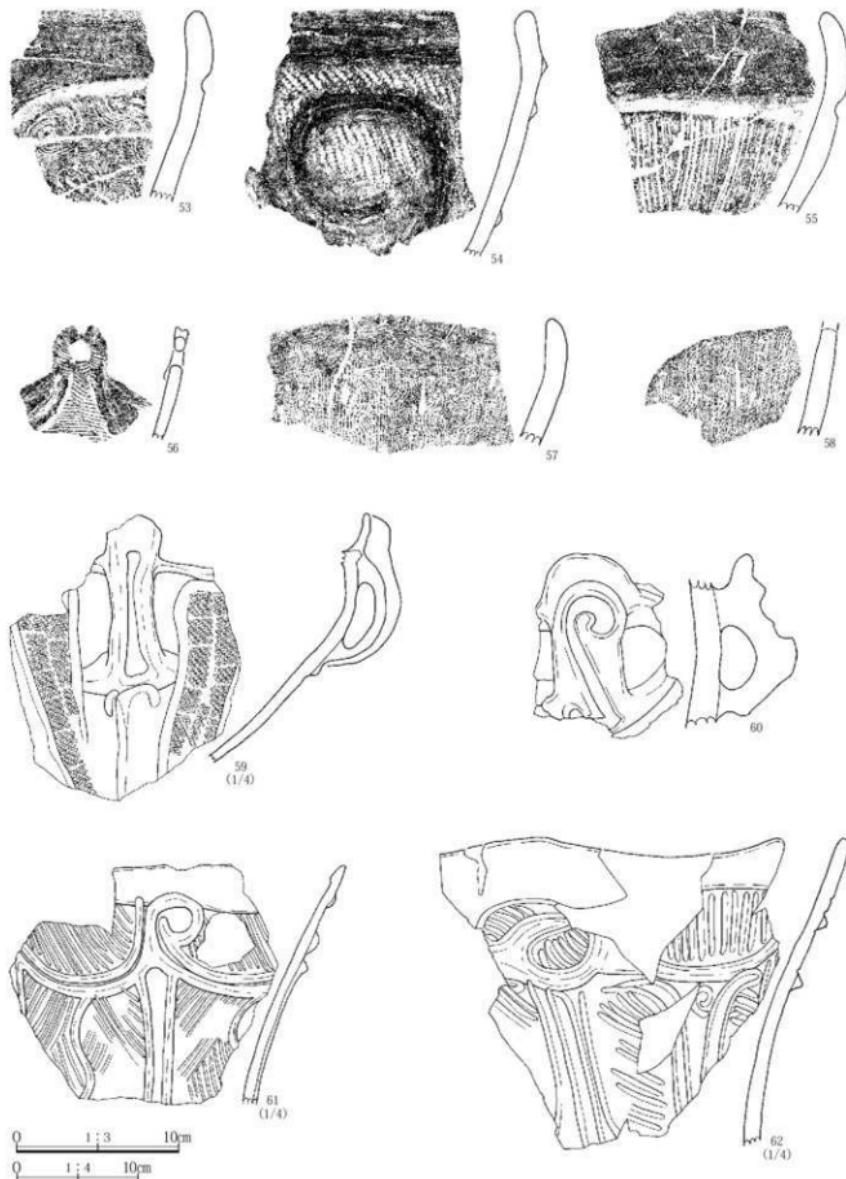
第143図 V区遺構出土遺物(8)



第144図 V区造構外出土遺物(9)



第145図 V区遺構出土遺物(10)



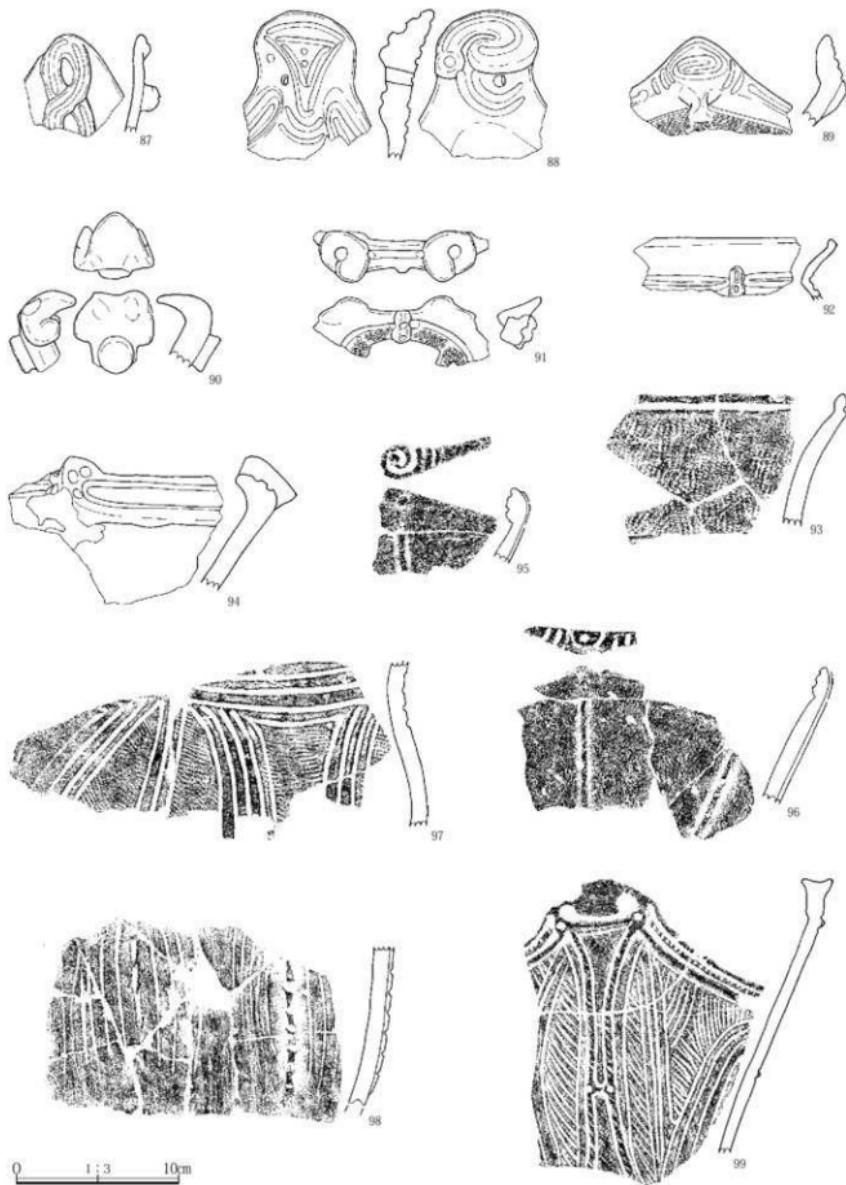
第146圖 V區造構外出土遺物(11)



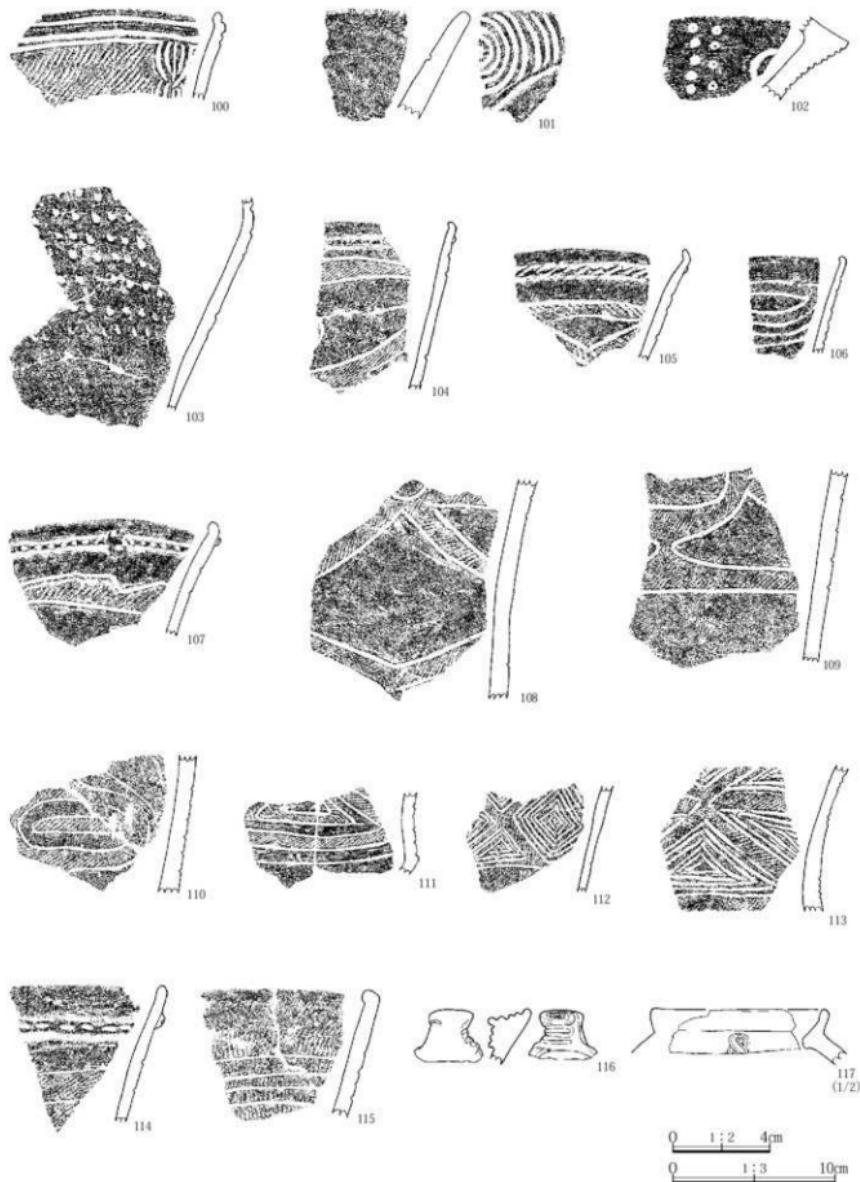
第147図 V区遺構出土遺物(12)



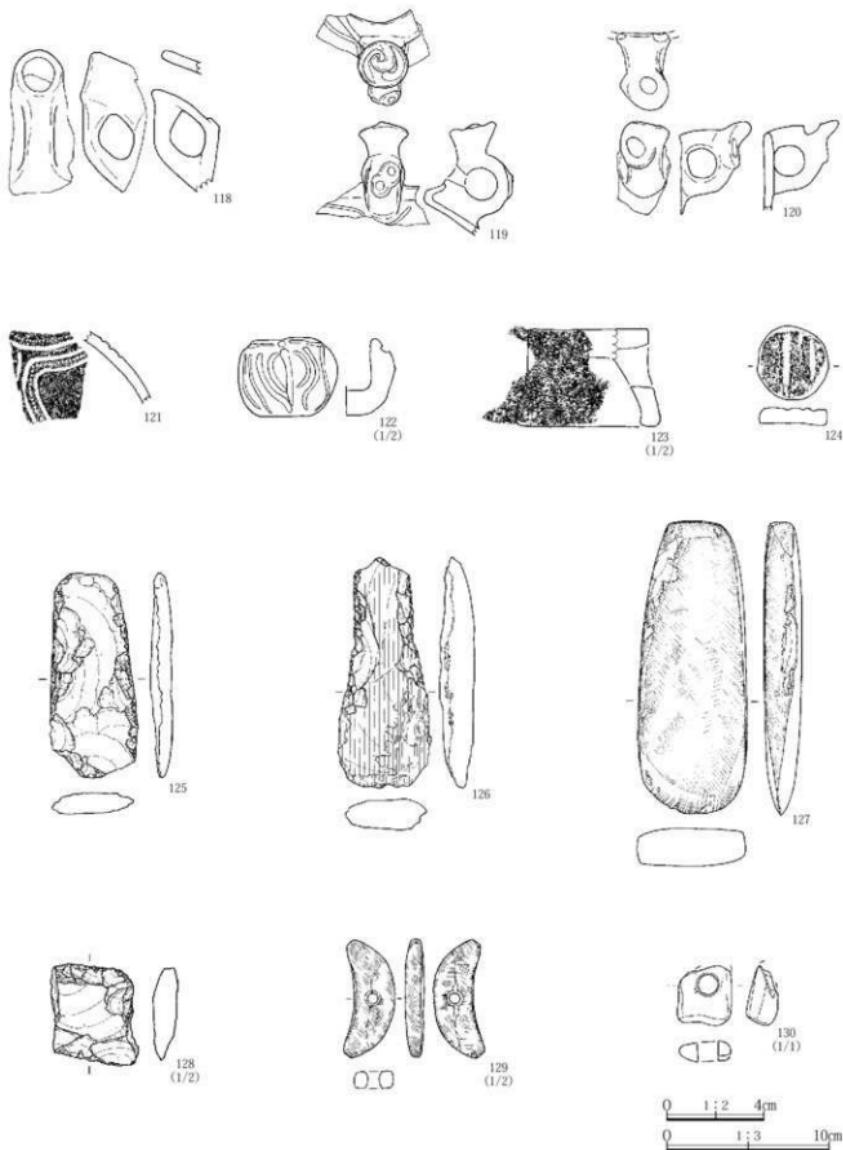
第148図 V区造構外出土遺物(13)



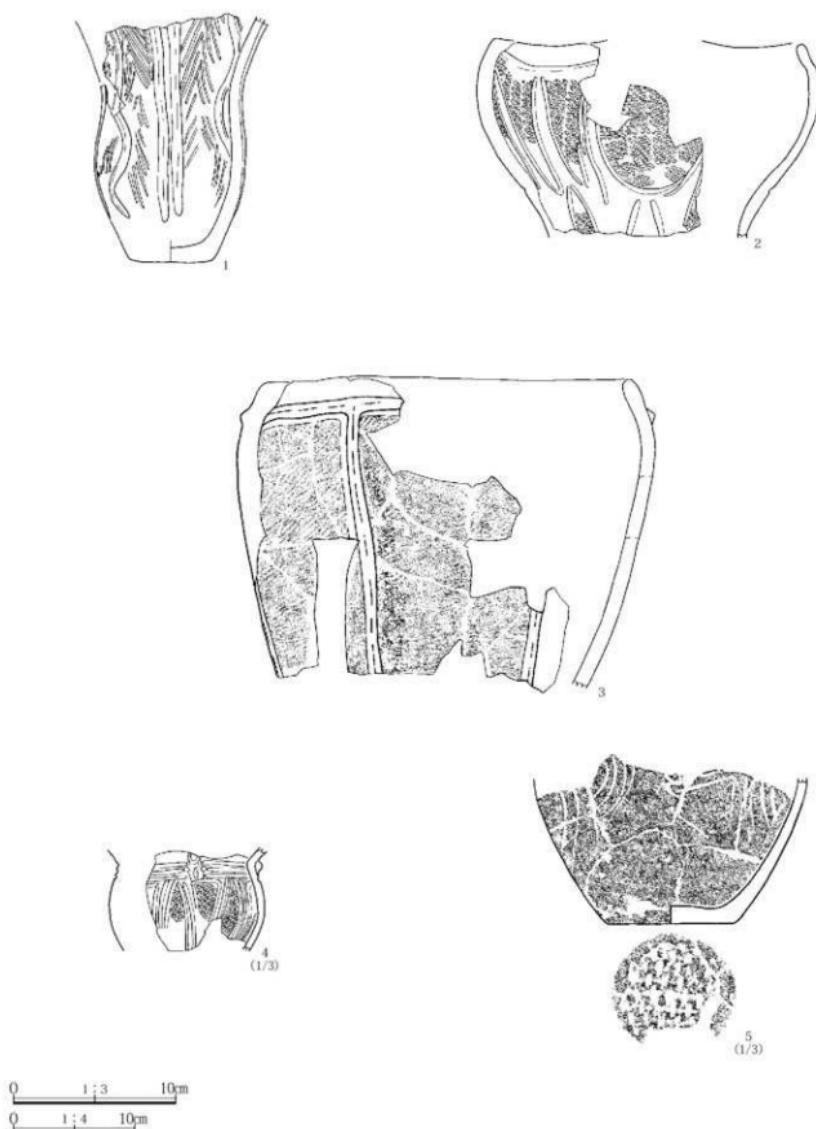
第149図 V区遺構出土遺物(14)



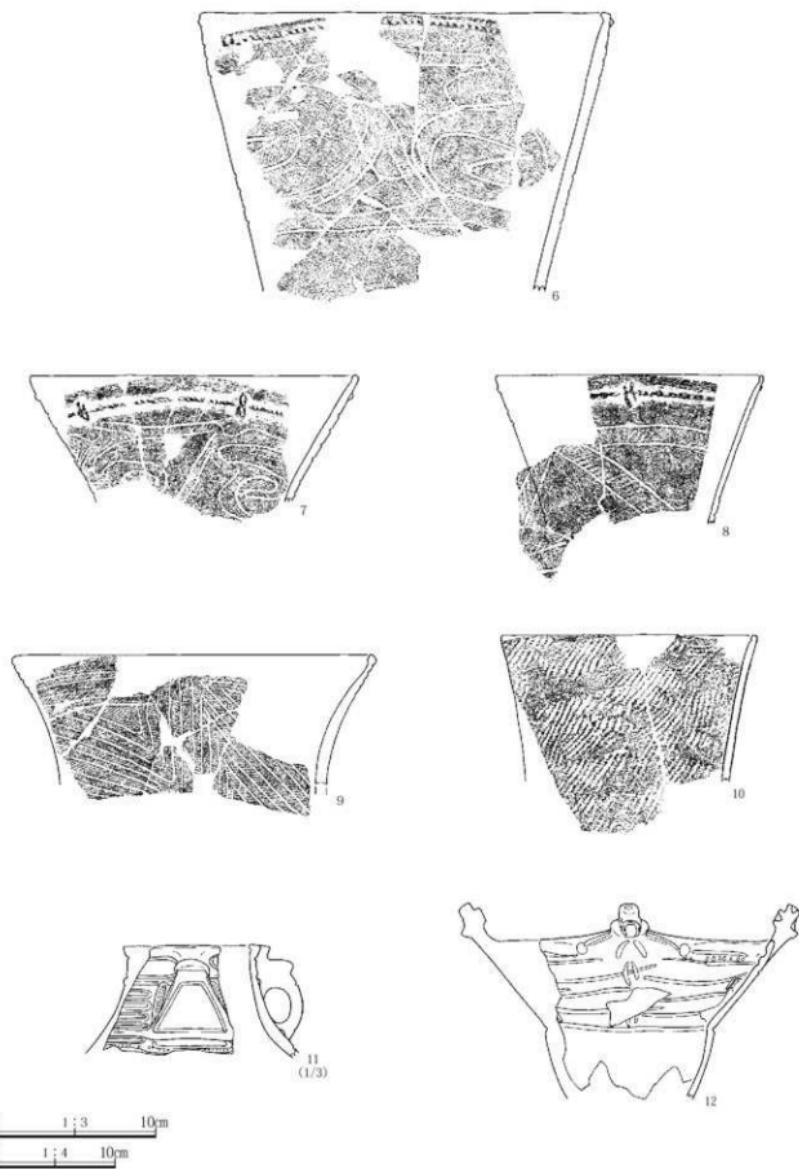
第150圖 V区造構外出土遺物(15)



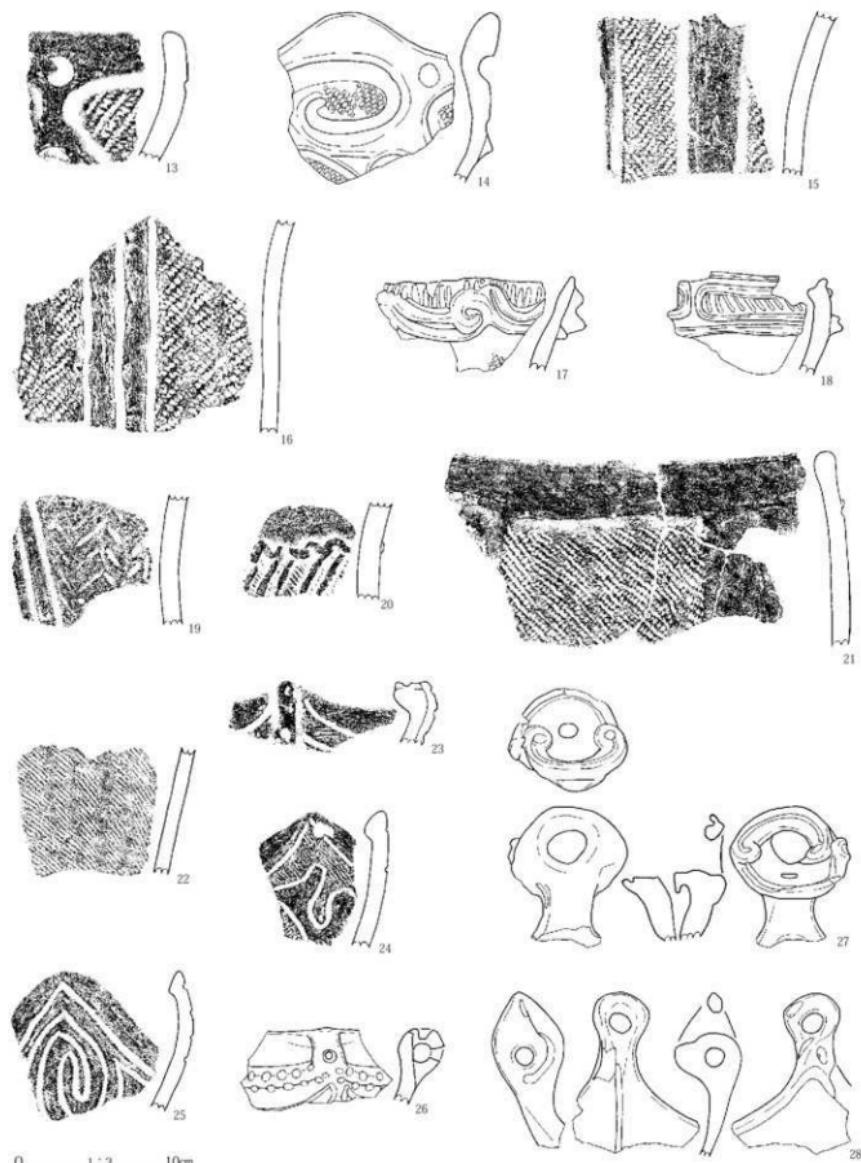
第151図 V区遺構外出土遺物(16)



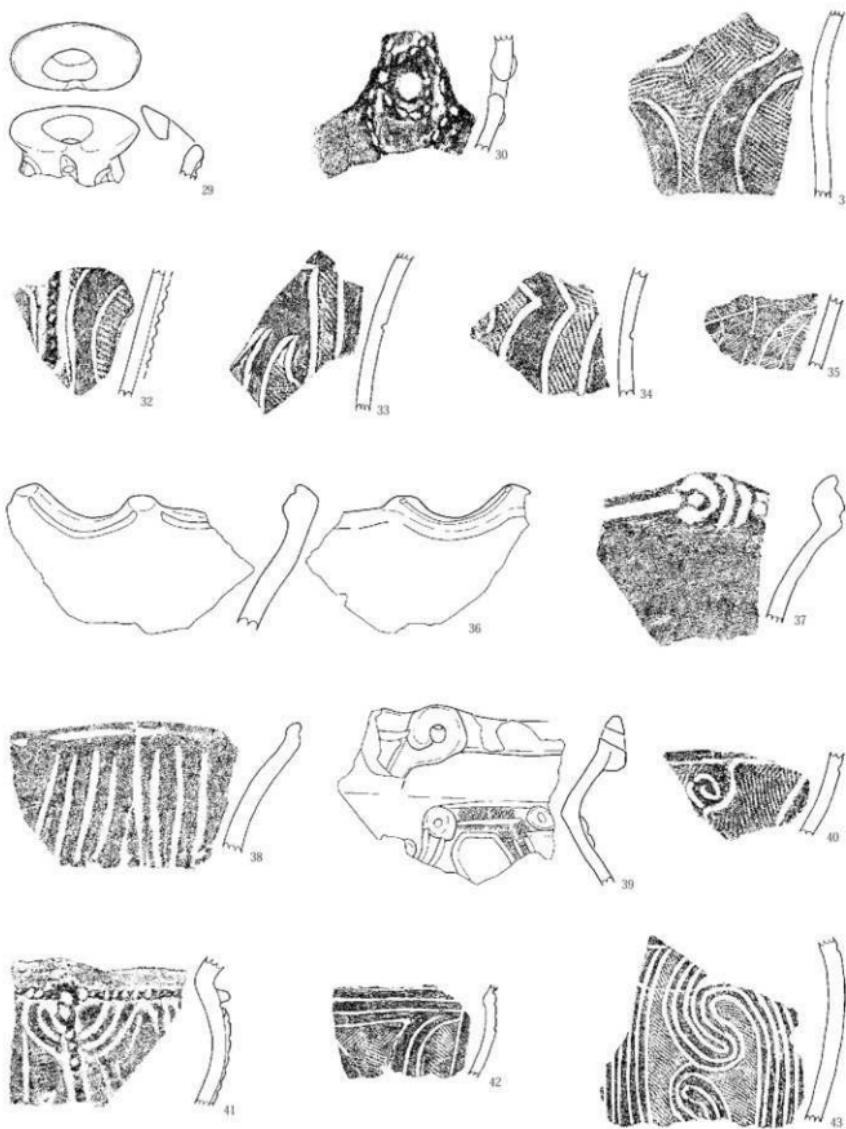
第152図 VII区造構外出土遺物(1)



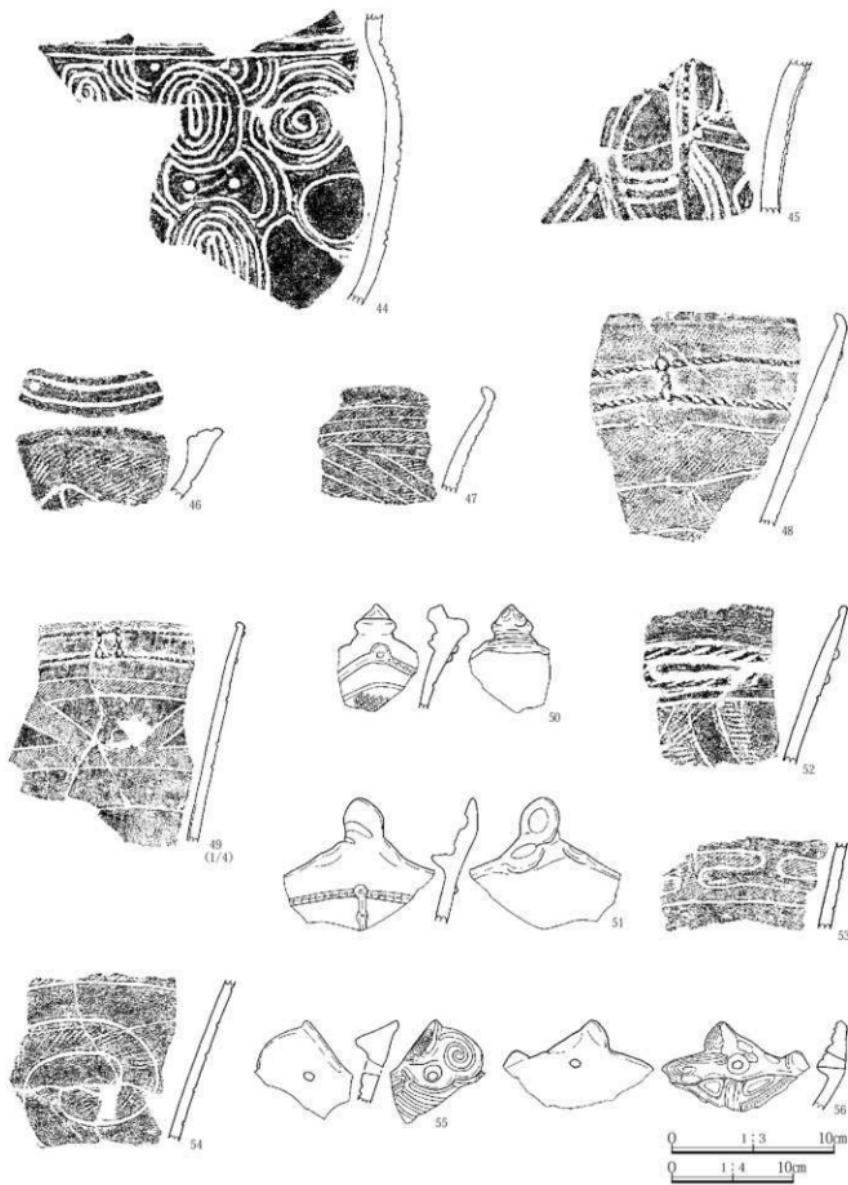
第153図 VII区遺構外出土遺物(2)



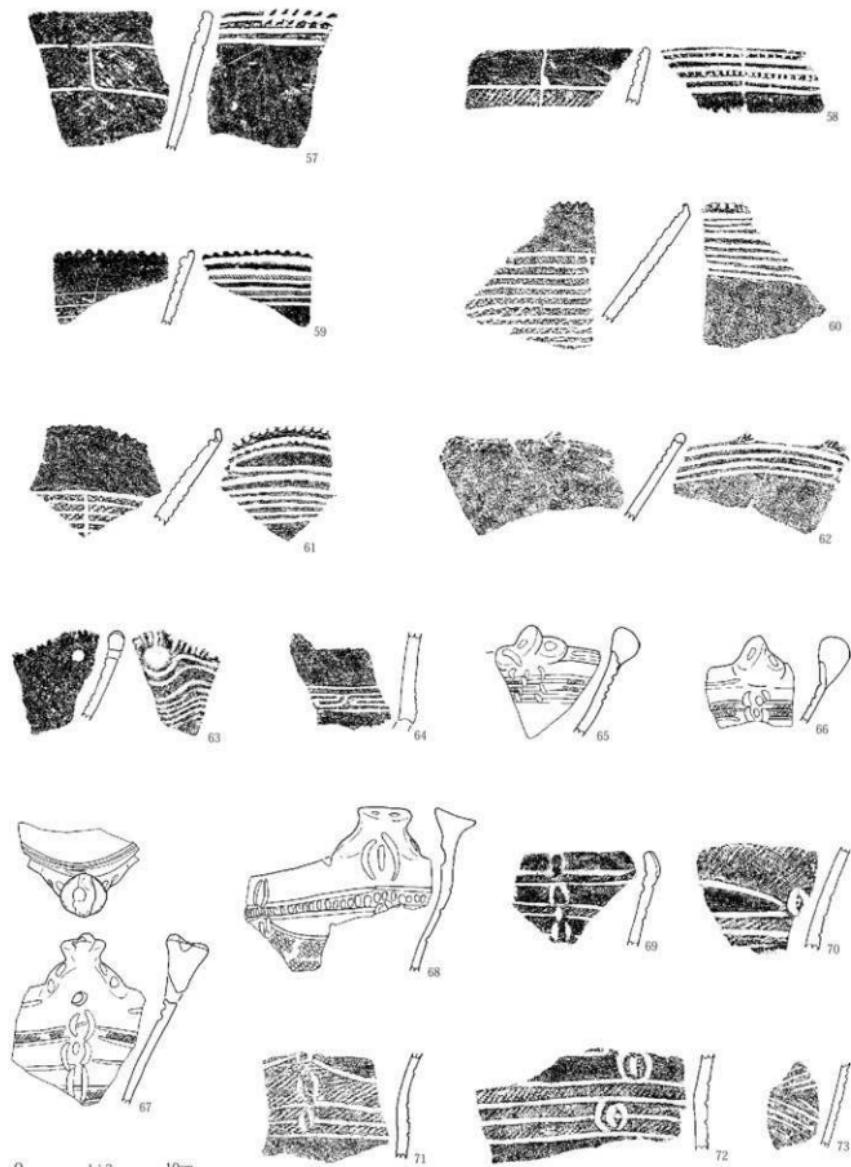
第154図 VII区遺構外出土遺物(3)



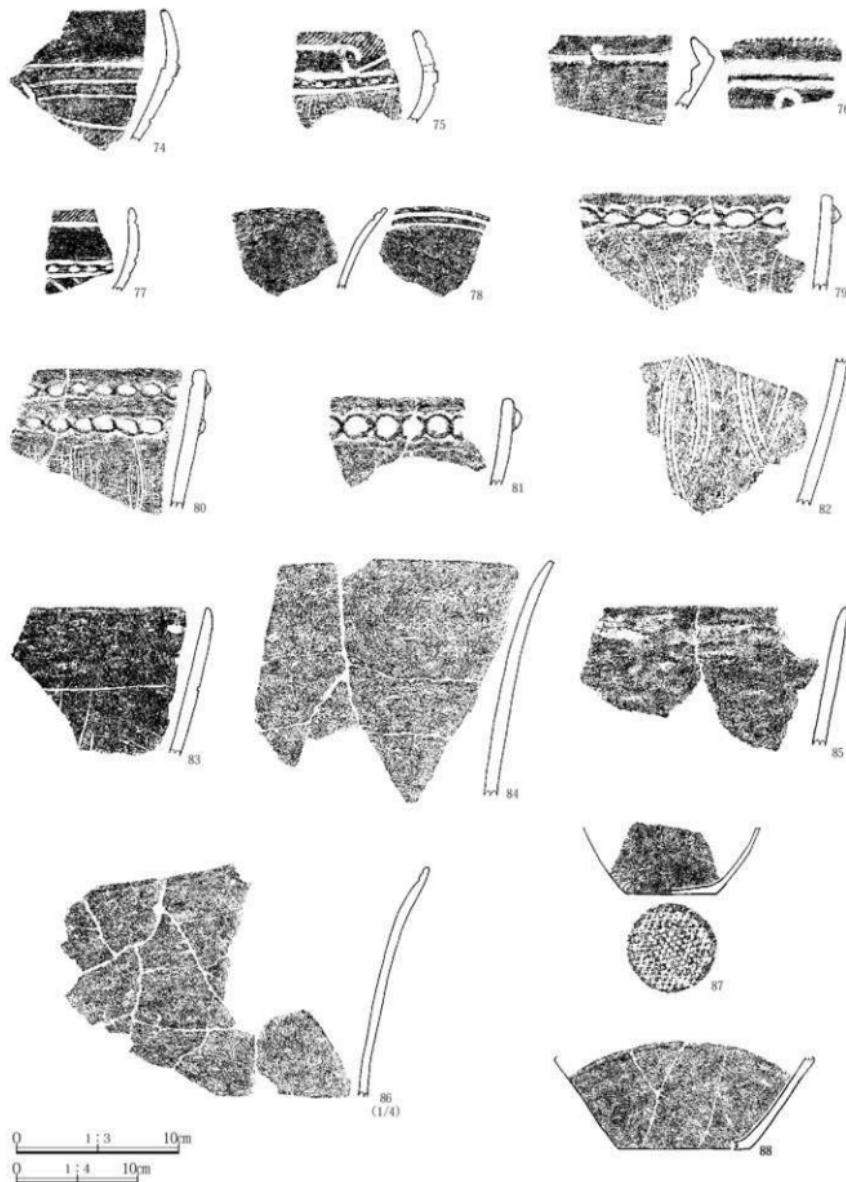
第155図 VIII区遺構外出土遺物(4)



第156圖 VII區遺構外出土遺物(5)



第157図 VII区遺構外出土遺物(6)



第158図 VII区造構外出土遺物(7)



第159図 VII区遺構出土遺物(8)

## 繩文時代遺物觀察表

## V区94号竪穴建物

種 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整 形 の 特 徴	備 考
第1084 PL.36	1 深鉢	床直 頭部～底部4/5	底 6.8	粗砂、輝石、雲母、 石英/赤褐色/良好	現存高19.7cm。胸部がこの字形状に膨らみ、頭部でくびれ、 口縁が開く形態。2条の隣線をめぐらして頭部文様帶を区画。 沈継と隣継による鉛格子目文を施す。上位隣継に波状 隣継を沿わせる。より隣継を伴う環状把手を4單位に付す が、本体とほど接してしまい、隙間がなくなっている。頭 部は把手下から溝巻文を伴う3条ないし2条隣継による懸 垂重文、間に単隣継による蛇行懸垂文を施し、矢羽根条沈継 を充填施文する。	郷土式
第1085 PL.36	2 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/赤褐色/ 良好	小突起を付す波状口縁。隣継をめぐらして幅狭な口縁部文 様帶を区画。波頂部には沈継による溝巻文を配す。以下、 隣継によるモチーフ、交互斜刺突を施す。	郷土式
第1086 PL.36	3 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、雲母/ 明赤褐色/良好	隣継をめぐらして画面、2条の隣継を施す。口縁内面 肥厚。	郷土式
第1088 PL.36	4 深鉢	床止 8cm 口縁部破片		粗砂、輝石/暗赤 褐色/良好	隣継をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画。以下、隣継 による渦巻状モチーフを描く。	郷土式
第1089 PL.36	5 深鉢	理上 頭部破片		粗砂、輝石/橙/良 好	隣継による楕円凹凸両を施し、斜位沈継を充填施文する。 口縁部は無文か。	曾利系

## V区95号竪穴建物

第1284 PL.36	1 深鉢	倒内 頭部破片		粗砂、細織、白色 粒/橙/良好	地文にLRを縦位施文し、3本沈継による懸垂文を施す。	加曾利 E 2式
第1286 PL.36	2 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、細織、白色 粒/にい/赤褐色/ふ つう	隣継による口縁部楕円状区画を施す。	加曾利 E 3式

## V区96号竪穴建物

第1483 PL.36	1 深鉢	倒体・器 脚中位		粗砂、細織、白色 粒/明赤褐色/良 好	改版による楕円状モチーフを上下に配し、矢羽根状短沈継 を充填施文する。	郷土式
第1485 PL.36	2 深鉢	理裏 脚裏～脚位 1/2		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	溝巻文を伴う2本隣継を横縫に連ね。矩形の脚部文様帶を 区画。両側内面に横位の2本沈継で3帯にし、縦位沈継を 充填施文する。	郷土式
第1486 PL.36	3 深鉢	床止 1 ~ 29cm 口縁～底部は 完形	口 底 (9.5)	粗砂、細織、白色 粒/明赤褐色/良 好	隣継による口縁部楕円状区画。沈継による脚部懸垂文を施 す。RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第1487 PL.36	4 深鉢	理上 口縁部破片	口 (18.3)	粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/良好	波状口縁。隣継による口縁部楕円状区画。3本沈継による 脚部懸垂文を施す。RLを縦位充填施文する。	加曾利 E 3式
第1488 PL.36	5 深鉢	理上 口縁～脚中位破 片	口 (18.3)	粗砂、細織、白色 粒/橙/良好	波状口縁。ワラビモチーク隣継を横位に連ねさせて口縁部文 様帶を区画。区画内に横位沈継をめぐらし。波頂部にはワラ ビ手文を配す。区画隣継のワラビ手文から2条沈継による 懸垂文を施し、RLを縦位充填施文すると思われるが、器面 の摩滅が甚しき原因は判然としない。	加曾利 E 3式
第1584 PL.37	6 深鉢	理上 口縁～脚下位 1/4	口 (32.0)	粗砂、白色粒/橙/ 良好	波状口縁。隣継による口縁部楕円状区画。沈継による懸垂 文を施す。RLを縦位充填施文する。	加曾利 E 3式
第1585 PL.37	7 深鉢	床止 1 ~ 6cm 口縁～脚下位 1/2	口 (43.6)	粗砂/明赤褐色/ふ つう	隣継による口縁部楕円状区画。沈継による脚部懸垂文を施 す。RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第1684 PL.37	8 深鉢	床止 21cm 口縁部破片		粗砂、細織、白色 粒/橙/ふつう	波状口縁。隣継による口縁部楕円状区画を施し。RL を充填施文。額部に横位。逆U字状沈継を施し、刺突をめ ぐらす。	加曾利 E 3式
第1686 PL.37	9 深鉢	床止 10cm 口縁部破片		粗砂、白色粒/に い/橙/ふつう	隣継による口縁部楕円状区画。沈継による脚部懸垂文を施 す。RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第1688 PL.37	10 深鉢	床止 21cm 口縁部破片		粗砂、細織、白色 粒/明赤褐色/良 好	隣継による口縁部楕円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第1689 PL.37	11 深鉢	床止 21cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/良好	多くの字状に額く外させて口縁部無文帯を作り、屈曲部に 横位沈継。刻みをした隣継をめぐらす。口縁内面肥厚。	郷土式
第1690 PL.37	12 深鉢	床止 6cm 口縁部破片		粗砂、白色粒/暗 赤褐色/良好	小突起を付す波状口縁。波頂部に溝状隣継を配し、右 側のみ横位隣継を連結させて口縁部文様帶とし。RLを 充填施文する。以下、RLを施し、羅沈継による蛇行懸垂文 を施す。	加曾利 E 3式
第1692 PL.37	13 深鉢	理上 脚部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	脚部は上端をつないだ2本隣継による懸垂文を施し、縦位沈 継を充填施文する。	曾利系
第1693 PL.37	14 鉢	理上 脚部破片		粗砂、白色粒/橙/ ふつう	2条隣継による横字文を施す。	郷土式
第1694 PL.37	15 深鉢	床止 27cm 底部破片	底 6.6	粗砂、白色粒/橙/ ふつう	沈継による懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利 E 3式
第1695 PL.37	16 石器	理上 完形	長 幅 2.2 1.7	厚 重 0.3 0.8	薄手。剥片素材?側面形はほぼ直線的で反りはない。側 面中央に段あり。	円基無茎繩
第1696 PL.37	17 打製石斧	理上 ほぼ完形	長 幅 (13.6) 9.4	厚 重 2.3 223.4	細粒輝石安山岩 岩	短形。横長削片素材。側面は板状により岐き離されて いる。上下両端とも僅かに欠損しているが、そのまま使用 され、剥離痕が見られる。裏面上部に一部自然面が残る。 左側縫合及び表裏両面に使用による磨滅と光沢が認められ る。
第1697 PL.37	18 磨石	床直 完形	長 幅 12.7 11.0	厚 重 4.5 960.7	やや扁平四隅使用。表裏両面とも磨面。側縫合打痕あり。 表面に打痕とφ 1.2cm、深さ 0.3cm の凹みあり。	169

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 類	出上位置 残 有 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第16回 PL.37	19	石棒	床上 7cm 床直 4cm 脚部破片	長 幅 (8.4) (2.7) 厚 重 (2.6) 106.2	綠色片岩	棒状跡利用。先端斜片。断面は円形・扇形を呈し、先端部で研磨整形しており、自然面は残存しない。表面の小さな凹みにベンガラ残存。元々は全体に塗装されていたと考えられる。	

### V区1号竪穴建物

第18回 PL.38	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/相 良好	隆線による口縁部横円状区画を施し、LRを充填施文する。	加曾利E 3式
第18回 PL.38	2	深鉢	床下 4 cm 脚部破片		粗砂、白色粒/赤 褐色/良好	2本隆線をめぐらして柱状を区画、胸部に2本隆線による曲線モチーフを施し、RLを充填施文する。	大木9a式
第18回 PL.38	3	深鉢	床下 3 cm 脚部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/相/良好	隆線による懸垂、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第18回 PL.38	4	磨石	床直 ほぼ完形	長 幅 11.6 11.0 厚 重 8.4 1703.3	粗粒輝石安山岩	刃みのある円錐利用。ほぼ全面磨面。被熱により剥落している部分あり。块状化付着し黒く変色。	

### V区3号竪穴建物

第21回 PL.38	1	深鉢	仰体上圈 脚上位1/3		粗砂、細砂、白色 粒/赤褐色/ふつう	隆線による丁字状、縦位置するモチーフを描き、LRを充填施文する。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	2	深鉢	床上 15 ~ 29cm 口縁~脚下位 1/2	口 44.2	粗砂、細砂、白色 粒/淡黄褐色/ふつう	口縁下に1条の沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画。以下、条縫を縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	3	両耳壺	床上 7 cm 口縁~脚上位破片		粗砂、細砂、白色 粒、赤色粒/ふ い赤褐色/ふつう	無文帶の口縁部がほぼ真っ直ぐ立ち上がる。脚中位に隆線による横円状区画を配し、RLを充填施文。以下、沈線による逆U字状の懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	4	深鉢	床上 7 cm 脚部破片		粗砂、白色粒/ふ い赤褐色/ふつう	沈線による脚部懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	5	深鉢	床上 17cm 口縁部破片		粗砂/灰褐色/ふつう	口縫に向かって緩く内済する。横位の横状把手を付し、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	6	磨石	床上 17cm 完形	長 13.3 9.3 厚 6.2 重 1106.2	粗粒輝石安山岩	横円形彫刻用。表裏面は滑らかな磨面。周縁部に弱い敲打痕が残る。凹みは無い。	
第21回 PL.38	7	磨石	床上 17cm 完形	長 13.0 7.5 厚 4.7 重 694.7	粗粒輝石安山岩	横円形彫刻用。表裏面は滑らかな磨面。周縁部に弱い敲打痕が残る。凹みは無い。	
第21回 PL.38	8	磨石	床上 22cm 完形	長 10.1 7.7 厚 2.7 重 328.1	粗粒輝石安山岩	扁平円錐利用。表面は滑らかな磨面。裏面全体と左側縫に敲打痕あり。	

### V区9号竪穴建物

第23回 PL.38	1	深鉢	床上 28cm 脚部~ほぼ底部 4/5		粗砂、雲母/相/良 好	脚上位が明らかに頭部でくびれ、口縁が聞く器形。頭部に斜突を伴う隆線をめぐらして区画。4単位に継続状の貼付文を施す。貼付文下から2条隆線による懸垂文を施し、沈線を作り2連の弧状指帶で間をつなぐ。弧状指帶の連続点から刺突を作ら隆線を承下させ、縦位充填を充填施文する。口縁部無文帶には貼付文上位に逆V字状の円形刺突穴を施す。	曾利系
第23回 PL.38	2	深鉢	床上 4 cm 脚中位1/3		粗砂、細砂、白色 粒/相/ふつう	3本沈線による脚部懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第21回 PL.38	3	深鉢	床上 17cm 脚部破片		粗砂、細砂、白色 粒/にふい赤褐色/ふ つう	3本沈線による脚部懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
第23回 PL.39	4	両耳壺	床上 11cm 口縁~脚中位破 片		粗砂、白色粒/に ふい赤褐色/ふつう	無文帶の口縁部がくの字状に開く。脚中位に隆線による横円状区画を配し、矢羽根状短沈線を充填施文。以下、縦位の沈線を施す。	郡上式
第23回 PL.38	5	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、輝石/に ふい赤褐色/良好	縦向外屈する部。斜位の集合沈線。縦隆線を方向を変えた施し、斜位口子目を表示する。	曾利系
第23回 PL.39	6	打製石斧	床上 5 cm ほぼ完形	長 (10.9) 5.8 厚 1.7 重 109.5	黑色頁岩	彫形。横長削片要素?裏面に自然面を弧状に残す。刃部一部欠損。使用はかなり磨滅。上面の磨滅は柄ズレによるもの。側縫により敲き潰している。	
第23回 PL.39	7	磨石	理上 完形	長 10.3 6.6 厚 5.2 重 906.2	粗粒輝石安山岩	横円形彫刻用。表裏内面は磨面。周縁部に敲打痕あり。自然面はほぼ無い。	
第23回 PL.39	8	石棒	床上 14cm 脚部	長 (10.0) (8.6) 厚 (0.4) 重 1107.6	デイサイト	角柱彫刻要素?側面研磨面。上面は欠損後削除を加え平頂面作出後研磨。下面は欠損後研磨により平坦に調整。石棒欠損後、磨石などとして転用。	
第23回 PL.39	9	石製品	床上 20cm 完形	長 19.4 6.2 厚 2.0 重 408.8	黑色片岩	扁平棒状彫刻利用。表裏内面研磨痕、光沢を持つ。周縁部全周に敲打痕あり。底面や磨石の可能性も否定できない。	

### V区100号竪穴建物

第25回 PL.39	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、赤色粒、輝 石/相/良好	波状口縁で、口縁が緩く内済する。隆線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、沈線による逆U字状モチーフを描き、RLを充填施文する。	加曾利E 4式
第25回 PL.39	2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ふい赤褐色/良好	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを描き、列点を充填施文する。	称名寺II式
第25回 PL.39	3	石鏡	理上 ほぼ完形	長 1.9 1.5 厚 0.4 重 6.6	黒曜石	銅片素材?側面形にはほぼ直線的で反りは無い。表面中央がやや高くなるが、形状の高まりは無い。丁寧に調整加工されている。右脚下端部一部欠損。	平基無茎鏡
第25回 PL.39	4	門石	床直 完形	長 10.8 7.7 厚 4.4 重 563.3	粗粒輝石安山岩	横円形彫刻利用。表裏内面研磨痕、光沢を持つ。周縁部全周に敲打痕あり。底面や磨石の可能性も否定できない。	

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 床直 完形	出上率 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第258回 PL.39	5	石皿	床直 完形	長51.6 幅33.6 重370.0	厚3.6	粗粒輝石安山岩	扁平大形角離そのまま利用。周縁部加工無し。表面中央や 上寄りに強い磨面あり。中央に割れ部分あり。	

## V区101号竪穴建物

第27回 PL.39	1	深鉢	床上9~26cm 口縁部~底部3/4	口 底 高	(39.7) (7.3)	47.5	粗砂、白色粒/に ぶい黄緑/ふつう	胸部上位に2条の鋸み跡をめぐらして区画。口縁部斜傾帶 は隣線によるワラビ手文を4単位に配して横位波状に連ねさせ、 その下に沈線による連弧文をめぐらす。ワラビ手文 の上端は突出させる。製部は沈線による2段の連弧文をめ ぐらし、間際にワラビ手状態垂文を施す。文様間にRL充 填施文。	加曾利E 3式	
第28回 PL.39	2	深鉢	床上17cm 口縁部破片	口	(48.0)		粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	隣線による口縁部斜傾区画、沈線による胸部懸垂文を施 す。RLを充填施文する。	加曾利E 3式	
第28回 PL.39	3	深鉢	床12cm 胸部破片				粗砂、赤色粒/粒/良好	沈線による懸垂文を施す。RLを底位充填施文する。	加曾利E 3式	
第28回 PL.39	4	深鉢	床上14~17cm 脚中位1/3				粗砂、細織、白色 粒/にぶい粒/ふつ う	沈線による懸垂文を施す。RLを底位充填施文する。	加曾利E 3式	
第28回 PL.40	5	深鉢	床上13cm 脚中位~底部 1/3	底	6.8		粗砂、白色粒/粒/ ふつう	沈線による懸垂文を施す。RLを底位充填施文する。	加曾利E 3式	
第28回 PL.40	6	深鉢	床上20cm 脚部破片				粗砂、白色粒、赤 色粒/粒/ふつう	沈線による懸垂文を施す。RLを充填施文する。	加曾利E 3式	
第28回 PL.40	7	深鉢	床上4cm 口縁~脚中位破 片				粗砂、細織、赤色 粒/白赤/良好	隣線による口縁部斜傾区画を施し、RLを底位充填施文 する。脚部は蛇行条線を垂下させる。	郷土式	
第29回 PL.40	8	両耳壺	床上21cm 口縁部破片				粗砂、細織/赤 色/ふつう	無文帯の口縁部が緩く聞く。脚中位に隣線による横内傾 区画を配し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式	
第29回 PL.40	9	深鉢	床直 口縁部破片				粗砂、白色粒/暗 赤色/良好	2本隣線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、2本隣 線による円状モチーフを描く。口縁内に肥厚。	郷土式	
第29回 PL.40	10	深鉢	床1.21~22cm 底	底	9.7		粗砂、白色粒、赤 色粒/明赤色/良好	沈線による懸垂文を施す。底位条線を充填施文する。	加曾利E 3式	
第29回 PL.40	11	石鑓	理上 4/5	長 幅	(2.8) (1.9)	厚 重	0.3 1.2	黒曜石	非常に薄手。測定寸法? 傾面形はほぼ直線的で反りはない 逆進歩と左脚下端極一部欠損。	門基無茎鑓
第29回 PL.40	12	石匙	床直 完形	長 幅	5.2 3.9	厚 重	1.0 37.3	黑色頁岩	横長削片素材。横長部周縁部に細かい削離と使用による磨 耗が認められる。全体としてやや粗製。	
第29回 PL.40	13	打製石斧 ほば完形	床直 完形	長 幅	(10.30) 3.6	厚 重	2.1 135.3	質賀安山岩	削形。横長削片素材? 裏面に大きく自磨面を残す。使用に よりかなり磨耗している。頭部右上欠損している。	
第29回 PL.40	14	磨石	床上3cm 完形	長 幅	11.5 5.5	厚 重	3.3 338.7	粗粒輝石安山岩	尾長円錐利用。表面前面は磨面、周縁部に敲打痕あり。自 然面は周縁の一部。	
第29回 PL.40	15	原石	理上 完形	長 幅	6.6 3.1	厚 重	1.0 15.5	黒曜石	扁平長削片状。周縁部に見られる剥離も粗化しているもの のがほどんどで、入為的に削離した痕跡は無い。石融など 小形品を作製するための素材。極一部削痕あり。	
第29回 PL.40	16	原石	理上 完形	長 幅	4.9 4.5	厚 重	2.6 48.6	黒曜石	小形角彌、三角彌形。ほぼ全面自然面、裏面中央に1力所 剥離面あり。石融など小形石器を製作するための原石。	

## V区102号竪穴建物

第30回 PL.40	1	深鉢	炉体上器 口縁部1/5	口	36.2		粗砂、細織/に ぶい粒/良好	隣線によるワラビ手文を横位に連結させて口縁部文様帶を 区画。沈線による逆U字状モチーフを施し、LRを充填施文する。	加曾利E 3式
第31回 PL.40	2	深鉢	理處 口縁~胸上位 1/3	口	29.2		粗砂、白色粒、赤 色粒/黄緑/ふつう	口縁が緩く内湾する。沈線による逆U字状モチーフを描き、 LRを充填施文。逆U文施文後、ワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式

## V区103号竪穴建物

第33回 PL.41	1	深鉢	床上4cm 口縁部破片				粗砂、白色粒/粒/ 良好	隣線による口縁部斜傾区画。沈線による懸垂文を施し、矢 羽根状浅切溝を充填施文する。	郷土式	
第33回 PL.41	2	深鉢	理處 脚部破片				粗砂、白色粒/に ぶい赤褐色/ふつう	沈線による縫に配して横内傾区画。懸垂文を施し、RLを底 位充填施文する。無文部にワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式	
第33回 PL.41	3	深鉢	床上3cm 底				粗砂、白色粒、赤 色粒/粒/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを底位充填施文する。	加曾利E 3式	
第33回 PL.41	4	磨石	床上6cm ほば完形	長 幅	12.7 8.8	厚 重	4.6 716.9	粗粒輝石安山岩	やや研磨形の円錐形。表面内面は磨面。右上の剥離は使 用によるもの。周縁部に一部弱い敲打痕あり。	
第33回 PL.41	5	多孔石	床上3cm 完形	長 幅	15.1 14.3	厚 重	9.1 250.5	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面内面に凹みあり。表面の深さ。ものでφ2.2cm, 深さ1.2cm。風化のため斜・研磨不明。	

## V区104号竪穴建物

第34回 PL.41	1	深鉢	床上4cm 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/赤褐色/良好	隣線による口縁部斜傾区画。溝巻状モチーフを施し、斜 面側溝を充填施文する。口縁内面肥厚。	郷土式
第34回 PL.41	2	深鉢	床上4cm 脚部破片				粗砂、細織、赤色 粒/粒/良好	沈線による懸垂文を施し、RLを底位充填施文する。	加曾利E 3式
第34回 PL.41	3	深鉢	床上5cm 脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	單隣線。2本隣線による弧状モチーフを描き、短沈線を充 填施文する。	郷土式
第34回 PL.41	4	深鉢	床上4cm 脚部破片				粗砂、白色粒、赤 色粒/暗赤褐色/良好	2本隣線によるU字状モチーフを描き、單隣線による蛇形 懸垂文を施す。間に張状沈線を充填施文する。	郷土式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

V区105号竪穴建物							備考
種別 PL-No.	種類 器種	出土位置 測定中位	残存率	計測値	胎土/成形/調色 石材・素材等	成形・整形の特徴	
第36回 PL.41	1 深鉢	炉体上器 測定中位1/2			粗砂、白色粒/白 良好	胸中位ですばり、口縁が開く器形。くびれ上位に帯状沈 みを描きLRを充填施文する。	加曾利E 4式
第37回 PL.41	2 深鉢	口縁部1/3			粗砂、白色粒/白 い粒/ふつう	口縁下に隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、縱 位隆線を東下させ分割し、交互に繩文帯、無文帯とする。	加曾利E 4式
第37回 PL.41	3 深鉢	床下5cm 測定破片			粗砂、細纖維/白 い粒/ふつう	縦位隆線を垂下させて分割し、交互に繩文帯、無文帯とする。	加曾利E 4式
第37回 PL.41	4 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/白 い粒/良好	外側の口唇部で崩壊がやや張り出す。横位、斜位の隆線 を貼付し、斜位隆線の端部に平行刺突を施す。	称名寺式
第37回 PL.41	5 深鉢	床直 測定破片			粗砂、白色粒、輝 石/白/良好	沈縫による懸垂文を施し、LRを縦位充填施文する。	加曾利E 4式
第37回 PL.41	6 深鉢	床直 底/底破片	底 10.2		粗砂、白色粒/白 良好	粗砂、白色粒/白 良好	中期後葉～後 期前葉
第37回 PL.41	7 磨石	床下2cm 完形	長幅 18.4 幅 9.7	厚 重 4.1 1137.2	砾質輝石安山岩	扁平円錐利用。表面裏面磨り面、斜め方向の線状痕あり。 周縁部に敲打痕あり。下端部黒く変色。	
第37回 PL.41	8 石製品	床上7cm 完形	長幅 12.3 幅 4.1	厚 重 1.4 107.7	珪質頁岩	扁平錐形円錐利用。表面裏面中央に砥石に見られるような 研磨痕、概及び斜め方向に線状痕が見える。表面裏面と 周縁部の一部に敲打痕あり。下端に敲打による削離痕あり。	
第37回 PL.41	9 石皿	床直 完形	長幅 49.8 幅 35.6	厚 重 14.1 3700.0	粗粒輝石安山岩	大形扁平円錐利用。表面に凹みを作製し、石臼としたもの。 周辺部及び裏面には無数の凹みを有するが、その多くは不 定形であり自然のもののと考えられる。表面の凹みは最大最 深のものはφ1.8cm、深さ1.2cm、裏面のものはφ2.2cm深 さ1.8cm。	
第37回 PL.41	10 多孔石	床上11cm 1/2	長幅 (15.5) 幅 18.8	厚 重 11.4 1945.8	粗粒輝石安山岩	自然円錐利用。表面裏面無数の凹み、左側面にも凹みあり。 石材が多孔質の軟弱の赤褐色石材。凹みは表面中央の深い ものφ3.2cm、深さ2.2cmと大きく深く。	

## V区108号竪穴建物

第39回 PL.42	1 深鉢	床直 測定破片			粗砂、白色粒/白 良好	地文にRLを縦位施文し、2本沈縫を横位にめぐらす。	加曾利E 2式
第39回 PL.42	2 深鉢	床直 測定破片			粗砂/に似い赤褐色 ふつう	平行沈縫を縦位充填施文する。	中期後葉
第39回 PL.42	3 深鉢	P.2 内 測定破片			粗砂、白色粒/赤 褐色/良好	隆線をめぐらして無文帯を区画、隆線下に斜位沈縫を充填 施文する。	郷土式
第39回 PL.42	4 深鉢	圓溝内 底/底破片	底 8.0		粗砂、白色粒、輝 石/赤褐色/良好	RLを縦位施文し、沈縫による懸垂文を施す。	加曾利E 2式
第39回 PL.42	5 上製円盤	理上	径 2.6 厚 1.2		粗砂/白/ふつう	ほぼ円形。上器片内利用。外周に摩擦痕が認められる。	
第39回 PL.42	6 磨石	床上3cm 完形	長幅 5.5 幅 4.6	厚 重 3.3 105.0	粗粒輝石安山岩	円錐利用。小形。表面が盛り上がり、裏面の方がやや平坦。 ほぼ全面磨面であるが、強い部分と弱い部分あり。表面の 方に強い部分あり。	

## V区109号竪穴建物

第39回 PL.42	1 磨石	床直 完形	長幅 11.7 幅 10.5	厚 重 8.7 1466.8	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面裏面に光沢を持つ程の強い磨面。周縁部に 強い敲打痕あり。	
---------------	------	----------	-------------------	----------------------	---------	--	--

## V区110号竪穴建物

第42回 PL.42	1 深鉢	理上 口縁～肘下位 4/5			粗砂、赤色粒/白 良好	胸中位ですばり、口縁が緩く内湾する。欠損しているが 突起を持す。くびれ上位は、中央に帶状沈縫による逆U字 形にした玉抱き文、胴部は楕円状モチーフを描き、RLを 充填施文する。	加曾利E 4式
第42回 PL.42	2 深鉢	床上16cm 口縁部破片			粗砂、白色粒/白 い粒/ふつう	隆線による口縁部楕円状区画を施し、RLを充填施文する。 頭部に斜位突起を作り平行沈縫をめぐらす。	加曾利E 3式
第42回 PL.42	3 鉢	床上16cm 口縁部破片			粗砂、白色粒/白 良好	粗砂、白色粒/白 良好	頭部による口縁部楕円状区画を施す。以下、無文。
第42回 PL.42	4 深鉢	理上 測定破片			粗砂、白色粒/白 良好	短形容? 横長削片調査材? 頭部は一部欠損。下半部大きく欠 損。側面は敲打使用により磨滅。表面にごく部分的に 自然面あり。表面裏面に使用による磨滅が認められる。被 熱による割かれ、わずかに赤く変色あり。	加曾利E 4式
第42回 PL.42	5 打製石斧	P12内	長幅 (7.5) (5.7)	厚 重 (2.0) 109.3	象文斑岩	短形容? 横長削片調査材? 頭部は一部欠損。下半部大きく欠 損。側面は敲打使用により磨滅。表面にごく部分的に 自然面あり。表面裏面に使用による磨滅が認められる。被 熱による割かれ、わずかに赤く変色あり。	加曾利E 3式
第42回 PL.42	6 磨石	床上6cm 完形	長幅 11.4 幅 7.9	厚 重 4.4 580.9	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面裏面とも磨面。周縁部に敲打痕あり。 表面裏面の中央に敲打によるφ2.2cm、深さ0.25cmの凹み あり。被熱しヒビ割れ、黒く変色、一部赤く変色している。	郷土式

## V区111号竪穴建物

第44回 PL.42	1 深鉢	炉体上器 口縁～肘下位 ほぞん形	口	11.5	粗砂、白色粒/白 良好	ワラビ手文を作り2本隆線を横位に連続させて口縁部文様 帯を区画、区画内に斜位。横位矢羽状の沈縫を充填施文 する。胴部は楕円状施文。	加曾利E 2式
第44回 PL.42	2 鉢	底上15cm 口縁部破片			粗砂、白色粒/白 い粒/良好	口縁が緩く内湾。隆線をめぐらして口縁部文様帯を区画。 以下、無文。	郷土式
第44回 PL.42	3 深鉢	底上6cm 口縁部破片			粗砂/暗赤褐色/良好	2本隆線による懸垂文を施し、縦位、横位沈縫を充填施文 する。	郷土式
第44回 PL.42	4 深鉢	理上 測定破片			粗砂/暗赤褐色/良好	隆線による口縁部楕円状区画を施し、縦位沈縫を充填施文 する。	郷土式

掃 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位数 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石 材 / 材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第44回 PL.42	5	深鉢	埋上 脚部破片		粗砂/明赤褐色/ふつ う	地文に墨糸文を縦位施文し、平行沈線によるワラビ手状 模様を描く。	加曾利 E 2 式	
第44回 PL.42	6	スクレイ バー	埋上 完形	長 9.1 幅 3.1	厚 1.1 重 22.9	黒色頁岩	横長柱状素材。側面形にわずかに反りあり。つまみは作出 されていない。縦位細身。表面脚部に磨滅痕あり。内削線 に調整加工が並ぶが、裏面側は右側傾みで、打痕部分は 除去されている。全体にマンガンが付着し、黒っぽく見える。 やや扁平の円錐利用。表面両面とも磨面。周縁部に敲打痕 しや赤黒く変色している部分あり。	
第44回 PL.42	7	磨石	床上 2cm 完形	長 (8.6) 幅 (13.6)	厚 5.5 重 839.4	粗粒輝石安山岩	扁平角錐利用。部分破片。表面両面ともかなり平坦で、内 面とも滑らかで使用されている可能性有り。被熱し黒く変 色、赤く変色している部分あり。	
第44回 PL.42	8	石皿	床直	長 (8.4) 幅 (10.0)	厚 4.8 重 1076.8	粗粒輝石安山岩		

## V区113号堅穴建物

第46回 PL.43	1	深鉢	床上 8 cm 口縁～脚中位	口 (38.0)	粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	左右非對称の突起を押す波状口縁。陰線による口縁部楕円 区画、沈線による脚部懸垂文を施し、LRを充填施文する。	加曾利 E 3 式	
第46回 PL.43	2	深鉢	床上 4 cm 口縁部破片		粗砂、白色粒/浅 黄褐色/ふつう	陰線による口縁部楕円区画、沈線による脚部懸垂文を施 し、RLを充填施文する。脚部懸垂文に沈線による蛇行懸 垂文を施す。	加曾利 E 3 式	
第46回 PL.43	3	鉢	床上 15cm 脚中位～底部 1/2	底 7.0	粗砂、白色粒、赤 色粒/白/ふつう	球形頂で楕柱把手 1 個付し、対にならないようだ。沈 線による楕柱把手と、楕円凹モチーフを施し、LRを充填施文 する。	加曾利 E 3 式	
第46回 PL.43	4	深鉢	埋上 脚部破片		粗砂/に赤褐色/ 良好	陰線により口縁部文様帶を区画、文様帶内にワラビ手状斜 線。沈線による楕柱区画を施し、縦位沈線を充填施文する。 脚部は沈線による懸垂文を施し、矢羽根状短沈線を充 填施文する。	郷土式	
第47回 PL.43	5	深鉢	埋上 脚部破片		粗砂、白色粒/白/ 良好	沈線による楕円凹モチーフを横位に配し、間に際にワラビ手 状懸垂文を施す。楕円凹モチーフ内はLRを縱位充填施文 する。蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3 式	
第47回 PL.43	6	深鉢	床直 脚部破片		粗砂、輝石/に赤 い粒/良好	2 本陰線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、ワラビ 手状文を伴う 2 本陰線を垂下させ、斜位沈線を充填施文す る。斜位把手は大振りで逆 S 字形に盛り出している。	郷土式	
第47回 PL.43	7	両耳壺	床上 8 cm 脚部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/白/良好	斜位把手を伴う陰線を縦位。楕円凹に施す。把手は大振りで逆 S 字形に盛り出している。	郷土式	
第47回 PL.43	8	打製石斧	埋上 完形	長 7.6 幅 4.7	厚 1.8 重 60.5	黑色頁岩	斜位把手。斜片素材? 下半部欠損後の再生品? 両側縁から刃部 に磨滅痕あり。	
第47回 PL.43	9	門石	床直 完形	長 10.3 幅 8.3	厚 4.2 重 478.2	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面両面とも磨面。中央に φ 3.5cm、深さ 0.5cm の凹みあり。周縁部に叩撃痕が強打痕あり。石鎚形に整って いる。	

## V区114号堅穴建物

第48回 PL.44	1	深鉢	埋置 脚上位～下位 1/2		粗砂、雲母/赤褐色/ ふつう	頭部に平行沈線をめぐらして文様帶を区画。上位は縦位の 平行沈線を充填施文する。脚部はLRを縦位施文。	加曾利 E 2 式
第48回 PL.44	2	深鉢	床上 7 cm 口縁～脚中位 1/4		粗砂、白色粒、輝 石/暗赤褐色/ふつう	縦位陰線をめぐらして口縁部文様帶を区画。文様帶内に 2 本陰線によるワラビ手文を横位に連続させる。脚部は地文 にLRを施し、沈線による懸垂文を施す。	加曾利 E 2 式
第48回 PL.44	3	深鉢	床直 脚部破片	底 6.5	粗砂、細織、白色 粒/明赤褐色/ふつう	縦位施文と思われるが、摩滅著しい。	中期後葉

## V区115号堅穴建物

第49回 PL.44	1	深鉢	床直 脚部破片		粗砂/赤褐色/ふつう	沈線による懸垂文を施し、LRを縦位充填施文する。	加曾利 E 3 式
第49回 PL.44	2	深鉢	床上 2 cm 脚部破片		粗砂、白色粒/黃 褐色/ふつう	縦位陰線を垂下させて分割し、交互に纏文帯、無文帯とす る。器面溝により纏文原体は不明。	加曾利 E 4 式

## V区116号堅穴建物

第51回 PL.44	1	深鉢	床直 脚部破片		粗砂、白色粒/白/ 良好	地文にLR縦位施文。波状口縁と思われ、口縁に沿うよう に 2 本沈線をめぐらす。	加曾利 E 2 式	
第51回 PL.44	2	深鉢	床上 10cm 口縁～脚中位 破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/ふつう	波状口縁。波底部に逆 S 字状の陰線を配し、2 条の弧状 陰線を派生させ、縦位短沈線を充填施文する。脚部は 2 本 陰線、上端をつなぎ 2 本陰線による懸垂文を施し、矢羽根 短沈線を充填施文する。口縁内部肥厚。	郷土式	
第51回 PL.44	3	深鉢	床上 7 cm 口縁～脚上位 破片		粗砂、雲母/暗赤 褐色/ふつう	波状口縁。波底部に陰線による対向するワラビ手文を配 し、横位に陰線を派生させ、輪状なし。脚部は 2 本陰線による 懸垂文を施し、矢羽根短沈線を充填施文する。口縁内部肥厚。	郷土式	
第51回 PL.44	4	深鉢	床上 12cm 脚部破片		粗砂、白色粒/白/ ふつう	波状口縁。上半に單陰線によるワラビ手文などを縦位に連 続させ。下半は斜位による楕円凹モチーフを描く。区画内 にLRを施す。	大木 9.a 式	
第51回 PL.44	5	石獣	埋上 ほぼ完形	長 2.3 幅 1.6	厚 0.7 重 0.7	黒曜石	非常に薄手。斜片素材? 側面形はほぼ直線的で反りはない 左脚下端一部欠損。	凹基無茎

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

掃 図 PL-No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 し 事	計測値	胎土/成形・色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第51回 PL.44	6	打製石斧	床直 完形	長幅 12.2 5.5 厚 重 1.5 102.3	凝灰質岩	横縫。横長斜片素材。薄手。裏面に大きく自然面を残す。 内側縫に敲打痕あり。表面裏面と内側縫は使用により磨滅している。	
第51回 PL.44	7	石皿	床上 5 cm	長幅 (19.0) (16.0) 厚 重 7.4 2062.2	粗粒輝石安山岩	横円形の円縫を凹めた石皿の破片。全体に被熱、黒変・赤変部分あり、表中身はよく磨滅している。裏面中央もやや磨滅している。	

V区117号竪穴建物遺物観察表

第52回 PL.44	1	深鉢	剖内 口縫部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	口縫下からラビ手文を伴う2本隆線による懸垂文を施す。 口縫内面肥厚。	鄭上式
第52回 PL.44	2	深鉢	剖内 側部破片		粗砂/暗赤褐色/良好	2本隆線による懸垂文を施し、斜位条線、弧状沈線を施す。	鄭上式

V区118号竪穴建物遺物観察表

第54回 PL.44	1	深鉢	床上12cm 口縫～胴中位破 片	口 (22.0)	粗砂、耀斑、白色 粒/にふい粒/ふつ う	波状口縫で波頂部に突起を付すが、欠損している。口縫に沿 て波縫をめぐらし、弧状の隆線を連結させて半円状の モチーフを作出。LRを充填施する。胴部は隆線により 円拱、逆三角形状のモチーフを施す。口縫内面肥厚。	加曾利E 4式
第54回 PL.44	2	両耳壺	床上 9 cm 口縫～胴上位破 片	口 (18.0)	粗砂、白色粒/白 良好	横位隆線をめぐらして口縫部無文帯を区画。器面摩滅に より隆線の文様不鮮。把手部に圓文帯が認められる。	中期後葉
第54回 PL.44	3	深鉢	剖内 胴上位～底部 1/4	底 9.7	粗砂、耀斑、白色 粒/白/良好	無文。	後期前半
第54回 PL.45	4	深鉢	床上 8 cm 口縫部破片		粗砂、白色粒/白 ふつう	腹位隆線を垂下させて分割し、交互に圓文帯、無文帯とす る。構文はLRの離位施文。	加曾利E 4式
第55回 PL.44	5	深鉢	床上 5 cm 口縫部破片		粗砂、白色粒/に ふい粒/ふつう	波頂部の環状突起。沈線による弧状モチーフを描き、LR を充填施する。	称名寺1式
第55回 PL.45	6	深鉢	理上 口縫部破片		粗砂/にふい粒/赤 褐色/ふつう	波頂部の環状突起。LRを施す。	称名寺1式
第55回 PL.45	7	深鉢	床上4cm 口縫部破片		粗砂/にふい粒/赤 褐色/ふつう	帶状沈線によるモチーフを描き、LRを充填施する。	称名寺1式
第55回 PL.45	8	磨石	床上23cm 完形	長幅 16.0 11.0 厚 重 3.9 1402.3	粗粒輝石安山岩	横円形彫利用。斜め横向に使用による擦痕があり。その 範囲は滑らかで薄い光沢がある。表面の方が裏面よりも より磨滅している。	
第55回 PL.45	9	多孔石	研石 完形	長幅 21.3 23.0 厚 重 6.9 3078.4	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面無数の凹みあり。凹みは最深のもの で2.0cm、深さ1.5cm。凹みの周辺は使用による磨滅痕があ り。その範囲は周縁部に比べてかなり滑らかである。	

V区119号竪穴建物

第56回 PL.45	1	深鉢	床上15～25cm 胴上位～底部 2/3	底 5.4	粗砂/白/良好	単隆線、2本隆線による懸垂文を交互に配し、RLを離位 充填施する。	加曾利E 3式
第56回 PL.45	2	深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/ふつう	ワラビ手文を伴う離縫による口縫部横内状区画を施し、離 位沈線を充填施する。	鄭上式
第56回 PL.45	3	深鉢	理上 胴部破片		耀斑、白色粒/白 良好	2本隆線による懸垂文を施し、離位沈線を充填施す。横位 に区分する。	鄭上式
第56回 PL.45	4	深鉢	床上25cm 胴部破片		粗砂、白色粒、赤 褐色/白/ふつう	2案の沈線をめぐらして区画、上位は斜位条線を充填。下 位は沈線による逆U字状モチーフを描き、離位条線を充填 施す。	加曾利E 3式

V区120号竪穴建物

第60回 PL.45	1	深鉢	剖本上器 口縫～胴下位 2/3	口 (15.0)	粗砂、耀斑、白色 粒/明赤褐色/良好	胴上位が膨らみ、口縫が短く外反する器形。地文にRLを離 位施文し、2本沈線によるワラビ手文、懸垂文を施す。	加曾利E 2式
第60回 PL.45	2	甌石	周溝内	長幅 (16.0) (12.1) 厚 重 10.0 3500.0	デイサイト	梯状彫利用。石柱状。上部欠損。表裏両面及び側面は8つ の研面により構成される。下端には剥離痕があり。下面は やや磨滅している。裏面には新傷痕がある。	

V区121号竪穴建物

第61回 PL.45	1	深鉢	床上 2 cm 胴部破片		粗砂、耀斑、白色 粒/明赤褐色/良好	沈線による懸垂文を施し、LRを離位充填施する。	加曾利E 3式
---------------	---	----	-----------------	--	-----------------------	-------------------------	---------

V区122号竪穴建物

第62回 PL.45	1	深鉢	剖内 口縫部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白/良好	離縫による口縫部横内状区画、沈線による胴部懸垂文を施 し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第62回 PL.45	2	深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、白色粒/に ふい粒/ふつう	弧状沈線を施して口縫部文様を区画。沈線による胴部懸 垂文を施す。	加曾利E 3式
第63回 PL.45	3	深鉢	床上 9 cm 口縫部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	口縫部を肥厚させて無文帯を置き、横位隆線により口縫部 文様を区画。区画内に離位沈線を充填施文する。	鄭上式
第63回 PL.45	4	深鉢	床上 6 cm 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを離位充填施文する。	加曾利E 3式
第63回 PL.45	5	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白/良好	剥離を伴う沈線による懸垂文を施し、LRを施す。	加曾利E 3式
第63回 PL.45	6	磨製石斧	理上 2/3	長 (9.5) 幅 (5.0) 厚 重 2.8 245.8	變はんれい岩	離文? 定角式。刃部欠損。大きさの割に重量感がある。 頭部に敲打痕。全面に研磨痕が残る。	

種 団 PL_No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第65回 PL.45	7	多孔石	床下 2 cm 完形	長 28.8 厚 11.6 幅 23.2 重 4800.0	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面無数の凹みあり。最深の凹みΦ3.0cm、深さ1.5cm。側面は自然面のまま凹みは無い。	
第65回 PL.45							

## V区123号穴建物

第57回 PL.45	1	深鉢	理上 剥離破片		粗砂、白色粒/相 良好	沈縫による懸垂文を施す。施文を施するが器面摩滅著し く、原体不明。	加曾利E 3式
第57回 PL.45	2	深鉢	理上 剥離破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	2本隣接による懸垂文を施し、矢羽根条沈縫を充填施文す る。	郷式
第57回 PL.45	3	石皿	F 2 内 ほぼ完形	長 (2.9) 厚 0.3 幅 (1.6) 重 0.9	黒曜石	右脚下端欠損。薄手。側面は直線的で反りは無い。丁寧に 調整され、底状の高まりは無い。	四基無茎織

## V区1号穴建物

第65回 PL.46	1	深鉢	床直～16cm 口縁～底部1/2	口 (16.0) 底 8.0	高 (20.0)	口縁部と胴中位には接合しないが、図上で復元した。3 連の小突起を付す波痕口縁。口縁下からS字状底縫文、ク ランク文を伴う帶縫文LR 2帯。横位集合沈縫を施し、 胴中位の弦縫文を带縫文を施す。文様帶内は、帶状沈縫による要形 文を横位に連続させ、LRを充填施文する。文様帶下にさ らに1帯の帶縫文をめぐらす。器壁1mm程の薄手。	腹之内2式
第65回 PL.46	2	深鉢	床下 2 cm 口縁～胴下位 2/3	口 11.3	細砂、輝石/木 い文/ふつう	直立し、口縁が軽く外反する彌形。無文。	後期中葉
第65回 PL.46	3	深鉢	理上 口縁部破片			口縁下に2条の剝み隣縫、8の字貼付文を付す。以下、横 位沈縫を施し、LRを充填施文する。	腹之内2式
第65回 PL.46	4	深鉢	理上 口縁部破片			横位帯状沈縫を施し、LRを充填施文する。	腹之内2式
第65回 PL.46	5	深鉢	理上 剥離破片			横位、斜位の3本沈縫を施す。	腹之内2式
第65回 PL.46	6	深鉢	理上 口縁部破片			環状突起を付す波痕口縁。沈縫による要形モチーフを施 し、LRを充填施文。對葉文を施す。	加曾利B 2式
第65回 PL.46	7	深鉢	理上 口縁部破片			波紋口縁で波痕部に突起を付す。弧状の帶縫文LRを施し、 対張状沈縫を斜位に配す。	加曾利B 2式
第65回 PL.46	8	深鉢	理上 底部破片	底 (6.0)		細砂、白色粒/黑 闇/ふつう	環状突起を付す波痕口縁。沈縫による要形モチーフを施 し、LRを充填施文。對葉文を施す。
第65回 PL.46	9	深鉢	床直 口縁部破片			細砂、白色粒、赤 色粒、輝石/白/赤 闇/ふつう	口縁が直立する。無文。
第65回 PL.46	10	石皿	底上 15cm 1/2	長 (1.5) 幅 (1.4)	厚 0.5 重 0.6	黒曜石	剥片素材、欠損品。頭端部及び基部欠損。全体の形態不明。 剥離は奥まで入り、主要剖面ではない。前面面に反りあり。
第65回 PL.46	11	磨石	床直 完形	長 11.4 幅 9.2	厚 5.6 重 837.7	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面とも研磨面、光沢を持つ。裏面中央に 横打による浅い凹みがあり。周縁部に敲打痕あり。特に左右 と下部は平坦となっている。
第65回 PL.46	12	四石	理上 完形	長 10.2 幅 7.6	厚 4.6 重 460.0	粗粒輝石安山岩	橋円形利用。粗粒黒曜石剥片。表裏両面は磨面敲打による 凹みあり。周縁部に敲打痕、上下両端は明瞭。表面凹み長 2.5cm×幅 2.0cm×深さ 0.3cm。

## VI区5号穴建物

第67回 PL.46	1	深鉢	床下 9～19cm 口縁～胴中位 1/2	口 15.4		細砂、輝石/黑闇/ 良好	3単位波状口縁で、波痕部に瘤状突起を付す。沈縫による 3帯のLR帯縫文を施し、区切り文を付す。波痕部下に円 孔を穿つ。口縁内部を肥厚させて円形刺突を施し、下位に 4条の沈縫をめぐらす。	加曾利B式
第67回 PL.46	2	深鉢	理上 口縁部破片			細砂、白色粒、輝 石/木い赤闇/良 好	波状口縁。口縁内縫を3帯めぐらし、区切文を付す。口 縁内縫を肥厚させて円形刺突を施し、下位に3条の沈縫を めぐらす。	加曾利B 1式
第67回 PL.46	3	深鉢	床直 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/黄褐色/ふつう	波状口縁。横位帯状沈縫を施し、弧状、斜位の沈縫を充填 施文する。口縁内縫に5条の沈縫をめぐらす。	加曾利B 2式
第67回 PL.46	4	深鉢	床下 12cm 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/木い赤闇/ふ つう	口縁が直立する。地文にLRを施し、間隔を開けて横位沈 縫をめぐらす。	後期中葉
第67回 PL.46	5	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/木い赤闇/ふ つう	口縁が直立する。LRを横位施文する。	後期中葉
第67回 PL.46	6	深鉢	床下 5 cm 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/木い赤闇/良 好	口縁部に無文帯を置き、LRを横位、斜位施文する。	後期中葉
第67回 PL.46	7	鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/木い赤闇/ふ つう	口縁が緩く内屈。口縁下に5条の沈縫をめぐらす。	加曾利B 1式
第67回 PL.46	8	注口土器	床上 9 cm 口縁部破片			細砂、輝石/黑闇/ ふつう	口縁が多くの字状に外屈。帯状沈縫による幾何学モチーフを 描き、奈良文を充填施文、S字文を施す。	加曾利B式
第67回 PL.46	9	注口土器	理上 剥離破片				No. 8と同一個体。	加曾利B式
第67回 PL.46	10	深鉢	床上 9 cm 底部破片	底 5.4		細砂/木/ふつう	やや上げ底で高台状を呈す。残存部は無文。	後期中葉
第67回 PL.46	11	深鉢	床上 9 cm 口縁～胴中位破 片	口 (10.0)		粗砂、白色粒、輝 石/木赤闇/良 好	小型の深鉢。くの字状に内屈し、口縁が緩く聞く。周縁部 に隔壁をめぐらす。口縁下から隆縫を重下させて連結、結 部に円形刺突を施す。	腹之内2式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第68回 PL.47	12	打製石斧	床上 7cm ほぼ完形	長幅 12.7 4.8	厚 1.2 重 69.3	黒色頁岩	分銅形。かなり薄手。横長斜片素材。上下両端が尖る形式のものであり、幅側で通常の分銅形の石斧では無い。自然面は無い。裏面上面に新しい剝離面あり。
第68回 PL.47	13	磨製石斧	理上 ほぼ完形	長 (13.3) 幅 (6.2)	厚 2.7 重 347.1	閃綠岩	楕円形礪素材?。定角式。始刃と考えられるが、刃部欠損。頭部に使用による敲打痕、側縁に削除のための敲打後刃均しの痕状敲打痕あり。
第68回 PL.47	14	磨石	床上12cm 完形	長 10.9 幅 8.7	厚 5.4 重 776.2	流紋岩	整った円錐利用。表面裏面は使用による滑らかな磨面。周縁に弱い敲打痕あり。大きさの割に重量感がある。

VII.8号穴窓建物

第70回 PL.47	1	深鉢	倒体上器 底部破片	底 6.2		粗砂、白色粒/明赤褐色/良好	無文。	後期中葉
第70回 PL.47	2	深鉢	P 1 内 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/にふい赤褐色/良好	口縁部無文帯部の部位。織い波状口縁で、内折部に弧状、横位の沈線を施す。	輪之内1式
第70回 PL.47	3	深鉢	理上 制部破片			粗砂、白色粒、輝石/浅黄褐色/ふつう	くの字状に横く内屈させて文様帯を区画、帯状沈線によるクラシックモチーフを描き、LRを充填施文する。	輪之内2式
第70回 PL.47	4	磨石	床直 完形	長 8.5 幅 6.9	厚 4.3 重 359.8	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面裏面とも研磨面、中央に敲打痕あり。周縁部に弱い敲打痕あり。	円錐利用。表面裏面とも研磨面、中央に敲打痕あり。周縁部に弱い敲打痕あり。

VII.10号穴窓建物

第72回 PL.47	1	深鉢	倒体上器 完形	口 22.0 底 9.8	高 20.0	粗砂、白色粒/相 良好	球彌形だが、口縁が真っ直ぐ立ち上がる。口縁下に隠線をめぐらして無文帯を区画。隠線は半周ずつで端部は口縁と接する。横位隠線の増幅をつなぐように隠線による円文を配し、中間に2本隠線による半円文を施す。以下は、無節化を充填施文。底部附近にミガキ調整が認められる。	加曾利E 4式
第72回 PL.47	2	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/明赤褐色/ふつう	隠線による口縁部横円柱区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第72回 PL.47	3	深鉢	床上 6 cm 口縁部破片			粗砂、白色粒/相 良好	隠線による口縁部横円柱区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第72回 PL.47	4	深鉢	理上 制部破片			粗砂、白色粒/明赤褐色/良好	沈線による懸垂文を施し、LRを縱位充填施文する。	加曾利E 3式
第72回 PL.47	5	深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝石/浅黄褐色/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利E 3式
第72回 PL.47	6	深鉢	理上 口縁部破片			耀砂/暗赤褐色/良好	波状口縁。口縁に沿って隠線をめぐらし、波底部の溝巻文につなぐ。口縁部に円形刺突を充填施文。隠线下は沈線によるモチーフを描く。	称名寺II式
第72回 PL.47	7	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/相/良好	波頂部の環状突起。頭部に沈線を作り隠線を対弧状に貼付。波頂部から隠線を垂下させ、沈線によるモチーフを描く。	称名寺II式
第72回 PL.47	8	深鉢	理上 口縁部破片			耀砂、白色粒、輝石/にふい赤褐色/良好	波頂部の環状突起。沈線による幾何学モチーフを描く。	称名寺II式
第72回 PL.47	9	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/明赤褐色/良好	波状口縁。口縁下に沈線をめぐらして相抜き口縁部無文帯を区画。以下、帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LRを充填施文する。	称名寺I式
第72回 PL.47	10	深鉢	理上 口縁部破片			耀砂、輝石/相/良好	波状口縁で口縁部を内凹。帯状沈線によるモチーフを施し、LRを充填施文する。	称名寺I式
第72回 PL.47	11	深鉢	理上 制部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英粒/良好	帯状沈線によるJ字状モチーフを描き、RLを充填施文する。	称名寺I式
第72回 PL.47	12	鉢	理上、41-T-19 口縁部破片			耀砂/相/良好	口縁が内凹。口縁外周を張り出させ、筒状の突起を付す。朱塗りの痕跡ある。	後期前半
第72回 PL.47	13	磨製石斧	理上 ほぼ完形	長 (2.4) 幅 1.1	厚 0.6 重 2.6	蛇紋岩	定角式。小型。削竹素材?。頭部欠損。刃部平面形は直刃。側面形は凸凹形であるが、やや半対角み。刃部には長軸方向の使用痕が明瞭に残る。	
第73回 PL.47	14	磨石	理上 完形	長 15.1 幅 9.2	厚 3.0 重 711.6	粗粒輝石安山岩	扁平圓錐利用。表面裏面磨面、使用による斜め継状痕あり。表面右縁辺に敲打による剝離痕あり。	

VIII.11号穴窓建物

第75回 PL.47	1	深鉢	床上 2cm 口縁～胸上位破片			粗砂、白色粒、輝石/相/良好	横位隠線をめぐらして口縁部無文帯を区画、横位隠線の下位に弧状隠線を連続させて半円文を表す。半円文の脇を基点に沈線による矩形の懸垂文を施し、内部に弧状モチーフを配置。LRを充填施文する。	加曾利E 4式
第75回 PL.47	2	深鉢	床直 口縁部破片			粗砂、白色粒/に ふい相/良好	隠線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、RLを施す。	加曾利E 4式
第75回 PL.47	3	深鉢	理上 口縁部破片			耀砂/にふい相/ふ つう	波状口縁。沈線による玉泡き文様モチーフを施し、RLを充填施文する。	加曾利E 4式
第75回 PL.47	4	深鉢	理上 制部破片			耀砂、白色粒/相 ふつう	沈線による弧状モチーフを施し、LRを充填施文する。	加曾利E 4式
第75回 PL.47	5	深鉢	理上 制部破片			粗砂、白色粒/相 ふつう	沈線による逆U字状モチーフを施し、LRを充填施文。間にワラビ手状懸垂文を施す。	加曾利E 3式
第75回 PL.47	6	深鉢	床 7 cm 胸部破片			粗砂、白色粒/明 赤褐色/ふつう	隠線による懸垂文を施し、LRを縱位充填施文する。	加曾利E 4式

## 遺物観察表

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 の 特 徴	備 考
第75回 PL.47	7	門石	埋土 完形	長:11.1 幅:8.5	厚:4.9 重:715.3	粗粒輝石安山岩	横円形縫利用。表裏両面とも研磨面、滑らかでやや光沢を有し、中央に嵌入によるφ1.5cm、深さ0.3cmの深い凹みがあり。周縁部に敲打痕、右側縁に敲打による極度の凹みあり。圓形石鹼状、ほぼ自然面無し。

## VII区13号竪穴建物

第77回 PL.48	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良好	隆線による口縁部横円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式	
第77回 PL.48	2	深鉢	床下 3 cm 口縁部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	環状突起を付す波状口縁。隆線による口縁部横円状区画、沈線による懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式	
第77回 PL.48	3	深鉢	床直 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良 好	隆線による溝巻文が横位に連ねて口縁部文様帶を区画。脇部は上端をつなげた2本沈線による懸垂文を施し、斜位沈 線を充填施文する。	郡上式	
第77回 PL.48	4	深鉢	理上 制御部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	沈線による懸垂文を施し、RLを瓶位充填施文する。繩文 施文後、蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式	
第77回 PL.48	5	深鉢	床上 3 cm 制御部破片		粗砂、細織、白色 粒/明赤褐色/良好	沈線による懸垂文を施し、LRを充填施文する。繩文施文後、 蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式	
第77回 PL.48	6	深鉢	理上 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/浅黄褐色/ふつう	沈線による懸垂文を施し、報位条線を充填施文する。条線 施文後、蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式	
第77回 PL.48	7	門石	理上 2/3	長:(9.6) 幅:8.9	厚:(3.5) 重:486.8	粗粒輝石安山岩	扁平円形縫利用。大きさの割りに重量感がある。表裏両面は滑 らかな研磨面で光沢は無い、その中央に最深のものφ2.3 cm、深さ0.25cmの凹みあり。周縁部に敲打痕あり。下部は 斜けて失われている。	

## VII区14号竪穴建物

第78回 PL.48	1	深鉢	仰体上器 口縁～胴上位破 口	底:(21.6)	粗砂、白色粒/白 色/良好	波状口縁。隆線による口縁部横円状区画。3本沈線による 脇部懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式	
第78回 PL.48	2	深鉢	床上 8 cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐色/ふつう	隆線による口縁部横円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式	
第78回 PL.48	3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい白褐色/良好	口縁下に横位隆線をめぐらす。	加曾利 E 4式	
第78回 PL.48	4	深鉢	理上 脇部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式	
第79回 PL.48	5	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/黒褐色/ ふつう	口縁を短く内折させ、口縁下に沈線を治めた隆線をめぐらす。地文にRLを施し、對勾文を瓶に連ねた懸垂文を施す。	瓶之内式	
第79回 PL.48	6	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい白褐色/ふ つう	直折口縁で口縁が強く外反する。沈線をめぐらして繩文帶 LRを区画。以下、残存部は無文となる。	後期中葉	
第79回 PL.48	7	磨石	理上 完形	長:8.8 幅:7.3	厚:2.5 重:227.4	粗粒輝石安山岩	扁平円形縫利用。表裏両面とも研磨面、表面の方がやや滑 らか。周縁部に弱い敲打痕あり。	

## VII区15号竪穴建物

第80回 PL.48	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい黄褐色/良 好	口縁両面肥厚。口縁部に無文部を置き、帯状沈線による幾 何学モチーフを施す。	称名寺 1式
第80回 PL.48	2	深鉢	理上 制御部破片			No. 1と同一個体。帯状沈線による幾何学モチーフを描き、 RLを充填施文する。	称名寺 1式
第80回 PL.48	3	深鉢	床上 9 cm 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/良好	脇下位の膨らむ部位。帯状沈線によるモチーフを描き、 LRを充填施文する。	称名寺 1式
第80回 PL.48	4	深鉢	床上 10 cm 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/良好	沈線による横円状区画を施し、RLを瓶位充填施文する。	加曾利 E 3式

## VII区16号竪穴建物

第82回 PL.48	1	深鉢	仰体上器 胴下位～底部 1/4	底:6.6	粗砂、雲母/白 色/良好	2本隆線による弧状モチーフを施し、短沈線を充填施文す る。	郡上式
第82回 PL.48	2	深鉢	床上 8 cm 口縁～胴下位破 片	口:(27.3)	粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/良好	口縁部に幅狭な無文部を置き、ワラビ手文を伴う2本隆線 による横円状区画に連続させて口縁部文様を区画する。脇部は 單壁縫による溝巻文を伴う懸垂文、蛇行懸垂文を施し、短 沈線を充填施文する。	郡上式
第82回 PL.48	3	深鉢	床上 11 cm 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐色/良好	2本隆線による懸垂文を施し、短沈線を充填施文する。	郡上式
第82回 PL.48	4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/良好	内削ぎの口唇部で口縁が強く外反する。口縁下に押縫を作 り隆線をめぐらす。	称名寺式

## VII区17号竪穴建物

第84回 PL.49	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/ふつう	隆線による口縁部横円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第84回 PL.49	2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/ふ つう	帯状沈線による逆U字状モチーフを施し、報位条線を充填 施文。柔綿施文後、蛇行懸垂文を施す。	加曾利 E 3式
第84回 PL.49	3	深鉢	理上 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/ふつう	隆線による口縁部横円状区画。沈線による逆U字状モチ ーフを施し、RLを充填施文する。逆U字状モチーフ内に沈 線を重ねさせる。	加曾利 E 3式
第84回 PL.49	4	深鉢	理上 制御部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白褐色/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

補 図 PL.No.	No.	種 類	出上位置 現 存 率	計測値	胎工成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第8484 PL.49	5	深鉢	理上 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	沈線による懸垂を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第8485 PL.49	6	深鉢	床直 剥離部破片	底 8.9	粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	沈線による懸垂を施し、RLを窪位充填施文する。	加曾利E 3式
第8486 PL.49	7	石羅(ドリ ル)	理上 完形	長 3.7 厚 0.3 幅 1.2 重 0.9	黒曜石	横長洞材素材。薄手。刃部を細長く作っている。刃部先端は特に細い。側面形は直線的。	

VII区1号竪穴状遺構

第8684 PL.49	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/粒 ふつう	環状突起を付す波状口縁。沈線、刺突を施し、波頂部下に 対弧文を付す。	加曾利B 2式
第8684 PL.49	2	鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	口縁部がくの字状に窋く内屈する。屈曲部に刺突を伴う沈線 をめぐらして区画。口縁部に3条の対弧文、胸部に斜位沈線 を施す。	加曾利B 2式
第8684 PL.49	3	鉢	理上 剥離部破片			No. 2と同じ体。	加曾利B式
第8684 PL.49	4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/粒 良好	口縁部に8の字状の貼付文を付し、弧状沈線を施す。	加曾利B 2式
第8684 PL.49	5	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/粒 良好	波頂部下の部位。沈線による横位格内区画を施し、LR を充填施文。S字状連續文を垂下させる。	加曾利B 2式
第8684 PL.49	6	深鉢	理上 底部破片	底 (7.6)	粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	残存部は無文。底面に網代痕。	後期中葉
第8684 PL.49	7	石皿	周縁 4/5	長 31.4 厚 10.2 幅 27.6 重 1000.0	粗粒輝石安山岩	横円形彫利用。下端は右下端裏側からの打撃により欠損。 表裏両面とも磨削面、表面は使用により磨滅し一段と滑らか。 裏面は窋くため整形時のみ。表裏向面無数の凹みあり。 最大最深のもので2.5cm深さ1.4cm。	

VII区2号竪穴状遺構

第8884 PL.49	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/粒/良 好	波状口縁。帶縄文LRを帯施し、波頂部下にの字状文など幾何学モチーフを配す。口縁内面にも沈線を施文。	加曾利B 1式
第8884 PL.49	2	鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい粒/ふつ う	外面無文。内面口縁部に間隔を開けて4条、3条の沈線を めぐらし、間にLRを充填施文する。	加曾利B 1式
第8884 PL.49	3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	口縁部に無文帯を置き、横位、斜位沈線を施す。	瓶之内2式
第8884 PL.49	4	深鉢	床直 剥離部破片		粗砂、輝石/黒闇/ 良好	沈線による溝登文を横位に連続させる。	瓶之内2式
第8884 PL.49	5	深鉢	理上 剥離部破片		粗砂、輝石/黒闇/ 良好	横位帯状沈線を施し、横位条線を充填施文する。	加曾利B 1式
第8884 PL.49	6	深鉢	床直 底部破片	底 11.0	粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/ 良好	粗円状、横位沈線を重複し、微細な刺突を施す。三角形状 の構状突起を付す。	瓶之内2式
第8884 PL.49	7	造形土器	理上 剥離部破片		粗砂、明赤褐色/良好	沈線による溝登文や横円状モチーフを描き、微細な刺突を 施す。	瓶之内2式
第8884 PL.49	8	注口土器	理上 口縁-剥離部破片	径 2.2 長 11.2	粗砂、白色粒/浅 黃粒/ふつう	粗円状、横位沈線を重複し、微細な刺突を施す。	瓶之内2式
第8884 PL.49	9	石羅(ドリ ル)	理上 完形	長 4.0 厚 1.3 幅 1.3 重 6.4	流紋岩	剥離素材。下端の細くなっている部分を両面から加工し刃部 としている。刃部は短く幅広で厚みもある。断面形は菱形。 明瞭な使用印は認められない。表面に節理面が残る。	
第8884 PL.49	10	磨石	理上 完形	長 11.6 厚 5.4 幅 9.5 重 874.2	粗粒輝石安山岩	やや扁平円錐利用。表裏両面とも研磨面、表面は特に滑ら かで光沢を持つ。周縁部に敲打痕あり。	

V区上段

第9084 PL.50	252 坑 1	深鉢	底上13cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい粒/良好	口縁が短く内折。無文。補修孔あり。	瓶之内2式
第9084 PL.50	252 坑 2	磨石	底上 5 cm 完形	長 13.3 厚 9.0 重 817.2	粗粒輝石安山岩	横円形彫利用。表裏両面とも研磨面、非常に滑らかでやや 光沢を持つ。中央に敲打による浅い凹みあり。周縁部に敲 打痕あり。	
第9084 PL.50	253 坑 1	深鉢	理上 剥離部破片		粗砂、白色粒/粒 良好	隙縫をめぐらして区画、隣線、隣縫下に刺突を施文する。	三十編場式
第9084 PL.50	253 坑 2	深鉢	理上 底部破片	底 (9.0)	粗砂、白色粒、輝 石/粒/良好	残存部は無文。	後期前半
第9084 PL.50	254 坑 1	深鉢	底上17cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい粒/良好	刺突隣線、帶状沈線をめぐらせ、LRを充填施文する。	瓶之内2式
第9084 PL.50	254 坑 2	深鉢	底上10cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい粒/ふつ う	帶繩文LRをめぐらせ。口縁を一部間ませ、張り出した内 面に刺突を施す。口縁内面に横位沈線、斜刻文を施す。	瓶之内2式
第9084 PL.50	254 坑 3	深鉢	底上 7 ~ 10cm 底部破片	底 11.8	粗砂、細繩、白色 粒、赤褐色/粒/良 好	残存部は無文。	後期前半

掃 団 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎上/成成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
			長 幅	(10.3) (4.4)	厚 重			
第91回 PL.50	255 坑 1 磨製石斧	底上17cm 4/5			2.8 249.0	変輝綠岩	楕円形彫利用。定格式。刃部欠損。刃片?裏面は光沢を持つ。面部に敲打による滑れ、刃部先端にも同様な滑れがあり。表面のものは製作時の磨き残しであるが、裏面のものは研磨後の敲打によるもの。刃先欠損後敲打として再利用していると考えられる。	
第91回 PL.50	255 坑 2 門石	底上16cm 完形	長 幅	11.5 6.4	厚 重	4.2 396.7	粗粒輝石安山岩	
第91回 PL.50	255 坑 3 石皿	底上22cm 1/2	長 幅	(13.9) (8.7)	厚 重	6.3 2075.2	粗粒輝石安山岩	楕円形彫利用。石皿の縁出し含む下半部分。表面右上に風化による剥落もありや荒れている。中央に敲打による浅い凹みあり。周縁部に弱い敲打痕あり。
第91回 PL.50	256 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、細礫、白色 粒/粒/良好	口縁下に押捺縞帶をめぐらす。
第91回 PL.50	256 坑 2 深鉢	理上 剝離部破片					粗砂、白色粒/粒/ ふつう	斜位沈線による懸垂文構成。LRを充填施文する。
第92回 PL.50	257 坑 1 深鉢	底上14cm 口縁部破片					粗砂、白色粒。石 英/に/ぶい粒/ふつ う	沈線による幾何学モチーフを施す。地文にLRを施文。短 く内折する口縁部に沈線を1条めぐらす。
第92回 PL.50	257 坑 2 深鉢	底上15cm 剝離部破片						No. 1と同一個体。2本沈線をめぐらして文様帶を区画、J字状モチーフや弧状、対置沈線を施す。地文にLRを施文。
第92回 PL.50	270 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、白色粒/粒/ ふつう	口縁下に隙縫を1条めぐらす。
第92回 PL.50	271 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	波状口縁。口縁に沿って隙縫をめぐらして幅狭な口縁部無 し帯を区画。さらに沈線を施して帯状に区画し、LRを充 填施文する。
第92回 PL.50	272 坑 1 深鉢	理上 剝離部破片					粗砂、細礫、白色 粒/粒/良好	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。
第92回 PL.50	275 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、白色粒。石 英/に/ぶい粒/良好	沈線による口縁部横円柱区画、渦巻文を施し、矢羽根状短 沈線を充填施文する。
第92回 PL.50	288 坑 1 深鉢	理上 剝離部破片					粗砂、白色粒/赤 褐色/良好	沈線による懸垂文、弧状短沈線を施す。
第93回 PL.50	290 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、白色粒。赤 色粒(黄緑)/ふつう	隙縫による口縁部横円柱区画を施し、RLを充填施文する。
第93回 PL.50	290 坑 2 石皿	理上 1/3	長 幅	(13.4) (23.0)	厚 重	(8.4) 1732.2	粗粒輝石安山岩	円彫利用。石皿の上半部分1/3。表面周縁に4つ及び裏面 に多数の凹みあり。内面は使い込まれて磨滅し貫通。最深の 凹みは表面の約2.5cm、深さ1.5cm。2点破片接合。炭化物 付着し、黒く変色。
第93回 PL.50	291 坑 1 深鉢	底上 2 cm 剝離中位~底部 1/2	底	9.8			粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	無文。器面摩滅著しい。
第93回 PL.50	292 坑 1 深鉢	底上 6 cm 口縁部破片					粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	隙縫による弧状モチーフを施し、RLを充填施文。沈線に よるワリ手状懸垂文を施す。

## Ⅷ区 土坑

第96回 PL.51	29 坑 1 深鉢	底上 5 cm 剝離部破片				粗砂、白色粒。石 英/赤/黄緑/良好	斜位沈線を施す。	後期前半
第96回 PL.51	29 坑 2 石鑿	底上 5 cm ほぼ完形	長 幅	(2.0) 1.5	厚 重	0.4 0.9	流紋岩	剥片素材。円基無茎窓。頭部が較られる形態。頭左端部及 び左側端部欠損。剥離は奥まで入り、主要剥離面はない。 側面形に反りはない。
第96回 PL.51	30 坑 1 石鑿	底上16cm 石鑿未完成品	長 幅	2.2 1.5	厚 重	0.5 (1.7)	黒曜石	剥片素材。未成品もあり。表面の調整加工は粗い。裏面は 確かに剥離が奥まで入る。側面形に反りはない。右側面は 木材の欠け面。基底下端に極一部自然面を残す。
第96回 PL.51	40 坑 1 深鉢	底上17cm 口縁部破片	口	(32.3)			粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	口縁下に朝引隙縫を3条めぐらし、縫位隙縫を垂下させて 連絡し、連結部に円錐突尖を施す。以下、帶状沈線による幾 何学モチーフを施し、LRを充填施文する。
第96回 PL.51	40 坑 2 跡	底上18cm 口縁~剝離下位破 片	口	(15.8)			粗砂、白色粒/浅 黃緑/ふつう	ボウル形。口縁下、剝離下位に帶状文RLをめぐらし、縫位 隙縫文でつなぐ。
第96回 PL.51	43 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、白色粒/黑 闊/良好	突起に付す波状口縁。帶縫文RLを1帶めぐらし。対弧文 を施す。
第96回 PL.51	43 坑 2 深鉢	理上 剝離部破片					粗砂、白色粒。薄 石/に/ぶい粒/ふつ う	平行沈線を縫位、弧状に垂下させる。

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

補 図 PL.No.	種 類 器種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第9788 PL.51	44 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/黒褐/ふつう	口縁外面を肥厚させ、側列をめぐらす。平行沈線によるレンズ状紋を横位に連続させる。補修孔あり。	加曾利B式
第9788 PL.51	46 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/黒褐/良好	口縁を短く内折させ、屈曲部下に刻み列をめぐらす。弧状の帯繩文LRをめぐらし、対弧文を施す。	加曾利B2式
第9788 PL.51	47 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂/黒褐/良好	口縁が短く内折。横位沈線をめぐらす。内面屈曲部に刺突列をめぐらす。	加曾利B式
第9788 PL.51	47 坑 2 深鉢	理上 底部破片		粗砂、白色粒/浅黄褐/ふつう	底面に木葉痕。	後期前半
第9788 PL.51	48 坑 1 深鉢	底直 口縁～胴中位 1/2	口 9.6	細砂、輝石/暗赤褐/良好	小型の深鉢。三角形状の突起を付す波状口縁。口縁下に2条の刻み隆縫、胴中位に横位沈線をめぐらして文様帶を区画。波頭部から側部隆縫を垂下させる。隆縫を挟んで内文を施し、LRを充填施文する。	瓶之内2式
第9788 PL.51	49 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒/に ぶい赤褐/ふつう	口縁下に2条の隆縫をめぐらし、複位隆縫でつなぐ。連結部に円形刺突を施す。	瓶之内2式
第9788 PL.51	49 坑 2 深鉢	理上 制部破片			No. 1と同一個体。隆縫下に帯状沈線によるモチーフを施す。	瓶之内2式
第9788 PL.51	49 坑 3 深鉢	理上 胴部破片		細砂/にぶい赤褐/良好	小型の深鉢。2条の隆縫。沈線をめぐらして区画、LRを充填施文し、複位、横位の梢円状モチーフを描く。	瓶之内2式
第9788 PL.51	49 多孔石 4 丸	理上 ほぼ完形	長 幅 (8.5) 厚 重 292.1	粗粒輝石安山岩	内縫利用。多孔質石材であり、怪の小さい自然の凹みが無数にある。中央の3.0cm、深さ2.3cmの凹みは人為的なものと考えられる。左側縫は欠損。	
第9888 PL.51	51 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐/良好	口縁下に1条の刻み隆縫。8の字貼付文を付す。帯状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内2式
第9888 PL.51	51 坑 2 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒/白 ふつう	口縁下に2条の刻み隆縫をめぐらす。帯状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。40坑1と同一個体と思われる。	瓶之内2式
第9888 PL.51	51 坑 3 鉢	理上 口縁部破片		粗砂/白/ふつう	口縁部を一部門ませる。外面無文。内面口縁部に沈線をめぐらす。	加曾利B式
第9888 PL.51	51 坑 4 深鉢	理上 底部破片	底 4.6	粗砂/浅黄褐/ふつ う	残存部は無文。底面に崩れ痕。	後期中葉
第9888 PL.51	51 ミニチュア 土器	理上 口縁部破片		細砂/にぶい黄褐/ 良好	無文。内外面朱塗りの痕跡あり。	後期中葉
第9888 PL.51	52 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/黒褐/良好	小突起を付す波状口縁。帯繩文LRをめぐらし、対弧文を施す。	加曾利B2式
第9988 PL.51	54 坑 1 深鉢	理上 口縁～胴中位破 片	口 (28.3)	粗砂、白色粒/白/ ふつう	側縫が膨らみ、口縫がすぼまる形容。横位隆縫をめぐらしで口縁部無文帯を区画。胴部は沈線による逆U字状モチーフを描き、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第9988 PL.51	54 坑 2 磨石	理上 完形	長 幅 13.0 厚 重 11.7 3041.1	粗粒輝石安山岩	内縫利用。全面に磨痕及び敲打痕があり、特に表面がよく磨かれている。	
第9988 PL.51	55 坑 1 深鉢	理上 底部破片	底 (10.0)	粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐/ふつう	残存部は無文。底面に崩れ痕。	後期中葉
第9988 PL.51	56 坑 1 深鉢	底上 5 cm 胴中位1/4		粗砂、白色粒、赤 色粒/明赤褐/良好	底面に覆位帯状沈線を施す。	後期前半
第9988 PL.51	58 坑 1 磨石	理上 完形	長 幅 15.5 厚 重 10.6 1115.6	粗粒輝石安山岩	扁平内縫利用。表裏両面使用による斜め線状痕有り。周縁部に敲打痕有り。磨面と敲打面との間に角が立つ。	
第9988 PL.52	59 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/にぶい黄褐/良好	口縁下に2条の刻み隆縫をめぐらし、複位隆縫でつなぐ。連結部に円形刺突を施す。	瓶之内2式
第10088 PL.52	60 坑 1 深鉢	理上 口縁～下位脚破 片	口 (40.0)	粗砂、白色粒/に ぶい黄褐/ふつう	口縁下に押圧縫帶をめぐらし、以下、無文。器壁薄い。	加曾利B式
第10088 PL.52	60 坑 2 深鉢	理上 胴部破片		細砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐/ふつ う	帶繩文LRをめぐらし、区切り文を施す。	加曾利B1式
第10088 PL.52	60 坑 3 鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/にぶい黄褐/良好	口縫が短く内折、口唇内面肥厚。外面無文。内面に横位、弧状の沈線を施す。	加曾利B2式
第10088 PL.52	60 坑 4 鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒/に ぶい黄褐/ふつう	口縫が内湾。口縁下に沈線をめぐらす。	加曾利B式

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1008 PL.52	60 坑 5	深鉢	埋上 制部破片		細砂、白色粒、輝石/粒/良好	胎中位がくびれる器形。沈線により、くびれ上位に弧状モチーフ、制部にレンズ状モチーフを施し、LRを充填施文する。	加曾利E 4式
第1008 PL.52	63 坑 1	深鉢	理上 口縁+制中位破 片	口 (16.0)	細砂、白色粒、輝石/黒褐/良好	胎中位がくびれ、口縁内凹渦する。口縁下に環状貼付文を付す。制曲部上位に帯繩文LRを3帶めぐらし、対弧文を施す。	加曾利B 2式
第1010 PL.52	64 坑 1	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝石/粒/良好	口縁下に押圧隆起をめぐらし、I字状沈線を横に連続させる。胎下位は無文。	加曾利B式
第1010 PL.52	64 坑 2	深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒/に ぶい黄褐/ふつう	帶繩文LRを横位にめぐらす。	加曾利B 1式
第1010 PL.52	65 坑 1	深鉢	底上15cm 口縁+制中位破 片	口 (41.0)	粗砂、白色粒、輝石/に/ぶい植/ふつう	頭部が緩く屈曲、口縁が内折する器形。屈曲部に3条の横位沈線をめぐらし、以下、3本沈線を基準としたU字や弧状、ワラビ手文などを施す。緩い波狀口縁の波頭部下に3本沈線による弧状文を施す。	瓶之内1式
第1010 PL.52	65 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片		細砂/粒/良好	頭部で屈曲する器形の口縁部無文帶の部位。内折する口縁部に沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第1010 PL.52	66 坑 1	鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/に/ぶい植/ふつう	外面部無文。内面口縁部に間を開けて複数条の沈線をめぐらし、間にLRを充填施文する。	加曾利B式
第1010 PL.52	66 坑 2	深鉢	理上 底部破片	底 (12.0)	粗砂、白色粒/粒/ ふつう	残存部は無文。底面に網代痕。	後期中葉
第1010 PL.52	66 坑 3	注口上器	理上 制部破片		細砂、白色粒、赤 色粒、輝石/粒/ふ つう	沈線による渦巻文を描き、集合沈線で輪権につなぐ。	瓶之内2式
第1010 PL.52	66 坑 4	磨製石斧	理上	長幅 (4.0) 厚重 (5.0)	変質蛇紋岩	定角式。剥片素材? 刃部破片。両刃始刃。刃寧に研磨され、刃部先端には使用による剥離痕と線状痕が見られる。	
第1028 PL.53	68 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐/ふつう	波狀口縁。隆線による口縁部横円状凹画、沈線による制部垂垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第1028 PL.53	68 坑 2	深鉢	底上4cm 制部破片		粗砂/粒/良好	刺突を横位多段に施す。	三十福堤式
第1028 PL.53	72 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/に/ぶい植/良好	屈曲する器形の口縁部無文帶の部位。波狀口縁で、内折する口縁部の波頭部下に羅位沈線を施し、沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第1028 PL.53	72 坑 2	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒/粒/ 良好	帶状沈線による幾度学モチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内2式
第1028 PL.53	72 坑 3	深鉢	理上 底部破片	底 (6.0)	細砂/明赤褐/良好	残存部は無文。底面に網代痕。	後期中葉
第1028 PL.53	78 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/粒/ ふつう	口縁下に突起を付し、ワラビ手状沈線、刺突を施す。内折する口縁部に刺突を伴う沈線を2条めぐらす。突起下から沈線を垂下させているようだ。	瓶之内1式
第1028 PL.53	82 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/に/ぶ い黄褐/ふつう	隆線をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、LRを施す。	加曾利E 4式
第1028 PL.53	82 坑 2	深鉢	底上5cm 制部破片		粗砂、白色粒/赤 褐/良好	隆線をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、沈線による逆U字状モチーフを描き、LRを充填施文する。間にワラビ手状垂垂文を施す。	加曾利E 4式
第1028 PL.53	83 坑 1	深鉢	底上30cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	逆U字状モチーフで波頭部を3連の隆線で佔む。刺突をめぐらして口縁部無文帶を区画、波頭部下から剝み隆起を垂下させ、RLを充填施文する。	称名寺式
第1028 PL.53	87 坑 1	鉢	理上 口縁部破片		細砂/粒/ふつう	口縁が短く内折。外面部無文。内面屈曲部に刺突をめぐらす。	加曾利B式
第1028 PL.53	87 坑 2	鉢	理上 底部破片	底 9.0	細砂、白色粒/粒/ 良好	底部から開く器形。底面に網代痕。	後前期半
第1038 PL.53	89 坑 1	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒/粒/ ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利E 3式
第1038 PL.53	89 坑 2	多孔石	理上 完形	長幅 19.5 厚重 14.1	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面裏面無数の凹み、側面にも複数の有り。最深の凹みはφ 2cm、深さ1.5cm。左側上部吸着黒変あり。	
第1048 PL.53	92 坑 1	深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒/粒/ ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利E 3式
第1048 PL.53	92 坑 2	深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒、輝 石/明赤褐/良好	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利E 3式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第104回 PL.53	93 1	深鉢 坑	理上 口縁～胴下位破片	口 (14.2)	繊砂、白色粒、輝石に赤い粒/ふつう	真っ直ぐ立ち上がり、口縁が緩く内折する。縄文LRを3帯めぐらし、2個一対の区切り文を施す。RLを地文施す。	加曾利B1式
第104回 PL.53	93 2	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/暗赤褐色/良好	突起を付す波状口縁。横位沈線をめぐらし、区切り文を施す。補修孔あり。	加曾利B1式
第104回 PL.53	95 1	深鉢 坑	理上 口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石に赤い粒/ふつう	口縁下に2条の刻み隆線をめぐらし、横位沈線、LRを施す。脛之内2式	
第104回 PL.53	95 2	深鉢 坑	理上 胴部破片		繊砂、輝石/黒褐色/良好	沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施す。薄手。	脣之内2式
第104回 PL.53	96 1	深鉢 坑	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝石に赤い粒/ふつう	沈線による口縁部横円状区画、沈線による胴部懸垂文を施す。縦位条線を充填施す。	加曾利E3式
第105回 PL.53	98 1	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/暗赤褐色/良好	口縁が緩く内湾。帶状沈線による逆U字状モチーフを描き、RLを充填施す。	加曾利E3式
第105回 PL.53	99 1	四石 坑	理上 完形	長幅 12.6 厚 2.4 重 266.5	粗粒輝石安山岩	扁平状模様利用。表裏両面に2個ずつの凹みとその周辺に凸面あり。凹みの深さものは約2.0cm、深さ0.4cm。周縁部に敲打痕あり。新削痕あり。鉄錆付着。	
第105回 PL.53	100 1	深鉢 坑	底上 8 cm 口縁～胴中位破片	口 (27.0)	粗砂、白色粒に赤い粒/良好	口縁下に隆線をめぐらし無文帶を区画。隆線下に2本沈線による逆U字状モチーフを描き、LRを充填施す。	加曾利E4式
第105回 PL.53	100 2	多孔石 坑	底上11cm 完形	長幅 21.4 厚 4.9 重 471.4	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面は背面、無数の凹みあり、表面が多く、裏面が少ない。凹みの深さものは約1.5cm、深さ1.5cm。	
第106回 PL.53	101 1	深鉢 坑	底直 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石に赤い粒/良好	口縁部隆起文部の部位。強くくびれるが、頭部の屈曲は不明瞭で口画文も見られない。内折部に刺突を伴う沈線をめぐらす。	脣之内1式
第106回 PL.53	101 2	深鉢 坑	底直 口縁部破片		粗砂、白色粒/浅黄褐色/良好	屈曲する器形の口縁部無文帶の部位。波状口縁で、内折する口縁部の波頭部に強く、纏位沈線を施し、沈線をめぐらす。	脣之内1式
第106回 PL.53	101 3	深鉢 坑	理上 胴部破片		粗砂、白色粒/赤い粒/ふつう	横位沈線をめぐらして区画、地文にLRを施し、弧状沈線を垂下させる。	脣之内1式
第106回 PL.53	103 1	深鉢 坑	底上 2 cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/赤褐色/良好	2帯の帶縄文LRをめぐらし、区切り文を施す。口縁を短く内折させ、口唇部に刺突を付す。	加曾利B1式
第106回 PL.53	103 2	深鉢 坑	理上 口縁部破片		繊砂/黒褐色/良好	口縁部に横位4条の沈線をめぐらし、区切り文を施す。口縁を短く内折させ、内面屈曲部に刺突を施す。内面口縁部にも3条の沈線をめぐらす。	加曾利B1式
第106回 PL.54	103 3	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/黒褐色/良好	口縁に3条の沈線をめぐらす。	加曾利B1式
第106回 PL.54	103 4	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/良好	口縁が緩く内湾。横位多段に沈線をめぐらし、クラック状の区切り文を施す。部分的に斜削文を施す。	加曾利B1式
第106回 PL.54	103 5	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/良好	2帯の帶縄文LRをめぐらし、区切り文を施す。口縁を短く内折させ、口唇部に刺突を付す。	加曾利B1式
第106回 PL.54	103 6	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/良好	口縁下に押圧縫帶をめぐらし、帶縄文LRをめぐらす。	加曾利B式
第106回 PL.54	105 1	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/黄褐色/良好	沈線による口縁部横円状区画、胴部懸垂文を施し、RLを複位充填施す。口縁下に突起を付す。	加曾利E3式
第106回 PL.54	105 2	ミニチュア 土器	理上 胴部破片		繊砂、白色粒、赤褐色/良好	横位沈線、蛇行懸垂文を施し、斜位短沈線を充填施す。脣之内1式	
第106回 PL.54	105 3	打製石斧	理上 ほぼ完形	長幅 12.5 厚 5.1 重 183.4	粗粒輝石安山岩	横長洞片素材。短形。やや厚手。刃部は使用による磨滅と剥離あり。表裏両面とも使用により磨滅、上部のものは折れ芯。内無縫は敲打痕後使用により磨滅している。	
第107回 PL.54	112 1	深鉢 坑	底直 口縁～底部ほぼ 完形	口 (14.4) 底 8.1	粗砂、輝石に赤い粒/良好	口縁部に3条の沈線をめぐらし、区切り文を施す。	加曾利B1式
第107回 PL.54	112 2	深鉢 坑	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英に赤い粒/良好	口縁が緩く内湾。無文。	後期中葉
第107回 PL.54	113 1	深鉢 坑	理上 胴部破片		繊砂、輝石、雲母/暗赤褐色/良好	刻み隆線をめぐらして区画、区画内に2本沈線によるU字状モチーフを描く。	鄭上式
第107回 PL.54	113 2	深鉢 坑	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、赤褐色/赤褐色/ふつう	2本隆線によるワラビ手文を垂下させ、纏位沈線を充填施す。	鄭上式

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 器	出上位置 残 存 率	計測値	胎工成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第107回 PL.54	116 1	深鉢 理上 口縁部破片			細砂、輝石/灰斑 切/良好	環状の小突起を付す波状口縁で円孔を帯つ。4条の細隣線をめぐらし、頂部下に8の字貼付文を連續させたような隣線を垂下させる。	瓶之内2式	
第107回 PL.54	116 2	ミニチュア 土器	理上 底部破片	底 3.4	細砂、白色粒/に ぶい黄粒/ふつう	残存部は無文。	後期中葉	
第107回 PL.54	116 3	多孔石	底直 完形	長幅 21.4 厚 18.7	重 11.1 5300.0	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面無数の凹み、敲打によるものと敲打後回転によるものあり。最大最深の凹みは表面ø2.0cm、深さ0.6cm、裏面ø2.4cm、深さ0.9cm。裏面中央部は比較的平坦で使用により強減。周縁部に敲打痕は無い。	
第108回 PL.54	117 1	深鉢	底上31cm 口縁～胴下位 1/3	口	27.3	粗砂、細砂、雲母、 石英/にぶい赤褐色/ふつう	3単位突起。1・2・1の4階の滑継文をめぐらし、突起下及び中に間に字を連結した懸垂文を施す。中に口縁下に達C字状の貼付文を付す。	加曾利B2式
第108回 PL.54	117 2	深鉢	理上 胸部破片			粗砂/暗赤褐色/良好	帶綱文LRをめぐらす。	加曾利B2式
第108回 PL.54	118 1	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/暗赤褐色/良好	小突起を付す波状口縁。口縁下に2条の刻み隣線をめぐらし、隣線でつなぐ。連続部に円形切突を施す。以下、横位沈綫、LRを施す。	瓶之内2式
第108回 PL.54	118 2	深鉢	底上1cm 口縁部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/良好	口縁が緩く外反。口縁部を無文帶とし、横位刻み隣線の字貼付文を付す。	瓶之内2式
第108回 PL.54	118 3	深鉢	底上9cm 口縁部破片			粗砂、輝石/に ぶい赤褐色/良好	無文。	後期中葉
第108回 PL.54	118 4	鉢	底上14cm 胴上位～底部破 片	底 (9.0)		粗砂、白色粒、輝 石/赤褐色/良好	球形削。無文。	後期中葉
第108回 PL.54	118 5	口注土器	理上 把手			粗砂/にぶい赤褐色/良好	上部に捻込突起を付し、正面に斜突を施した円形貼付文を付す。把手基部に沿うように3条の沈綫を施す。	後期中葉
第109回 PL.54	120 1	深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/暗赤褐色/良好	沈綫による懸垂文を施す。RLを充填施文する。	加曾利E3式
第109回 PL.54	120 2	深鉢	底上8cm 口縁部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒/にぶい赤褐色/ふつう	口縁が緩く外反。2本沈綫による8の字状モチーフを描く。瓶之内2式	
第109回 PL.54	122 1	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/鈍 良好	隣線による口縁部稍円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利E3式
第109回 PL.54	122 2	深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒/鈍/良好	複数条の沈綫を垂下させる。	瓶之内1式
第109回 PL.55	124 1	深鉢	底上5cm 胸部破片			粗砂、白色粒、輝 石、石英/にぶい 橙/良好	隣線を垂下させ、LRを充填施文する。	加曾利E4式
第109回 PL.55	124 2	深鉢	底上7cm 口縁部破片			粗砂、輝石/赤褐色/良好	胴中位でくの字状に外屈する。带状沈綫による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。口縁に小突起を付し、称名寺1式口唇部に沈綫をめぐらす。	
第109回 PL.55	124 3	深鉢	底上23cm 胸部破片			粗砂、白色粒、輝 石/鈍/良好	沈綫によるU字状、弧状モチーフを描き、ボタン状貼付文を付す。	称名寺II式
第110回 PL.55	125 1	深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒/浅 黄褐色/良好	刻み隣線を垂下。沈綫による渦巻文を施す。	瓶之内1式
第110回 PL.55	125 2	石蟲	理上 ほぼ完形	長幅 1.5 1.8	厚 0.3 0.6	黒曜石	側片素材?無面部は直角的で反りは無い。下辺凹みの抉りはかなり深い。丁寧に調整され、瘤状の高まりは無い。先端は前方からの衝撃によって極一部欠損している。	円基無茎蟲
第110回 PL.55	129 1	磨石	理上 完形	長幅 10.5 6.0	厚 4.3 427.8	粗粒輝石安山岩	楕円形彫利用。表面両面とも極めて薄いかな研磨面、周縁部に敲打痕あり。下端に敲打による剝離あり。	
第110回 PL.55	130 1	深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝 石/鈍/ふつう	沈綫による懸垂文を施す。LRを充填施文する。	加曾利E3式
第110回 PL.55	134 1	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂/暗赤褐色/良好	帶状沈綫による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。口縁下の横位両面に円形刻突排列を施す。	称名寺1式
第110回 PL.55	134 2	深鉢	理上 胸部破片			粗砂/暗赤褐色/良好	帶状沈綫によるJ字状モチーフを施し、LRを充填施文する。	称名寺1式
第110回 PL.55	138 1	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂/鈍/ふつう	横位多段に沈綫をめぐらし、クランク状に区切り文を施す。内面にも同様に施す。	加曾利B1式
第111回 PL.55	139 1	両耳壺	底上3cm 口縁～胴中位破 片			粗砂、細砂、白色 粒/にぶい黄褐色/ふ つう	無文帶の口縁部が緩く外反。胴上位に隣線による楕円状区画を施し、RLを施文。表面摩滅。	加曾利E3式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

種 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 事	計測値	胎工成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第111図 PL.55	139 2	両耳壺	底直 側部2/3		粗砂/にぶい黄柏/ ふつう	隆線による懸垂文を施し、LRを概位充填施文する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	139 3	坑 深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良 好	隆線による溝巻文を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	139 4	坑 深鉢	底上15cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい黄柏/良 好	波状口縁。隆線による口縁部横円状区画を施し、LRを充 填施文する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	141 1	深鉢	底上4~8cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/赤褐色/良好	口縁が直立する。無文。	後期中葉
第111図 PL.55	144 1	両耳壺	埋土 側部破片		粗砂、白色粒/に ぶい柏/ふつう	上部が張り出す溝巻状隆線を作り横位隆線をめぐらして口 縁部無文帯を区画、溝巻状隆線はさらに斜位に垂下する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	144 2	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい黄柏/ふ つう	の字状の小突起を付す波状口縁。沈線による横円状モ チーフを描き、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	144 3	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい黄柏/良 好	沈線による懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	144 4	深鉢	埋土 底部破片	底 6.4	粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐色/良 好	底径6.4cm。沈線による懸垂文を施し、LRを概位充填施文 する。	加曾利E 3式
第111図 PL.55	151 1	深鉢	底上4cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい柏/ふ つう	隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画。幅広の帯状沈線に よる逆U字状モチーフを描き、ボタン状附付文を付す。	称名寺II式
第111図 PL.55	151 2	深鉢	底上4cm 側部破片			No. 1と同一個体。横位隆線から履位隆線を垂下させる。	称名寺II式
第111図 PL.55	151 3	磨石	床上2cm 完形	長 幅 12.3 厚 重 4.0 359.0	織輪輝石安山岩	梯状擗利用。表裏両面とも研磨面、上下両端に敲打痕あり。 右上面に敲打による剝離あり。	

V区理頭土器

第117図 PL.56	5 理 1	深鉢	口縁～脚下位 2/3	口	17.3	粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/ ふつう	口縁部に幅狭な無文帯を置く。隆線によるS字状の溝巻文 を4単位で配し、刻突を伴う2本隆線を底面させて口縁部 文様帶を区画する。4分割された口縁部文様帶の中央に隆 線による溝巻文を配し、脣間に沈線による横円状の同心円 モチーフを施す。脚部はS字状溝巻文の下部から2本隆線の懸垂 文を施し、横ハ文字を充填施文する。口縁内面肥厚。	神ノ原式
----------------	-------------	----	---------------	---	------	------------------------------	---	------

V区埋設土器

第117図 PL.56	1 理 1	深鉢	胴中位1/3			粗砂、白色粒/明 赤褐色/ふつう	無文。	後期中葉
第117図 PL.56	2 理 1	深鉢	側部破片			粗砂/柏/ふつう	無文。	後期前半
第118図 PL.56	6 理 1	深鉢	胴中位～底部 1/2	底	12.2	粗砂、白色粒/柏/ 良好	無文。底面に網代底。	後期中葉
第118図 PL.56	8 理 1	深鉢	側上位～底部 2/3	底	9.3	粗砂、白色粒/柏/ 良好	口縁部に刺突を施した隆線をめぐらす。以下、無文。	称名寺式
第119図 PL.56	9 理 1	深鉢	口縁～底部1/2	口	(17.0) 底 0.5	粗砂、白色粒、赤 色粒/にぶい柏/ふ つう	現有器高19.5cm。胴中位でくびれる蝶形。波状口縁。口縁 部に沿って沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画。沈線によ る逆U字状モチーフを施し、LRを充填施文する。脚部器 面摩滅。	加曾利E 4式

V区9号列石

第121図 PL.56	1	深鉢	口縁部破片			粗砂、赤色粒/柏/ 良好	隆線をめぐらして口縁部無文帯を作出。以下、横位沈線、 LRを施す。	称名寺I式
第121図 PL.56	2	深鉢	側部破片			粗砂、白色粒/に ぶい赤褐色/良好	帶状沈線による弧状モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第121図 PL.56	3	ミニチュア 土器	底部破片	底	4.0	粗砂/柏/良好	底面がやや張り出す。残存部は無文。	中期後半～後 期前半
第121図 PL.56	4	磨石	完形	長 幅 6.3 厚 重 5.7	3.9 159.1	粗粒輝石安山岩	整った円錐形。表裏両面とも磨面、周縁の一部に敲打痕 あり。	
第121図 PL.56	5	石製品	完形	長 幅 7.3 厚 重 7.4	2.9 238.2	粗粒輝石安山岩	扁平円錐形。表裏両面とも弱い磨面。表面に大きい凹み、 裏面中央に小さな凹みがあり。	
第121図 PL.56	6	石棒		長 幅 9.3	8.9 1657.8	デイサイト	梯状擗利用。丁寧に研磨仕上げ。一部に敲打痕が残る。下 部の剥離部は欠損後敲打調整。下面には敲打痕と磨痕の使 用痕が残る。	

V区1号列石

第123図 PL.57	1	深鉢	口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/柏/良好	屈曲する蝶形の内折する口縁部。内折部に刺突を伴う2 条の沈線をめぐらす。	瓶之内 I式
----------------	---	----	-------	--	--	--------------------	---	--------

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎工成形・色調 石 材 / 素 材 等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第12384 PL.57	2	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 石/黒褐色/良好	縫合 2 条、縫合の跡み隆線を施し、キの字状を表す。以下、縫合による幾何学モチーフを施す、LR を充填施文する。	縫合之内 2 式
第12384 PL.57	3	深鉢	側部破片		粗砂、白色粒、輝 石/黒褐色/良好	帶状沈継による幾何学モチーフを施す、LR を充填施文する。	縫合之内 2 式
第12384 PL.57	4	注口土器	側部破片		粗砂/黒褐色/良好	帶状沈継による幾何学モチーフを描き、LR を充填施文する。無文部面から光沢がある。	縫合之内 1 式
第12384 PL.57	5	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい黄褐色/良好	小突起を付す波状口縁。2 条の沈継をめぐらし、対弧文を施す。	加曾利 B 2 式
第12384 PL.57	6	上製円盤		径 2.6 厚 1.2	粗砂、白色粒/砲 良 好	ほぼ円形。加曾利 E 3 式と思われる上端片再利用。外周に摩滅痕が認められる。	
第12384 PL.57	7	円石	完形	長 9.4 幅 7.3 厚 6.3 重 590.6	粗粒輝石安山岩	厚みのある円錐利用。表面裏面光沢を持つ程滑らかな磨面、縫合部に鋸歯状で凹み有り。自然面無し。	
第12384 PL.57	8	多孔石	完形	長 27.2 幅 16.3 厚 6.8 重 4360.4	粗粒輝石安山岩	大形扁平錐利用。裏裏面無数の凹み有り。裏面及び側面に斬打痕がよく残る。最深のものでφ1.8cm、深さ 0.7cm。	
第12384 PL.57	9	石皿	完形	長 45.0 幅 51.2 厚 9.2 重 16790.0	粗粒輝石安山岩	大形扁平錐そのままで利用。表面中央と左上寄りに強い磨面と弱い削痕あり。未使用面に自然面残る。	
第12384 PL.57	10	石棒	完形	長 24.9 幅 4.7 厚 4.5 重 870.0	綠色片岩	棒状採取材利用。前面に斬打痕が残る。斬打整形後研磨。上下両端はよく研磨されている。上端はやや光沢を持ちほど滑らか。下端は打ち割った後に斬打研磨整形。剥離面と研磨面がよく残る。くびれ部には浅い溝線が 2 条～数条ある。	

## Ⅳ区 2 号列石

第12586 PL.57	1	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい砲/良好	2 条の刻み隆線をめぐらし、8 の字彫付文を付す。	縫合之内 2 式
第12586 PL.57	2	深鉢	側部破片		粗砂、輝石/に ぶい砲/良好	帶状沈継による幾何学モチーフを描き、LR を充填施文する。	縫合之内 2 式
第12586 PL.57	3	深鉢	側部破片		粗砂、白色粒、輝 石/石/赤褐色/ふつ う	粗砂沈継による三角形模モチーフを描き、LR を充填施文する。	縫合之内 2 式
第12586 PL.57	4	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/黒褐色/ふつ う	波状口縁。帶縫文 LR を 2 帯めぐらし、クランク状に区切 り文を施す。裏面に横縫下に側突刺、4 条の沈継をめぐらす。	加曾利 B 1 式
第12586 PL.57	5	深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶縫文 LR をめぐらす。口縁部に刻みを付す。裏面口縁部 に 4 条の沈継をめぐらす。	加曾利 B 1 式
第12586 PL.57	6	鉢	底部破片	底 (6.4)	粗砂/にぶい砲/良 好	波状による横位横状模モチーフを施す。	加曾利 B 式
第12586 PL.57	7	円石	完形	長 13.6 幅 11.9 厚 4.2 重 943.2	粗粒輝石安山岩	扁平錐利用。表面中央に φ2.5cm、深さ 0.5cm の凹みあり。 周縁部に斬打痕が残る。右上の剥離面も斬打によるもの。 裏裏面は自然面か? 明確な磨りの線状痕は確認できない。	
第12586 PL.57	8	多孔石	完形	長 62.0 幅 26.5 厚 15.3 重 41160.0	粗粒輝石安山岩	長方錐角利用。表面と右側面に凹みあり。表面最大最深 の凹みは φ3.0cm、深さ 1.6cm、右側面の凹みは下側の約 1.5 cm、深さ 0.9cm。表面と右側面はやや磨滅している。	

## Ⅳ区 3 号列石

第12686 PL.57	1	深鉢	口縁～胸中位破 片	口 (18.2)	粗砂、輝石/黒褐色/ 良好	頭部ではぼまり、口縁が聞く器形。小突起を付す波状口縁。 突起の頭部中央に弧状隆線を貼付し、左右に円形削突を施す。 頭部上位に菱形文を含む帶縫文 LR をめぐらし、対弧文を施す。	加曾利 B 2 式
第12686 PL.57	2	深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/に ぶい砲/良好	口縁を短く内折せし。渡頭部下に弧状沈継を施し、沈継を めぐらす。渡頭部下から刻み隆線を垂下させ、縫合沈継を充填 施文する。	縫合之内 1 式
第12686 PL.57	3	深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/黒褐色/ 良好	渡状口縁で、口縁を強く外反する。ワラビ手文を伴う隆線 をめぐらすに口縁部無文帯を区画し、渡頭部から垂下する隣 縫線など。隆線下は強状沈継、刺突を施し、LR を充填 施文する。	縫合之内 1 式
第12686 PL.57	4	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/ 良好	2 条の刻み隆線、沈継による幾何学モチーフを施す。	縫合之内 2 式
第12686 PL.57	5	深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/黒褐色/ 良好	波状口縁。刻み隆線と沈継により帶状区画し、LR を充填 施文する。	縫合之内 2 式
第12686 PL.57	6	深鉢	側部破片		粗砂、輝石/砲/良 好	帶縫文 LR をめぐらし、区切り文を施す。	加曾利 B 1 式
第12686 PL.58	7	深鉢	側部破片		粗砂、輝石/に ぶい赤褐色/良好	帶縫文 LR をめぐらし、区切り文を施す。	加曾利 B 2 式
第12686 PL.58	8	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/砲/ふつ う	2 条の押圧縫帶、帶縫文 LR をめぐらす。	加曾利 B 式
第12686 PL.58	9	鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/に ぶい砲/良好	口縁が強く内折。外面無文。口縁内面を肥厚させて刺突を めぐらし、沈継をめぐらす。	加曾利 B 2 式
第12686 PL.58	10	鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい砲/ふつ う	口縁が短く内折。外面無文。内面口縁部に隆線、沈継をめ ぐらす。	加曾利 B 2 式
第12686 PL.58	11	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい黃褐色/ふ つう	口縁下に 1 条の隆線、口縁内面に 1 条の沈継をめぐらす。	後期前半
第12686 PL.58	12	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒/砲/ ふつう	口縁がすばまる器形。無文。補修孔あり。	後期前半

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

### V区配石遺構

種 図 PL.No.	種 類 器 物	出土位置 残 存 事	計測値	胎上・成形・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1268# PL.58	13 注口土器	注口部		細砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	径、厚みともに大ぶりな注口部。	後期前半
第1268# PL.58	14 注口土器	注口部	径 1.4 長 8.1	細砂、輝石/赤闇/ 良好	縦身で長い注口部。外面研磨。	後期前半
第1268# PL.58	15 注口土器	側部破片			1号列石No. 4と同じ個体と思われる。	瓶之内 1式
第1268# PL.58	16 注口土器	側部破片		細砂/灰黄粒/ふ つう	沈線による溝巻状モチーフを描き、条線を充填施文する。加曾利B式	
第1278# PL.58	17 深鉢	口縁部破片		細砂/にぶい・黄粒/ ふつう	小型深鉢。脚下位がくの字状に内屈。矢羽根状短沈線を2 条めぐらす。	後期前半
第1278# PL.58	18 ミニチュア 土器	口縁部破片	口径 (8.0)	細砂、白色粒、輝 石/灰黄粒/ふつう	無文。ボウル状を呈す。	後期前半か
第1278# PL.58	19 土製円盤		径 2.6 厚 1.2	粗砂、白色粒、輝 石/黒褐/良好	ほぼ円形、土器片再利用。外周に摩滅痕が認められる。	
第1278# PL.58	20 磨製石斧	完形	長 幅 13.1 幅 6.4	厚 3.5 重 469.7	定角式。橢円形横刃利用?両刃、始刃。大きさの割に重量感 がある。やや角があり味を持つ。刃先は欠損後研ぎ直されて いる。頭端は上から截かれたことによりダメージを受けて いる。刃部には刃割れと線状痕が認められる。表裏両面や 側面のものは製作時の敲打痕の焼き残し部分。	
第1278# PL.58	21 磨石	完形	長 幅 16.5 幅 11.0	厚 3.4 重 1329.3	円錐利用。表裏両面は滑らかであり磨面。周縁部には一部 敲打痕が残るが、剥落がひどく見えない部分が多い。	
第1278# PL.58	22 門石	完形	長 幅 9.4 幅 8.6	厚 5.1 重 459.4	円錐利用。表裏両面とも磨面。中央に凹みあり。表の凹み はφ 3.2cm、深さ 0.8cm。周縁部に敲打痕。右側縁に敲打に よる浅い凹み、左側縁に一部磨面面あり。	
第1278# PL.58	23 石皿		長 幅 (20.1)	厚 5.0 重 1609.8	扁平角錐利用。左側面と裏面は自然面。板状の角錐の形を 利用し整形。欠損しており全体の形は不明であるが、右側 が立ちくなるものと思われる。	
第1278# PL.58	24 石棒		長 幅 (25.0) (10.0)	厚 6.0 重 3768.6	棒状錐利用。表裏両面に数個の凹みあり。最深のものでφ 2.0cm、深さ 0.6cm。両側縁に敲打痕と研磨痕が、下端に研 磨痕が残る。上部欠損のため全体形不詳。	
第1278# PL.58	25 石棒		長 幅 (14.1) (13.1)	厚 6.2 重 2955.8	棒状錐利用?石棒底部破片。キノコ状に整形されている。 打ち削った後に底面を平らになるように整形。笠の周辺部 にも整形後の削離痕あり。笠の凹みは最深のものでφ 1.2 cm、深さ 0.8cm。	

### VII区 4号列石

第1288# PL.58	1 深鉢	口縁部破片		細砂/粒/良好	口縁が短く内折。内折部に円形刺突、沈線を施す。以下、 斜位沈線を垂下させる。	瓶之内 1式
第1288# PL.58	2 深鉢	側部破片		粗砂、白色粒、輝 石/粒/良好	沈線による同心円文、弧状沈線を施す。	瓶之内 1式
第1288# PL.58	3 深鉢	口縁部破片		細砂/粒/良好	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	瓶之内 2式
第1288# PL.58	4 磨石	完形	長 幅 12.2 幅 10.8	厚 5.2 重 957.8	粗粒輝石安山岩 やや扁平円錐利用。表裏両面に磨面。表裏中心と周縁部に 敲打痕あり。	

### VII区 5号列石

第1288# PL.58	1 深鉢	側部破片		細砂、白色粒/明 赤闇/良好	刻み隕線を垂下させる。	瓶之内 1式
-----------------	------	------	--	-------------------	-------------	--------

### V区配石遺構

第1308# PL.59	32 配 1 多孔石	完形	長 幅 15.9 幅 15.8	厚 7.1 重 2585.0	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表裏両面に磨面と1カ所の凹みあり。周縁部敲 打痕あり。裏面に鉄分とマンガン付着。
-----------------	---------------	----	--------------------	-------------------	---------	--

### VII区配石遺構

第1313# PL.59	1 配 1 深鉢	口縁部破片		細砂、輝石/黒褐/ ふつう	横位沈線をめぐらす。	瓶之内 2式
第1313# PL.59	1 配 2 深鉢	理上 側部破片		細砂、輝石/暗赤 褐/良好	刻み隕線、帯状沈線によるモチーフを施し、LRを充填施 文する。	瓶之内 2式
第1313# PL.59	1 配 3 深鉢	側部破片		粗砂、白色粒/灰 白/良好	無文。二次的に被熱しているようだ。	後期前半
第1313# PL.59	1 配 4 多孔石		長 幅 13.6 幅 14.1	厚 8.0 重 1718.8	粗角錐利用。表裏両面無数の凹みあり。凹みの最深のもの でφ 3.0cm、深さ 1.3cm。風化しており、磨面は不明。	
第1313# PL.59	3 配 1 深鉢	側部破片		粗砂、白色粒/に ぶい黄粒/良好	刺角を伴う帶状沈線をめぐらす。	加曾利B式
第1328# PL.59	4 配 1 深鉢	理上 側部破片		細砂、白色粒、輝 石/赤闇/良好	沈線による懸垂を施し、LRを充填施文する。	加曾利E 3式
第1328# PL.59	5 配 1 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/にぶ い粒/良好	刻み隕線を2条めぐらし、縱位隕線でつなぐ。連結部に円 形刺突を施す。	瓶之内 2式
第1328# PL.59	5 配 2 深鉢	理上 側部破片		細砂、輝石/黒褐/ 良好	帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文す る。	瓶之内 2式

## 遺物観察表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 事	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第132回 PL.59	5 配 3	注口土器	理上 制部破片		粗砂/黒褐/良好	3本沈線による曲線モチーフを描き、横位に連続させる。表面磨かれて光沢がある。	瓶之内 2式	
第132回 PL.59	5 配 4	門石		長 幅 8.8	厚 重 7.8 1000.6	粗粒輝石安山岩	埋みのある円錐利用。表裏内面に磨面、周縁部に敲打痕あり。表面に敲打によるφ1.5cm、深さ0.3cmの凹みあり。大きさの割に重い。	
第133回 PL.59	8 配 1	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/白/良好	沈線による懸垂文を施し、RLを縦位充填施文する。	加曾利 E 3式	
第133回 PL.59	8 配 2	磨石		長 幅 12.2	厚 重 11.5 3248.9	粗粒輝石安山岩	円錐利用。全体に磨面が残る。重く、敲きの痕跡はない。	
第133回 PL.59	9 配 1	深鉢	底上22cm 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐/良好	横位、弧状の沈線を施し、LRを充填施文する。	瓶之内 1式	
第133回 PL.59	9 配 2	石鑼	ほぼ完形	長 幅 (2.4) (1.8)	厚 重 0.5 1.4	黒色安山岩	剥片素材?側面は直線的で反りは無い。先端及び脚端はやや丸味を帯びる。左脚下端斑品部分より欠損。	円基無茎鑼
第134回 PL.59	13 配 1	石棒		長 幅 (13.7) (15.6)	厚 重 (15.7) 14640.0	粗粒輝石安山岩	大形横円錐素材?全体を敲打により成形後研磨により整形しているものと思われるが、多孔質の石材のため研磨方向は判然としない。上端は欠損している。表面にφ1.2cm、深さ1.5cmの凹みあり。	
第134回 PL.59	17 配 1	石皿		長 幅 (15.7) (14.3)	厚 重 6.5 1129.0	粗粒輝石安山岩	角錐利用?隅丸長方形の脚付石皿破片。内面は使用により磨滅している。脚はφ7.0cmの円形に整形されており、周囲に敲打痕が残る。その中央にはφ1.5cm、深さ0.7cmの敲打による凹みがある。欠け口以外は滑らかに整形されている。表面黒変あり。	
第134回 PL.59	19 配 1	磨石	完形	長 幅 (15.3) (14.3)	厚 重 4.5 1001.4	変質安山岩	円錐利用。表裏両面に磨痕があり光沢を持つ。周縁部はほぼ全周に敲打痕あり。	
第135回 PL.59	20 配 1	深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐/良好	屈曲する器形の内折する口縁部、内折部に横位、斜位沈線、剥突をめぐらす。	瓶之内 1式	
第135回 PL.59	20 配 2	深鉢	制部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐/良好	帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内 2式	
第135回 PL.59	20 配 3	深鉢	制部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐/良好	全面に列点を施す。	三十幅場式	
第135回 PL.59	20 配 4	磨石	完形	長 幅 10.3 10.4	厚 重 5.0 800.0	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面~裏面の2/3以上に陶化物が吸着し黒変している。表面に1.8cm×1.5cm×深さ0.3cmの凹みあり。表裏両面とも磨面。側面には敲打痕がよく残る。	

## V区遺物出土遺物

第136回 PL.60	1	深鉢	41-N- 6 口縁~制中位1/3		粗砂、細纖、白色 粒、赤色粒、石英 /にぶい橙/ふつう	細い沈状口縁、口縁を内折させ、内折部に縱位短沈線をめぐらす。地紋にRLを横位施文し、3本沈線による懸垂文を施す。	加曾利 E 2式
第137回 PL.60	2	深鉢	41-N- 6 口縁~制中位 1/2	口 41.9	粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/ふつう	隕線による口縁部横円状区画、沈線による制部懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第137回 PL.60	3	深鉢	41-N- 6 口縁~下位3/ 4	口 44.5	粗砂、白色粒/明 赤褐/ふつう	隕線による口縁部横円状区画、沈線による制部懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第138回 PL.60	4	深鉢	41-K- 7 口縁~下位1/ 3	口 132.0	粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐/良 好	起き付をすば口縁。隕線による口縁部横円状区画、沈線による懸垂文を施し、大小2種の無節LRを充填施文する。加曾利 E 3式	加曾利 E 3式
第138回 PL.60	5	深鉢	41-M- 7 口縁~胴上位破 片	口 137.0	粗砂、白色粒/明 赤褐/良好	隕線による口縁部横円状区画、沈線による制部懸垂文を施し、複節LRLを充填施文する。	加曾利 E 3式
第138回 PL.60	6	深鉢	41-N- 6 制中位~下位 1/3		粗砂、細纖、白色 粒/橙/ふつう	3本沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利 E 3式
第139回 PL.61	7	深鉢	41-N- 6 底部破片	底 6.6	粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利 E 3式
第139回 PL.61	8	深鉢	41-N- 6 制中位~底部 1/2	底 6.3	粗砂、白色粒/に ぶい橙/ふつう	沈線によるU字状、逆U字状、ワラビ手状、蛇行懸垂文を施し、RLを充填施文する。器面摩滅。	加曾利 E 3式
第139回 PL.61	9	鉢	41-N- 6 口縁~下位1/ 3	口 (30.5)	粗砂、細纖、白色 粒/白/良好	無文帶の口縁部が真っ直ぐ立ち上がる。胴上位に隕線をめぐらせて文様帶を区画し、隕線による円文を配す。器面に摩滅著しいが、RL施文が見られる。両耳壺の可能性も。	加曾利 E 3式
第140回 PL.61	10	両耳壺	41-L- 8, 9 制部破片		粗砂、白色粒/に ぶい黄褐/ふつう	隕線による渦巻文状、懸垂文を施し、RLを充填施文する。器面摩滅。	加曾利 E 3式
第140回 PL.61	11	両耳壺	41-L- 9 制部破片		粗砂、白色粒/浅 黄褐/ふつう	横位隕線をめぐらして口縁部無文帶を区画。隕線による懸垂文を施し、RLを施文する。器面摩滅。	加曾利 E 3式
第140回 PL.61	12	浅鉢	41-K- 9 口縁~下位1/ 3	口 (52.4)	粗砂、白色粒、赤 色粒/橙/ふつう	多くの字状に外反する形態。胴上位に横位隕線をめぐらして口縁部を区画。隕線による横位隕線をめぐらし、ワラビ手文を施し、RLを充填施文する。	加曾利 E 3式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 形	出上位置 現 存 率	計測値	胎工/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1408# PL.61	13	深鉢	41-L-8 口縁～胴上位 4/5	□ 27.3	粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	口縁がややすまる形態。隣線をめぐらして幅狭な口縁部 無文帯を作出。以下、羅位隣線を重なせて6帯に分割し、 交互に繩文帶。無文帯とする。縄文は斜面Lの羅位施文。	加曾利E 4式
第1418# PL.61	14	深鉢	41-L-7 口縁～胴上位破 片		粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良 好	粗砂により背面反するワラビ手文を配す。間の2部位には單 隣線により背反するワラビ手文を配す。2本隣線で側面につなぐ。口縁部 には柔滑線を文。胴部は2本隣線によるモチーフを施し、 短辺線を充填施文する。突起基部部で円形容の孔を穿つ。	郷土式
第1419# PL.62	15	深鉢	41-N-6 口縁～胴下位破 片	□ 04.6	粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	隣線による口縁部内円形状区画施し、羅位沈線を充填施文す る。胴部は沈線による横円状モチーフを描き、羽状短辺線を 充填施文する。	郷土式
第1419# PL.62	16	深鉢	41-L-10 口縁～胴中位破 片	□ 03.0	粗砂、細織、白色 粒/粒/ふつう	隣線による口縁部内円形状区画を施し、羅位沈線を充填施文す る。胴部は沈線による懸垂文を施し、矢羽根状短辺線を 充填施文。さらに蛇行垂文を施す。	郷土式
第1419# PL.62	17	深鉢	41-L-7 口縁～胴中位 3/4	□ 37.3	粗砂、輝石/に ぶい赤褐色/良好	くびれる頭部隣線をめぐらして口縁部、頸部、胴部の3 文様帶に分割する。口縁部は斜位施文を充填施文。颈部は 斜位、羽状単辺線を充填施文し、S字形隣線を付した横状 手文4位で施す。胴部は2本隣線によるS字形文を位 置に連続させ、上端をつないだ2本隣線による懸垂文を施 し、羅位沈線を充填施文する。口縁部内面肥厚。	剪力系
第1420# PL.62	18	深鉢	41-J-8 口縁～胴上位破 片	□ 037.0	粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良 好	内筋状で口縁が擴く開口器形。2本隣線をめぐらして口縁部、 頭部無文帯を区画。胴部はワラビ手文を伴う3本隣線。2本 隣線で区切、以下を無文としている区画も見られる。口縁 内面肥厚。	郷土式
第1420# PL.62	19	深鉢	41-J-8 口縁部破片	□ 038.0	粗砂、白色粒、輝 石/にぶい赤褐色/良 好	屈曲する器形。口縁部を内折させ、小波状口縁の波底部下 に円形刺突を施し、刺突を基点に斜位短辺線をめぐらす。	瓶之内1式
第1420# PL.62	20	深鉢	41-L-9 口縁～胴上位破 片	□ 038.0	織砂/粒/良好	屈曲する器形。波狀L1種に波底部に3単位の刺みを付す。 屈曲部に2条の沈線をめぐらし、2条の円形刺突を施す。 屈曲部下は沈線による半同心円文、弧状垂文を施し、 LRを充填施文する。	瓶之内1式
第1420# PL.62	21	深鉢	41-J-8_9 口縁～胴上位破 片	□ 029.0	織砂、白色粒、輝 石/にぶい粒/ふつ う	小波状口縁で波頂部下に円孔を穿つ。屈曲する器形。頭部 に本沈線をめぐらして区画。胴部は沈線による懸垂文を 施し、LRを充填施文する。波頂部下から隣線を垂下させ て下端にも刺突を施す。内側する口縁部に沈線をめぐらす。 口縁部無文帯ミガキ。	瓶之内1式
第1420# PL.62	22	深鉢	41-J-8 口縁部破片	□ 021.0	織砂、白色粒/粒/ 良好	屈曲する器形。口縫に小突起を付す。頭部に内折隣線を2 条めぐらし、口縫から垂下させた隣線と連接させ、連接部 に8の字貼付文を付す。	瓶之内1式
第1438# PL.62	23	深鉢	41-J-9_10 口縁～胴上位破 片	□ 029.0	粗砂、輝石/に ぶい赤褐色/ふつう	屈曲する器形。頭部に2本沈線をめぐらして口縁部 無文帯を区画。波頂部から隣線を垂下。頭部両側沈線と 連接させ、さらに胴部に2本沈線による懸垂文を施し、1 字状模の構成とする。口縫にも沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第1438# PL.62	24	深鉢	41-J-9 口縁部破片	□ 020.0	粗砂、雲母、輝石 /にぶい赤褐色/良好	粗状突起を付す波状口縫。口縫部無文帯の部位で、内折部 に沈線を施す。	瓶之内1式
第1438# PL.62	25	深鉢	41-J-8 口縁～胴上位破 片	□ 017.0	粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	小突起を付す波状口縫。頭部に2本沈線をめぐらして口縫 部無文帯を区画。波頂部から隣線を垂下。頭部両側沈線と 連接させ、さらに胴部に2本沈線による懸垂文を施し、1 字状模の構成とする。口縫にも沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第1438# PL.62	26	深鉢	41-J-8 口縁部破片	□ 010.0	粗砂/にぶい赤褐色/ ふつう	屈曲する器形。頭部隣線を付した高まりをもつ波状口縫。頭 部に刺みを付した2条隣線をめぐらす。胴部は沈線によ る三角形模、梢円モチーフを描き、LRを充填施文する。 口縫部無文帯に波頂部外端からV字状に垂下する刺み隣線 を貼付する。	瓶之内1式
第1438# PL.62	27	深鉢	41-J-8 口縁部破片	□ 019.0	織砂、白色粒/に ぶい黄粒/ふつう	口縫に小突起を付す。地文にLRを施し、羅位沈線を垂下 させて区画。区画内に斜位の帯状沈線を施して複数の三角 形状区画を表す。部分的に帯状沈線内の織文を磨り消 す。	瓶之内1式
第1438# PL.62	28	深鉢	41-J-8 胴部破片		粗砂、細織、白色 粒/粒/ふつう	沈線による同心円文から斜位沈線をめぐらし。短辺線を充 填施文する。	瓶之内1式
第1438# PL.62	29	深鉢	41-N-8 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい赤褐色/良好	口縫にLRを施し、羅位沈線を垂下させた区画。区画 内に8の字状隣線を付し、円形刺突を施す。8の字状隣線 は表裏2単位。	瓶之内1式
第1440# PL.63	30	深鉢	41-J-8 口縁～底部4/5 或 9.3	高 16.8	粗砂、白色粒/粒/ ふつう	バケツ形。胴中位隣線をめぐらして文様帶を区画。区画 内に8の字状隣線を付し、円形刺突を施す。8の字状隣線 は表裏2単位。	瓶之内1式
第1440# PL.63	31	深鉢	41-J-9_10 口縁～胴下位 1/4	□ 015.0	粗砂/にぶい粒/ふ つう	バケツ形。隣線をめぐらして文様帶を区画。羅位隣線によ りさきらに分割する。おそらく2単位の文様帶中に弘状、S 字状隣線を貼付する。口縫部を頸内にさせ、内折部に1 条の沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第1440# PL.63	32	深鉢	41-J-8 口縁～胴中位破 片	□ 013.0	織砂/にぶい赤褐色/ 良好	小型の深鉢。帯状沈線による幾何学モチーフを描き、LR を充填施文する。	瓶之内2式
第1440# PL.63	33	深鉢	41-L-9 口縁部破片	□ 016.0	織砂、白色粒/に ぶい赤褐色/ふつう	胴中位が張り出す器形。帯状沈線による幾何学モチーフを 描き、LRを充填施文する。	瓶之内2式

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 類	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1448# PL.63	34	深鉢	41-J- 9 胴部破片		粗砂/にびい粒/良好	脚下位が膨らんで弧曲する器形。屈曲部上位を文様帶とし、帶状化線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施す。	輪之内2式
第1448# PL.63	35	深鉢	41-J- 8, 9 口縁～胴下位 2/3	口 (22.2)	粗砂、白色粒/浅 黄緑/ふつう	バケツ形で1単位の突起と両脇に崩起を付すと思われる。胴中位に2本沈線をめぐらして文様帶を区画、文様帶内に2本沈線による梢円や弧状等の幾何学モチーフを描き、LRを充填施す。突起上端に沈線による渦巻文を描き、突起部に孔を穿つ。	輪之内2式
第1448# PL.63	36	注口土器	41-IJ- 9 口縁～胴下位 1/3	口 (12.6)	粗砂、白色粒/黒 褐/良好	隣線をめぐらしくて文様帶を区画。隣線によるレンズ状文をめぐらす。レンズ状文にまたがるよう8の字貼付文を付す。	輪之内1式
第1448# PL.63	37	深鉢	41-I- 9, 10 口縁～胴中位破 片	口 (14.0)	粗砂、白色粒。輝 石/黒褐/ふつう	横幅集合沈線を間隔を開けて2带めぐらす。	輪之内2式
第1458# PL.63	38	深鉢	41-I- 9 胴部破片		繊維/柏/良好	刻み隣線を垂下させ、沈線による幾何学モチーフを描く。	五頭ヶ台式
第1458# PL.63	39	深鉢	41-I-10 胴部破片			No.38と同一個体。	五頭ヶ台式
第1458# PL.63	40	深鉢	41-L 7 胴部破片		繊維/にびい粒/ふ つう	隣線による弧状モチーフを施し、沈線による渦巻状文、爪形文を施す。	統町類型
第1458# PL.63	41	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		粗砂、白色粒/に びい粒/黄緑/ふつう	波状口縁。波頂部下に隣線によるワラビ手文を配し、横位に伸ばして口縁部文様帶を区画。RLを充填施す。胴部は沈線によるワラビ手状態垂文を施す。口縁内面を肥厚させ、波頂部に沈線によるワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	42	深鉢	41-M- 7 口縁部破片		粗砂、白色粒/柏/ ふつう	口縁部に隣線による梢円状区画。胴部に沈線による梢円文を施し、RLを充填施す。胴部無文部にワラビ手状態垂文を垂下させる。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	43	深鉢	41-J- 9 胴部破片		粗砂、繊維、白色 粒。輝石/柏/ふつ う	隣線による口縁部梢円状区画を施し、条線を充填施す。胴部は複数、隣位波状の条線を全面施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	44	深鉢	41-M- 7 胴部破片			No. 5と同一個体。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	45	深鉢	41-M- 7 胴部破片			No. 5と同一個体。胴部垂垂文が横に伸びる部分がある。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	46	深鉢	41-N- 6 口縁部破片		粗砂、白色粒/に びい粒/ふつう	渦巻きの突起を付す波状口縁。沈線による梢円状区画。ワラビ手状態垂文を施し、RLを充填施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	47	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		粗砂、輝石/明赤 褐/ふつう	口縁が緩く内湾、帯状沈線による逆U字状モチーフを描き、RLを充填施文。ワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	48	深鉢	41-K- 5 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/柏/ふつう	口縁が緩く内湾、帯状沈線による逆U字状モチーフを描き、LRを充填施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	49	深鉢	41-K- 9 胴部破片		粗砂、白色粒/に びい粒/ふつう	口縁が緩く内湾。帯状沈線による波状文をめぐらして口縁部無文帶を区画。沈線による逆U字状モチーフを描き、渦巻状の条線を充填施す。単位文間にワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	50	深鉢	41-K- 9 口縁部破片			No.49と同一個体。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	51	深鉢	41-K- 7 胴部破片		粗砂、白色粒/赤 褐/ふつう	小型の深鉢。3本沈線による垂垂文を施し、RLを充填施す。頭部に沈線による逆U字文を横位にめぐらす。	加曾利E 3式
第1458# PL.64	52	深鉢	41-K- 8 底部破片	底 5.2	粗砂、白色粒/柏/ 良好	沈線による垂垂文を施し、RLを縱位充填施す。	加曾利E 3式
第1468# PL.64	53	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/にびい粒/ふつ う	口縁部梢円状区画を施し、弧状、渦巻状の条線を充填施文。	加曾利E 3式
第1468# PL.64	54	深鉢	41-K- 7 口縁部破片		粗砂、白色粒/に びい粒/ふつう	隣線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、隣線によるワラビ手状モチーフを施し、RLを充填施す。	加曾利E 3式
第1468# PL.64	55	深鉢	41-M- 5 口縁部破片		粗砂、白色粒/に びい粒/ふつう	口縁が緩く内湾。沈線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、隣位条線を施す。	加曾利E 4式
第1468# PL.64	56	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		繊維/黄柏/良好	環状突起を付す波状口縁。突起下部から左右に弧状隆線を描き、RLを充填施す。突起上端に刻み文を付す。	加曾利E 4式
第1468# PL.64	57	深鉢	41-K- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/にびい粒/ふ つう	口縁が緩く内湾。位置、隣位波状の条線を全面に施す。	加曾利E 4式
第1468# PL.64	58	深鉢	41-K- 8 胴部破片			No.57と同一個体。	加曾利E 4式
第1468# PL.64	59	両耳壺	41-K- 7 胴部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/にびい粒/良 好	上部と両側縁を張り出させた楕状把手を付す。沈線による逆U字状の垂垂文を施し、RLを縱位充填施す。把手の下からワラビ手状態垂文を施す。	加曾利E 3式
第1468# PL.64	60	両耳壺	41-J- 8 胴部破片		粗砂、白色粒/柏/ ふつう	楕状把手の部位。把手上部を張り出させ、S字状文を施す。	加曾利E 3式
第1468# PL.65	61	深鉢	41-L- 6 口縁～胴上位破 片		粗砂、白色粒/明 赤粒/ふつう	口縁部を若干肥厚させて無文帶を作出。肥厚部下に隣線によるワラビ手文を配し、2条隣線を楕状筋に連絡させて口縁部文様帶を区画する。胴部は2条隣線による垂垂文、單隣線による蛇形垂文を施し、斜位沈線を充填施す。表面摩擦。口縁内部肥厚。	郷土式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎工/成形・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1468 PL.65	62	深鉢	41-L- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 良好	陰線による口縁部横円柱区画、沈線による副部垂重文を施し、縦に斜面状モチーフを充填施文する。	鄭上式
第1478 PL.65	63	深鉢	41-L- 8 口縁部破片		粗砂、雲母、石英 /赤褐色/良好	波頂部の突起、陰線によるワラビ手文を縦に連続させ、沈線を充填施文する。	鄭上式
第1478 PL.65	64	深鉢	41-L- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/ ぶい赤褐色/良好	三角柱状の中空突起、上端、3面すべてに陰線による渦巻文、側面状モチーフなどを施す。	鄭上式
第1478 PL.65	65	深鉢	41-M- 7 口縁部破片		粗砂、輝石/ぶ い赤褐色/良好	口縁部の双頭状突起、頂部に半隆起窓による渦巻文、側面に沈線による渦巻文を施す。	鄭上式
第1478 PL.65	66	深鉢	41-K- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 ふい赤褐色/良好	口縁部の突起、陰線による渦巻文、懸垂文を施す。上端にも渦巻文を付す。	鄭上式
第1478 PL.65	67	深鉢	41-L- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ぶい赤褐色/良 好	陰線による口縁部横円柱区画を施し、縦位沈線を充填施文する。横円柱状区間にS字状文を配す。	鄭上式
第1478 PL.65	68	深鉢	41-K- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤 褐色/良好	口縁がすぼまる器形。口縁下にI条の陰線、横位互通突起、改換に沿ってめぐらす。副部は2条陰線に沿って施す。	鄭上式
第1478 PL.65	69	深鉢	41-K- 8 口縁部破片		粗砂、細繊、白色 粒、赤色粒/砕/良 好	改換口縁で波頂部欠損。波頂部下に陰線による渦巻文を配し、口縁に沿って2条陰線をめぐらす。副部は2条陰線による懸垂文を施す。縦位沈線を充填施文。2本沈線で横位に区切る。	鄭上式
第1478 PL.65	70	深鉢	41-L- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	口縁部を肥厚させて幅拡無文帯を作り、單陰線によるS字文を配し、2本沈線を垂下させる。S字文の上部から陰線をめぐらして肥厚部との間に幅拡有文帯を区画、区画に沿って刺突を施す。以下、矢羽根状短沈線を充填施文。	鄭上式
第1478 PL.65	71	深鉢	41-N- 6 副部破片		粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐色/良好	ワラビ手文を伴う3本陰線にめぐらして口縁部文様帯を作り、弧状短沈線を充填施文する。副部は円柱刺突を伴う2本沈線による懸垂文を施す。弧状短沈線を充填施文する。	鄭上式
第1478 PL.65	72	深鉢	41-K- 9 副部破片		粗砂、輝石/ぶ い赤褐色/良好	改換口縁による渦巻文を伴う3本陰線による懸垂文を施す。副部は円柱刺突を伴う2本沈線による懸垂文を施す。	鄭上式
第1478 PL.65	73	深鉢	41-L- 7 副部破片		粗砂、白色粒/こ ぶい赤褐色/良好	2本陰線によるワラビ手文を基調としたモチーフを施し、改換沈線を充填施文する。	鄭上式
第1478 PL.65	74	深鉢	41-N- 5 副部破片		粗砂、石英粒/良 好	陰線による渦巻文状、懸垂文を施し、短沈線を充填施文する。器面底原。	鄭上式
第1488 PL.65	75	深鉢	41-F-11 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 ふつう	頭部でのくの字形に外唇させ、口縁部無文帯を区画、頭部に互通刺突をめぐらす。口背部肥厚。	曾利系
第1488 PL.65	76	深鉢	VX-1-括 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/砕/良好	改換口縁。頭部に刺突陰線をめぐらし、波頂部からさなぎ状の縦帶を貼付、陰線を重ねさせる。内面波頂部下に渦巻陰線を施す。	曾利系
第1488 PL.65	77	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		粗砂、雲母、輝石 /赤褐色/良好	改換口縁で波頂部下に双頭状突起を付す。陰線による懸垂文を施し、縦位沈線を充填施文する。	曾利系
第1488 PL.65	78	深鉢	41-K- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	頭部でのくの字形に外唇させ、口縁部文様帯を区画。口縁部は斜位沈線を施し、陰線を重ねさせる。頭部に渦巻状沈線、陰線をめぐらす。	曾利系
第1488 PL.66	79	深鉢	41-K- 7 副部破片		粗砂、白色粒/良 好	2本陰線によるワラビ手状文を施し、單陰線を垂下させる。	曾利系
第1488 PL.66	80	深鉢	41-J- 8 副部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/砕/良好	2本陰線によるワラビ手状文を施し、蛇行する單陰線を垂下させる。間際に斜位沈線を充填施文する。	曾利系
第1488 PL.66	81	深鉢	41-J- 8 副部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/砕/良好	頭部でくびれる器形。刺突を伴う2本陰線をめぐらして頭部文様帯を区画。陰線により斜格子目文を表す。副部は斜位沈線を施し、陰線を重ねさせる。頭部に渦巻状沈線、陰線をめぐらす。	曾利系
第1488 PL.66	82	浅鉢	41-I-11 副部破片		粗砂、白色粒、輝 石/砕/良好	陰線による渦巻文、横円柱区画を施し、縦位沈線を充填施文する。	鄭上式
第1488 PL.66	83	深鉢	41-G-11 口縁部破片		粗砂、白色粒/ ぶい赤褐色/良好	改換口縁で口縁内面肥厚。帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第1488 PL.66	84	深鉢	41-I-10 副部破片		粗砂、輝石/黒闌 ふつう	改換沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第1488 PL.66	85	深鉢	41-M- 7 副部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/暗赤褐色 良好	改換陰線を垂下させ、列点を充填施文する。	称名寺II式
第1488 PL.66	86	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		粗砂、細繊、白色 粒/ぶい赤褐色/良 好	改換沈線により三角形状モチーフを描く。	称名寺II式
第1498 PL.66	87	深鉢	41-I-10 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ぶい赤褐色/良 好	改換口縁で、波頂部下に沈線を伴う8の字形の陰線を付す。	称名寺式
第1498 PL.66	88	深鉢	41-I- 9 口縁部破片		粗砂、細繊、白色 粒/ぶい赤褐色/良 好	波頂部の突起、波頂部に斜線による逆三角形状、口縁に沿って横円柱モチーフを描き、刺突、円孔を穿つ。内面頭部に刺突、沈線を作成のくの字状陰線を貼付。	頭之内I式
第1498 PL.66	89	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/砕/良好	改換口縁で口縁内面肥厚。波頂部に沈線による渦巻文を配す。口縁に沿って沈線を描き、LRを施す。	頭之内I式
第1498 PL.66	90	深鉢	41-H-10 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 良好	波頂部の突起、三角形状の頭部を強く内削させる。基部に円筒状の貼付を付し、その上部にも左右に貼付の痕跡が認められる。	後削前半

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14986 PL.66	91	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		繊砂、白色粒/砕 良好	環状突起。頂部に環状の突起を付し、刺突を伴う沈線で間をつなぐ。頂部に貼付文を付し、沈線をめぐらしてLRを充填施する。	瓶之内1式
第14986 PL.66	92	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		繊砂/に赤い粒/ふ つら	多くの字状に屈曲する图形。屈曲部に8の字貼付文、端部につないだ2本沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第14986 PL.66	93	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 赤褐色/良好	多くの字状に屈曲する图形。口縁部にLRを施し、内折部に沈線をめぐらす。	瓶之内1式
第14986 PL.66	94	深鉢	41-L- 7 口縁部破片		粗砂、白色粒/砕 良好	内折する口縁部に突起を付し、刺突を施す。横位2条の沈線をめぐらし、端部をつなぐ。	瓶之内1式
第14986 PL.66	95	深鉢	41-L- 9 口縁部破片			No.23と同一個体。	瓶之内1式
第14986 PL.66	96	深鉢	41-L- 9 口縁部破片			No.23と同一個体。	瓶之内1式
第14986 PL.66	97	深鉢	41-J- 9 胸部破片		繊砂、白色粒、雲 母/黄褐色/良好	頂部に横位沈線をめぐらして区画、地文にLRを施し、瓶位、弧状の集合沈線を施す。下させる。	瓶之内1式
第14986 PL.66	98	深鉢	41-J- 9 胸部破片		繊砂/砕/良好	刺突隆線を垂下させ、瓶位集合沈線、押引沈線を施す。	瓶之内1式
第14986 PL.66	99	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		繊砂、白色粒/浅 黄褐色/ふつら	突起を付す波状口縁。波頂部から2条の刻み隆線を帯状に垂下させ、瓶位横線でつなぎ、連結部に刺突を施す。区画内には瓶位、弧状の集合沈線を施し、間に斜位沈線を充填施する。	瓶之内1式
第15086 PL.67	100	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		繊砂/黒褐色/ふつら	口縁を短く内折せず、口縁下に沈線を治ませた隆線をめぐらす。地文にLRを施し、對弧文を瓶に連ねた懸垂文を施す。	瓶之内1式
第15086 PL.67	101	鉢	41-K-10 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/砕/良好	外表面無文。内面に頂部に斜位の隆線を施して区画、沈線による同心円文、幾何学モチーフを施す。	瓶之内1式
第15086 PL.67	102	浅鉢	VIK-1括 胸部破片		粗砂、白色粒/砕 ふつら	斜位横線でつなぎ、弧状沈線を施す。	後期前半
第15086 PL.67	103	深鉢	41-E-13 胸部破片		粗砂、白色粒/赤 褐色/良好	点列を横位多段に施す。	三十場式
第15086 PL.67	104	深鉢	41-J-10 口縁部破片		繊砂/に赤い粒/ふ つら	口縁下に1条の刻み隆線をめぐらす。帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施する。	瓶之内2式
第15086 PL.67	105	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/に赤い粒/良好	口縁下に斜位刻み付した隆線を1条めぐらす。帯状沈線による三角形容形状モチーフを描き、LRを充填施する。	瓶之内2式
第15086 PL.67	106	深鉢	41-L- 9 口縁部破片		繊砂/黒褐色/良好	帯状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施する。	瓶之内2式
第15086 PL.67	107	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		粗砂、輝石/浅黃 褐色/ふつら	口縁下に1条の刻み隆線、8の字貼付文を付す。横位帯状沈線を施し、LRを充填施する。帯状沈線は平行せず、上位沈線はV字状に屈折する。	瓶之内2式
第15086 PL.67	108	深鉢	41-L- 9 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/砕/ふつら	帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施す。	瓶之内2式
第15086 PL.67	109	深鉢	41-L- 9 胸部破片			No.108と同一個体。	瓶之内2式
第15086 PL.67	110	深鉢	41-J- 9 胸部破片		粗砂、白色粒、赤 褐色/に赤い粒/良 好	帯状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施する。	瓶之内2式
第15086 PL.67	111	深鉢	41-J- 9 胸部破片		繊砂/に赤い赤褐色/ ふつら	刺下位を多くの字状に内屈させて文様帶を区画。帯状沈線により重複する三角形容形状モチーフを描き、LRを充填施す。	瓶之内2式
第15086 PL.67	112	深鉢	41-J- 9 胸部破片		繊砂、白色粒、輝 石/黒褐色/良好	文様帶内に帯状沈線によるX字状モチーフを描き、これによりできた菱形、三角形容形状区画に沈線を重層させる。帯状沈線にRLを充填施す。	瓶之内2式
第15086 PL.67	113	深鉢	41-J- 9 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/砕/良好	文様帶内に帯状沈線によるX字状モチーフを描き、さらに中心から横位に施す。これによりできた三角形容形状区画に沈線を重層させる。帯状沈線にRLを充填施す。	瓶之内2式
第15086 PL.67	114	深鉢	41-L- 9 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 褐色/に赤い粒/良 好	口縁下に刺突を施した隆線、帶状LRをめぐらす。	瓶之内2式
第15086 PL.67	115	深鉢	41-J- 8 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/に赤い粒/ふつ ら	地文にRLを施し、横位帯状沈線を2条めぐらす。	瓶之内2式
第15086 PL.67	116	深鉢	41-J- 9 口縁部破片		繊砂、白色粒/砕 ふつら	波頂部の突起。頂部に渦巻文を配し、内面に横位沈線を施す。外面は無文。	瓶之内2式
第15086 PL.67	117	小型鉢	41-L- 9 口縁部破片	口 (7.0)	繊砂/に赤い粒/良 好	多くの字状に口縁が外屈。屈曲部下に2本沈線によるS字状文を描く。	瓶之内2式
第15186 PL.67	118	注口上器	41-H-10 注口部		繊砂、白色粒、赤 褐色/砕/良好	短い注口で、先端と胸部を橋状につなぐ。	瓶之内1式
第15186 PL.67	119	注口上器	41-H-10 把手		繊砂、白色粒/砕 良好	正面にフライ手状貼付、沈線を施し、正面に斜位の8の字貼付文を付す。胸部に沈線を施す。	瓶之内2式
第15186 PL.67	120	注口上器	41-L-10 把手		繊砂、白色粒/砕 ふつら	把手上面を張り立てて刺突を施し、下位にも貼付を付して刺突を施すことで、隠れた8の字状を表す。	後期中葉
第15186 PL.67	121	注口上器	41-L- 8 胸部破片		粗砂/浅褐色/良好	刺突を伴う帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	瓶之内2式
第15186 PL.67	122	ミニチュア 土器	41-J- 8 完形	口 2.4 底 2.0	繊砂、白色粒/砕 良好	最大径4.0cmの球形胎。口縁部に刺突、沈線をめぐらし、以下、沈線による懸垂文を施す。	瓶之内1式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

種 国 PL-No.	種 類 器 種	出上位置 残 有 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第151図 PL-67	ミニチュア 上器	V区～括 口縁～底部破片	高 4.0 径 2.6 厚 1.2	粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	台形。推定上縁径5.0cm、推定下縁径6.0cm。側面に円孔 をめぐらす。	中期後葉	
第151図 PL-67	上製円盤	41-K-7 完形	長 12.5 幅 5.4	粗砂、白色粒/粒 良好	ほぼ円形。称名寺式の上器片を再利用。外周に摩滅痕が 認められる。		
第151図 PL-67	打製石斧	41-H-12 ほぼ完形	長 12.5 幅 5.4	厚 1.3 重 100.5	短冊形。横長削片素材。薄手。反りは少ない。裏面に大き く自然面を残す。両側縁は敲打による細かい削離が、使用 による磨滅は自然面に認められる。上下両端に極僅かに新 削痕あり。		
第151図 PL-67	打製石斧	41-I-11 完形	長 14.1 幅 5.7	厚 2.2 重 168.2	短冊形。横長削片素材。比較的薄手。裏面丂部近くに一部自 然面を残す。両側縁は敲打による細かい削離が、使用によ る磨滅は丂部から裏面全体に認められる。		
第151図 PL-67	磨製石斧	41-M-8 完形	長 17.9 幅 6.7	厚 2.3 重 575.4	相円形削利用？定角式。刃先は平面形は円刃、側面形は丂 凸刃。比重のある搬造された石材であり、全体に光沢がある 。表面と側面に一部製作時の削離痕を、側面頭部に自然 面を残す。刃部に細かい削離痕と斜め右上方に線状の使 用痕を残す。便に込まれてはいるが、まだ十分に使用でき るものである。		
第151図 PL-67	楔形石器	理上 完形	長 4.1 幅 3.6	厚 1.1 重 18.3	打製石斧破片素材。裏面に使用による磨滅あり。上下両縁 に敲打による微細な削離痕あり。		
第151図 PL-67	勾玉	41-J-8 完形	長 4.8 幅 2.1	厚 0.8 重 12.8	変質蛇紋岩	磨片素材？三日月形に整形。片岩質の石材。上下両端は直 線的に磨り落とされていて、丁寧に研磨されているが素 材のヒビ割れが残っている。線状痕が明瞭。中央部にφ 5mmの孔有り。丂側穿孔。	
第151図 PL-67	玉	41-J-8 ほぼ完形	長 4.1 幅 1.1	厚 0.6 重 1.3	翡翠	洞穴素材？透明感のある緑色部分多く良質の石材。底辺中 央がやや凹む。丂側穿孔。中央よりやや裏側へややして 斜段になる。平面形は方形に近い。下端が厚く上端が薄 い。穿孔中に歯組したための上の跡みの違い。	

### Ⅳ区遺構外出土遺物

第152図 PL-68	1 深鉢	41-U-16 剥中位～底部 1/2	底 7.0	粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	2条隆線による懸垂、單隆線による蛇行懸垂を施し、 足羽粗弦沈を充填施文する。	郷土式
第152図 PL-68	2 深鉢	41-Q-24 口縁～剥中位破 片	口 (25.0)	粗砂、白色粒、輝 石/に/ぶい粒/ふつ う	剥中位までぼく、口縁が緩く内済する。波状口縁。わざ かな作を出して口縁部無文帶を区画、くびれ上位に円状、 U字状モチーフ、丂部にはインズ状モチーフを描き、LRを充 填施文する。	加曾利E 4式
第152図 PL-68	3 深鉢	41-Q-23 口縁～剥中位破 片	口 (29.7)	粗砂、白色粒、輝 石/に/ぶい粒/良好	U縁がすぼまる形態。横位隆線をめぐらして幅狭な口縁部 無文帯を区画、以下、縦位隆線を垂下させて分割し、交互 に縁文、無文帯とする。縞文はLR対位施文。	加曾利E 4式
第152図 PL-68	4 深鉢	41-W-21 剥部破片		細砂/に/ぶい粒/良 好	小型の深鉢。剥部は大径9.5cm、屈曲する形態。頭部に8 の字貼付文を付し、3本弦線をめぐらす。胴部は2本弦線 によるレンズ状の横重文を施し、開口に三角形状モチーフを 組み込む。LRを充填施文。	縛之内1式
第152図 PL-68	5 深鉢	42-D-18 底部破片	底 7.6	粗砂、白色粒/粒	集合化線による弧状の懸垂文、短沈線による蛇行懸垂を 施す。底面に網代模。	縛之内1式
第153図 PL-68	6 深鉢	41-V-21 口縁～剥中位破 片	口 (33.0)	粗砂、白色粒/粒 ふつう	粗み隆線を1条めぐらす。帯状沈線による弧状、ワラビ手 状などの幾何学モチーフを施し、LRを充填施文。	縛之内2式
第153図 PL-68	7 深鉢	41-V-20 口縁部破片	口 (26.5)	粗砂、白色粒、輝 石/暗赤褐色/ふつ う	口縁下に刻み隆線、8の字貼付文を付す。帯状沈線による 幾何学モチーフを施し、LRを充填施文する。帯状沈線は 平行せず、部分的に重なるんだり、弧状になす。	縛之内2式
第153図 PL-68	8 深鉢	VII区～括 口縁～剥中位破 片	口 (21.7)	粗砂、細織、輝石 /黒褐色/ふつう	口縁下に刻み隆線、8の字貼付文を付す。帯状沈線を横位 2条めぐらし、内側を弱位に施すことで三角形状のモチーフ を表す。帯状沈線にLRを充填施文。	縛之内2式
第153図 PL-68	9 深鉢	41-W-21 口縁部破片	口 (29.0)	粗砂、白色粒、輝 石/に/ぶい赤褐色/ ふつう	滑状沈線により重複する三角形状モチーフを施し、LRを充 填施文する。	縛之内2式
第153図 PL-68	10 深鉢	41-U-20 口縁部破片	口 (20.0)	粗砂、白色粒、輝 石/明赤褐色/良好	LRを全面施文する。	縛之内2式
第153図 PL-68	11 楔形土器	41-U-20 口縁部破片	口 (8.3)	粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	横長の横円文を重複し、微細な刺突を施す。三角形状の横 状突起を付す。	縛之内2式
第153図 PL-68	12 深鉢	41-X-21 口縁～剥中位破 片	口 (26.0)	粗砂、輝石/白褐色/ ふつう	頭部でくびれ、口縁が大きく開く形態。円筒状の突起を付 す波状口縁。菱形文が崩れたような横位沈線をめぐらし、 対置文を施す。	加曾利B 2式
第154図 PL-68	13 深鉢	41-V-21 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい粒/ふつう	隆線による口縁部横円状区画を施し、RLを充填施文する。	加曾利E 3式
第154図 PL-68	14 深鉢	41-P-23 口縁部破片		粗砂、細織、白色 粒、輝石/粒/ふつ う	波状口縁。隆線による口縁部横円状区画を施し、RLを充 填施文する。	加曾利E 3式
第154図 PL-68	15 深鉢	41-U-19 剥部破片		粗砂、白色粒、輝 石/粒/ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを縱位充填施文する。	加曾利E 3式
第154図 PL-68	16 深鉢	41-R-23 剥部破片		粗砂、白色粒、輝 石/に/ぶい粒/ふつ う	口縁下に隆線による渦巻文を配し、2条隆線で横位に連ね て幅狭な弦文帯を区画、両面に縦位沈線を充填施文する。	加曾利E 3式
第154図 PL-69	17 深鉢	41-R-24 口縁部破片		粗砂/赤褐色/良好	口縁下に隆線による渦巻文を配し、2条隆線で横位に連ね て幅狭な弦文帯を区画、両面に縦位沈線を充填施文する。	郷土式

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎工成形・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第154回 PL.69	18	深鉢	41-R-24 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石に赤褐色/良好	傾斜により幅狭な口縁部横筋状区画を施し、斜位沈線を充填塗文する。	鄭上式
第154回 PL.69	19	深鉢	41-X-20 胸部破片		粗砂、細織、白色粒、輝石/赤褐色/良好	沈線による懸垂文を施し、矢羽根状短沈線を充填施文する。鄭上式	
第154回 PL.69	20	深鉢	41-R-24 胸部破片		粗砂、白色粒、赤色粒、輝石/赤褐色/良好	斜格子の集合沈線、細織線を方向を変えて施し、斜格子目文を表す。上端に波状隕線をめぐらす。	曾利系
第154回 PL.69	21	深鉢	41-Q-23 口縁部破片		粗砂、細織、白色粒、輝石に赤褐色/良好	横位隕線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、縦位隕線を垂下させて分割し、交互に縦文帯、無文帯とする。範文はLRの縦位施文。	加曾利E 4式
第154回 PL.69	22	深鉢	41-X-21 胸部破片		粗砂/明赤褐色/ふつう	LRを縱位充填施文する。	中期南葉
第154回 PL.69	23	深鉢	41-M-25 口縁部破片		粗砂/に赤褐色/良好	波状口縁。波頂部から傾み隕線を垂下。帶状沈線によるモチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第154回 PL.69	24	深鉢	41-T-19 口縁部破片		粗砂、輝石/暗赤褐色/良好	波状口縁。沈線による幾何学モチーフを描き、RLを充填施文する。	称名寺I式
第154回 PL.69	25	深鉢	41-T-19 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石に赤褐色/良好	波状口縁。波頂部下に帶状沈線によるJ字文を配す。	称名寺II式
第154回 PL.69	26	深鉢	41-U-18 口縁部破片		粗砂/に赤褐色/良好	J字縫下に刻みを付した隕線をめぐらし、構状把手を付す。	称名寺II式
第154回 PL.69	27	深鉢	41-W-23 口縁部破片		粗砂、白色粒/相	隕線下は帶状沈線によるモチーフを描く。	
第154回 PL.69	28	深鉢	41-W-21 口縁部破片		粗砂、白色粒/相/良好	波頂部の環状突起。頂部に刺突を伴う沈線を施した隕線を貼付する。	称名寺II式
第155回 PL.69	29	深鉢	41-N-25 口縁部破片		粗砂、白色粒/相/良好	波頂部の環状突起。波頂部下から沈線を垂下させる。	称名寺II式
第155回 PL.69	30	深鉢	41-O-22 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/良好	波頂部の環状突起。波頂部から刻みを付した隕線を垂下。帶状沈線によるモチーフを描く。	称名寺II式
第155回 PL.69	31	深鉢	41-N-25 胸部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英に赤褐色/良好	帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第155回 PL.69	32	深鉢	41-O-19 胸部破片		粗砂/に赤褐色/ふつう	刻み隕線を垂下。帶状沈線による弧状モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第155回 PL.69	33	深鉢	41-W-1-括 胸部破片		粗砂/暗赤褐色/良好	帶状沈線によりJ字状モチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第155回 PL.69	34	深鉢	41-U-18 胸部破片		粗砂、白色粒、輝石/明赤褐色/良好	帶状沈線により縦位展開するモチーフを描き、LRを充填施文する。	称名寺I式
第155回 PL.69	35	深鉢	41-W-21 胸部破片		粗砂、白色粒/相/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LRを充填施文する。	称名寺I式
第155回 PL.69	36	深鉢	41-Q-22 口縁部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/ふつう	口縁部無文帯の部位。波状口縁。口縁に沿って沈線をめぐらす。	瓶之内I式
第155回 PL.69	37	深鉢	41-W-21 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/暗赤褐色/良好	屈曲する器形の口縁部無文帯。波状口縁で、内折する口縁部の波頂部下に弧状沈線を施し、横位沈線をめぐらす。	瓶之内I式
第155回 PL.69	38	深鉢	41-M-21,22 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/相/ふつう	屈曲する器形の口縁部。口縁部文様帶に縦位沈線を施し、内折する口縁部に横位沈線をめぐらす。	瓶之内I式
第155回 PL.69	39	深鉢	41-N-25 口縁部破片		粗砂、輝石に赤褐色/良好	屈曲する器形の口縁部。口縁に帶状沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文。さらに沈線を施す。刺突を施した円形割付文を付す。口縁部にも大型の円形割付文を付し、これから結構把手が伸びると思われる。	瓶之内I式
第155回 PL.69	40	深鉢	41-W-1-括 胸部破片		粗砂/に赤褐色/良好	沈線による満巻文、幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内I式
第155回 PL.69	41	深鉢	41-U-21 胸部破片		粗砂、白色粒、赤色粒、輝石/相/良好	屈曲する器形の腹部。翼部に刻み隕線をめぐらし、翼部に垂下させる。連結部に8字断取文を付す。胸部は集合沈線による渦巻文構成。部分的にLRを施す。	瓶之内I式
第155回 PL.69	42	深鉢	41-T-19 胸部破片		粗砂/黒褐色/良好	屈曲する器形の腹部。沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内I式
第155回 PL.69	43	深鉢	41-V-21 胸部破片		粗砂、白色粒、輝石/相/良好	屈曲する器形の腹部。集合沈線によるJ字文など縦位展開するモチーフを描き、LRを充填施文する。	瓶之内I式
第156回 PL.69	44	深鉢	41-V-21 胸部破片		粗砂、白色粒/に赤褐色/良好	屈曲する器形の腹部。沈線によるJ字文を縦に並べ、弧状模様でつなぐ。横に渦巻文を配すなど、複雑なモチーフを施す。間際に円形刺突を施す。	瓶之内I式
第156回 PL.70	45	深鉢	41-W-22 胸部破片		粗砂、白色粒/相/良好	バケツ形の腹部。刻み隕線を垂下させ、弧状、横位の集合沈線を複雑に連結させる。連結部に円形刺突を施す。	瓶之内I式
第156回 PL.70	46	鉢	41-W-20 口縁部破片		粗砂、白色粒/に赤褐色/良好	口縁によるモチーフを施し、LRを充填施文。口唇部を肥厚させる。2条の沈線、刺突を施す。	瓶之内I式
第156回 PL.70	47	深鉢	41-V-21 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/に赤褐色/ふつう	帶状沈線による3形形モチーフを施し、LRを充填施文する。	瓶之内I式
第156回 PL.70	48	深鉢	51-Q-1 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/明赤褐色/良好	斜位刻みを付した隕線を2条めぐらし、縦位隕線でつなぐ。連接部に円形刺突を施す。沈線による幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。口縁上にもLRを施す。	瓶之内I式
第156回 PL.70	49	深鉢	41-U-19 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/明赤褐色/ふつう	口縁上に刻み隕線を2条めぐらし、内部を斜位に施すことで、三向形のモチーフを表す。帶状沈線によるJ字文を配す。	瓶之内I式

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

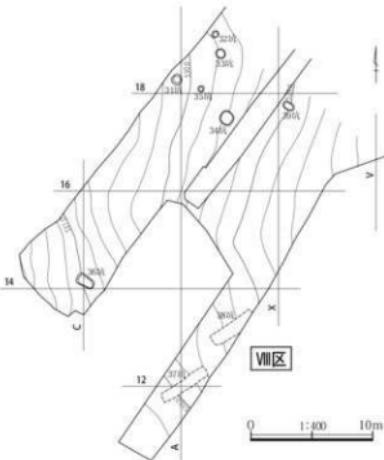
補 図 PL. No.	種 器 類	出上位置 残 存 率	計測値	胎工/成形・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1568# PL.70	50 深鉢	41-U-21 口縁部破片		粗砂、輝石にぶい赤褐色/良好	小突起を付す波状口縁。口縁に沿わせて隕線、波頂部下に刺突を施した円形彫文を付す。弧状沈線、LRを施す。	脛之内2式
第1568# PL.70	51 深鉢	41-T-17 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石にぶい赤褐色/ふつう	内面に8の字状突起を付す波状口縁。刻み隕線をめぐらし、円形彫文を伴う隆線を重下させる。	脣之内2式
第1568# PL.70	52 深鉢	41-U-18 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石にぶい赤褐色/良好	コの字状の刻み隕線を付す。帶状沈線によるモチーフを施し、LRを施するが、纏文施文は帯状沈線外となる。	脣之内2式
第1568# PL.70	53 深鉢	41-U-21 胸部破片		粗砂、白色粒、赤褐色/にぶい赤褐色/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LRを充填施文する。	脣之内2式
第1568# PL.70	54 深鉢	41-U-20 胸部破片		粗砂、白色粒/にぶい橙/ふつう	帶状沈線によるワラビ手状モチーフを施し、LRを充填施文する。	脣之内2式
第1568# PL.70	55 深鉢	41-S-21 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/明赤褐色/ふつう	外面無文で内面に文様を施す。波頂部に2面の渦巻文を配し、強沈線を施す。波頂部下に円孔を穿つ。	脣之内2式
第1568# PL.70	56 鉢	VIII-1-括 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/明赤褐色/良好	外面無文で内面に文様を施す。口縁内部を肥厚させ、波頂部に渦巻文を配す。沈線によるモチーフを描き、微細な刺突を治わせる。波頂部下に円孔を穿つ。	脣之内2式
第1578# PL.70	57 深鉢	41-U-21 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/にぶい赤褐色/良好	口縁下にクランク状の帯状沈線をめぐらす。口縁内面に沈線、刺突を施す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	58 深鉢	41-O-24 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/にぶい黄褐色/ふつう	帶織文LRをめぐらす。内面口縁部に沈線をめぐらし、刺みを付す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	59 深鉢	41-T-17 口縁部破片		粗砂/極端赤褐色/ふつう	帶織文LRをめぐらす。内面口縁部に沈線をめぐらし、斜刺文を施す。口縁部に割みを付す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	60 深鉢	41-U-21 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/柏/良好	波頂部口縁。幅多段位の沈線をめぐらし、脣位沈線を施す。LR他。内面口縁部にも多条の沈線をめぐらす。口唇部に刺みを付す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	61 鉢	VIII-1-括 口縁部破片			No.60と同一個体。	加曾利B1式
第1578# PL.70	62 鉢	41-T-17 口縁部破片		粗砂、白色粒/にぶい橙/ふつう	小突起を付す波状口縁。外面無文。内面口縁部に4条の沈線をめぐらす。	加曾利B式
第1578# PL.70	63 鉢	41-U-21 口縁部破片		粗砂、白色粒/柏/良好	波頂部口縁で波頂部下に円孔を穿つ。外面無文。内面口縁部に沈線をめぐらす。口唇部に刺みを付す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	64 深鉢	41-V-18 胸部破片		粗砂、白色粒/赤褐色/柏/良好	くの字状に緩く内凹。屈曲部上位に帯状沈線によるクランク状文を横位に連続させる。幅狭な施文。	加曾利B1式
第1578# PL.70	65 深鉢	41-U-21 口縁部破片		粗砂、白色粒/にぶい橙/ふつう	小突起を付す波状口縁。3帯の帶織文LRをめぐらし、区切り文を施す。	加曾利B1式
第1578# PL.70	66 深鉢	41-U-20 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/黒褐色/良好	小突起を付す波状口縁。2帯の帶織文LRをめぐらす。波頂部下に對弧文を付す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	67 深鉢	41-T-20 口縁部破片		粗砂、輝石/にぶい橙/良好	波状突起を付す波状口縁。帶織文LRをめぐらし、對弧文を付す。波頂部下に円孔を穿つ。	加曾利B2式
第1578# PL.70	68 深鉢	41-V-20 口縁部破片		粗砂、輝石/極端赤褐色/ふつう	刺突を付す波状口縁。刺突列を伴う横位沈線、菱形文、対弧文を施す。LRを施す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	69 深鉢	41-T-19 口縁部破片		粗砂/にぶい橙/良好	口縁が短く内折。帶織文LRをめぐらし、対弧文を施す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	70 深鉢	41-U-20 胸部破片		粗砂/柏/良好	横位、弧状の沈線をめぐらしてLRを充填施文、対弧文を施す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	71 深鉢	41-V-20 胸部破片		粗砂、輝石/黒褐色/ふつう	LRを地文とし、横位、弧状の沈線をめぐらして対弧文を施す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	72 深鉢	41-V-18 胸部破片		粗砂、白色粒、輝石/にぶい橙/ふつう	帶織文LRをめぐらし、対弧文を施す。	加曾利B2式
第1578# PL.70	73 深鉢	41-T-20 胸部破片		粗砂、輝石/にぶい橙/ふつう	羽状の集合沈線を施す。	加曾利B2式
第1588# PL.70	74 鉢	41-U-20 口縁部破片		粗砂、輝石/にぶい赤褐色/良好	口縁が緩く内凹。刺突を伴う平行沈線をめぐらして区画。口縁部は入り組み状の沈線をめぐらしてLRを施文。胸部は複数弧状の条線を施す。口唇部に刺みを付す。	加曾利B2式
第1588# PL.71	75 鉢	41-T-19 口縁部破片		粗砂、輝石/にぶい黄褐色/ふつう	口縁が短く内折。内折部にワラビ手状沈線をめぐらす以外は、外面無文。内面に沈線を施す。口唇部に刺みを付す。	加曾利B2式
第1588# PL.71	76 深鉢	41-X-13 口縁部破片		粗砂、輝石/柏/ふつう	口縁下に沈線をめぐらしてLRを充填施文。複数の繩文帯を作出。刺突を伴う平行沈線をめぐらし、斜位沈線を施す。	加曾利B2式
第1588# PL.71	77 鉢	41-V-20 口縁部破片		粗砂、白色粒/黄褐色/良好	口縁が緩く外反。外面無文。内面口縁部に2条の沈線をめぐらす。	加曾利B2式
第1588# PL.71	78 鉢	VIII-1-括 口縁部破片		粗砂、輝石/黒褐色/ふつう	口縁が緩く外反。外面無文。内面口縁部に2条の沈線をめぐらす。	加曾利B式
第1588# PL.71	79 深鉢	41-R-22 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/にぶい橙/ふつう	口縁下に押圧隆線をめぐらし、以下。平行沈線によるレンズ状文を横に連ねる。	加曾利B式
第1588# PL.71	80 深鉢	41-W-20 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/にぶい橙/ふつう	口縁下に押圧隆線を2条めぐらし、以下。縱位条線を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	加曾利B式

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/成形/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第159回 PL.71	81	深鉢	41-V-19 口縁部破片		粗砂、白色粒、鮮 石にぶい赤褐色/ふ つう	口縁下に押圧隆起をめぐらす。	加曾利B式
第159回 PL.71	82	深鉢	41-R-22 脚部破片			No.79と同一個体。平行沈線によるレンズ状文を施す。	加曾利B式
第159回 PL.71	83	深鉢	51-N-1 口縁部破片		粗砂、白色粒、鮮 石にぶい赤褐色/ふ つう	沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、斜位沈線を 施す。	加曾利B式
第159回 PL.71	84	深鉢	41-U-18 口縁部破片		粗砂、白色粒/相 良好	口縁が緩く外反。無文。	後期中葉
第159回 PL.71	85	深鉢	41-O-24 口縁部破片		粗砂、白色粒/に ぶい粒/良好	口縁が直立する。無文。	後期中葉
第159回 PL.71	86	深鉢	41-U-18 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/相/良好	波状口縁で口縁が緩く外反する。外面無文。内面口縁下に 沈線をめぐらす。	後期中葉
第159回 PL.71	87	深鉢	41-S-20 底部破片	底 5.6	粗砂、白色粒、鮮 石にぶい赤褐色/ふ つう	残存部は無文。底面に網代痕。	後期中葉
第159回 PL.71	88	鉢	41-V-21 底部破片	底 (8.0)	粗砂、白色粒、赤 色粒、脚石/相/良 好	の字状に内屈する器形。残存部は無文。	後期中葉
第159回 PL.71	89	注口土器	41-U-19 注口部	径 2.3 長 3.1	粗砂/相/良好	円筒状で先端が膨らむ。朱塗りの跡跡あり。	後期前半
第159回 PL.71	90	注口土器	41-S-20 注口部	径 1.3 長 4.8	粗砂、赤色粒、鮮 石にぶい粒/良好	差込口がソケット状になる。	後期前半
第159回 PL.71	91	注口土器	41-S-20 注口部		粗砂、白色粒、鮮 石にぶい粒/ふつ う	やや丸みを帯びる注口。基部に隆脊を付す。	後期前半
第159回 PL.71	92	注口土器	41-R-21 注口部	径 1.4 高 6.9	粗砂、赤色粒/浅 黄色/良好	基部に1条の沈線をめぐらす。	後期前半
第159回 PL.71	93	注口土器	41-U-21 脚部破片		粗砂、脚石/黒褐色/ ふつう	集合沈線による弧状モチーフを施す。	加曾利B式
第159回 PL.71	94	注口土器	41-T-20 脚部破片		粗砂、白色粒、鮮 石/黒褐色/良好	集合沈線による弧状モチーフを施す。	加曾利B式
第159回 PL.71	95	注口土器	41-O-24 脚部破片		粗砂/相/良好	脚部中に集合沈線をめぐらして文様帶を区画、矩形状など 集合沈線によるモチーフを描く。	加曾利B I式
第159回 PL.71	96	注口土器	41-T-19 把手		粗砂、白色粒/に ぶい粒/良好	上端に瘤状突起を付し、S字状に隆起を貼付する。	後期前半
第159回 PL.71	97	ミニチュア 土器	41-V-21 口縁部破片	口 (8.4)	粗砂、白色粒、鮮 石にぶい粒/ふつ う	波状口縁。外面無文。内面口縁部の波頂部下に渦巻文を配 し、左右に弧状沈線をめぐらす。	後期前半
第159回 PL.71	98	ミニチュア 土器	41-U-22 口縁部破片	口 (7.2)	粗砂、白色粒/相/ ふつう	無文。	後期前半
第159回 PL.71	99	ミニチュア 土器	41-U-21 口縁部破片	口 (7.6)	粗砂、白色粒/相/ ふつう	口周外端が張り出す。沈線による円状、稍円状モチーフを 描き、微細な刻文を施す。	解之内2式
第159回 PL.71	100	ミニチュア 土器	41-U-21 脚部破片	底 (4.4)	粗砂、白色粒、鮮 石/黒褐色/良好	残存部は無文。底面に網代痕。	後期中葉
第159回 PL.71	101	蓋状土製品 ほぼ完形	41-O-22 VII-E-1括 ほぼ完形	径 10.0 厚 2.0	粗砂、白色粒/明 赤褐色/良好	把手高2.0cm。横断面レンズ状に中央が膨らむが、把手の部 位はやや凹む。	後期前半
第159回 PL.71	102	蓋状土製品 ほぼ完形	VII-E-1括 ほぼ完形	径 4.6	粗砂/相/良好	面から3方向に隆起を貼付、空間に沿わせて沈線による モチーフを描く。頂部、端部に円形貼付文を付す。	後期前半
第159回 PL.71	103	石 磚	VII-E-1括 2/3	長 幅 1.3 厚 重 (0.3)	粗砂、白色粒/相/ ふつう	剥片素材。凹基無茎磚。やや薄手。基部の抉りは深い。頭離は奥 まで入り、主要剖面は無い。側面には反りはない。	剥片頭部欠損。頭離は奥まで入り、主要剖面は無い。側面には反りはない。
第159回 PL.71	104	石 磚	42-B-17 4/5	長 幅 1.6 厚 幅 1.8 重 0.5	流紋岩	剥片素材。凹基無茎磚。やや薄手。頭部は欠損しており、全体の形態 は不明。頭部は横断面形は表裏とも平坦である。基部は厚 いV字型。	剥片頭部欠損。頭離は奥まで入り主要剖面は無い。側面には反りはない。
第159回 PL.71	105	石 磚	42-A-19 4/5	長 幅 (2.3) (1.4) 厚 重 (0.8)	流紋岩	剥片素材。凹基無茎磚。左脚部一部欠損。両面とも頭離は 奥まで入り主要剖面は無い。側面はやや鋸歯状。側面形には反り はない。	剥片頭部欠損。左脚部一部欠損。両面とも頭離は奥まで入り主要剖面は無い。側面はやや鋸歯状。側面形には反りはない。
第159回 PL.71	106	石 磚	42-C-18 1/2	長 幅 2.6 厚 幅 1.7 重 0.6 (1.8)	黑曜石	剥片素材。凸基有茎磚。頭部は欠損しており、全体の形態 は不明。頭部は横断面形は表裏とも平坦である。基部は厚 いV字型。	剥片素材。凸基有茎磚。頭部は欠損しており、全体の形態 は不明。頭部は横断面形は表裏とも平坦である。基部は厚 いV字型。
第159回 PL.71	107	石 磚	42-B-20 4/5	長 幅 1.3 厚 幅 1.6 重 0.4 (0.4)	流紋岩	剥片素材。平基無茎磚。難先欠損。基部の調整は上面から 削されており、横断面形は表裏とも平坦である。全体の割離は 奥まで入り丁寧に調整加工されている。	剥片素材。平基無茎磚。難先欠損。基部の調整は上面から 削られており、横断面形は表裏とも平坦である。全体の割離は 奥まで入り丁寧に調整加工されている。
第159回 PL.71	108	磨製石斧	41-O-24	長 幅 5.0 厚 幅 3.0 重 20.8	変質蛇紋岩	定角式、平面形刃口。縱断面形内凸刃。小型品。頭部に敲 打による潰れ、刃部に使用による刃毀れ。右側縁の割離は 磨き残し、横断面は表裏両面ともやや盛り上がる。	定角式、平面形刃口? 表面がゆるやかに盛り上がるが裏面 は平坦で、横断面は長方形、縱断面は内凸刃。中型品。頭部に敲 打による潰れ、刃部に使用による刃毀れ。欠損。研磨面がよく残る。
第159回 PL.71	109	磨製石斧	42-C-18 4/5	長 幅 (8.0) (4.7)	変質蛇紋岩	整った円錐利用。ほぼ全面磨面。表面に特によく磨れて いる部分アリ。点々と弱い敲打痕。特に裏面に多い。大きさ の割に重量感がある。	定角式、平面形刃口? 表面がゆるやかに盛り上がるが裏面 は平坦で、横断面は長方形、縱断面は内凸刃。中型品。頭部に敲 打による潰れ、刃部に使用による刃毀れ。欠損。研磨面がよく残る。
第159回 PL.71	110	磨 石	VII-E-1括 完形	長 幅 6.5 厚 幅 5.9 重 266.4	粗粒輝石安山岩	やや扁平円錐利用。多孔質で軽い。表裏両面とも研磨面、 側縁一部敲打痕あり。	定角式、平面形刃口? 表面がゆるやかに盛り上がるが裏面 は平坦で、横断面は長方形、縱断面は内凸刃。中型品。頭部に敲 打による潰れ、刃部に使用による刃毀れ。欠損。研磨面がよく残る。
第159回 PL.71	111	磨 石	42-B-14 完形	長 幅 7.0 厚 幅 5.4 重 103.5	粗粒輝石安山岩		

### 第3節 近世の遺構と遺物

令和元年度調査において、天明泥流下(第1面)で検出された遺構と遺物については、『東宮遺跡(5)』において報告を行っている。本書では、VIII区第2面で検出された土坑9基と、『東宮遺跡(5)』で報告できなかったVIII区第1面の出土遺物について報告する。

第2面は、第1面として確認した天明泥流下の畑耕作土を除去した面である。遺構は調査区全体には広がってはおらず、VIII区の南西端部のみで確認され、土坑9基が検出された。土坑埋没土中から具体的な年代を示す遺物の出土は見られなかったが、調査段階で17～18世紀の所産と判断されている。37、38号土坑は南端壁際に位置し、ともに短冊状を呈し、方位も揃っている。土坑内に拳大の礫が密集しており、耕作に邪魔な礫を集めて埋めた土坑と見られる。

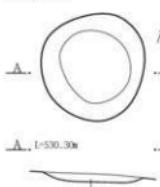


第160図 VIII区近世土坑全体図

第4表 VIII区近世土坑一覧

No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考	No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
31	42-A-18	円形	皿状	89	85	7	17～18世紀		36	42-B-14	楕丸長方形	浅円筒状	153	92	22	17～18世紀	
32	41-Y-19	円形	浅掘鉢形	58	54	15	17～18世紀		37	41-Y-12	短冊形	箱状	423	91	28	17～18世紀	礫集積
33	41-Y-18	円形	浅円筒状	80	80	28	17～18世紀		38	41-X-13	短冊形	箱状	401	112	26	17～18世紀	礫集積
34	41-Y-17	円形	浅円筒状	127	126	40	17～18世紀		39	41-V-17	楕円形	皿状	100	52	13	17～18世紀	
35	41-Y-18	円形	円筒状	52	51	48	17～18世紀										

31号土坑



31号土坑

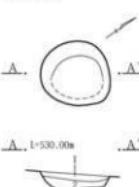
1 暗褐色土 褐色粒少量含む。

32号土坑

1 黒褐色土 黄褐色粒少量含む。

2 暗褐色土 褐色粒少量含む。

32号土坑

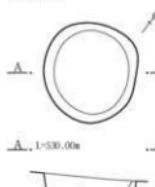


33号土坑

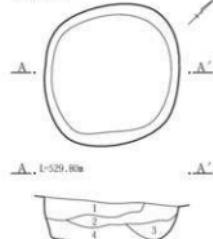
1 暗褐色土 褐色土ブロック少量含む。

2 黑褐色土 褐色土粒わずかに含む。

33号土坑



34号土坑



34号土坑

1 暗褐色土 褐色粒少量、炭化物わずかに含む。

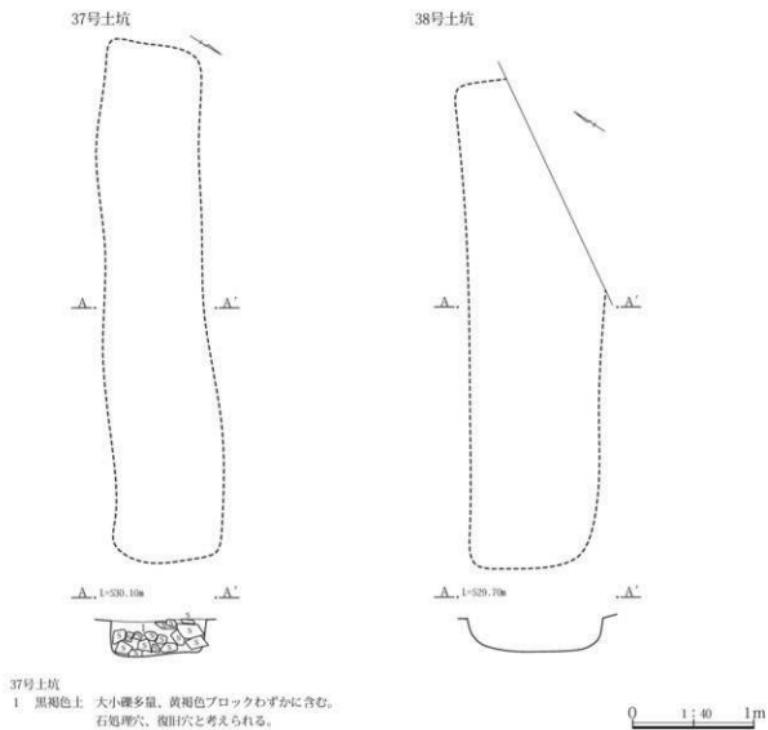
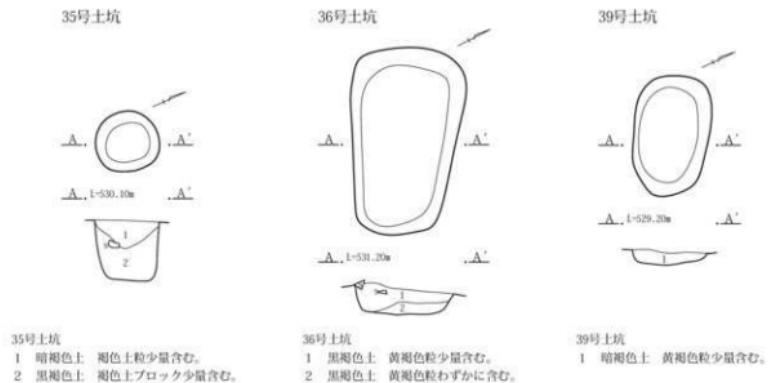
2 暗褐色土 天明泥流堆植物含む。

3 褐色土 黄褐色粒多く含む。

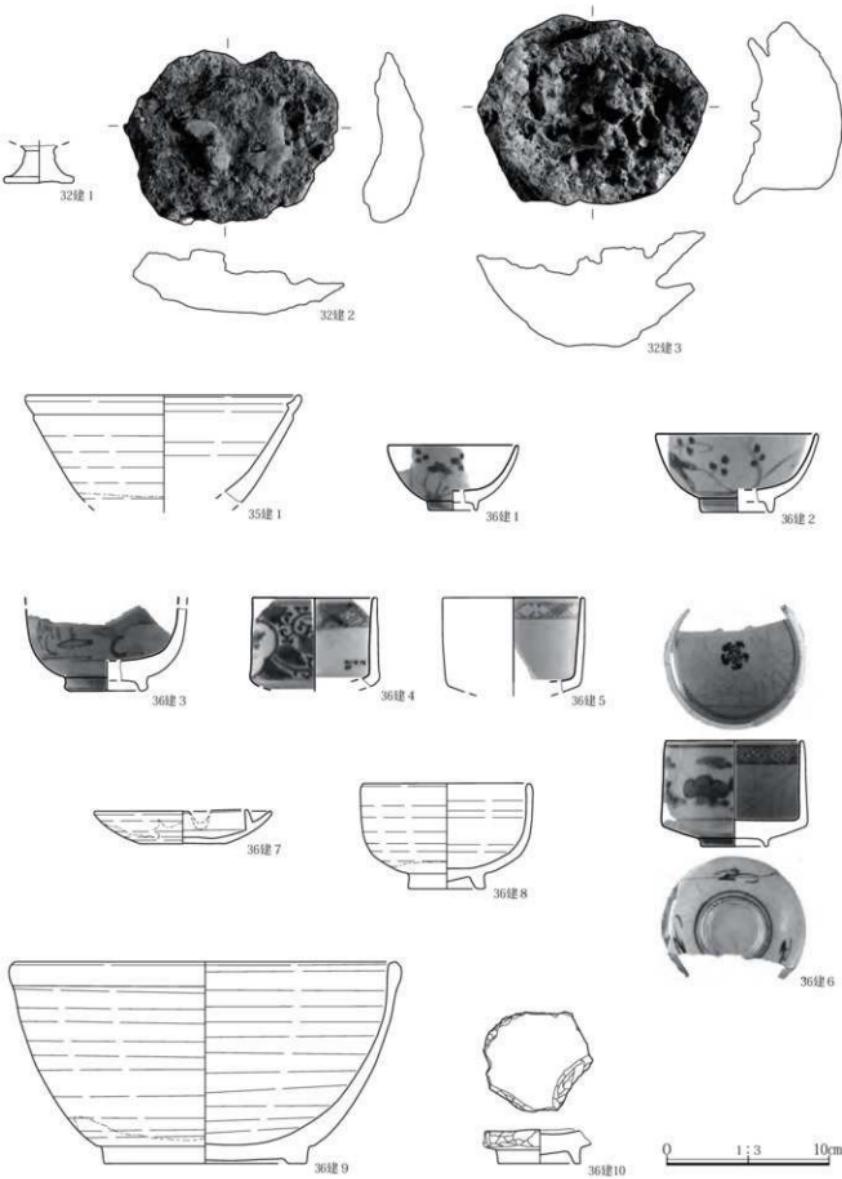
4 暗褐色土 黄褐色粒わずかに含む。



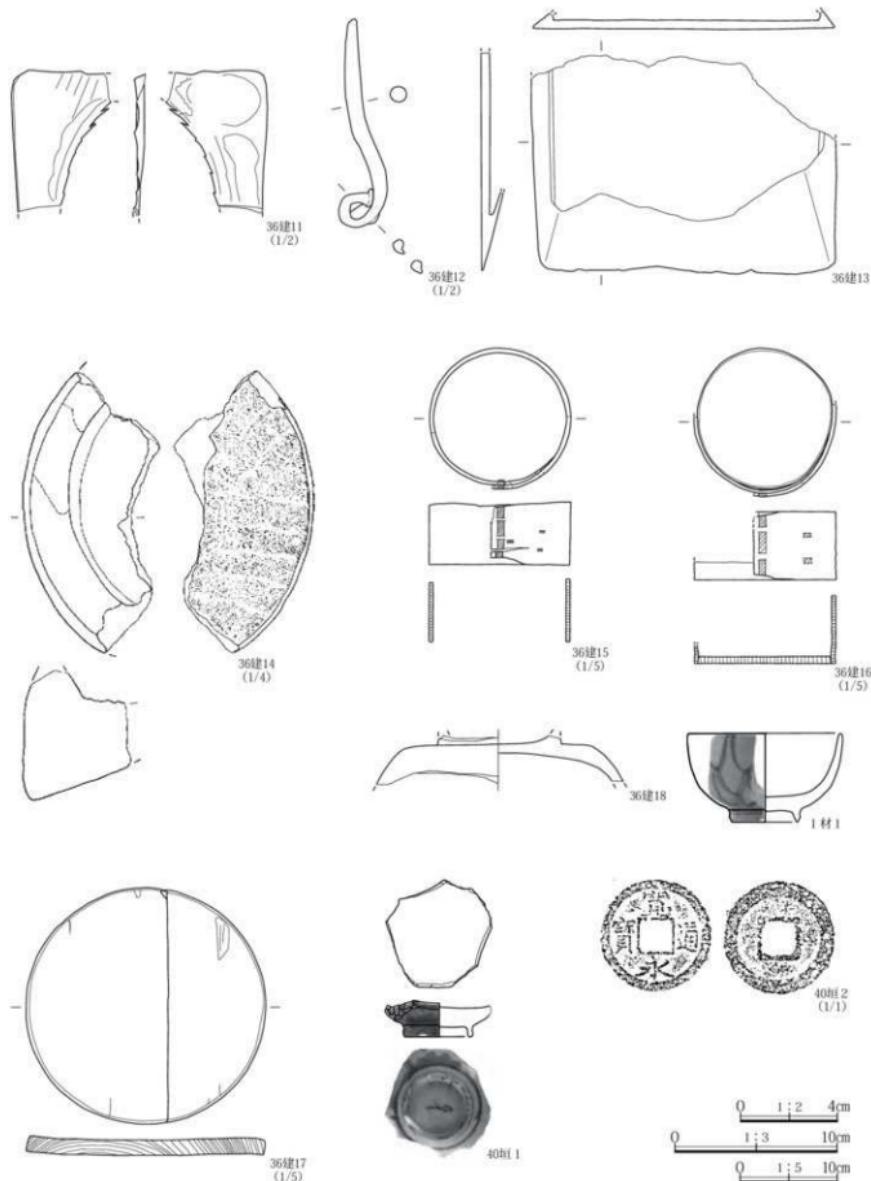
第161図 VIII区近世土坑(1)



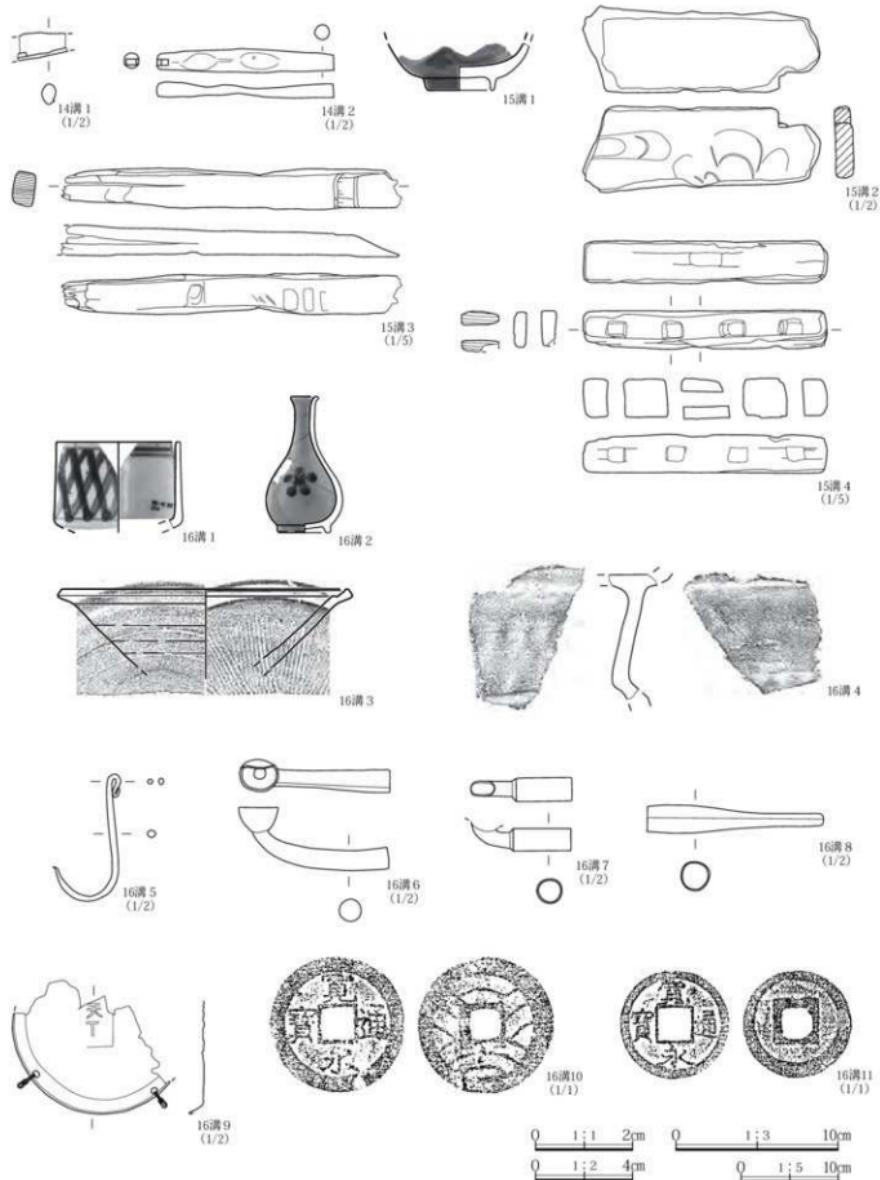
第162図 VII区近世土坑(2)



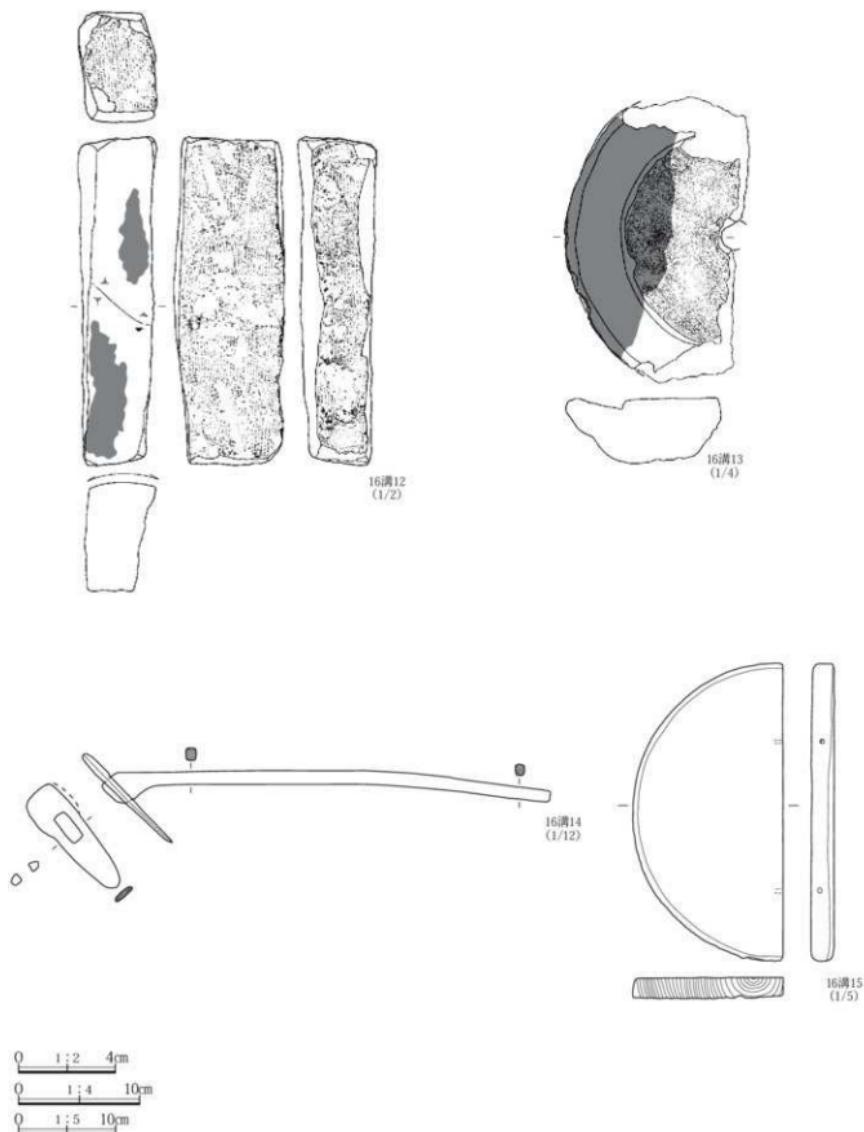
第163図 VII区近世遺物(1)



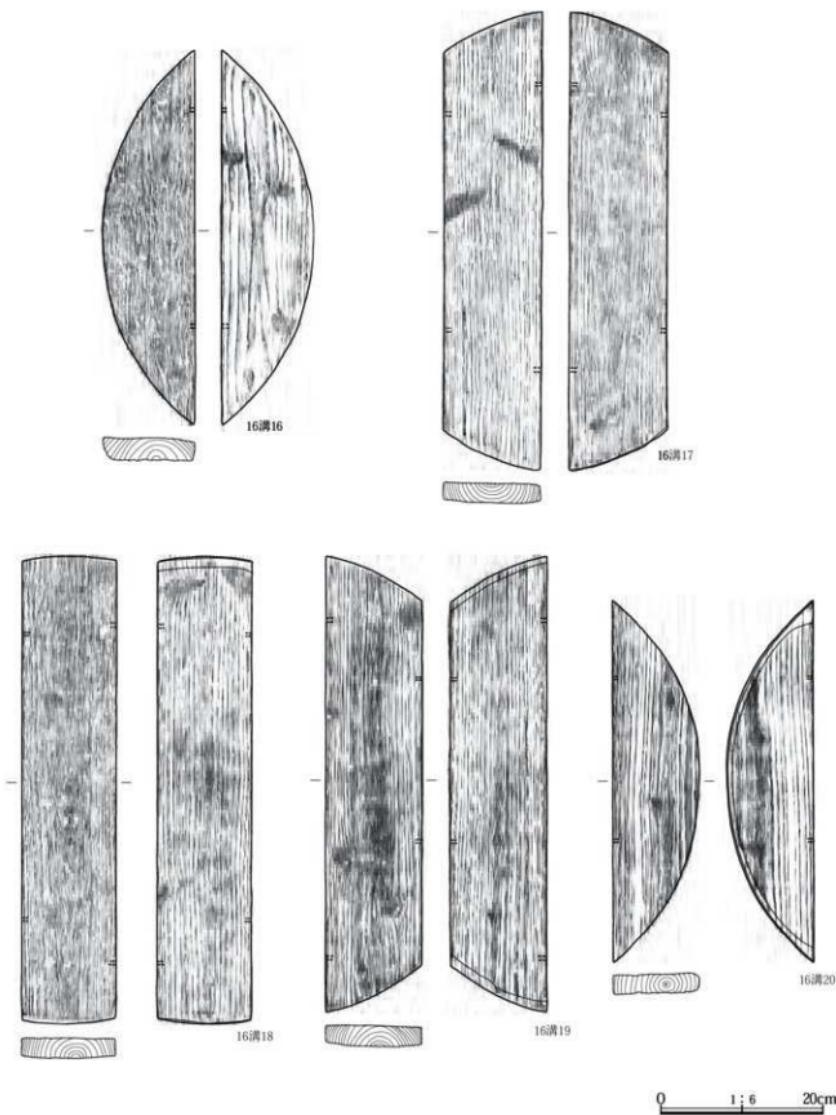
第164図 VII区近世遺物(2)



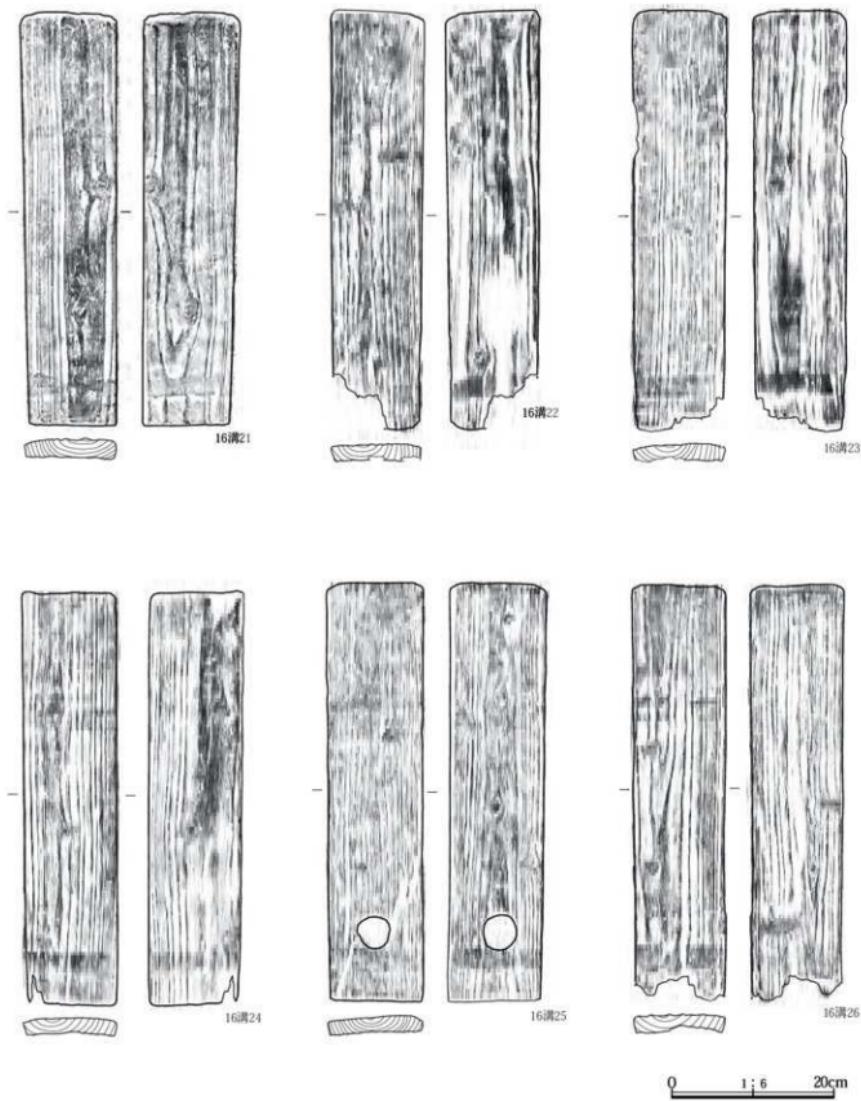
第165図 VIII区近世遺物(3)



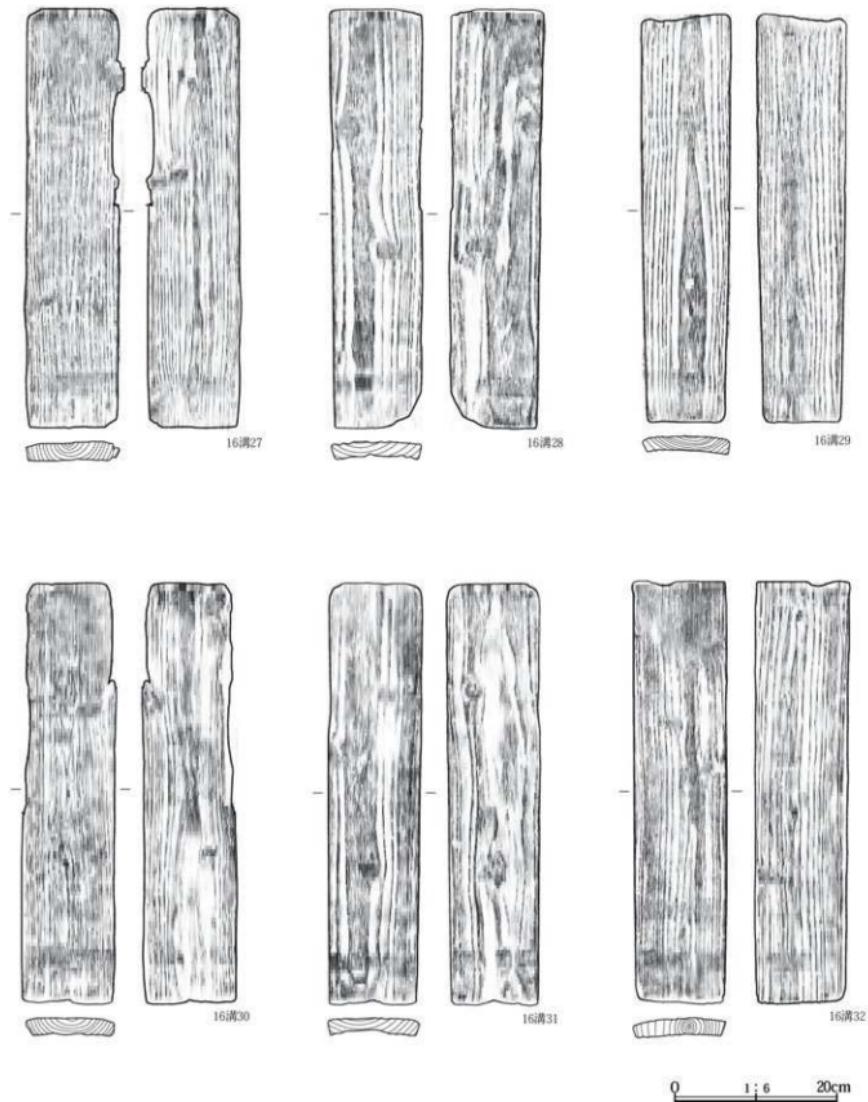
第166図 VII区近世遺物(4)



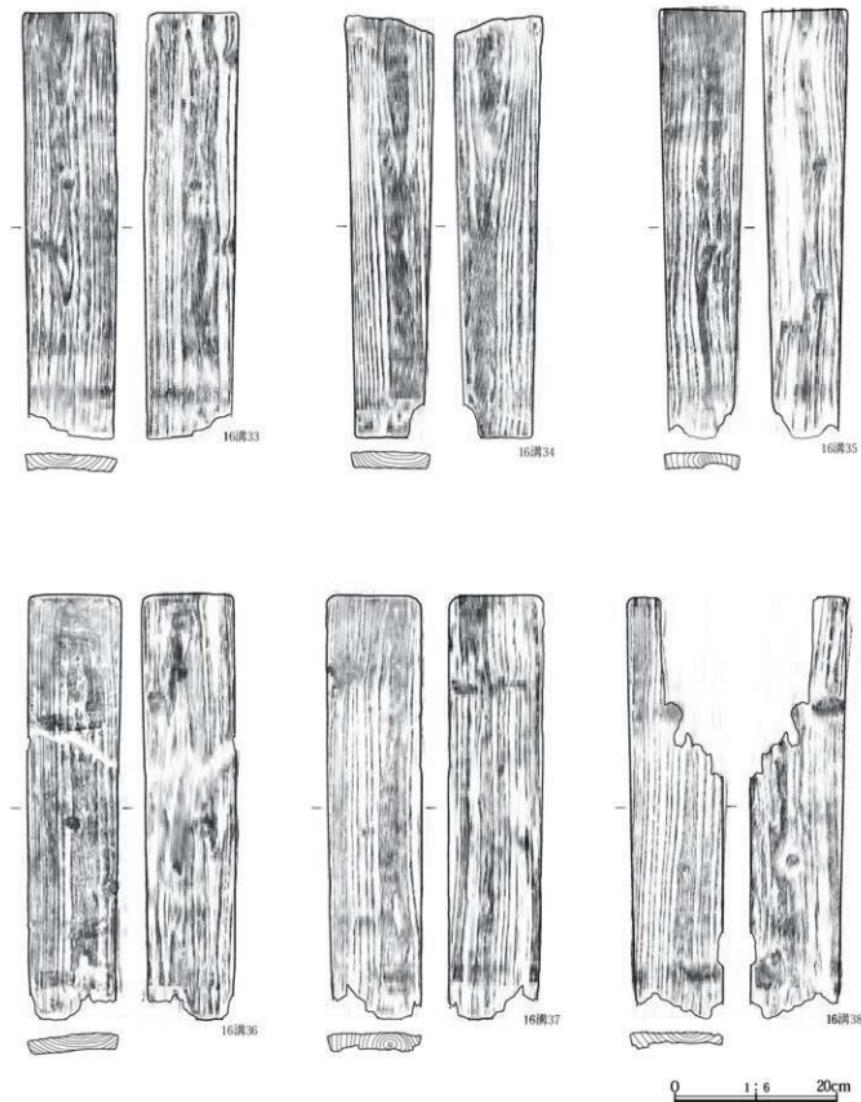
第167図 VII区近世遺物(5)



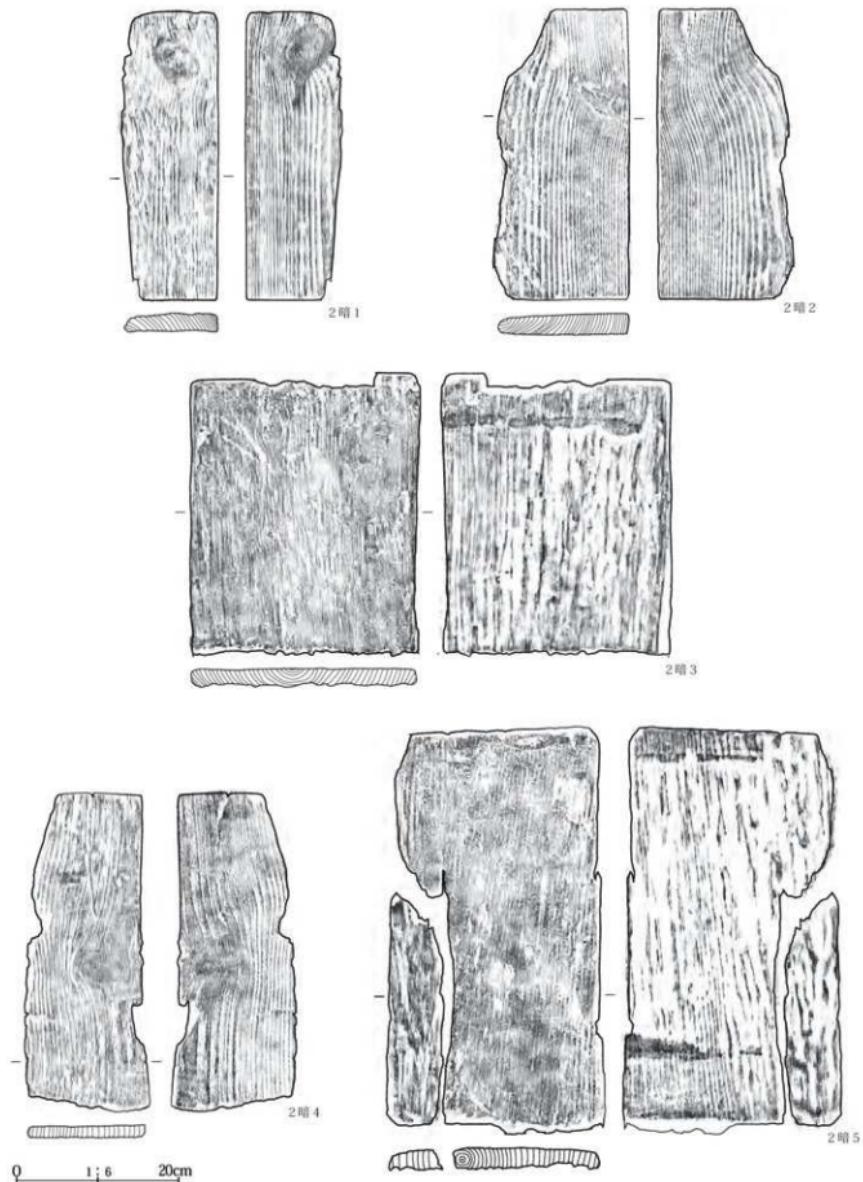
第168図 VII区近世遺物(6)



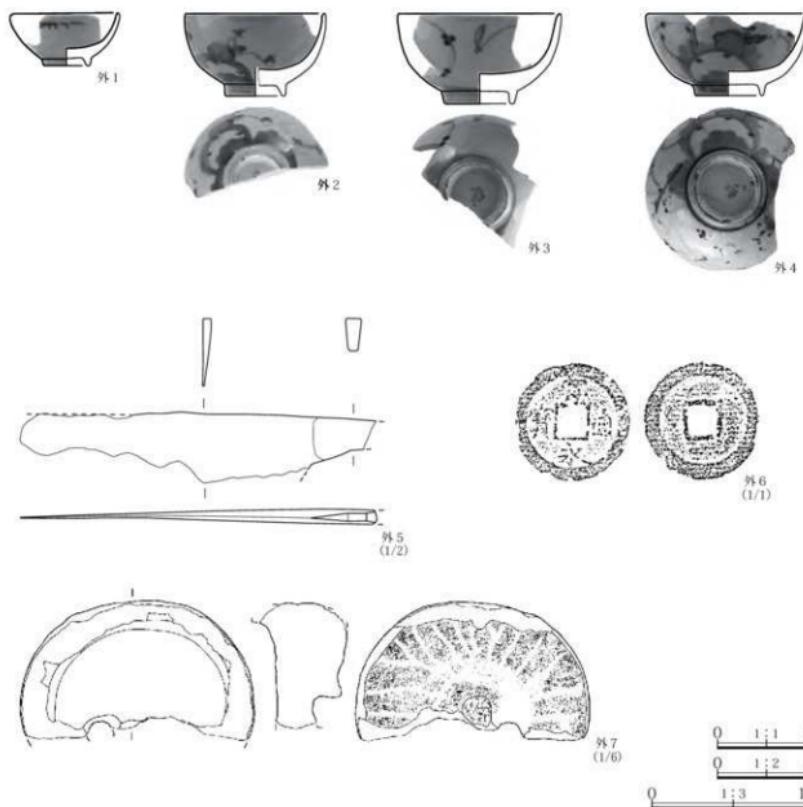
第169図 VII区近世遺物(7)



第170図 VII区近世遺物(8)



第171図 VII区近世遺物(9)



第172図 VI区近世遺物(10)



第173図 V区近世遺物

## 第2章 発見された遺構と遺物

VII(近世)遺物観察表

種別 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16384 PL.72	32 肥前磁器 建1 染付丸皿器	32号建物 脚台部	口底 4.0		夾雑物なし/白	环部と脚部間に團線、脚台部外面と底部中央に透明釉。	
第16386 PL.72	32 鉄滓 建2 檻形彫	32号建物 完形	長 13.1 幅 10.5	厚 3.5 重 556.8		一部に跡が見られる。発泡は少なく、滓質は密となる。炭疽はごくわずかしか見られない。	
第16386 PL.72	32 鉄滓 建3 檻形彫	32号建物 完形	長 14.2 幅 11.2	厚 7.0 重 943.9		発泡は少なく、滓質は密。2.8×1.3ほどの模が見られる。	
第16388 PL.72	35 瀬戸・美濃 建1 片口か 破片	35号建物 口縁部から体部 片口か 破片	口 (16.7)	高 4.0	夾雑物少量/灰白	口縁端部は内側に尖り、口縁部は内側に肥厚し、外側は窄む。内外面に灰釉。	江戸時代
第16386 PL.72	36 肥前磁器 建1 染付小碗	36号建物 1/5	口 (8.0) 底 (3.0)	高 4.0	夾雑物なし/白	体部外面に草文。内部は無文か。	
第16388 PL.72	36 肥前磁器 建2 染付丸	36号建物 1/3	口 (9.7) 底 (4.2)	高 4.8	夾雑物なし/白	体部外面は雪輪梅桜文。体部下位に團線、高台に二重團線。内部は無文か。	
第16386 PL.72	36 肥前陶器 建3 陶胎染付碗	36号建物 1/4	口 (4.6)	高 2.0	夾雑物微量/灰白	体部外面に楕木などを描く家屋山水文。体部下位と高台に團線。買入がある。高台端部を除き外部に透明釉。	
第16388 PL.72	36 肥前磁器 建4 染付猪口	36号建物 口縁部から底部	口 (7.5)	高 2.0	夾雑物なし/白	体部外面の口縁端部以下と腰部を團線で区画し、区画内に花や草文と意匠を描く。口縁部内部は四方擇文、見込みに二重團線。	
第16386 PL.72	36 肥前磁器 外青磁染付筒碗	36号建物 口縁部から底部	口 (8.6)	高 2.0	夾雑物なし/白	体部外面は青磁斑。口縁部内部は略施化した四方擇文、見込みに入團線。	
第16386 PL.72	36 肥前磁器 建6 染付陶碗	36号建物 2/3	口 (8.4) 底 (4.0)	高 6.5	夾雑物なし/白	体部外面の口縁端部直下と腰部を團線で区画し、区画内に松葉と船や雲を描く。体部下位はこぼれ松葉文。体部下位と高台境、高台に團線。口縁部内部は四方擇文、見込みに二重團線。中央に五弁花。	18世紀前半
第16388 PL.72	36 瀬戸・美濃 建7 灯明受皿	36号建物 1/2	口 (10.0) 底 (5.3)	高 2.0	夾雑物少量/灰白	受け部端部は口縁より背や高い。体部以下部は斜面。ヘラケズリ。内部から口縁部外面に硝繪。体部外面から底部は釉を拭う。	
第16386 PL.72	36 瀬戸・美濃 建8 陶器碗	36号建物 底	口 (10.2) 底 (4.6)	高 6.5	夾雑物少量/灰白	内部から体部外面下位は灰褐色胎体、体部外面下位から高台は無釉。	
第16386 PL.73	36 瀬戸・美濃 建9 陶器口 片口	36号建物 1/2	口 (23.0) 底 (12.4)	高 12.4	夾雑物少量/灰白	口縁端部は平坦をなし外側に弱く肥厚する。内部から体部下面に灰釉。底部外面に2か所の不定形に釉を拭う。体部外面下位から高台は無釉。	江戸時代
第16386 PL.73	36 瀬戸・美濃 建10 二次加工品	36号建物 高台部	口 底 5.0	高 1.3	夾雑物微量/灰白	底部内部と体部外面下位に灰釉。体部外面下位から高台は無釉。高台脇と高台の一部を叩き出し内盤状に加工。	碗
第16404 PL.73	36 鋼製品 建11 素材?	36号建物 一部欠損	縦 (5.8) 横 (4.2)	厚 0.1 重 11.3		素材となる鋼板か。金色の光沢が残存する所がある。切り込んだ跡痕が残り、目標としてつけたと見られる疵も確認できる。	
第16404 PL.73	36 鋼製品 建12 不明	36号建物 完形	長 8.6 幅 0.6	厚 0.6 重 10.0		断面が円形をしており、一方の端部は丸く收められている。もう一方はやわらかくなるが、針状にはならない。	
第16404 PL.73	36 鋼製品 建13 建築先	36号建物 1/3	長 (13.3) 幅 18.6	厚 (1.4) 重 462.8		鍍先。金属光沢が残る。裏面には大量の有機質が付着している。	
第16404 PL.73	36 石製品 建14 石臼	36号建物 1/4	長 (22.0) 幅 (11.2)	厚 (10.6) 重 2250.0	粗粒輝石安山岩/	上白。底面のすり合わせ面は非常に滑らかであり、幾き目の痕跡は残り、自分で住直した痕跡があり。六分画?主脚線合わせて5以上。上面には不整状の工具痕がよく残る。	
第16404 PL.73	36 木製品 建15 曲げ物	36号建物 底部欠損	長 144 幅 4.0	高 6.5 重		曲物の側面のみが残存する。樹皮とみられる部材で継じられており、太い繩の他に3ヶ所継ぐ緒じられている。	
第16404 PL.73	36 木製品 建16 曲げ物	36号建物 2/3	長 152 幅 145	高 6.9 重		一部欠損しているが、樹皮を用いて継じていることが確認できる。太い繩の他に2ヶ所で継ぐ緒じをおこなっている。	
第16404 PL.73	36 木製品 建17 完形	36号建物	-	厚 2.0 重		板目材。周囲がわざかに削り込まれて、2つの材により作られている。	
第16404 PL.73	36 木製品 建18 漆塗蓋	36号建物 一部残存	-	高 3.2 重		底部から体部の一部が残存する。内外面赤漆が施されており、黒の下地が欠損部から確認できる。	
第16404 PL.73	1材 肥前磁器 建1 木材本置場	1号材本置場	口 (9.4) 底 (4.0)	高 5.5	夾雑物なし/白	体部外面に二重團線口文、体部下位と高台境、高台に團線。内部は無文。	18世紀
第16404 PL.73	40 肥前磁器 建1 木製品 染付碗	40号碗	口 底 4.1	高 2.0	夾雑物なし/白	体部外面に雪輪梅桜文か。体部下位と高台境、高台に團線。高台内に不明路。高台脇と高台の一部を粗く叩き出し内盤状に加工。	18世紀 染付碗
第16404 PL.73	40 賢窯 建2 新窓入	40号石垣	内 外 2.315 重 1.913	厚 0.120 重 2.2		画、背ともに形が深く。文字、輪、郭が明顯。	
第16504 PL.73	14 鋼製品 講1 怪性	14号溝 破片	長 (2.0) 幅 0.6	高 0.8 重 1.5		小口は残るが残存部が少なく、雁首が吸口かの区別も難しい。	
第16504 PL.73	14 鋼製品 講2 不明	14号溝 完形	長 7.3 幅 1.0	高 0.6 重 2.8		筒状の金属製品。一部に金色光沢が残存する。端部に切れ込みがあり、何かを接続するためとみられるが、詳細不明。	

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1650回 PL.73	15	肥前磁器 染付碗	15号溝 体部から高台部	口 底 4.1	高 幅 3.5	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	夾雜物なし/白	体外部にコンニャク印判の不明文。体部下位と高台壇、 高台上に圓紋。
第1650回 PL.73	15	木製品 講2板	15号溝 破片	長 幅 3.9 4.2	厚 重 2.6 -	長 幅 4.2	5.6 厚 重 -	内外面に漆が塗られ、内面は赤漆。黒色漆の面には、文 様があるように見えるがはっきりとしない。重箱等の破 片の可能性がある。	18世紀 二次加工品の 可能性
第1650回 PL.73	15	木製品 講3不明	15号溝 一部欠損	長 幅 3.9 4.2	厚 重 2.6 -	長 幅 4.2	5.6 厚 重 -	凹みを持つ断面長方形の不明品。端部が斜めに切られてい る。	
第1650回 PL.73	15	木製品 講4不明	15号溝 完形	長 幅 4.0	厚 重 4.1	長 幅 4.0	5.6 厚 重 -	上部に約1.5cm×2.5cmの穴が4ヶ所、側面中央に1.5cm× 3.5cmの穴が1ヶ所開けられている。用途は分からない。	
第1650回 PL.73	16	肥前磁器 染付碗	16号溝 口縁部から体部 破片	口 底 (7.4)	高 幅 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	夾雜物なし/白	体外部口縁端部下と腹部を削りで加工し、区画内を太 い文文で埋める。口縁端部内面は二重圓線。
第1650回 PL.73	16	肥前磁器 講2染付御神酒 通利	16号溝 ほぼ完形	口 底 3.1	高 幅 8.4	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	夾雜物なし/白	口縁端部は極く外側に開く。体部外面に梅鉢紋と蕉竹を描 く。
第1650回 PL.73	16	瀬戸陶器 説2すり鉢	16号溝 口縁部から体部	口 底 (17.5)	高 幅 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	夾雜物少量/灰白	口縁端部は外側に引き、内外に弱く肥厚する。口縁部内面 は段をなし、体部18本1單位のクシ目を入る。体部外面は 回転バラケズリ。内外面に跡跡を施す。
第1650回 PL.73	16	在地系上器 講4火鉢	16号溝 底部から脚部	口 底 -	高 幅 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	赤色片を含む/灰	底部は平坦なまし、脚部外面は横ナデで外側に開く。
第1650回 PL.73	16	耐熱製品 講5天飼鉢	16号溝 完形	長 幅 5.2 2.7	径 重 0.3 2.7	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	金色の光沢を持つ罕年の鉢。16号9の秤皿と関連するか。	
第1650回 PL.73	16	耐熱製品 講6煙呑(瓶)	16号溝 完形	長 幅 6.2 1.3	高 重 2.6 5.5	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	金色の光沢を持ち、上面の端につなぎ目がある。中程から 折れ曲がり、火皿も一箇門む。	
第1650回 PL.73	16	耐熱製品 講7煙呑(瓶) 一部欠損	16号溝 一部欠損	長 幅 (4.2) (1.0)	高 重 (1.2) 5.2	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	金色の光沢を持つ。火皿が欠損している。側面部につなぎ 目が残存。	
第1650回 PL.73	16	耐熱製品 講8煙呑(吸口)	16号溝 完形	長 幅 7.3 1.2	高 重 1.1 6.4	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	金色の光沢を持つ。細かな傷が所々に残るが、詳細は不明。	
第1650回 PL.74	16	耐熱製品 講9秤皿	16号溝 1/2	厚 0.1	重 2.1	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	「天下」の鉢が入り、留め金が残存する。金色の光沢を持つ。 2ヶ所に留め金を持つ。	
第1650回 PL.74	16	銭貨 講10新寛永	16号溝 完形	内 外 2.815 2.097	厚 重 0.194 4.4	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	四文銭11波、面の彫は深く、文字、輪、郭が明瞭。背はや や帯が浅い。左部分特に彫が浅く、やや不明瞭。	
第1650回 PL.74	16	銭貨 講11新寛永	16号溝 完形	内 外 2.253 1.832	厚 重 0.123 2.7	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	面、背ともに彫が浅く、文字、輪、郭が明瞭。「寛」がやや 跡跡をまっている。	
第1660回 PL.74	16	溝 磐石	16号溝 完形	長 幅 13.5 3.2	重 3.5 315.6	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	金属用仕上げ砥。切り出し整形した際の筋目がよく残る。 左側面のみに使用があるが、他面はほとんど使用されてい ない。左側面上部に「佐助」の篆刻。左側面にSS付着黒変 2力所あり。	
第1660回 PL.74	16	石製品 講13茶臼	16号溝 1/2	(28.0)	厚 5.5 2300.0	粗粒輝石安山岩	砥石、底面のすり合わせ面は非常に滑らかであり、焼き目 は切られていない。裏面は若干凹ませている。側面及び裏 面には丸い工具痕が残る。輪孔上面内径約2.5cm、下面約4.5 cm。		
第1660回 PL.74	16	溝 漆呑	16号溝 14	長 幅 123 11.0	厚 1.6 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	柄と風呂が残存する。柄の先端には装着部が削り出される。 風呂部分は刃の固定部分が欠損。風呂の柄装着部は良好で、 装着部に斜めに加工されているのが確認できる。	
第1660回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 15	長 幅 30.5 10.4	厚 2.4 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	半円形で残っている。表面で板目と柾目になっている。竹 釘で2ヶ所を接続している。	
第1670回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 16	長 幅 46.0 11.0	厚 3.0 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	完形の底板の一部。半月形をしており端になる。竹釘を使 用し2ヶ所で脚の底板と接続していた。板目材。	
第1670回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 17	長 幅 56.4 12.2	厚 2.7 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	完形の底板の一部。両側に竹釘でそれぞれ2ヶ所ずつ接続 させている。左右の竹釘の位置は異なる。底板の中心にあ たる材となる。板目材	
第1670回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 18	長 幅 57.6 11.6	厚 2.5 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	完形の底板の一部。やや台形状の形状となる。両側に竹釘 で脚の底板と固定されおり、端部に近い方が竹釘の間隔は 狭くなる。板目材。	
第1670回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 19	長 幅 56.0 12.0	厚 2.6 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	完形の底板の端部の一つ。芯持ちの板目材。底面の縁部分 が全体にやや削られているが、特に縁がはっきりと削られ ている。	
第1670回 PL.74	16	木製品 溝 武板	16号溝 20	長 幅 44.5 10.7	厚 2.7 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	完形の底板の底板の一部。芯持ちの板目材。底面の縁部分 が全体にやや削られているが、特に縁がはっきりと削られ ている。	
第1680回 PL.74	16	木製品 溝 圓盤	16号溝 21	長 幅 50.9 12.0	厚 2.7 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	板目材。内面に底板の痕跡、外面上にたがの痕跡が見られる。	
第1680回 PL.74	16	木製品 溝 圓盤	16号溝 22	長 幅 51.7 11.6	厚 2.3 -	長 幅 3.5	5.6 厚 重 -	板目材。端部が一部欠損している。底板の痕跡とたがの痕跡 は明瞭。	

## 第2章 発見された遺構と遺物

種 国 PL. No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1688号 PL. 74	16 木製品 溝 側板 23	16号溝 一部欠損	長幅 518 11.7 厚 重 -	2.5	板目材。端部が一部欠損している。一部側面も劣化している。 底板の痕跡たが痕跡は明瞭。	
第1689号 PL. 74	16 木製品 溝 側板 24	16号溝 ほぼ完形	長幅 510 11.7 厚 重 -	2.5	板目材。内面の底板の痕跡、外面のたが痕跡は明瞭。	
第1689号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 25	16号溝 完形	長幅 515 12.0 厚 重 -	2.4	板目材。底部に近い部分に直径3.6cmの穴が開いている。 底板の痕跡は明瞭。	
第1689号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 26	16号溝 一部欠損	長幅 512 11.7 厚 重 -	2.4	板目材。底部側の端部が欠損する。たが痕跡は明瞭。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 27	16号溝 ほぼ完形	長幅 516 12.0 厚 重 -	2.4	板目材。側面の一部が欠損する。底板の痕跡・たが痕跡ともに明瞭。節の周辺が劣化しているとみられる。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 28	16号溝 ほぼ完形	長幅 517 11.5 厚 重 -	2.2	板目材。底部に近い端部が劣化している。底板痕跡たが痕跡が一部残存。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 29	16号溝 完形	長幅 503 11.2 厚 重 -	2.4	板目材。上部が一部劣化している。底板の痕跡は明瞭。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 30	16号溝 ほぼ完形	長幅 517 11.5 厚 重 -	2.4	板目材。側面がやや劣化している。底板の痕跡たが痕跡は明瞭。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 31	16号溝 完形	長幅 518 11.5 厚 重 -	2.3	板目材。底板の痕跡、たが痕跡は明瞭。一部やや劣化による痩せが生じている。	
第1690号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 32	16号溝 完形	長幅 520 11.6 厚 重 -	2.4	芯持ちの板目材。底板の痕跡、たが痕跡が明瞭。	
第1700号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 33	16号溝 ほぼ完形	長幅 525 11.4 厚 重 -	2.3	板目材。底板の痕跡たが痕跡は明瞭。中段でのたが痕跡も確認できる。	
第1700号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 34	16号溝 一部欠損	長幅 520 10.8 厚 重 -	2.2	板目材。上部が欠損し、底部に近い部分も一部破損している。 底板の痕跡たが痕跡は確認できる。	
第1700号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 35	16号溝 一部欠損	長幅 528 10.5 厚 重 -	2.2	芯持ちの板目材。底部に近いところが一部欠ける。底板の痕跡たが痕跡を確認できる。	
第1700号 PL. 75	16 木製品 溝 側板 36	16号溝 一部欠損	長幅 523 11.5 厚 重 -	2.2	板目材。底面に近い端部が欠損している。上部から1/3のところで割れている。わずかに底板の痕跡が残存しているのか。	
第1700号 PL. 76	16 木製品 溝 側板 37	16号溝 一部欠損	長幅 522 11.7 厚 重 -	2.4	芯持ちの板目材。底部に近いところで底板の痕跡、たがの痕跡が確認できる。	
第1700号 PL. 76	16 木製品 溝 側板 38	16号溝 2/3	長幅 518 11.6 厚 重 -	2.2	両端部がそれぞれ一部欠損する。板目材。劣化による痩せが見られる。	
第1718号 PL. 76	1 本 1 号	2号暗渠 ほぼ完形	長 355 11.9 厚 重 -	2.4	板目材。劣化などによる欠損はほぼ見られない。節部分が因いため劣化が抑制されているか。用途などは不明。	
第1718号 PL. 76	2 本 2 号	2号暗渠 ほぼ完形	長 358 11.6 厚 重 -	2.7	板目材。用途不明。劣化による割れなどは見られないが、片方の長辺は角が整えられている。	
第1718号 PL. 76	3 本 2号暗渠 板状部材	2号暗渠 完形	長 348 28.4 厚 重 -	2.3	板目材。完形などとみられるが、詳細不明。一方向の両端が劣化が少なく、中心部に痩せが見られる。	
第1718号 PL. 76	4 板 木製品 板	2号暗渠 ほぼ完形	長 393 146 厚 重 -	1.6	板目材。節が中心にあり、端部はやや削れが生じる。用途不明。	
第1718号 PL. 76	5 板 木製品 板状部材	2号暗渠 ほぼ完形	長 500 254 厚 重 -	2.7	板目材。一方向の両端の残存状況はよく、中心部は本の痩せが生じている。一部割れて破片となり接合できないが、同一個体である。	
第1720号 PL. 76	外1 肥前磁器 染付小瓶 2/3	VII区一括 口 6.5 底 2.8 高 3.2 中央部なし/白	3.2	中央部なし/白	体部外面に毫を描く、内面は無文。	18世紀 紅褐色口
第1720号 PL. 76	外2 肥前磁器 染付碗 1/2	VII区一括 口 (85) 底 (36) 高 5.0 中央部なし/白	5.0	中央部なし/白	体部外面に雪輪梅瓣文。体部下位と高台壇。高台に團扇、高台内に不明路。内面は無文。	18世紀後半
第1720号 PL. 76	外3 肥前磁器 染付碗 1/3	VII区一括 口 (99) 底 (42) 高 5.6 中央部なし/白	5.6	中央部なし/白	体部外面に雪輪梅瓣文。体部下位と高台壇。高台に團扇、高台内に不明路。内面は無文。	18世紀後半か 19世紀前半
第1720号 PL. 76	外4 肥前磁器 染付碗 2/3	VII区一括 口 9.8 底 4.2 高 5.1 中央部なし/白	5.1	中央部なし/白	体部外面に雪輪梅瓣文。体部下位と高台壇。高台に團扇、高台内に不明路。内面は無文。	18世紀後半
第1720号 PL. 76	外5 鉄製品 刃物 一部残存	VII区一括 長 (147) 幅 (28) 厚 36.5 中央部なし/白	0.4 36.5	0.4 36.5	柄部分と刃部分の一部と見られるが、欠損が多く、詳細は不明。	
第1720号 PL. 76	外6 銀鏡 新寛永 完形	VII区一括 内 2.430 外 1.862 高 0.107 中央部なし/白	0.107 2.2	2.2	画面、背ともにやや鄭が無い。文字が一部不明瞭。輪、郭は明瞭。	

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第172回 PL.76	外7	石製品 石臼	1/2	径 (29.0)	厚 12.5	重 7000.0	粗粒輝石安山岩	上臼。もの入れ孔径4.5cm、軸受孔径3.5cm。上内面に磨面、平整状の工具痕が周辺部によく残る。下面の磨り合わせ面は非常に滑らかでよく使い込まれているが、挽き目の痕跡は明顯に残っている。六分画?上削溝合わせて5~6本以上。かなり溝は曲がっているものがあり、間隔も一定ではない。磨り合わせ面の径は27.5cm。	

V区近世遺物観察表

第173回 PL.76	外1	銭貨 元豐通寶	41-M-8 完形	内 1.882	厚 0.233	外 2.467	重 4.4	2枚が施設している。面が出ている元豐通寶は鄭が深く明显。背が見えている銭牌は劣化が激しく確認できない。	
第173回 PL.76	外2	銭貨 銭種不明	41-M-8 完形	内 1.853	厚 0.467	外 2.485	重 8.7	内面で背が見えている。1枚は輪、郭が明瞭。もう1枚は一部欠損し、輪、郭は不明瞭。	

## 第3章 まとめ

### 第1節 繩文時代の集落変遷について

東宮遺跡では、繩文時代の竪穴建物が全体で122棟検出された。うち、85棟を『東宮遺跡(5)』において報告し、37棟を本書にて報告した。本節では、『東宮遺跡(5)』に所収された竪穴建物も含め、本遺跡における繩文時代の集落変遷について概観し、まとめとしたい。

**I期 加曾利E 2式**の段階であり、本遺跡での出現期である。『東宮遺跡(5)』では該期の竪穴建物は確認されてもおらず、加曾利E 3式期をI期として報告しているため、同書との整合性を図るよう0期とした。0期については、本書所収のV区において6棟が確認されている。吾妻川を望む崖線に沿うように、ほぼ1列に竪穴建物が並ぶ様相を呈す。

**I期 加曾利E 3式**の段階である。本遺跡において最も検出棟数の多くなる時期であり、56棟が確認されている。吾妻川の崖線から北へ向けて緩く弧を描くように分布しており、いわゆる弧状集落の様相を呈している。南北80m程の規模を持つ。大きく北と南の2ブロックになるようであり、中間はやや希薄である。建物間の重複が認められるため、I期のなかでもさらに1, 2段階の時期区分ができるのであろう。

**II期 加曾利E 4式**の段階である。11棟が確認されており、I期に比べると検出数は大きく減少する。II期から、柄鏡形竪穴建物や敷石住居が見られるようになる。分布は南部にやや偏る傾向があり、このみII期の弧状集落の形態を踏襲している様子が見られるが、北部は疎らな配置となる。

**III期 称名寺式**の段階であり、16棟が確認されている。I式及びII式を含めた数であることから、II期からはやや減少していると見られる。III期は、6号列石に近接する位置に濃密な分布が見られるとともに、5号列石とその北東延長上にもう一つのまとまりを見ることができる。V区8, 31号は、これらとは離れた標高の高い南東側に位置し、分布域の拡がりが見られる。また、本遺跡北側の一段上がった最上位段丘面にある上ノ平I遺跡で

もIII期の集落が確認されており、本遺跡と何らかの関連があろう。

**IV期 堀之内式**の段階である。I式・2式を含め、25棟が確認されている。2式に比定した竪穴建物の中には加曾利B式を多く伴出する建物も数棟あり、V期に降るものがあるかもしれない。しかし、それを差し引いても、III期より棟数は微増していると考えられ、IV期に至って若干の集落規模の拡大が見られるようである。分布は、V区5号及び3号列石に近接した位置にほぼ限定される。大きく見れば、6号列石周辺に濃密だったIII期から、5号・3号列石周辺へと標高の高いほうへ居住域が移った様子が看取される。

**V期 加曾利B式**の段階であり、3棟が確認されている。いずれも、石圓炉から派生する帶状の敷石が見られることが特徴的である。3棟は単独で分布し、それぞれがV区3号列石、VII区3号列石、VII区1号列石の背後に位置している。各竪穴建物が、列石と強く結び付いていることが看取される。最も標高の高い位置にあるVII区1, 3号列石との明確な関連が認められ、V期に至ってより標高の高い地区へと展開を見せていることが分かる。

本遺跡の集落変遷について見てきたが概略すると、  
0期(加曾利E 2式期)：本遺跡での出現期。段丘面低位の崖線に沿って数棟の竪穴建物が並ぶ。

I期(加曾利E 3式期)：集落が大規模化、本遺跡最大の時期。80m規模の弧状集落を形成。

II期(加曾利E 4式期)：集落規模が大きく縮小。弧状集落の形態は維持。柄鏡形や敷石住居が出現。

III期(称名寺式期)：集落規模はさらに縮小。弧状集落の形態は維持。V区6号列石との関連が強い。

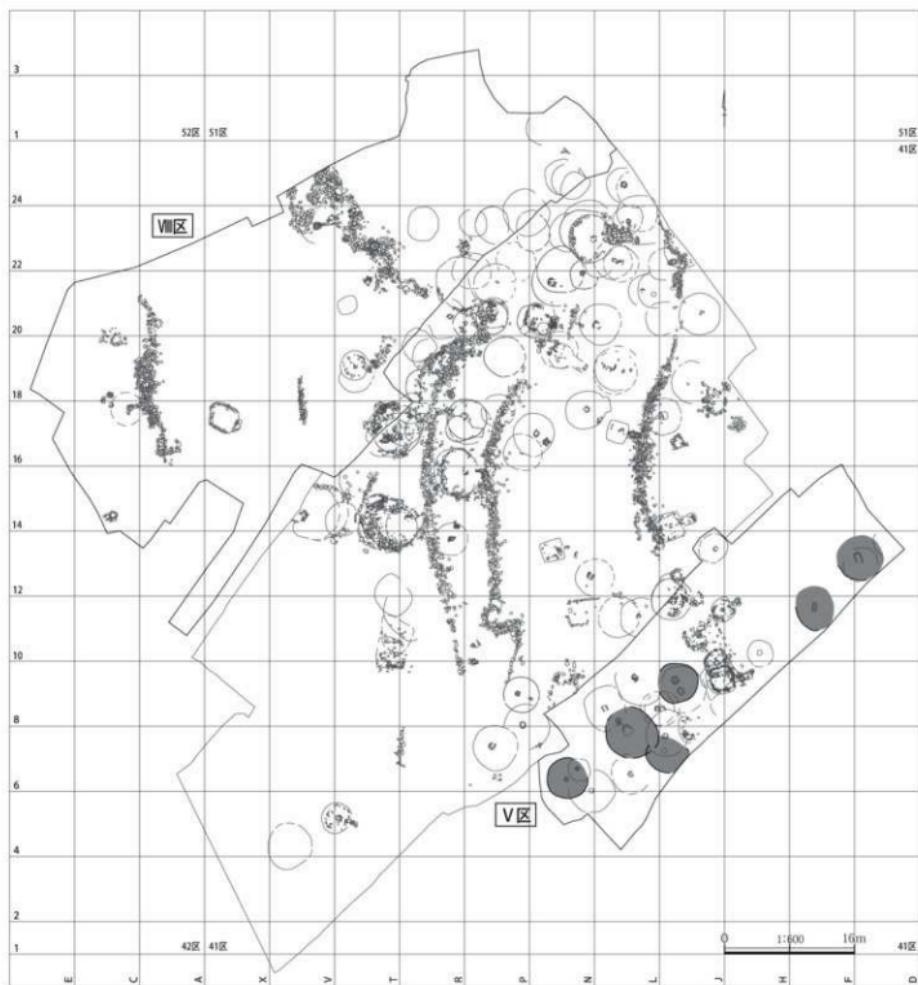
IV期(堀之内式期)：集落規模はやや拡大。弧状集落の形態は維持。V区3, 5号列石との関連が強い。

V期(加曾利B式期)：集落規模は縮小。列石と結び付く竪穴建物が点在。VII区1, 3号列石との関連が強い。

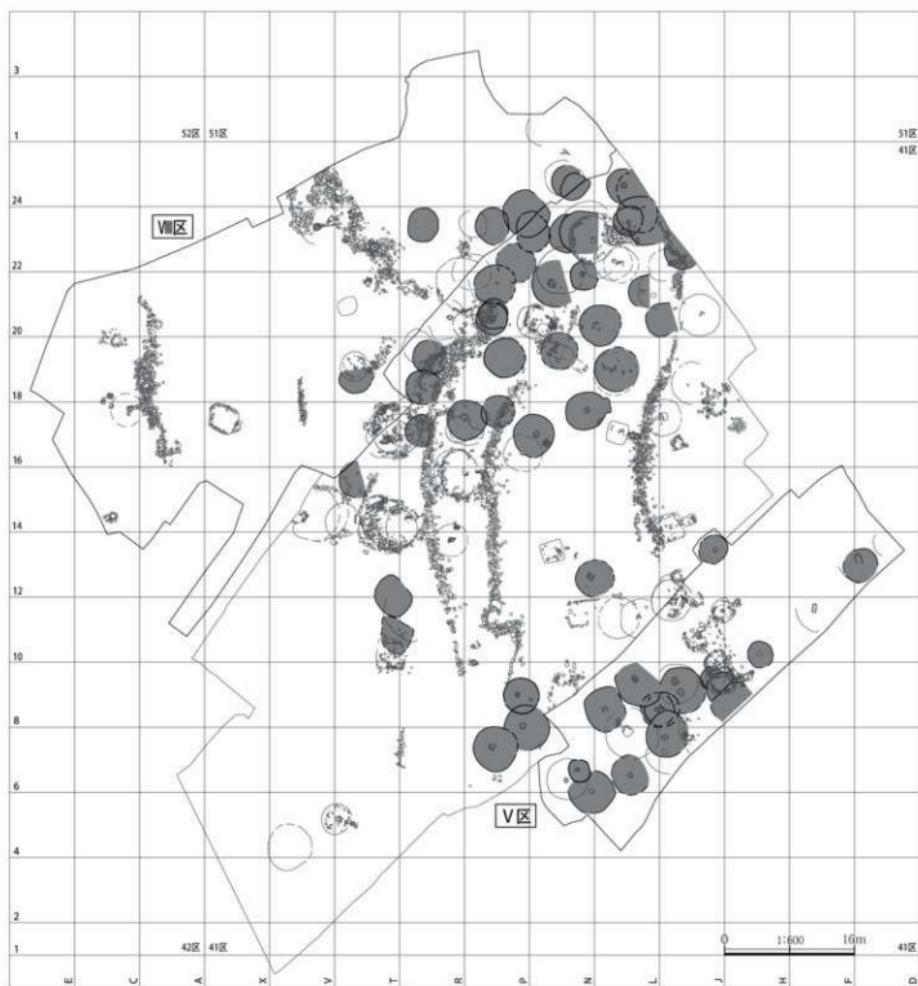
こうしてみると、第1章第3節で述べた長野原一本松遺跡との共通点が多く認められることが分かる。遺跡は異なるが、吾妻川中流域のなかで同様の展開をしたので

あろう。『東宮遺跡(5)』及び本書により、本遺跡を吾妻川中流域における縄文時代中期後葉～後期中葉に至る大

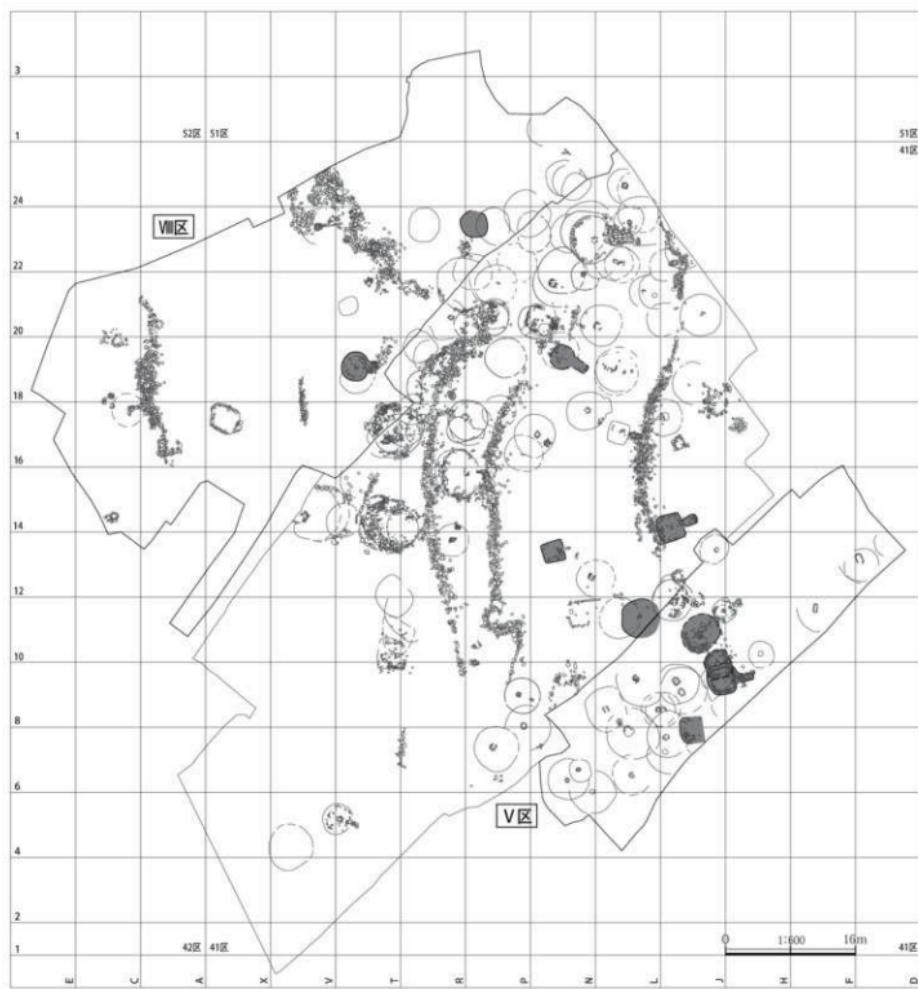
規模集落の一つとして付け加えることができたのは大きな成果であろう。



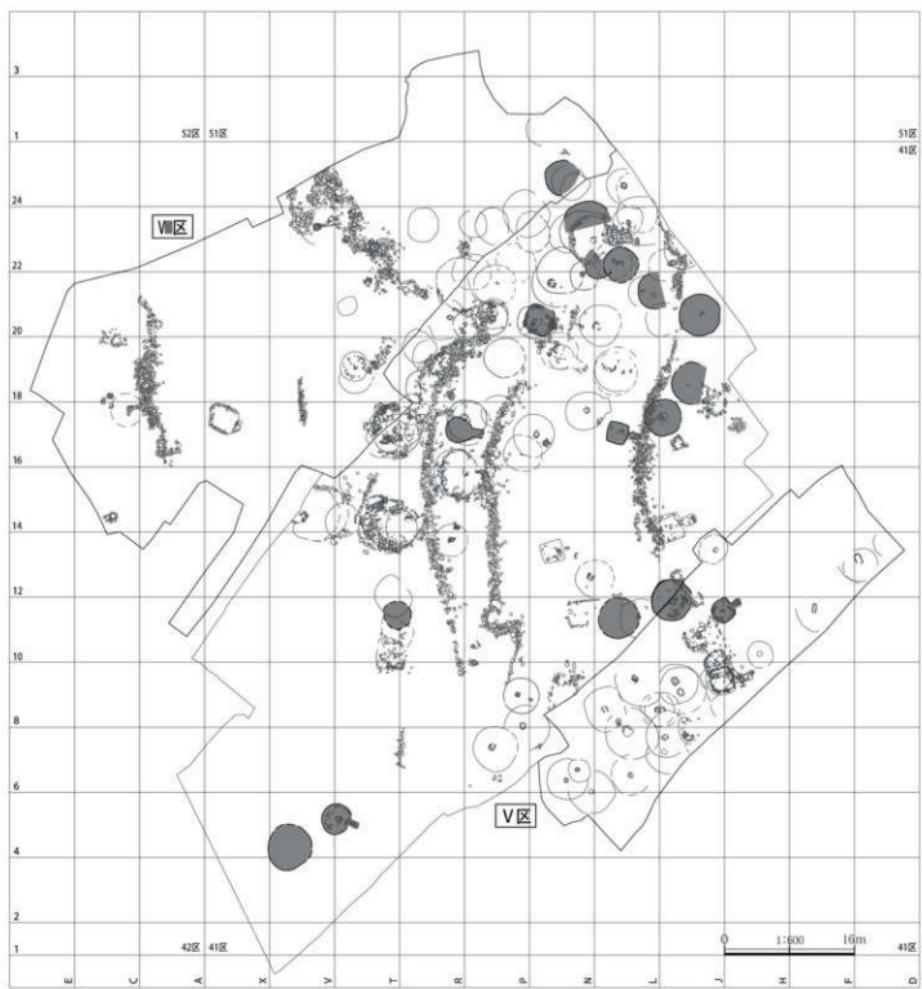
第174図 積穴建物時期別分布図(0期)



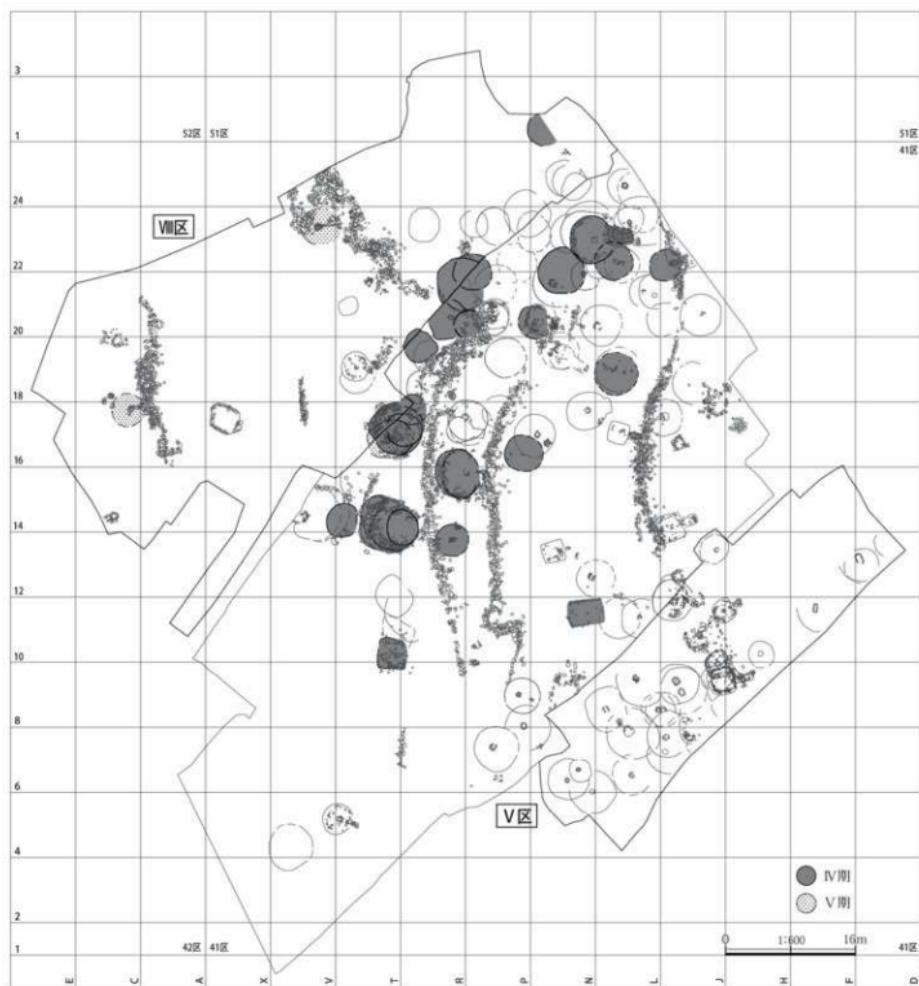
第175図 堅穴建物時期別分布図(1期)



第176図 墓穴建物時期別分布図(II期)



第177図 突穴建物時期別分布図(Ⅲ期)



第178図 壁穴建物時期別分布図(IV・V期)

## 報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	ひがしみやいせきかっころく
書名	東宮遺跡(6)
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	76
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	677
編著者名	橋本淳
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20210323
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひがしみやいせき
遺跡名	東宮遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠
市町村コード	10424
遺跡番号	0208
北緯(世界測地系)	363307
東経(世界測地系)	1384206
調査期間	20190601-20190930
調査面積	4080
調査原因	ダム建設
種別	集落跡・包蔵地
主な時代	縄文 / 近世
遺跡概要	縄文・竪穴建物37+竪穴状遺構2+土坑130+埋設土器6+列石遺構6+配石遺構18/近世-土坑9
特記事項	縄文時代中期後葉から後期中葉にかけて営まれた弧状集落。後期には列石を伴う。
要約	東宮遺跡の縄文時代報告の第2分冊。吾妻川中流域の左岸中位段丘面上に形成された大規模集落で、時期は中期後葉加曾利E2式期から後期中葉加曾利B式期に至る。加曾利E3式期に集落は最大規模となり、80m規模の弧状集落を形成する。その後は、集落規模は縮小するものの弧状集落の形態は維持され、後期になると大型の列石や配石を伴うようになる。ハッ場ダム地域で検出された縄文時代の大規模集落の一つとして、集落構造の変遷や関東・中部地方の交流関係を考える上で貴重な遺跡である。

# 写 真 図 版





1. V区94号竪穴建物全景(南から)



2. V区94号竪穴建物炉(南から)



3. V区94号竪穴建物遺物1出土状況(西から)



4. V区95号竪穴建物全景(北から)



5. V区95号竪穴建物全景(南東から)



1. V区95号竪穴建物炉(南東から)



2. V区96号竪穴建物全景(東から)



3. V区96号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



4. V区96号竪穴建物炉(南東から)



5. V区96号竪穴建物埋甕出土状況(北から)



6. V区97号竪穴建物全景(北から)



7. V区97号竪穴建物炉(北西から)



8. V区98号竪穴建物全景(南西から)



1. VI区98号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



2. VI区98号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



3. VI区98号竪穴建物遺物炉(南西から)



4. VI区98号竪穴建物理甕(北から)



5. VI区99号竪穴建物全景(南西から)



6. VI区99号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. VI区99号竪穴建物遺物出土状況(西から)



8. VI区99号竪穴建物炉(北東から)



1. V区100号竪穴建物全景(南から)



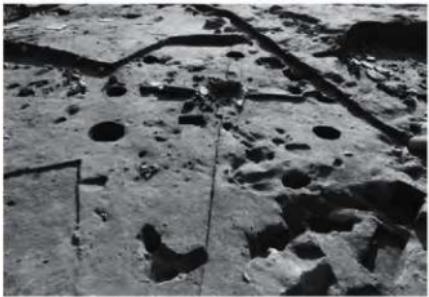
2. V区100号竪穴建物全景(西から)



3. V区100号竪穴建物炉(東から)



4. V区100号竪穴建物炉(北から)



5. V区100号竪穴建物敷石除去後全景(東から)



1. V区101号竪穴建物確認状況(北から)



2. V区101号竪穴建物全景(南から)



3. V区101号竪穴建物物探(北東から)



4. V区102号竪穴建物全景(東から)



5. V区102号竪穴建物遺物出土状況(北から)



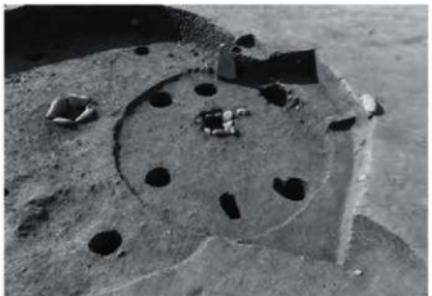
6. V区102号竪穴建物炉(東から)



7. V区102号竪穴建物埋甕(東から)



8. V区103号竪穴建物確認状況(北東から)



1. V区103号竪穴建物全景(南東から)



2. V区103号竪穴建物東(北東から)



3. V区104号竪穴建物全景(東から)



4. V区104号竪穴建物遺物出土状況(南から)



5. V区104号竪穴建物東(東から)



6. V区106号竪穴建物全景(西から)



7. V区106号竪穴建物北西部(西から)



8. V区106号竪穴建物南西部(西から)



1. V区106号竪穴建物全景(東から)



2. V区106号竪穴建物東(東から)



3. V区106号竪穴建物石囲施設(東から)



4. V区106号竪穴建物東・石囲施設(北から)



5. V区106号竪穴建物敷石除去後全景(東から)



1. V区106号竪穴建物遺物出土状況(東から)



2. V区108号竪穴建物全景(北西から)



3. V区108号竪穴建物(南から)



4. V区109号竪穴建物全景(東から)



5. V区110号竪穴建物全景(東から)



1. V区110号竪穴建物全景(東から)



2. V区110号竪穴建物全景(南から)



3. V区110号竪穴建物全景(西から)



4. V区110号竪穴建物主体部(北から)



5. V区110号竪穴建物南西部(北から)



1. VI区110号竪穴建物張出部上層(北から)



2. VI区110号竪穴建物張出部下層(北から)



3. VI区110号竪穴建物丸(東から)



4. VI区110号竪穴建物埋甕(南から)



5. VI区110号竪穴建物連結部(西から)



6. VI区110号竪穴建物敷石除去後全景(東から)



7. VI区110号竪穴建物出土磚



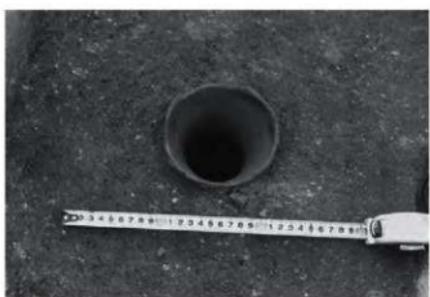
8. VI区111号竪穴建物全景(北西から)



1. V区111号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



2. V区111号竪穴建物炉(南東から)



3. V区111号竪穴建物炉体(南東から)



4. V区113号竪穴建物全景(北東から)



5. V区113号竪穴建物炉(南から)



6. V区114号竪穴建物全景(北から)



7. V区114号竪穴建物炉(北から)



8. V区115号竪穴建物全景(南東から)



1. V区115号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



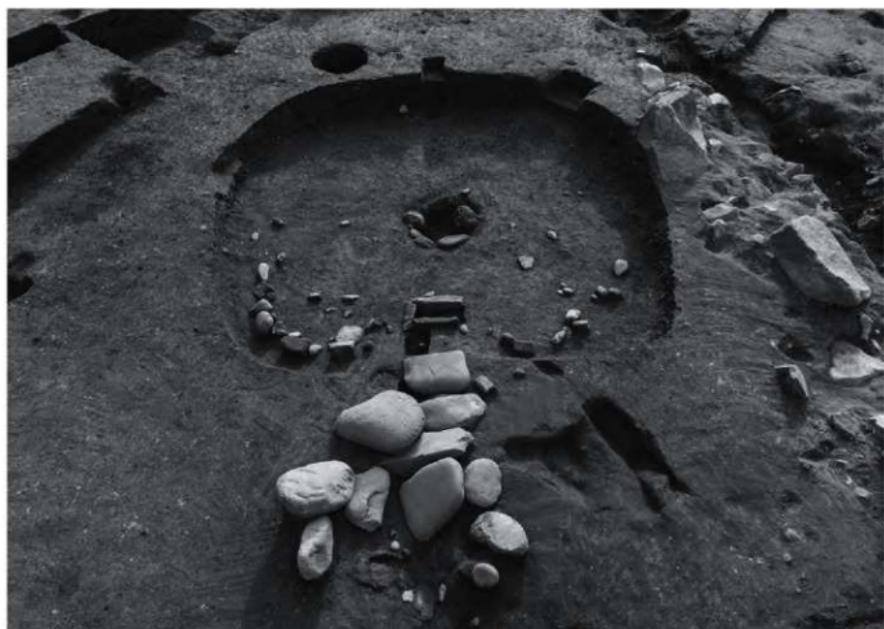
2. V区116号竪穴建物全景(北西から)



3. V区116号竪穴建物②(北西から)



4. V区117号竪穴建物②(南から)



5. V区118号竪穴建物全景(北東から)



1. V区118号竪穴建物全景(北東から)



2. V区118号竪穴建物が・石囲施設(北東から)



3. V区118号竪穴建物石囲施設(北から)



4. V区118号竪穴建物が・石囲施設(西から)



5. V区118号竪穴建物敷石除去後全景(南東から)



6. V区119・123号竪穴建物全景(北東から)



7. V区119・123号竪穴建物全景(北西から)



8. V区119号竪穴建物が・石囲施設(北西から)



1. VI区123号竪穴建物炉(南東から)



2. VI区120号竪穴建物全景(南から)



3. VI区120号竪穴建物炉(南東から)



4. VI区120号竪穴建物炉(北東から)



5. VI区121号竪穴建物全景(北東から)



6. VI区121号竪穴建物炉(北東から)



7. VI区122号竪穴建物全景(東から)



8. VI区122号竪穴建物炉(北から)



1. VIII区 1号竪穴建物全景(東から)



2. VIII区 1号竪穴建物全景(南から)



3. VIII区 1号竪穴建物炉(東から)



4. VIII区 1号竪穴建物全景(東から)



5. VIII区 5号竪穴建物全景(東から)



6. VIII区 5号竪穴建物炉(南西から)



7. VIII区 5号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



8. VIII区 8号竪穴建物全景(東から)



1. VIII区 8号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



2. VIII区 8号竪穴建物炉(東から)



3. VIII区 10号竪穴建物全景(東から)



4. VIII区 10号竪穴建物全景(北から)



5. VIII区 10号竪穴建物主体部(東から)



1. VIII区10号竪穴建物張出部(東から)



2. VIII区10号竪穴建物連結部(南から)



3. VIII区10号竪穴建物炉(南西から)



4. VIII区11号竪穴建物全景(南東から)



5. VIII区11号竪穴建物炉(東から)



6. VIII区13号竪穴建物全景(北西から)



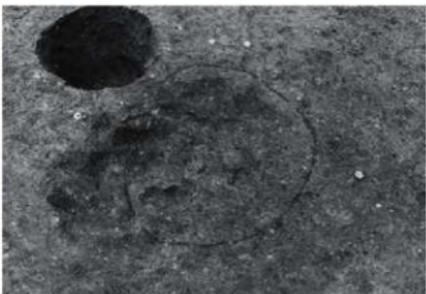
7. VIII区14号竪穴建物全景(東から)



8. VIII区14号竪穴建物炉体(東から)



1. VIII区15号竪穴建物全景(南東から)



2. VIII区15号竪穴建物炉(南東から)



3. VIII区16号竪穴建物全景(北東から)



4. VIII区16号竪穴建物炉(北東から)



5. VIII区17号竪穴建物全景(南から)



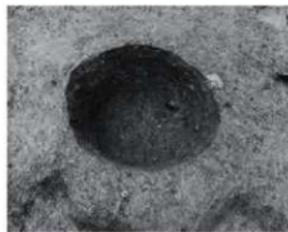
6. VIII区1号竪穴状遺構遺物出土状況(南東から)



7. VIII区1号竪穴状遺構全景(南東から)



8. VIII区2号竪穴状遺構全景(南から)



1. V区248号土坑全景(南西から)



2. V区249号土坑全景(南西から)



3. V区251号土坑全景(北東から)



4. V区252号土坑全景(東から)



5. V区252号土坑遺物出土状況(東から)



6. V区253号土坑全景(南から)



7. V区254号土坑全景(北から)



8. V区254号土坑遺物出土状況上層(南から)



9. V区254号土坑遺物出土状況下層(北から)



10. V区255号土坑全景(北西から)



11. V区255号土坑遺物出土状況(北西から)



12. V区256号土坑全景(西から)



13. V区256号土坑底面ピット(南西から)



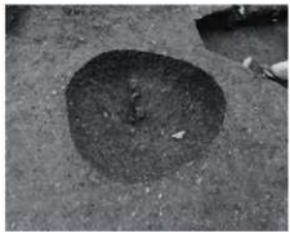
14. V区256号土坑断面(南西から)



15. V区257号土坑全景(北東から)



1. V区257号土坑遺物出土状況(東から)



2. V区258号土坑全景(南東から)



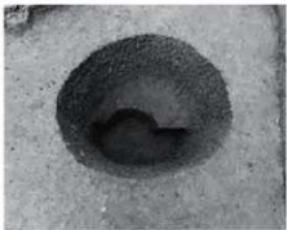
3. V区259号土坑全景(南東から)



4. V区260号土坑全景(南東から)



5. V区261号土坑全景(東から)



6. V区262号土坑全景(南から)



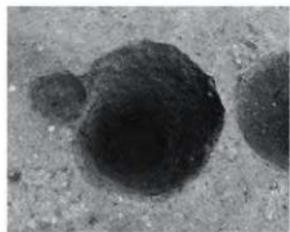
7. V区264号土坑全景(北東から)



8. V区265号土坑全景(西から)



9. V区266号土坑全景(東から)



10. V区267号土坑全景(東から)



11. V区268号土坑断面(北西から)



12. V区269号土坑断面(北西から)



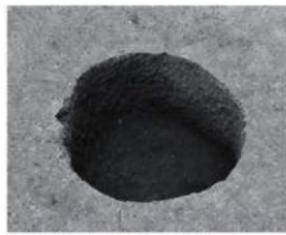
13. V区272号土坑全景(北から)



14. V区273号土坑全景(東から)



15. V区274号土坑全景(南東から)



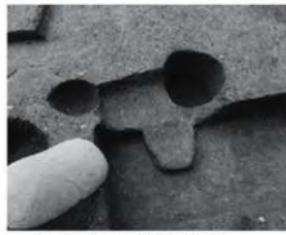
1. V区275号土坑全景(南から)



2. V区276号土坑全景(南から)



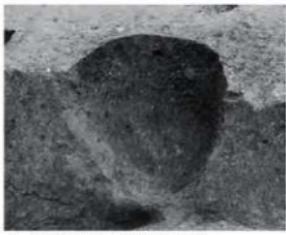
3. V区277号土坑全景(南東から)



4. V区279号土坑全景(南東から)



5. V区280号土坑断面(北西から)



6. V区283号土坑全景(東から)



7. V区284号土坑全景(北東から)



8. V区285号土坑全景(南から)



9. V区286号土坑全景(北から)



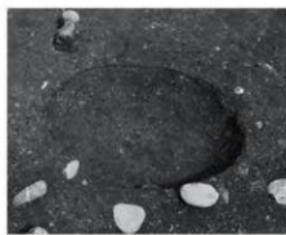
10. V区287号土坑全景(南東から)



11. V区288号土坑全景(北から)



12. V区289号土坑全景(南から)



13. V区291号土坑全景(南から)



14. V区291号土坑遺物出土状況(北から)



15. V区292号土坑全景(北東から)



1. VII区29号土坑全景(南から)



2. VII区30号土坑断面(南から)



3. VII区40号土坑全景(南から)



4. VII区40号土坑遺物出土状況(南から)



5. VII区40号土坑断面(南から)



6. VII区43号土坑全景(東から)



7. VII区44号土坑全景(東から)



8. VII区45号土坑全景(北東から)



9. VII区46号土坑全景(東から)



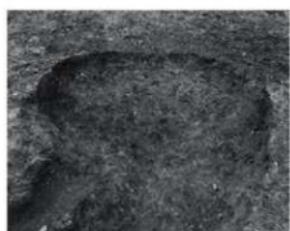
10. VII区47号土坑全景(南西から)



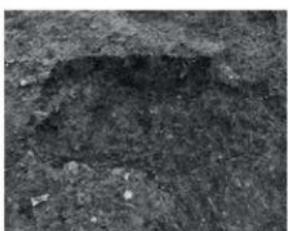
11. VII区48号土坑全景(東から)



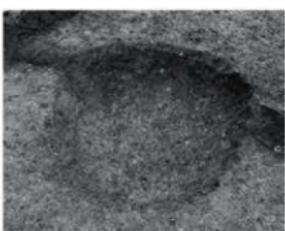
12. VII区49号土坑全景(東から)



13. VII区51号土坑全景(南東から)



14. VII区52号土坑全景(南から)



15. VII区53号土坑全景(北東から)



1. VII区54・55号土坑全景(東から)



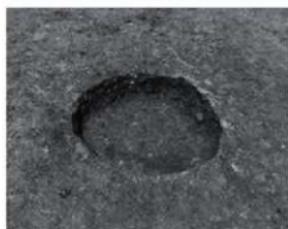
2. VII区56号土坑全景(南から)



3. VII区56号土坑遺物出土状況(南から)



4. VII区57号土坑全景(南東から)



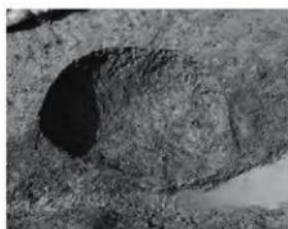
5. VII区58号土坑全景(南から)



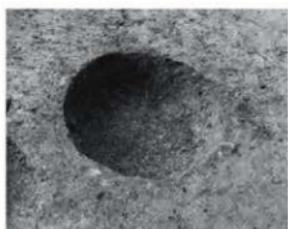
6. VII区59号土坑断面(東から)



7. VII区60号土坑全景(北から)



8. VII区61号土坑全景(南東から)



9. VII区62号土坑全景(南から)



10. VII区63号土坑全景(北東から)



11. VII区64号土坑全景(東から)



12. VII区64号土坑遺物出土状況(南東から)



13. VII区65号土坑全景(南東から)



14. VII区65号土坑遺物出土状況(北東から)



15. VII区66号土坑全景(南から)



1. VII区67号土坑全景(南東から)



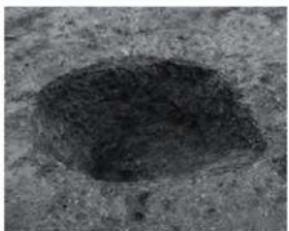
2. VII区68号土坑全景(東から)



3. VII区71・72号土坑全景(南から)



4. VII区78号土坑全景(東から)



5. VII区79号土坑全景(東から)



6. VII区80号土坑全景(南東から)



7. VII区82号土坑全景(北西から)



8. VII区83号土坑全景(南東から)



9. VII区84号土坑全景(南東から)



10. VII区84号土坑断面(北から)



11. VII区85号土坑全景(北から)



12. VII区87号土坑全景(北から)



13. VII区89号土坑全景(北東から)



14. VII区91号土坑全景(北西から)



15. VII区93号土坑全景(南東から)



1. VII区94号土坑全景(南から)



2. VII区95号土坑全景(南から)



3. VII区96号土坑全景(南西から)



4. VII区97号土坑全景(南東から)



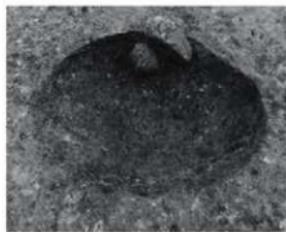
5. VII区98号土坑全景(南東から)



6. VII区99号土坑全景(南西から)



7. VII区99号土坑遺物出土状況(南から)



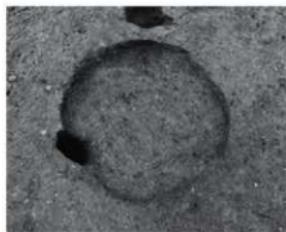
8. VII区100号土坑全景(南から)



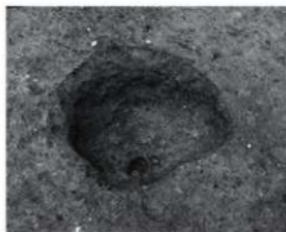
9. VII区100号土坑遺物出土状況(南から)



10. VII区101号土坑全景(南から)



11. VII区102号土坑全景(南東から)



12. VII区103号土坑全景(南から)



13. VII区103号土坑断面(南から)



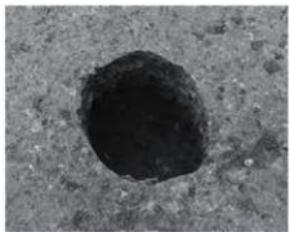
14. VII区104号土坑全景(南西から)



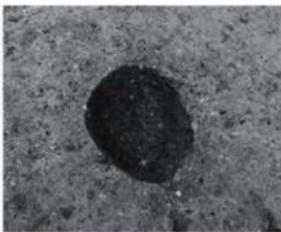
15. VII区105号土坑全景(南西から)



1. VII区108号土坑全景(南から)



2. VII区109号土坑全景(南東から)



3. VII区110号土坑全景(南から)



4. VII区112号土坑全景(東から)



5. VII区113号土坑全景(東から)



6. VII区113号土坑断面(東から)



7. VII区115号土坑全景(南西から)



8. VII区116号土坑全景(東から)



9. VII区117号土坑全景(南から)



10. VII区117号土坑遺物出土状況(南から)



11. VII区118号土坑全景(北から)



12. VII区118号土坑遺物出土状況(北から)



13. VII区118号土坑断面(北から)



14. VII区119号土坑全景(南から)



15. VII区120号土坑全景(南東から)



1. VIII区122号土坑全景(南東から)



2. VIII区123号土坑全景(北東から)



3. VIII区123号土坑遺物出土状況(北東から)



4. VIII区124号土坑全景(南から)



5. VIII区124号土坑遺物出土状況(南から)



6. VIII区125号土坑全景(南東から)



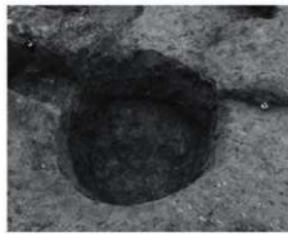
7. VIII区126号土坑全景(北東から)



8. VIII区128号土坑全景(東から)



9. VIII区129号土坑全景(北東から)



10. VIII区130号土坑全景(南から)



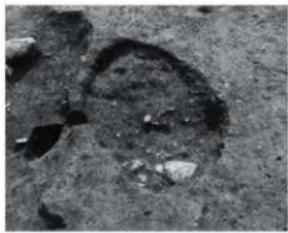
11. VIII区132号土坑全景(南西から)



12. VIII区133号土坑全景(南東から)



13. VIII区134号土坑全景(北から)



14. VIII区135号土坑全景(北東から)



15. VIII区136号土坑全景(北東から)



1. VIII区138号土坑全景(北東から)



2. VIII区139号土坑全景(南東から)



3. VIII区139号土坑遺物出土状況(北東から)



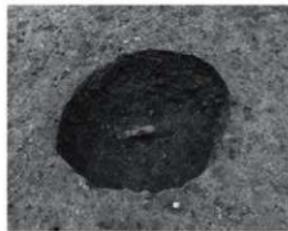
4. VIII区141号土坑全景(北東から)



5. VIII区141号土坑全景(南東から)



6. VIII区142号土坑全景(北東から)



7. VIII区143号土坑全景(北東から)



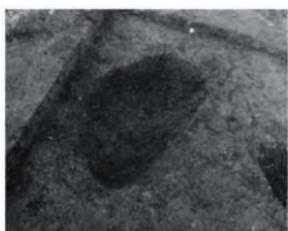
8. VIII区144号土坑全景(西から)



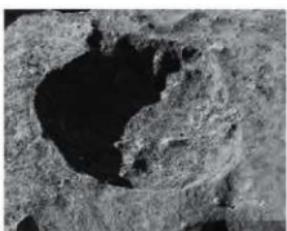
9. VIII区145号土坑全景(南から)



10. VIII区146号土坑全景(南東から)



11. VIII区147号土坑全景(南から)



12. VIII区151号土坑全景(南東から)



13. VIII区151号土坑遺物出土状況(北東から)



14. VIII区152号土坑全景(東から)



15. VIII区153号土坑全景(北東から)



1. V区 5号埋設土器(南から)



2. VIII区 1号埋設土器(南から)



3. VII区 2号埋設土器(西から)



4. VIII区 6号埋設土器(東から)



5. VII区 8号埋設土器(南から)



6. VIII区 8号埋設土器出土状況(西から)



7. VII区 9号埋設土器(北から)



8. V区 9号列石北端部(東から)



1. V区 9号列石中央部(東から)



2. V区 9号列石南端部(南から)



3. VIII区 1号列石全景(南東から)



4. VIII区 1号列石全景(南から)



5. VIII区 1号列石全景(南東から)



1. VIII区 1号列石石棒出土状況(東から)



2. VIII区 2号列石全景(南東から)



3. VIII区 2号列石南端部(北東から)



4. VIII区 2号列石北端部(東から)



5. VIII区 3号列石全景(東から)



1. VIII区 3号列石北端部(東から)



2. VIII区 3号列石中央部(東から)



3. VIII区 4号列石全景(東から)



4. VIII区 4号列石全景(南東から)



5. VIII区 5号列石全景(南東から)



6. VIII区 5号列石全景(南西から)



7. V区32号配石全景(北東から)



8. V区33号配石上層全景(北から)



1. V区33号配石下層全景(北から)



2. VIII区 1号配石全景(東から)



3. VII区 1号配石断面(北から)



4. VIII区 2号配石全景(東から)



5. VIII区 3号配石全景(東から)



6. VIII区 4号配石上層全景(東から)



7. VIII区 4号配石中層全景(北から)



8. VIII区 7号配石全景(東から)



1. VIII区 7号配石全景(北から)



2. VIII区 7号配石全景(南から)



3. VIII区 5号配石全景(北から)



4. VIII区 5号配石全景(南西から)



5. VIII区 6号配石全景(南東から)



6. VIII区 8号配石全景(北東から)



7. VIII区 8号配石全景(北西から)



8. VIII区 9号配石全景(北西から)



1. VIII区10号配石全景(北から)



2. VIII区11号配石全景(南東から)



3. VIII区12号配石全景(北東から)



4. VIII区12号配石全景(北から)



5. VIII区13号配石全景(東から)



6. VIII区17号配石全景(北東から)



7. VIII区19号配石全景(北東から)



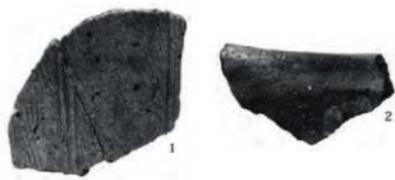
8. VIII区20号配石全景(東から)

# PL.36

V区94号竖穴建物



V区95号竖穴建物



V区96号竖穴建物



V区94～96号竖穴建物出土遗物

V区96号竖穴建物



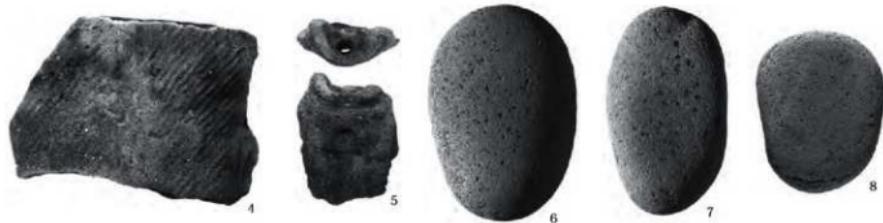
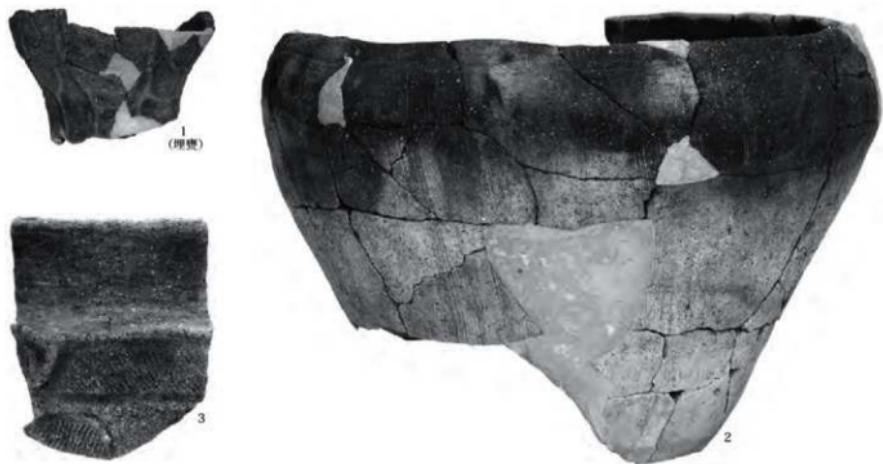
V区96号竖穴建物出土遗物

# PL.38

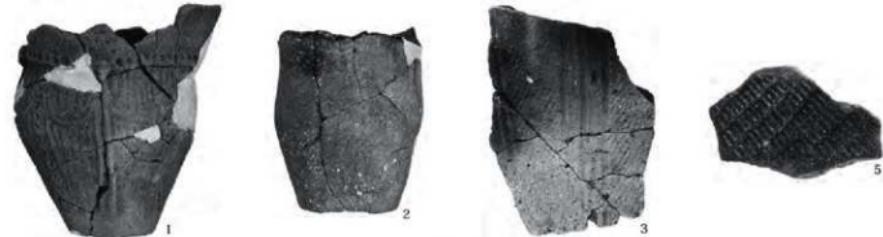
V区97号竖穴建物



V区98号竖穴建物

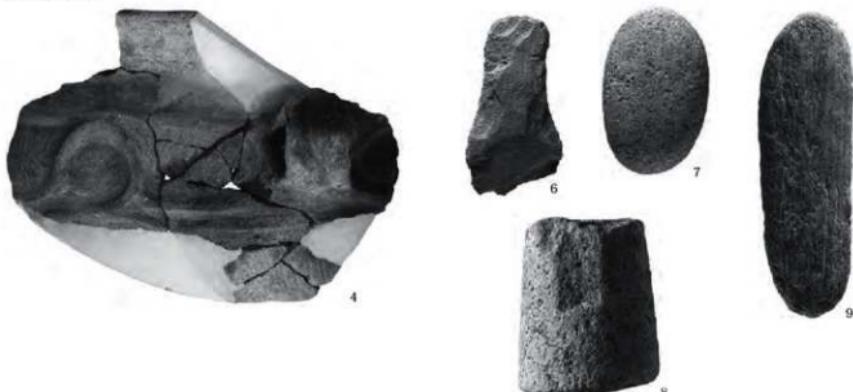


V区99号竖穴建物



V区97～99号竖穴建物出土遗物

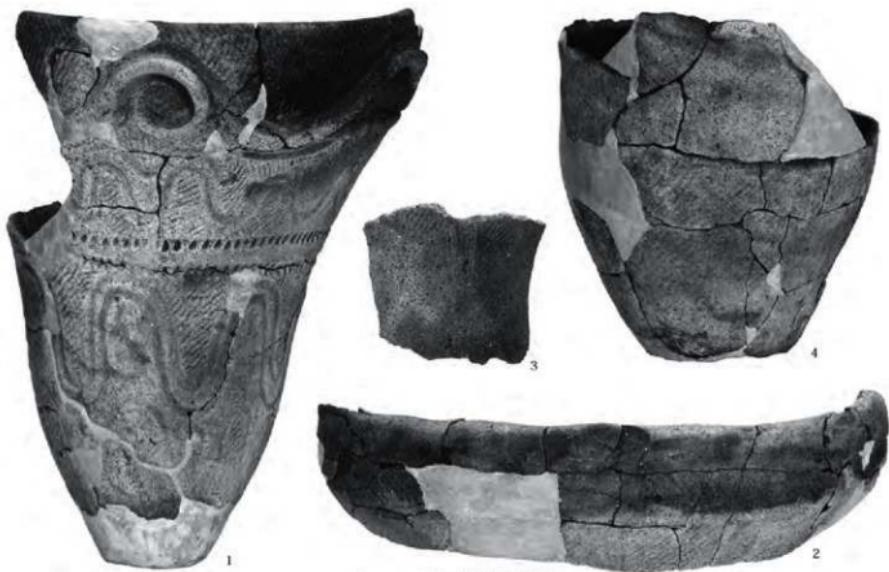
V区99号竖穴建物



V区100号竖穴建物



V区101号竖穴建物



V区99～101号竖穴建物出土遗物



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16

V区102号竖穴建物



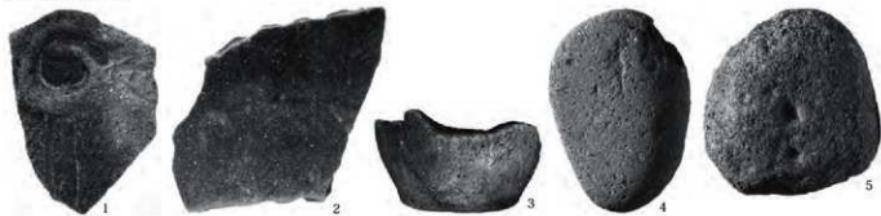
1  
(炉体)



2  
(残底)

V区101·102号竖穴建物出土遗物

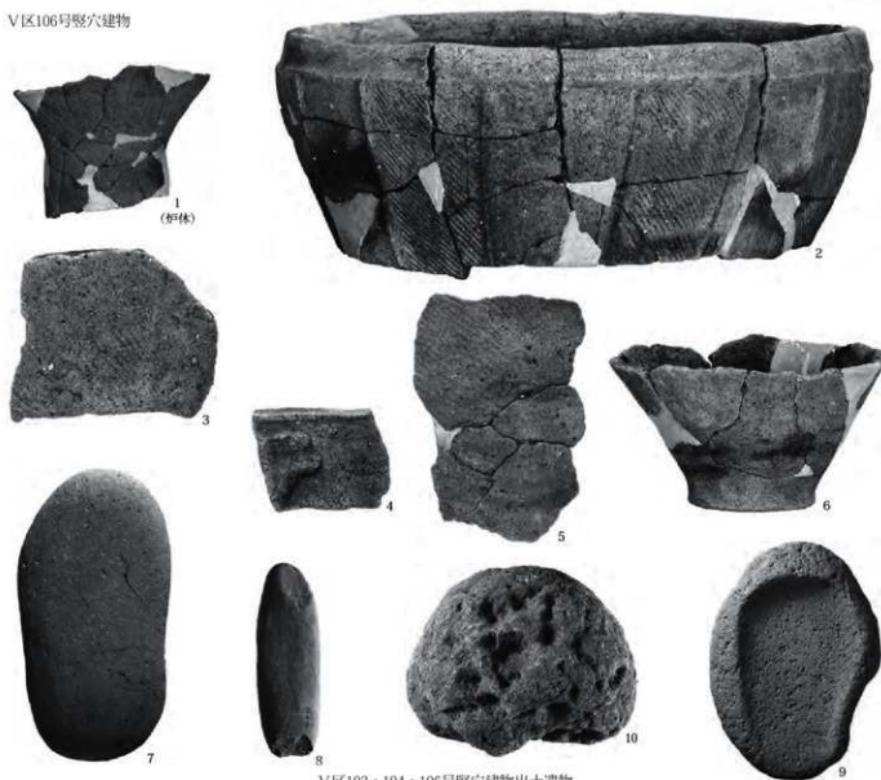
V区103号竖穴建物



V区104号竖穴建物



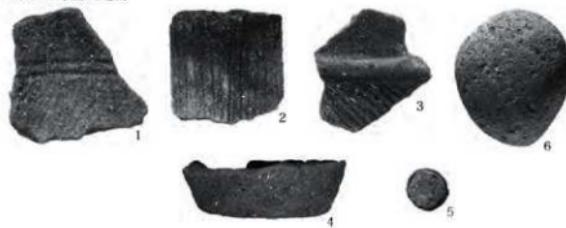
V区106号竖穴建物



V区103·104·106号竖穴建物出土遗物

PL.42

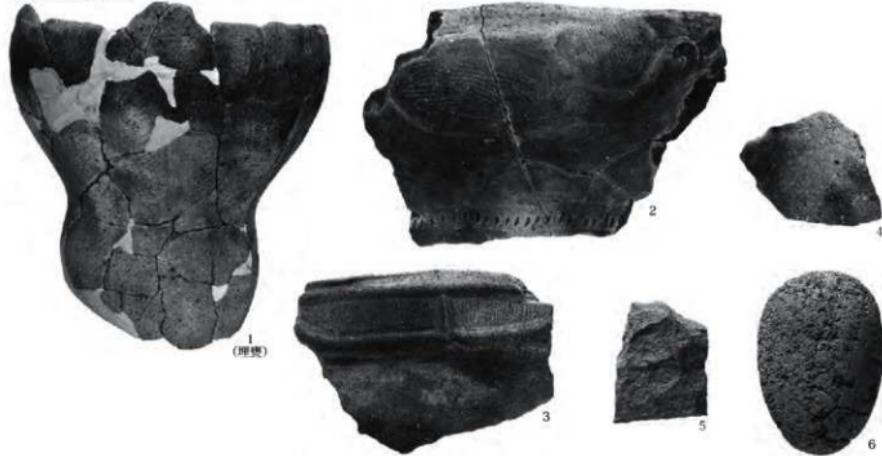
V区108号竖穴建物



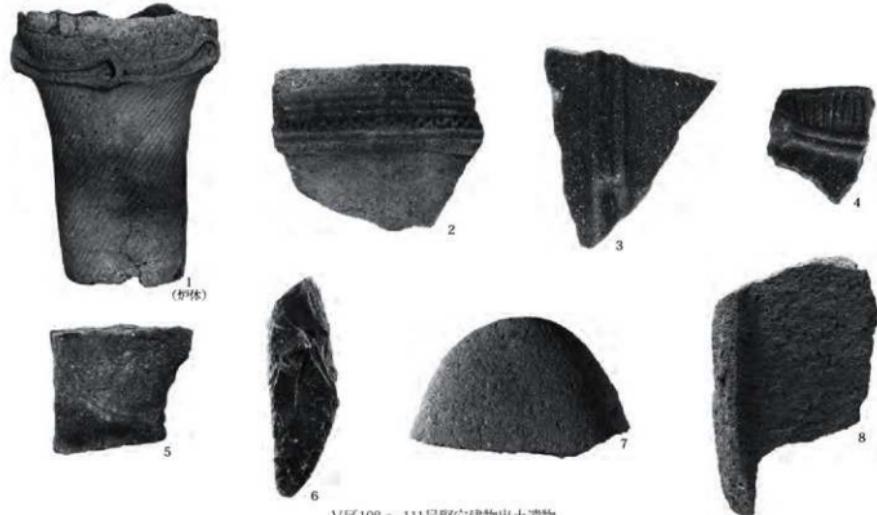
V区109号竖穴建物



V区110号竖穴建物

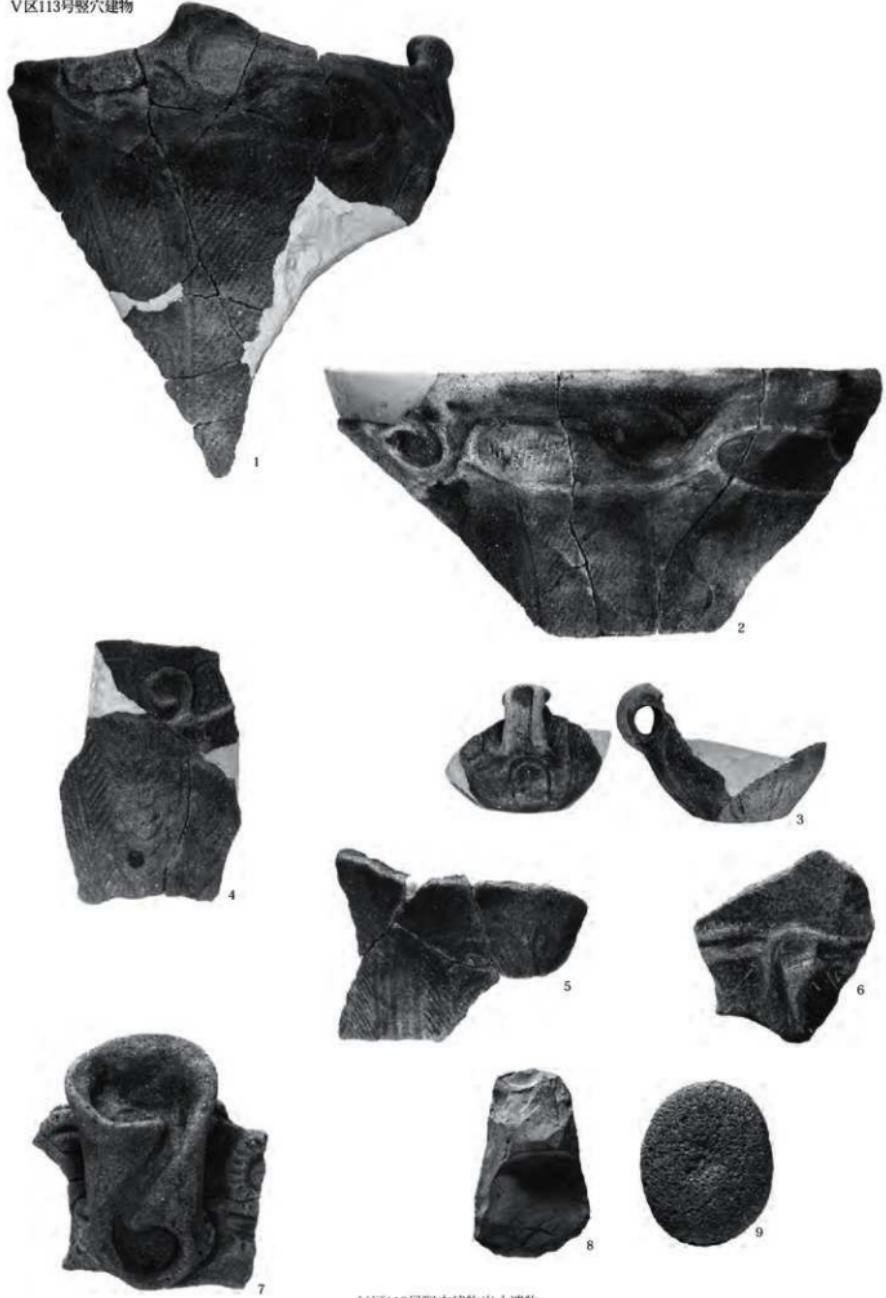


V区111号竖穴建物



V区108 ~ 111号竖穴建物出土遗物

V区113号竖穴建物



V区113号竖穴建物出土遗物

PL.44

V区114号竖穴建物



V区115号竖穴建物



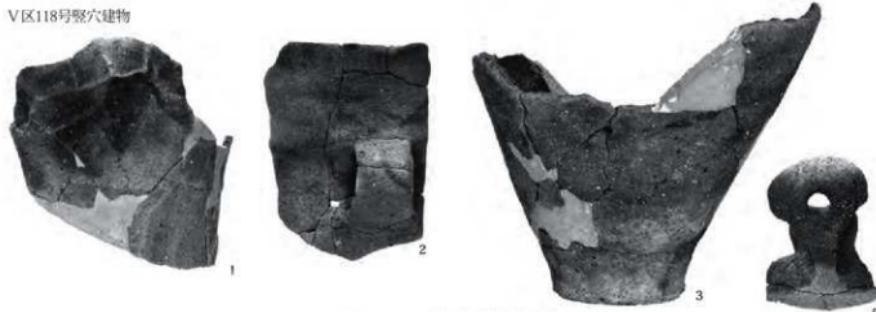
V区117号竖穴建物



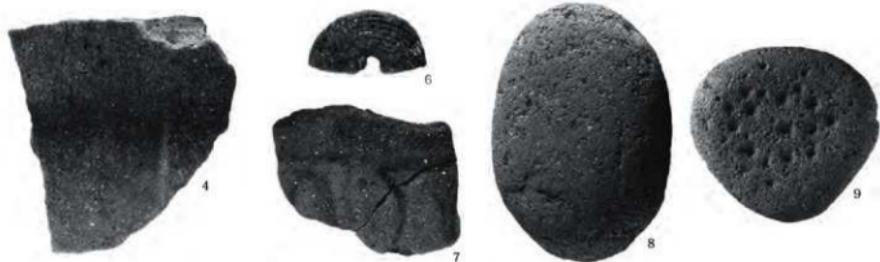
V区116号竖穴建物



V区118号竖穴建物



V区114 ~ 118号竖穴建物出土遗物



V区119号竖穴建物



120号竖穴建物

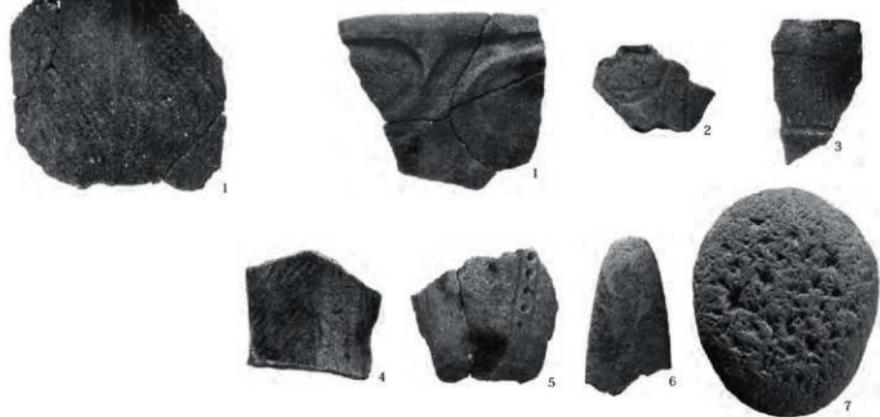
V区123号竖穴建物



V区121号竖穴建物



V区122号竖穴建物



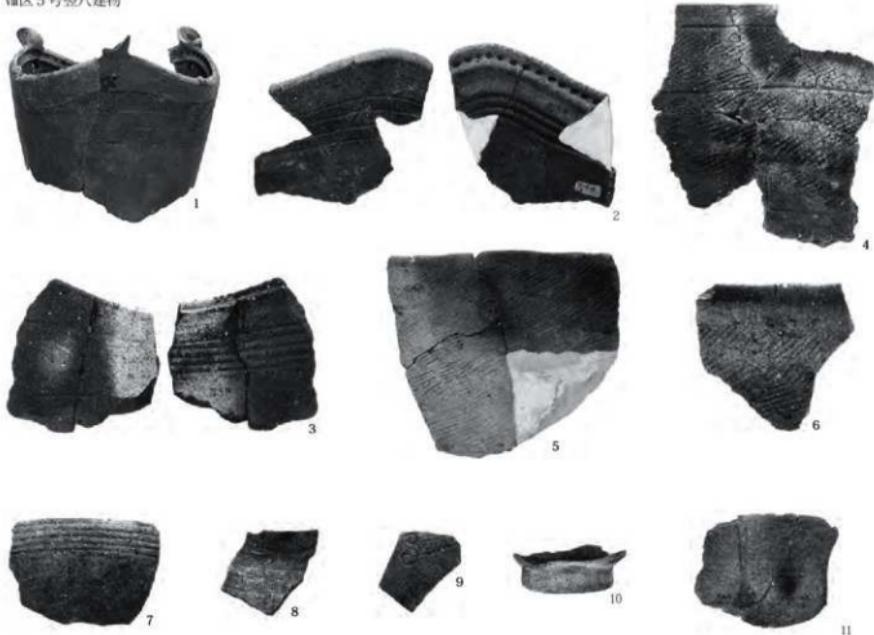
V区118 ~ 123号竖穴建物出土遗物

PL.46

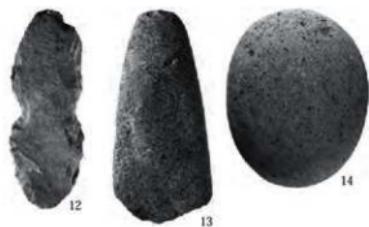
VII区 1号竖穴建物



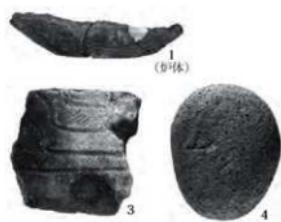
VII区 5号竖穴建物



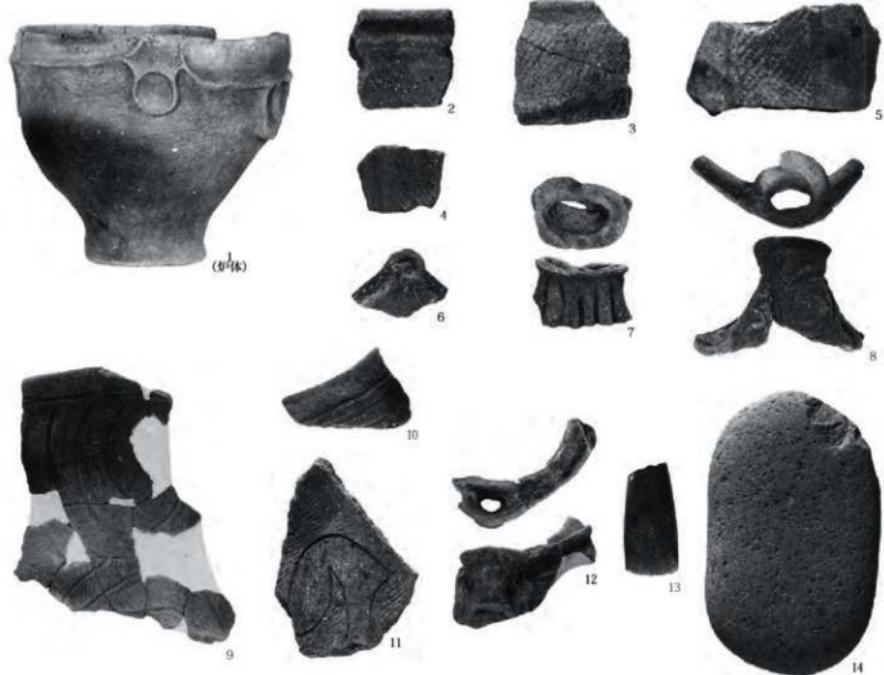
VII区 1・5号竖穴建物出土遗物



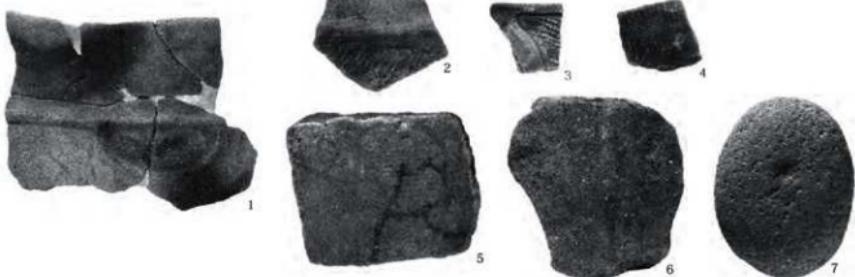
VII区 8号壁穴建物



VII区 10号壁穴建物



VII区 11号壁穴建物

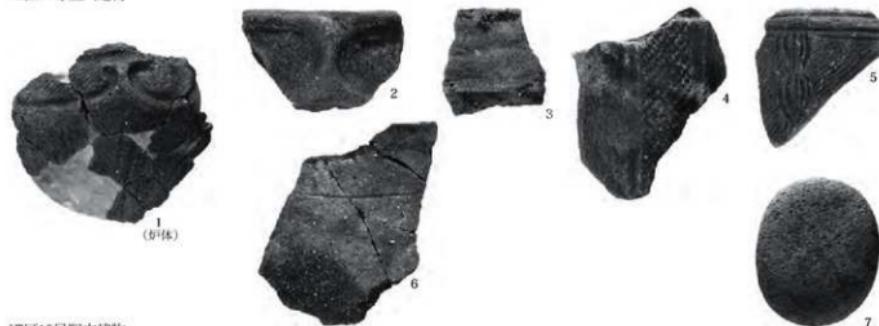


VII区 5·8·10·11号壁穴建物出土遗物

VII区13号竖穴建物



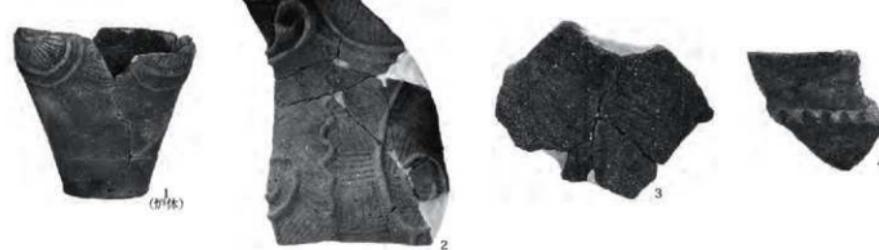
VII区14号竖穴建物



VII区15号竖穴建物

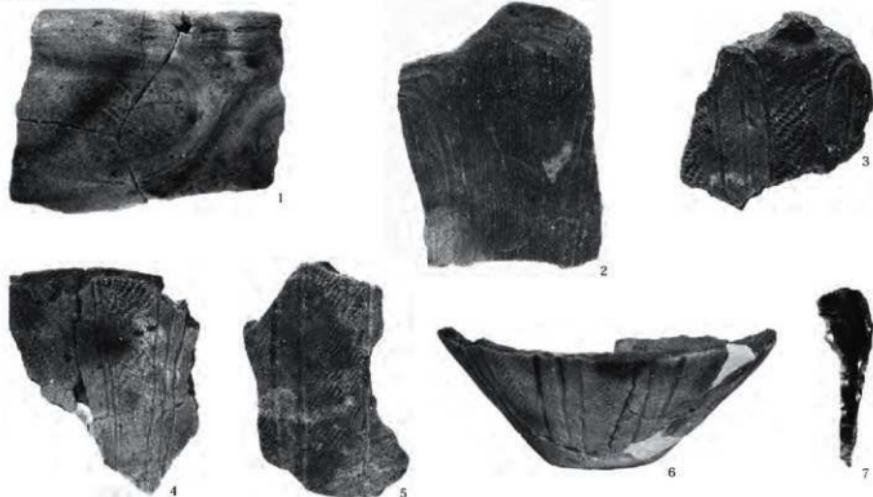


VII区16号竖穴建物

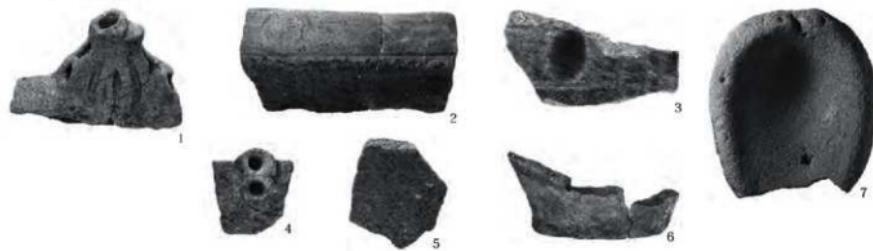


VII区13～16号竖穴建物出土遗物

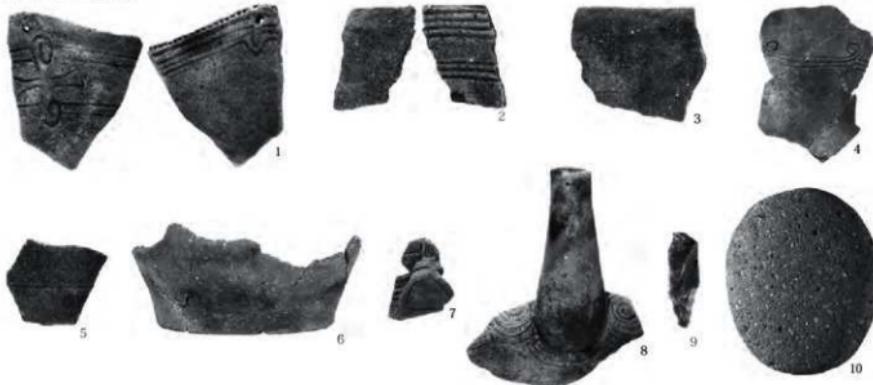
VII区17号竖穴建物



VII区1号竖穴状遗構



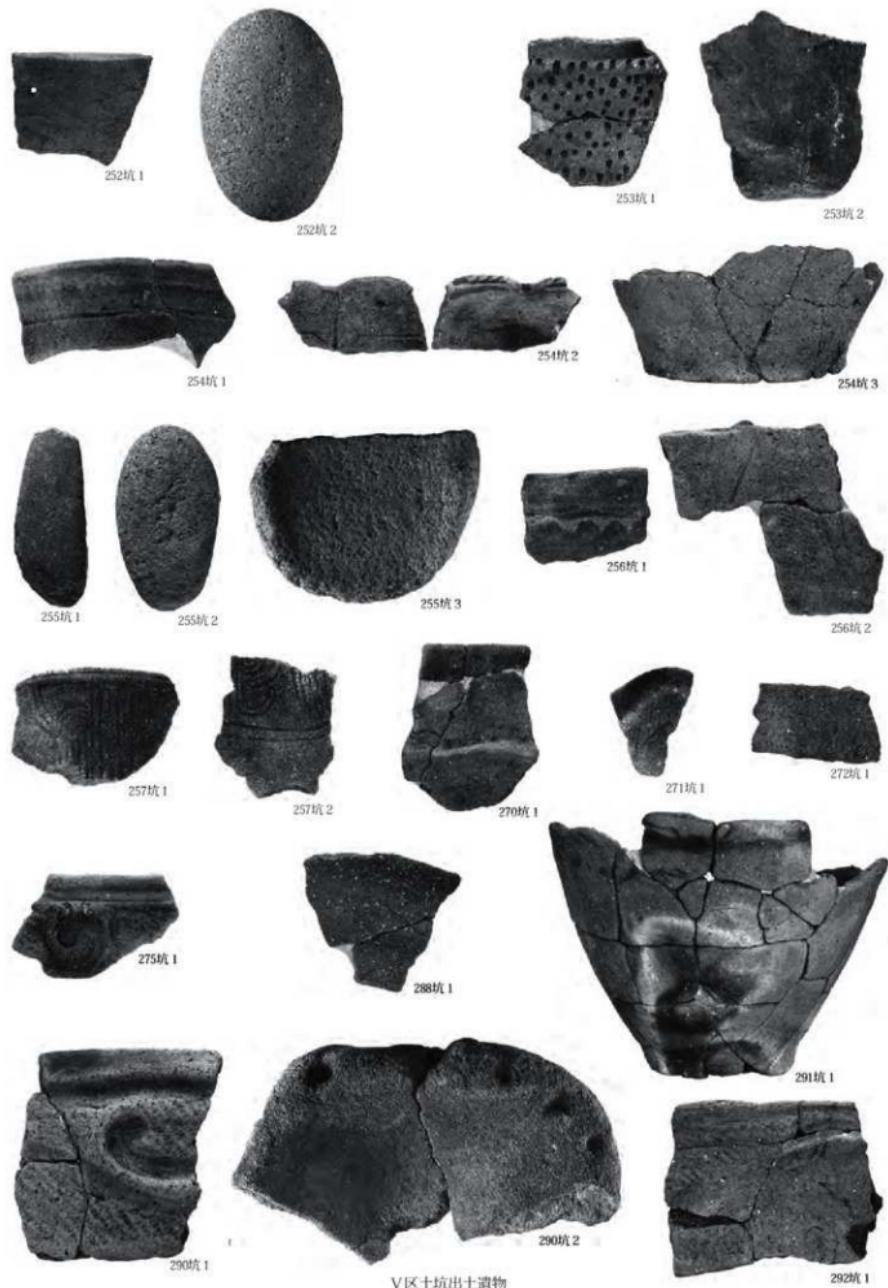
VII区2号竖穴状遗構



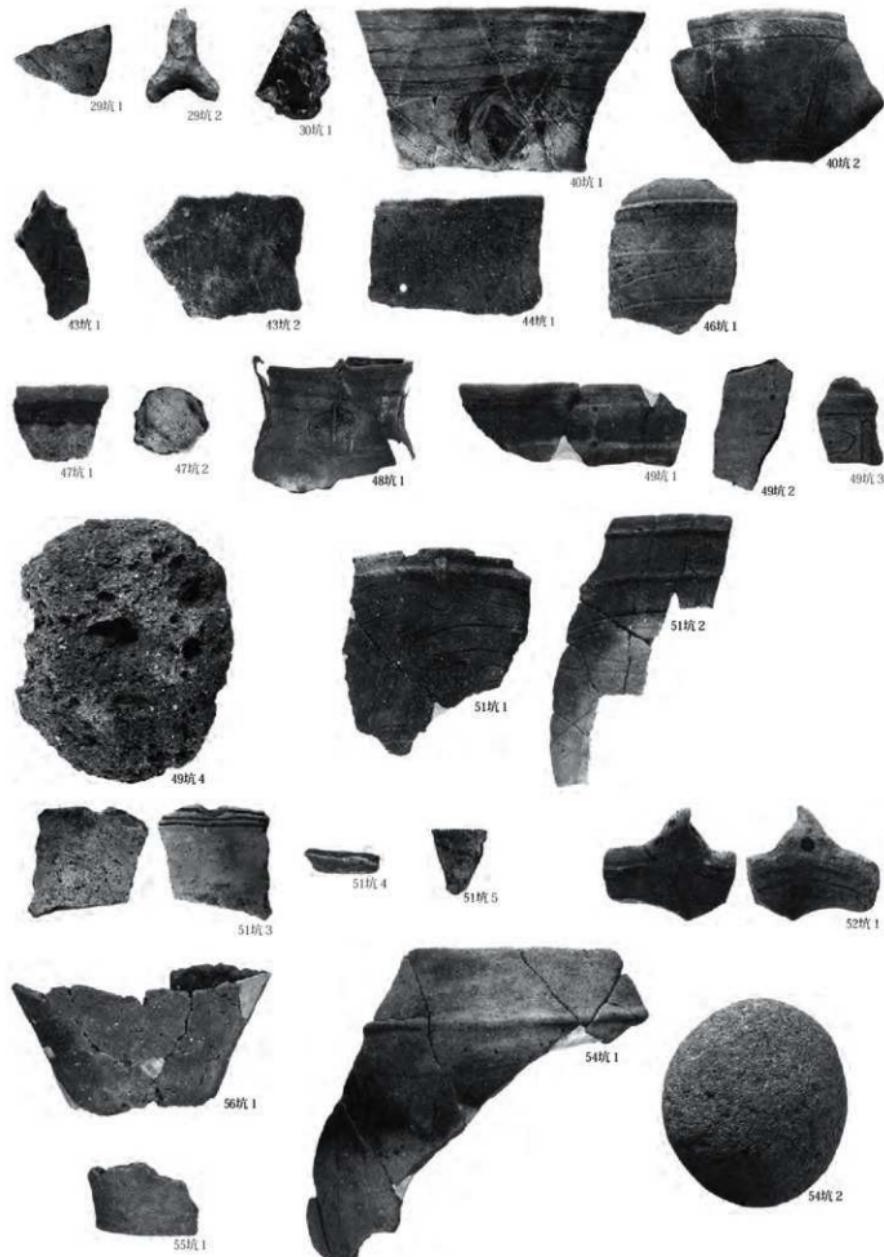
VII区17号竖穴建物、VII区1・2号竖穴状遗構出土遗物

# PL.50

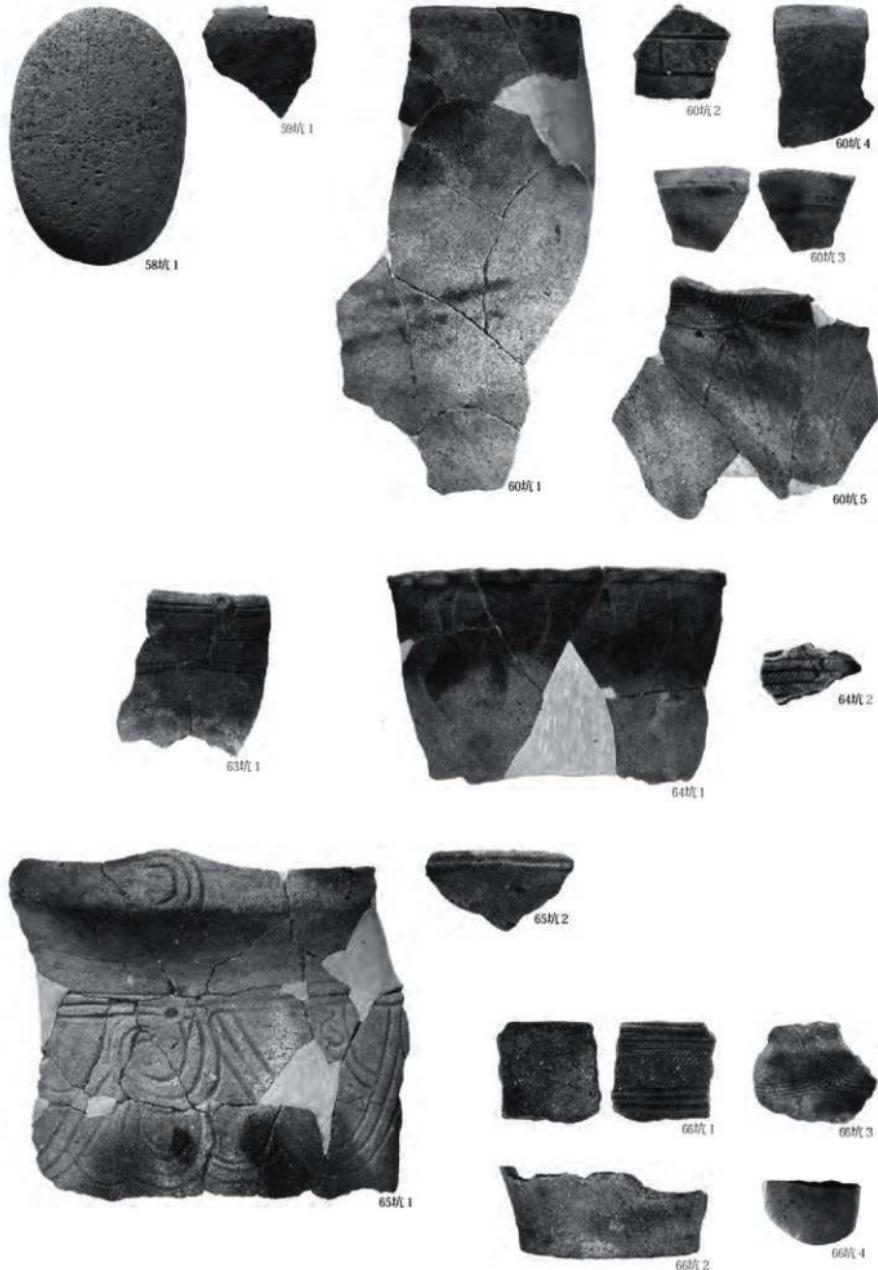
V区土坑出土遗物



## VIII区土坑出土遗物

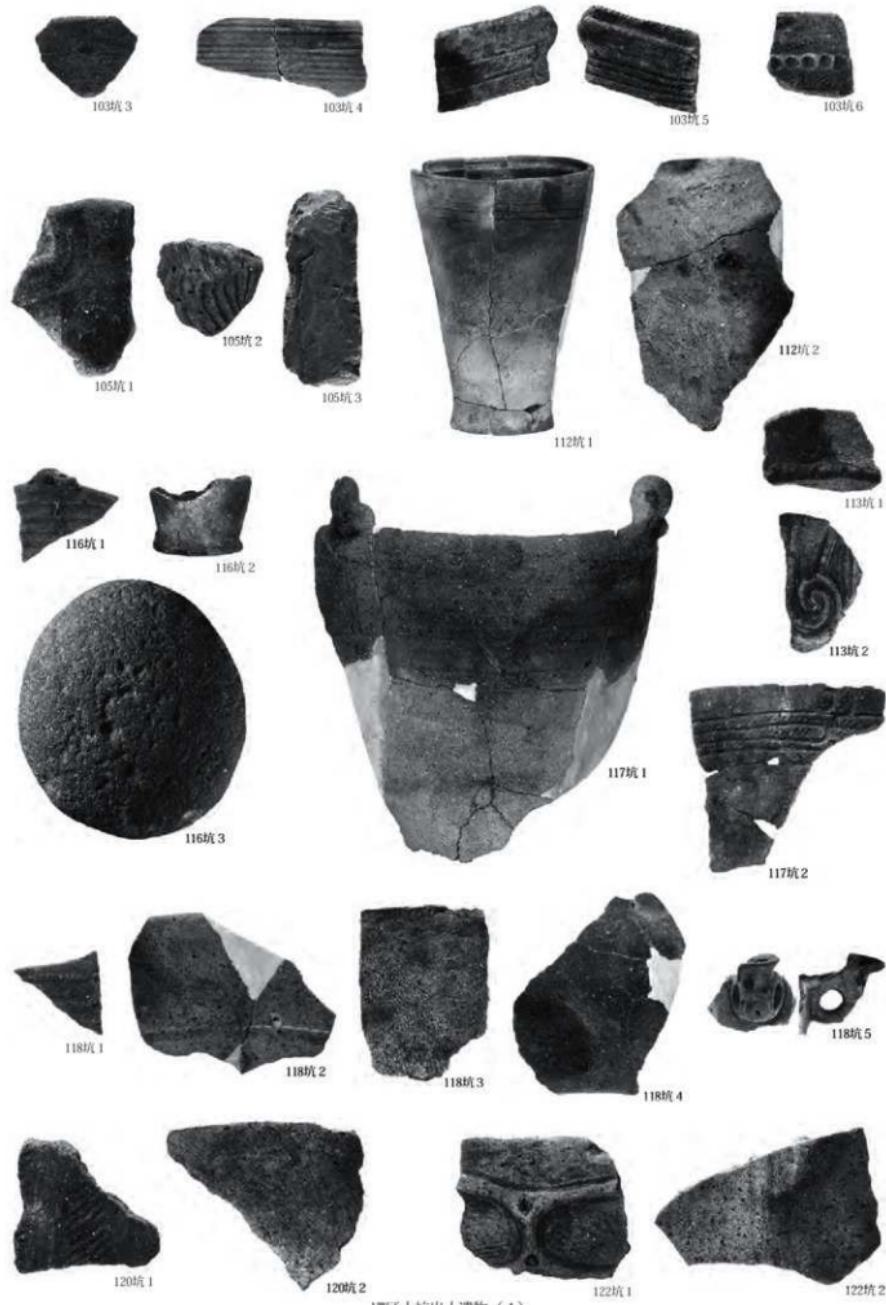


VIII区土坑出土遗物 (1)





VII区土坑出土遗物 (3)



Ⅷ区土坑出土遗物 (4)



# PL.56

V区5号埋設土器



VII区1号埋設土器



VII区2号埋設土器



VII区6号埋設土器



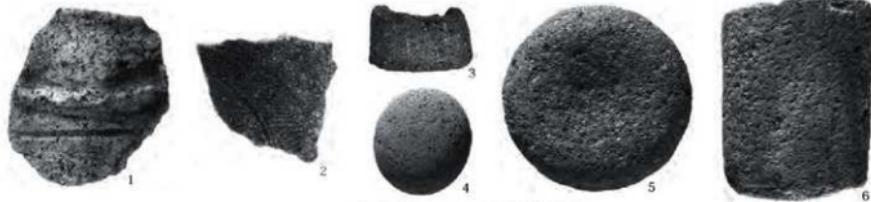
VII区8号埋設土器



VII区9号埋設土器



V区9号列石

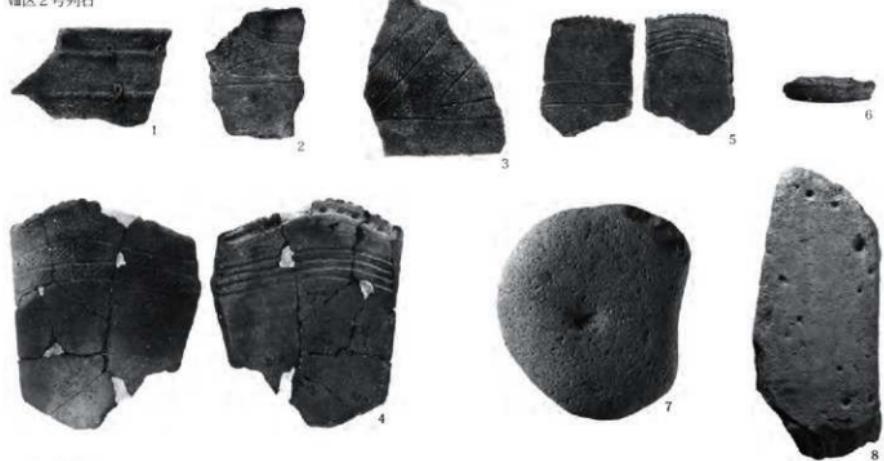


V・VII区埋設土器、V区9号列石出土遺物

VII区1号列石



VII区2号列石



VII区3号列石



VII区1~3号列石出土遗物



VII区 4号列石



1



2



3



4

VII区 5号列石



1

VII区 3~5号列石出土遗物

V区32号配石



VII区1号配石



VII区3号配石



VII区4号配石



VII区5号配石



VII区8号配石



VII区9号配石



VII区13号配石



VII区17号配石



VII区19号配石



VII区20号配石





V区遗构外出土遗物（1）



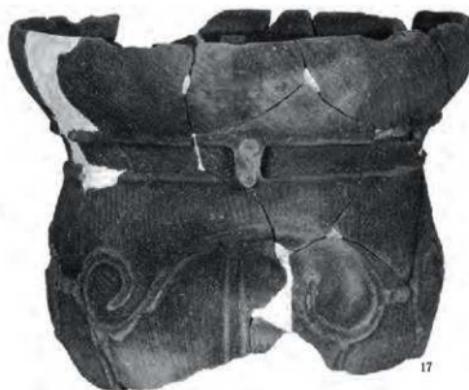
V区遗構外出土遺物（2）



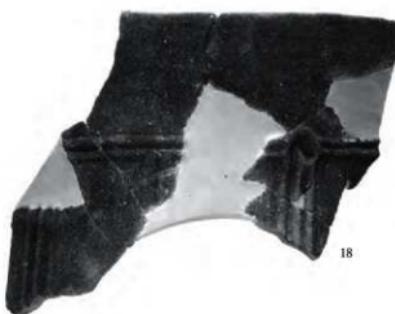
15



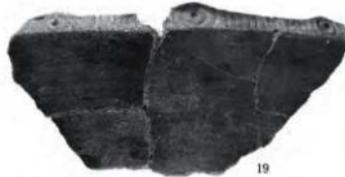
16



17



18



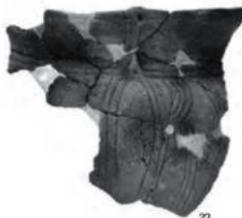
19



20



21



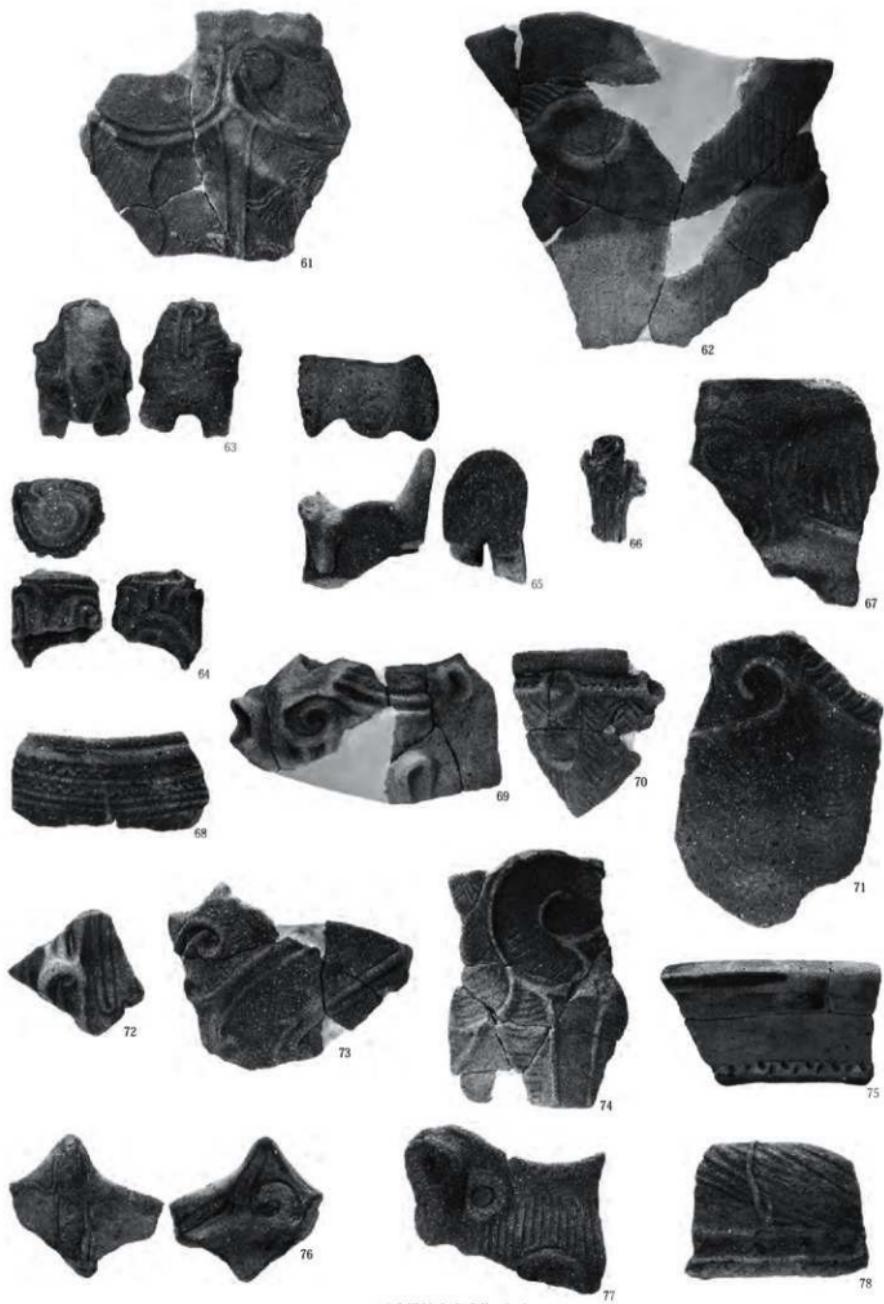
22



V区遗构外出土遗物（4）



V区遗構外出土遺物（5）



V区遗構外出土遺物（6）

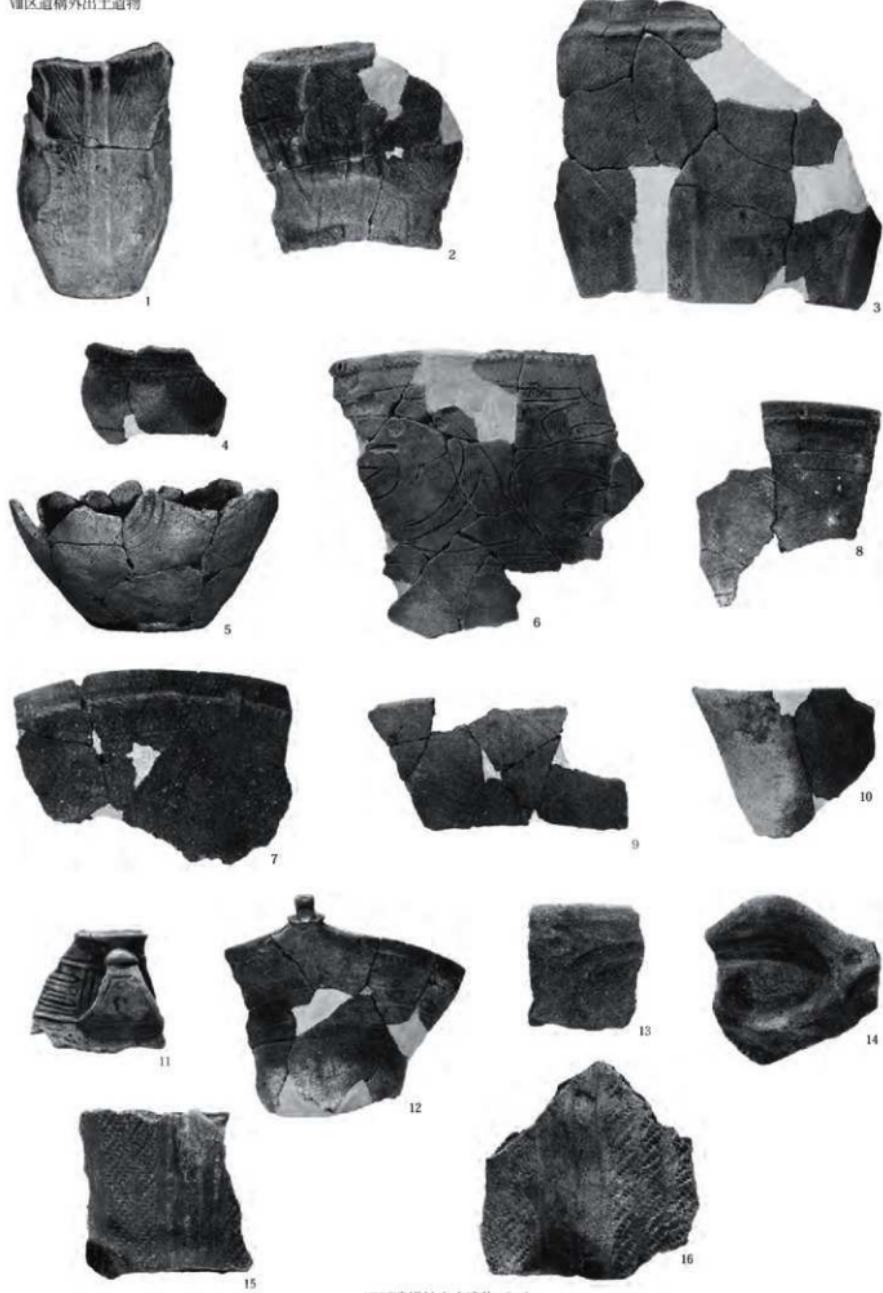


V区遺構外出土遺物（7）



V区遗构外出土遗物（8）

VII区遗构外出土遗物



VII区遗构外出土遗物（1）



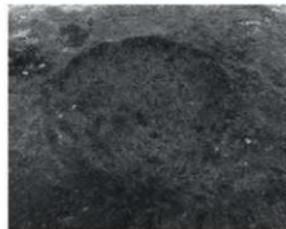
VIII区遺構外出土遺物（2）



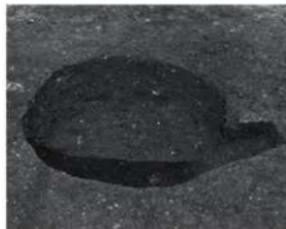
VII区遺構外出土遺物（3）



VIII区遺構外出土遺物（4）



1. VIII区 31号土坑全景（南東から）



2. VIII区 32号土坑全景（南東から）



3. VIII区 33号土坑全景（南東から）



4. VIII区 34号土坑全景（南東から）



5. VIII区 35号土坑全景（南東から）



6. VIII区 36号土坑全景（北から）



7. VIII区 37号土坑全景（南東から）



8. VIII区 38号土坑全景（北西から）



9. VIII区 39号土坑全景（南東から）

VIII区32号建物



1



2

3



1

VIII区36号建物



1



2



3



7



1



4



5



8



6

近世出土遺物（1）



VII区40号石坛



VII区1号材木置場



VII区14号溝



VII区15号溝



近世出土遺物 (2)



9



10



11



13



14



12



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36

## VII区 2号暗渠



## VII区遗模外



## V区遗模外



近世出土遗物 (5)

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第677集

## 東宮遺跡(6)

八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第76集

令和3年3月16日 印刷  
令和3年3月23日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／第一印刷株式会社